宋廬陵曾先之編次

大日本[illegible]講義

[illegible]

十八史略講義　卷[illegible]

大阪書肆　文盛館發行

十八史畧講義序

的場子禮。孩童之昔。嬉戲玩弄。頗與他之童子異矣。常愛磁器陶皿之毀片。人或與之常用玩物。則掉頭不肯受焉。於是僅也拾也。磁片堆積。青黃赤白黑之溶者。山水動植之畫半存者。莫一不有。而子禮所取。不華美。而歸素樸。試質之於好事者流。果名品矣。若究之。則不失爲廟堂之具也。是以人咸驚歎其神鑒出性云。及後漸長。學於余塾。其方閱經史也。多纂輯諸說。宛如幼時於磁片。而其所撰定。不於奇異一時可喜可驚者。而要於平穩妥當。適切於文義於事情者。若或質之於老成人。則必確乎不可動者。亦猶幼時所擇於磁片者乎。諺云。三歲之情百歲不更。不其然乎。子禮頃者遂纂輯將應講著十八史畧講義。蓋其所撰當。無益於童蒙者

東未逮西知耳。予禮予禮主惠二部。以爲余所著。以償余之煩也。

明治乙未孟夏　　粟州　勉齋山村良行撰

五柳先生傳（ゴリウセンセイデン）五柳は淵明の自號なり門前に五株の楊柳あるを以て自ら命ずと云ふ

紀之　其の遊放自若たるをとうしちべるでと

明元（メイゲン）魏の太宗明元皇帝を云ふ

天師（テンシ）仙道の教師の

道場　佛家の寺院と云ふ

沙門　僧なり寶安が曰く沙門は漢言に息なりと蓋し惡を息して欲を去り而して無爲に歸するなり

南北朝

南朝。自晉以傳之宋。宋傳之齊。齊傳梁。梁傳陳。北朝。自諸國併於魏。魏後分爲西魏東魏。東魏傳北齊。西魏傳後周。後周併北齊。而傳之隋。隋滅陳。然後南北混爲一。今以南爲提頭。而附北於其間。【解義】南朝は晉より以て之れを宋に傳へ宋は之れを齊に傳へ齊は梁に傳へ梁は陳に傳へたり北朝ハ諸國が魏に合併せられてより魏は後ち分れて西魏東魏となり西魏ハ北齊に傳へ西魏は後周に傳ふ後周は北齊を合併して之れを隋に傳ふ隋は陳を滅ぼして然して後に南北朝が混同して一國となる今ハ南朝を以て提頭となし而して北朝を其の間に附錄したり盖し南朝北朝ともに正位にあらざるも南朝を先にするは諸夏を內にするの意あり

宋

宋高祖武皇帝。姓劉氏。名裕。彭城人也。相傳爲漢楚元王交之後。裕生而母死。父僑居京口。將棄之。從母救而乳之。及長勇健有大志。僅識字。小字寄奴。嘗行遇大蛇。擊傷之。後至其所。見有群兒擣藥。裕問何爲。答曰。吾王爲劉寄奴所傷。裕曰。何不殺之。兒曰。寄奴王者。不死。裕叱之。卽散不見。初參劉牢之軍事。嘗遣裕覘賊。遇賊數千人。裕奮長刀。獨驅之。衆軍因乘勢。進擊大破之。裕由是知名。其後爲將相二十餘年。誅桓玄。平孫恩盧循。滅南

白面書生　なましろきわかものといふことなり

髮未燥　髫齔のいまだかはかぬと云ふ

鞞鼓　陣上の鼓なり
稗名に陣は陣なり戯術を神助するなりと

辟言　いひふらす

胡馬　北胡の馬にて翔の騎士を指す

丁壯者　男子二十歲を丁といひ三十歲を壯と云ふ

盤舞　矛をとくるく

燕後秦。卒受晉禪。講義 宋の高祖武帝姓は劉氏にて名は劉裕といふ彭城の人なり相ひ傳ふ漢の世の楚の元王交といへる人の子孫なりと裕は生れて間もなく母親が死せり父は京口即ち京城外の地に寓居し將に裕を棄てんとせり從母（母方のおばを云ふ）が救ふて之れに乳を飲ましめて育てたり成長するに及んで膂力あり健強にして大なる志あり僅に少しばかりの文字を識る位のことにて別に學問もなかりし幼少なる時の字は寄奴といふ嘗て路にて大蛇に出て遇ひ擊て之れを傷つく後ち其の所に至りて見るにあまたの小兒が藥を搗（つく）きて居るを見たり裕が問ふに其の藥を何にするやと答ていふに吾が王は劉寄奴が爲めに傷つけられたり故に此の藥を以て療治するなりと裕が曰ふに何ぞ其の劉寄奴と云ふものを殺さぬかと兒の曰ふに寄奴は天下に王たるべき人なり故に中々死せぬなりと裕が之れを叱（しか）りつけたれば即ち群兒はかきけす如くに散して見えざりし初め劉牢之が孫恩に參謀の役たり嘗て賊軍を覘（うかが）はしめしに賊兵數千人に出て遇ひしかば裕は長き刀を奮ふて獨り之れを追ひ驅けたり衆軍は之れに因りて勢に乘じて進み擊ちて大に之れを破りたり裕は是れより名を世間に知られたり其の後ち大將宰相となること二十餘年にして桓玄を誅し孫恩や盧循を平定し南燕や後秦を滅ぼして卒に晉の禪を受けて天子とは爲れり ○西涼李暠卒。諡曰武昭王。子歆立。數年至是。爲北涼沮渠蒙遜誘。與戰殺之。西涼亡。講義 西涼李暠が卒し諡して武昭王と云ふ子の歆（きん）が立ち數年を經て是に至り北涼の沮渠蒙遜の爲に誘（あざむ）かれ戰爭して遂に殺さる西涼は李暠が晉の安帝の隆安三年に僭號してより是に至るまで三世合せて二十二年にして亡びたり ○宋主在位三年。改元者一。曰永初。殂。太子立。是爲廢帝榮陽王。講義 裕は安帝の隆安四年より起て帝と爲るに至りしまで二十一年にてあり宋主となりてより位に在ること三年にて年號を改めしこと一つ曰く永初と既に殂し太子が繼ぎて立つ是れを廢帝榮陽王となせり

〔廢帝榮陽王〕名義符。年十七卽位。居喪無禮。遊戲無度。○魏主嗣殂。諡明元皇帝。廟號太宗。子燾立。⊙宋主在位三年。改元者一。曰景平。徐羨之傅亮謝晦廢而弑之。宜都王立。是爲太祖文皇帝。講義 廢帝榮（けい）陽王は名を義符といふ年十七にして位に即く先帝の喪即ち忌中に居ながら禮儀なく遊び戯むること節度なし○魏主の嗣が殂せり諡して明元皇帝と曰ひ廟を太宗と號せり子の燾（たう）が繼ぎて立ちたり○宋主は位に在ること三年にして年號を改めしこと一つ景平と曰ふ徐羨（せん）之や傅亮（ふりよう）や謝晦の三人が廢して之れを弑したり宜都王が繼ぎて立つ是を太宗文皇帝となす

ごまかすこと

所過赤地　魏兵の通り過ぐる所は殺掠して物皆な盡くるなり赤は空しく盡きて物なきを云ふ

巢於林木　つばめの巢をつくる家なくして樹木に巢くふなり

東宮　東方を宮殿となし長男を太子となす故に太子を稱して東宮と云ふ

巫蠱　神を祭り人にわざわいするの術なり

呪詛　神をいのりて害を人に加ふるなり俗に謂ふ

〔文皇帝〕名義隆。素有令望。少帝廢。迎入卽位。講義 文皇帝は名は義隆と曰ふ素よりよき人望ありたる故に少帝が廢せられて迎へ入れて位に卽かしめたり ○夏主勃勃殂。子昌立。○晉徵士陶潛卒。潛字淵明。潯陽人。侃之曾孫也。少有高趣。嘗爲彭澤令。八十日郡督郵至。吏曰。應束帶見之。潛歎曰。我豈能爲五斗米。折腰向鄕里小兒。卽日解印綬去。賦歸去來辭。著五柳先生傳。徵不就。自以先世爲晉臣。自宋高祖王業漸隆。不復肯仕。至是終。世號靖節先生。講義 夏主の勃々が殂し子の昌が繼ぎて立ちたり○晉の徵士の陶潛（たうせん）が卒したり潛ハ字を淵明といふ潯陽の人にして陶侃（かん）の曾孫なり年少きより高尚き趣きあり惜榮不群にして嘗て彭澤（はうたく）の縣令となり八十日ほど過ぎて郡の都督と稱する役人が至りければ屬吏の云ふに應（まさ）に束帶の禮服をつけて之に謁見すべき也潛は之を聞き歎息して曰く我い豈に能く五斗米の月俸の爲めに腰を折りかゞめて鄕里の小兒の如きものに向ふ乎をせんやとて其の日に官印の綬（ひも）を解き去る歸去來の辭を賦し又五柳先生の傳を著す官より徵せども就かず自分に先世は晉の臣下たるを以て宋の高祖劉裕の王業が次第に隆なりしより復た嘗て仕官せず是に至て世を終り沒したり世に靖節先生と號す ○魏數與夏戰。至是。執其主昌以歸。講義 魏は度々夏と戰爭す是に至り其の主の昌を執らへて連れ歸りたり ○夏赫連定。稱帝於平涼。講義 夏の赫連定が帝を平涼の地に稱したり ○西秦主乞伏熾盤卒。子暮末立。○北燕馮跋殂。弟弘立。○夏主定擊西秦。以暮末歸。殺之。西秦亡。講義 西秦の主の乞伏熾盤が卒して子の暮末が立ちたり○北燕の馮跋が殂して弟の弘が立ちたり○夏主の定が西秦を擊ちて暮末を以て連れ歸り之れを殺す西秦は乞伏國仁が晉の孝武帝の太元十年に僭号してより是に至るまで四世合せて四十七年にして亡びたり 定又擧北涼欲奪

ふのろふこと

傲惰無戚容 わがまゝにして喪にこもる道をおさめず愁傷の様子なきなり

捶曳 うちたゝきひきずりまわすなり

無復人理 親を親とし長を敬するの道なきを云ふ

宋人弑之（しゆせきし）なるもの

後廢帝 成道等太后の令を以て帝を廢して蒼梧王と爲す

其地。吐谷渾襲其軍。執定送魏。夏亡。吐谷渾者。慕容氏之別種也。**講義**（夏主の定は又た北涼を撃ちて其の地を奪はんと欲す吐谷渾（とよくこん）が其の軍勢を不意に撃ち定を執へて魏に送り夏は亡びたり夏は赫連勃々が晉の安帝の義熙四年に僭號してより是に至るまで凡て三世合せて二十四年なり吐谷渾は慕容氏の別種類なり）○北涼沮渠蒙遜卒。子牧犍立。○宋謝靈運以罪誅。靈運好爲山澤之遊。從者數百人。伐木開徑。百姓驚擾。或表其有異志。爲臨川內史。有司糾之。被收。靈運興兵逃逸。作詩曰。韓亡子房奮。秦帝魯連恥。追討擒之。徙廣州。已而棄市。**講義**（北涼の沮渠蒙遜が卒し子の牧犍が嗣ぎて立ちたり○宋の謝靈運が罪を以て誅戮せられたり靈運は好んで山や澤に遊歩することを爲し幽谷を窮め險を極はむ之れに從ひて遊ぶもの四五百人あり樹木を伐り徑道を開く故に百姓は驚き擾（みだ）れて以て山賊となす會稽の太守孟顗（まうき）が其の異志あるを表す故に靈運も亦朝に詣りて其の異志なきを陳ず上以て臨川內史となす靈運は臨川の內史となりてより益遊放にして自若たり依て有司の役人が靈運を糾問して收捕せらる靈運は兵を興して逃れ匿る詩を作りて曰く昔の韓の國が亡びて張子房は奮ひて讎を復し秦が天子と爲らんとする時に魯仲連が秦を貴んで帝號をなさんことを恥ぢたりと宋が晉を亡して帝となりたるを刺れり宋は靈運を追ひ討ちて之れを擒にし廣州に徙す已にして市に於て斬に處したり）○魏伐燕。馮弘奔高麗。而被殺。燕亡。**講義**（魏が燕を伐つ馮弘は高麗（今の朝鮮）に出奔す而して殺さる北燕は馮跋が晉の安帝の義熙六年に僭號してより是に至るまで二世合せて二十八年にして亡びたり）○魏伐涼。姑臧潰。牧犍降。後被殺。北涼亡。**講義**（魏が涼を伐つ姑臧の城は潰へて牧犍が降服す後ち殺さる北涼は沮渠蒙遜が晉の安帝の隆安五年に僭號してより是に至るまで二世合せて二十四年にして亡びたり）○魏殺其司徒崔浩。浩自明元時。已爲謀臣。輒有功。信道士寇謙之。勸魏主崇奉。立天師道場。而最惡佛法。誅沙門。毀佛像佛書。魏主命浩修國史。書先世事。皆詳實。刊石立之衢

聰叡 聰は耳のよくきこゆることと叡は心のかしこきことすなはちすぐれてさときを云ふ

夙成 幼少より總そなはりて老成人の如きなり

黃老浮屠之學 黃帝老子佛法の學問を云ふなり

謀廢立 今の天子を廢して新たに天子を立てることを相談するなり

可憐石頭城寧爲袁粲死不作

路。北人忿恚。譖浩暴揚國惡。魏帝大怒。遂案誅之。夷其族。**講義**（魏は其の司徒の役の崔浩（さいこう）といへるものを殺せり浩は明元帝の時代より已に謀議の大臣たり段々功績ありて道術士の寇謙之といふものを信仰し魏主に勸めて崇奉せしむ天師の道場を立てしめ最も佛法を惡み沙門を誅殺して佛の象や佛の書を毀つ魏王は浩に命じて國の記錄を編修せしむ浩は先世の事を書して皆な事實を詳細に調べ忌み避くる所なく石に刊刻して之を往來の道筋に立てたり北人は之れを忿恚（ふんい）しいかりて崔浩が國の惡事を暴（あらはす）し揚くると讒言せり魏帝は大に怒り遂に案問して之れを誅殺し其の一族を夷らげたり）○宋魏連年互相侵伐。王玄謨勸宋大擧。沈慶之諫曰。畊當問奴。織當問婢。今欲伐國。奈何與白面書生謀之。宋竟遣玄謨出師。取碻磝。進圍滑臺。先是魏主聞宋取河南。怒曰。我生髮未燥。已聞河南是我地。今天時尚熱。姑斂戍北歸。俟河冰合。以鐵騎蹂之。至冬。魏主自將渡河。衆號百萬。鞞鼓之聲震天地。玄謨懼走。魏人追擊。玄謨敗走。魏帝引兵南下。直至瓜步。聲言欲渡江。建康震懼。民皆荷擔而立。宋主登石頭城。北望歎曰。檀道濟若在。豈使胡馬至此。道濟立功前朝。老於用兵。先是以讒被收。目光如炬。脫幘投地曰。乃壞汝萬里長城。既誅。魏人聞之喜曰。吳子輩不足復憚。至是長驅。無能禦者。宋人或欲斬玄謨。沈慶之止之曰。佛狸威震天下。控弦百萬。豈玄謨所能當。殺戰將以自弱。非計也。魏師還。殺掠不可勝計。

褚淵生可哀そうに石頭城を見るにつけても彼の宋粲は殺されたりたとへ粲のように君の爲めに忠死するとても褚淵のように君を殺す手傳をしていきおるよとはなさぬとなり

彈指　ゆびをならすなり即ち恨恨の貌

顧命　遺命を承けて嗣君を輔くるを顧命と云ふ

宋主昱驕恣　綱目に曰宋主昱京口既に平ぎしより驕恣尤も甚し鍼椎鑿鋸左右を離れず一日殺さゞれば則ち慘然として樂まず食息保たず太后數々昱に訓戒す昱之を酖せんと欲す未だ果さず嘗て直に領軍府に入る道成晝臥裸袒昱起立せしむ腹を畫して的と爲す滿を引て將に之を射んとす道成板を斂めて曰く老臣罪なしと乃ち更に骲箭を以て射て其臍に中つ弓を投じて大に笑ふ道成憂懼して密に袁粲褚淵と廢立を謀り後ち終に之を殺せり

齊　蕭道成は初め宋に事へ功を以て齊公に封ぜられ爵

丁壯者ハ斬截シ。嬰兒ハ貫キ二槊上ニ一盤舞ス。所レ過ル赤地ナリ。春燕歸テ巢フ二於林木ニ一。自宋主即位ニ。二十八年間。號シテ爲ス二小康ト一。至テレ是ニ兵革之後。邑里蕭條タリ。元嘉之政衰ヘヌ矣。**講義**宋と魏の二國は何年も渡りに互に相侵し伐てり王玄謨は宋を勸めて大に兵を擧げしむ沈慶之が諫めて曰ふに國を治むるは譬へば家を治むるが如し田を耕すことは當さに奴僕に問ふべく布帛を織ることは當さに下婢に問ふべし陛下今ま國を伐んと欲するに奈何ぞ白面の書生輩と之れを謀るやと宋は竟に玄謨をして師を出さしめ碻磝(城の名)を取り進んで滑臺を圍む是より以前に魏主は宋が河南の地を攻め取りしと聞きて怒りて曰く我れが生れて間もなく髮が未だ燥かざるに已に河南ハ是れ我が土地なりと聞く今は天の時候が尙ほまだ熱き故に姑らく戍兵(まもりの兵)を引き擧げて北方に歸り寒中に至り河水の凍り合ふを俟(ま)つち金鉄の如き騎兵を率ひて之れを蹂(ふむ)ましめ渡らんと冬に至りて魏主は自ら大將となりて河を渡る其の兵衆は百萬人と号す攻め太鼓の聲が天地に震ふばかりなり玄謨は懼れて走る魏人が追ふで擊つ玄謨は敗れ走る魏帝は兵を引て南に下り直ちに瓜步(山の名)に至り是より江水を渡らんと欲すと聲言し言ひふらせしかば建康の都は哭ひ懼れ民は皆な荷物を擔ふて立ちわかり安き心はなかりし宋主は石頭城に登りて北方を望みて歎息して曰く檀道濟(だんどうせい)が若しも生きて居たならば豈に胡地の軍馬をして此の地に至らしめるようなこといわりいせぬと言へり道濟は功を前朝に立て兵を用ひるに老練なるものなり是より先きに讒言を以て收らへらる目の光が恰も炬火たいまつの火の如し幘(さく、頭巾)をぬきて地上に投げて曰く乃ち汝が萬里の長城を壞るような仕方であるぞと汝とは宋主なり萬里長城は道濟が自分の身を指す一身にして魏を防ぐハ萬里の長城の如しとの意なり既にして誅戮せらる魏人が此の事を聞き喜んで曰く吳子の輩は復た恐れはゞかるに足らずと是に至りて長驅して攻め掛けしに能く禦ぐものなかりし宋人或は玄謨を斬らんと欲す沈慶之が之れを止めて曰ふに佛貍(魏主の小字)の威光は天下に震へ弦を控(ひく)くの兵ハ百萬人もあり豈に玄謨が能く當り敵對する所ならんや然るに戰爭の大將を殺して以て自分から弱くするは計策に非ざるなりと魏の師が還る殺したり掠めたりすることが擧げて計ふべからず血氣壯んなるわかものは斬り殺し幼弱なる嬰兒どもは槊の上にさし貫き盤旋して舞ひ過ぐる所は赤地となり春の燕は歸り來ても家屋なき故に林の木に巢を作りたり宋主が位に即きてより二十八年の間は少しく安康なりと號せしが是の時に至りては兵賊の後ち故に邑里も蕭條としてものさびしくなり元嘉年間の善政ハ衰微したり

○魏ノ中常侍宗愛。譖ス二東宮ノ官屬ヲ一。多ク坐シテ誅死セラル。太子晃以テレ憂ヲ卒ス。魏主追悼シテ不レ已マ。愛懼レテ弑スレ主ヲ。後諡シテ曰フ二太武皇帝ト一。廟號ハ世祖。晃之子濬立ツ。討テレ愛ヲ誅スレ之ヲ。**講義**魏の中常侍の宗愛は東宮の官屬を譖言する故に多く罪に坐せられて誅死せらる太子の晃は之れを憂ひて卒せり魏主は晃の死を追ひ悼みて已まず愛ハ懼れて魏主を殺し後ち諡して太武皇帝といひ廟を世祖と號す晃の子の濬(しゆん)が立ち愛を討して之を誅殺せり

○宋ノ太子劭。巫蠱呪詛ス。事覺ル。宋主擬スレ廢セントレ之ヲ。劭弑シテレ主ヲ而自立ス。主在位三十年。改元スル者一ツ。曰フ二元嘉ト一。武陵王擧ゲテレ兵ヲ誅スレ劭ヲ。王立ツ。是ヲ爲ス二世祖孝武皇帝ト一。**講義**宋の太子劭(しやう)が帝を巫蠱咒詛せしことが覺(あら)はれ宋主は之れを廢せんと欲す劭は宋主を弑して自ら立てり主は位に在すこと三十年にして年號を改めしこと一つ元嘉と曰ふ武陵王なるものが兵を擧げて劭を誅戮せりそれより武陵王が繼て立ちたり是を世祖孝武皇帝となす

〔孝武皇帝〕名ハ駿。即テレ位ニ十二年ニシテ殂ス。改元スル者二ツ。曰フ二孝建ト一。曰フ二大明ト一。太子立ツ。是ヲ爲ス二廢帝ト一。**講義**孝武皇帝は名を駿と曰ふ文帝の第三子なり位に即きて十二年目に殂す年號を改めしこと二つ孝建大明と曰ふ太子が立つ是れを廢帝となす

〔廢帝〕名ハ子業。即キテレ位ニ居ルレ喪ニ。傲惰ニシテ無シ二戚容一。孝武踈ニ忌ス骨肉ヲ一。多ク誅殺ス。至テ二是ニ一尤モ甚シ。○魏帝濬殂ス。諡シテ曰フ二文成皇帝ト一。廟號ス二高宗ト一。初メ太武經二營シ四方ヲ一。國頗ル虛耗ス。文成嗣テ以テ鎭靜ス。懷二集ス中外ヲ一。人心復タ安シ。子弘立ツ。○宋主畏ニ忌シ諸父湘東王等ヲ一。幽ス二於殿內ニ一。捶曳シ。無シ二復タ人理一。恣ニ爲ス二不道ヲ一。中外騷然タリ。宋人弑スレ之ヲ。在位二年。改元スル者一ツ。曰フ二景和ト一。湘東王立ツ。是ヲ爲ス二太宗明皇帝ト一。**講義**廢帝は名を子業と曰ふ位に即きて先帝の喪中に哀戚の樣子なし孝武帝が骨肉の兄弟を踈遠にして忌み嫌ふこと多かりしが是に至りて尤も甚しかりしと○魏帝の濬が殂し諡して文成皇帝と曰ひ廟を高宗と號す初め太武帝が四方を經營し國力が頗る虛くなり耗(へり)たり文成帝が嗣ぎて以て騷亂を鎭め靜にし中外を懷け集めたりければ人心が復た安し子の弘が立てり○宋主は諸叔父の湘東等が外にあつて患をなすを畏れ忌み之を殿內にとらへ捶曳して復た人倫の道理すぢみちなく恣(ほしひまゝ)に道ならぬことを爲す依て中外が騷然とさわがしかりし是に至りて宋人が之を弑したり帝は位に在すこと二年にして

を斉王に進めらる依りて其の封爵によりて國號とせり

漢相國何之後（世紀に何が則を生み則が彪を生み彪が章を生み章が仰を生み仰が皓を生み皓が望之を生み望之が育を生み育が紹を生み紹が閎を生み閎が闡を生み闡が冰を生み冰が苞を生み苞が周を生み周が蟜を生み蟜が逵を生む逵が休を生み休が豹を生み豹が裔を生み裔が整を生み整が儁を生み儁が樂子を生み樂子が承之を）

（年號を改めしこと一つ泰和と曰ふ湘東王が繼ぎて立つ是れを太宗明皇帝となす）

〔明皇帝〕名彧。即位八年殂。改元者一。曰泰始。自帝之初。蕭道成將兵。征討有功。尋鎭淮陰。收養豪俊。賓客始盛。已而爲南兗州刺史。至是褚淵薦爲右衞將軍。與顧命大臣。共掌機事。太子立。是爲後廢帝。講義（明皇帝は名を彧（いく）と曰ふ文帝の第十一子なり位に即きしより八年目に殂す年號を改めしこと一つ泰始と曰ふ帝の位に即くの始めより蕭道成が兵に大將として四方を討伐して功あり尋で淮陰の地を鎭撫す豪傑即ち人にすぐれたるものを收め養ひし故に處々より來る賓客が始めて盛なり已にして南兗州の刺史となる是に至りて褚淵が薦めて右衞將軍となし天子の遺命を受けたる大臣等と共に機密の政事を掌どる太子が繼ぎて立つ是れを後廢帝となす）

〔後廢帝〕名昱。明帝無子。昱實嬖人李道兒之子也。明帝子之。殺諸王十五六人。惟恐昱之不立。十歲即位。桂陽王休範擧兵反。攻建康。蕭道成擊斬之。道成爲中領軍。講義（後廢帝は名を昱と曰ふ明帝が子無し昱實は明帝が嬖人たる李道兒と云へるものゝ子なり明帝が之を己が子となす諸王を十五六人も殺し惟だ昱が立たざるを氣づかひたり十歲にして位に即く初め桂陽王の休範のみは人才凡劣なるを以て忌まれずして全きを得たりしが此に於て兵を擧げて謀反し建康のみやこを攻む蕭道成が擊ちてこれを斬る道成は中領軍と成りたり）○先是。魏獻文帝弘。傳位於太子宏。自稱太上皇帝。以宏幼。仍總萬機。太上聰睿夙成。剛毅有斷。而好黃老浮屠之學。故常有遺世之意。其母馮太后有所幸李奕。爲太上所誅。馮太后怒。遂弑之而稱制。講義（是より先きに魏の獻文帝の弘といへる人が位を太子の宏に傳へ自から太上皇帝と稱せり宏が未だ幼年なるを以て仍ほ萬事の機務を總べたり太上皇帝はすぐれてさとくなにごともはやく成就し又た剛毅にしてつよく且つ決斷あり而して古の黃帝や老子や佛法の學問を好みたり故に常々世の事を遺（すて）て隱居するの意あり其の母の馮太后は幸する所の李奕（りえき）といふ者ありしが太上皇帝の爲めに誅戮せられたるを馮太后は大に怒りて遂に之れを弑して制を稱し天子の政事を行へり）

生み承が道生を生むとあり

赤誌（誌は痣と同じ）

わかきわざ

異相（篆跡に龍の顙、遺の錯にして鱗文体に偏きなり）

當似黃金同土價（黄金も用ゆる所なくして土地同様のねだんとなるなり）

太孫（孫を以て皇嗣となす故に太孫と云ふなり）

昭文（鬱林王の弟）

廢而弑之（鸞が太后の令を以て帝を廢）

宋主驕恣嗜殺。中外憂惶。蕭道成與袁粲褚淵謀廢立。粲不可。淵贊之。遂弑之。在位六年。改元者一。曰元徽。安成王立。是爲順皇帝。講義（宋主ハ驕恣まゝにして殺すことをすきこのむ故に朝廷の内外を問はず皆な憂ひ惶れたり蕭道成ハ袁粲（ゑんさん）や褚淵等と帝を廢して代りの帝を立てんことを相談するに袁粲ハ之をきかず褚淵ハ之れを贊成せし故に遂に帝を弑す位に在ること六年にして年號を改むること一つ元徽と曰ふ安成王が立つ是れを順皇帝となす）

〔順皇帝〕名準。桂陽王休範子也。明帝子之。至是即位。○宋袁粲謀誅蕭道成。褚淵以其謀告道成。粲父子俱被殺於石頭城。百姓哀之曰。可憐石頭城。寧爲袁粲死。不作褚淵生。沈攸之亦擧兵江陵。討道成。軍潰。走而縊死。道成爲相國齊公。加九錫。已而進爵爲王。宋主在位三年。改元者一。曰昇明。禪于齊。泣而彈指曰。願後身世世。勿復生天王家。齊弑之而滅其族。自宋高祖至是八世。凡五十九年而亡。講義（順皇帝は名を準と曰ふ桂陽王休範が子なり明帝之れを子とす是に至りて位に即けり○宋の袁粲が蕭道成を誅せんことを謀る褚淵は粲が謀計を以て蕭道成に告ぐ袁粲父子は倶に石頭城に於て殺さる百姓等は之れを哀みて曰く憐れなることかな石頭城に於て袁粲父子は殺されたり寧ろ袁粲の如くにして殺さるとも褚淵の如くにして生きて居ることをなさぬと初め湘州の刺史王蘊沈攸之と深く相結ぶ袁粲劉秉と密かに道成を誅せんと謀る粲が謀已に定まるまさに以て褚淵に告げんとす衆人は思ふ不可なり粲が曰く淵は道成と善しといへども豈に大に異なる心を作さんや）

して海陵王となす萃て之を弑す

高武（高帝　武帝）

無遺類　一人ものこりなく殺すこととなり

元氏　詔して曰く魏の先黄帝に出づ土德を以て王たり夫れ土は黄中の色萬物の元なり宜しく姓を元氏と改むべしと

帖地上　帖は貼と同じ地面にならべつけること

歩々生蓮花　歩々はあゆみをか

と乃ち謀を以て淵に告ぐ然かるに淵は乃ち以て道成に告ぐ道成戴僧靜等をして榮を攻めしむ榮其の子最に謂て曰ふには本一木の大厦の崩るゝを止むる能はざるを知る但名義を以て此に至る僧靜城を踰て獨り進む最身を以て榮を守る僧靜直ちに之を斫る榮最に謂て曰く吾は忠臣たるを失はず汝は孝子たるを失はずと遂に父子倶に死したり沈攸之も亦た兵を江陵に擧げて道成を討せしに軍が潰えたれば走りて首を縊り死したり道成は相國齊公となり九錫を加へ已にして位を進めて王となる宋主は位に在すこと三年にして年号を改めしことが一つ昇明と曰ふ齊に位を譲る泣て指彈して曰く願くは後身は復た世々天下の王たるの家に生ることなからんと齊は之れを弑して其の一族を滅ぼす宋は高祖が帝となりしより是の時に至るまで凡て五十九年にして宋は亡びたり

齊

〔齊太祖高皇帝〕姓蕭氏。名道成。蘭陵人也。相傳爲漢相國何之後。**講義**（齊の太祖高皇帝は姓を蕭氏名を道成と曰ふ蘭陵の人なり相ひ傳ふるには漢の相國何が子孫なりとす）深沈有大量。博學能文。肩有赤誌。如日月狀。宋時在軍中久。民間或言其有異相。宋疑之。而不能殺也。竟代宋。性清儉。每曰。使我治天下十年。當使黃金同土價。在位四年殂。改元者一。曰建元。太子立。是爲世祖武皇帝。

講義 帝は心が深沈にしてよくおちつき大なる度量ありて博く學問にわたり文章を能くす其肩に赤きあざありて丁度日月の形狀の如し宋の時に軍中に在ること久しき間なりしが民間のものが或ハ其の人相の尋常のものとかはりあることを云ふ故に宋は之れを疑ふたれども殺すことを能はず竟に宋に代りて天子となれり性は清廉儉素なり主衣庫中に玉の導と云ふ髮の飾あり上の曰くこれをとゞむるハ正に病の源を長ずるなりと即ち命じて擊ち碎かしむつねに曰く我をして天下を治むることが十年ほどならしめたらんには當さに黃金をして土の價と同樣にならしめんと位に在ることが四年にして殂す年號を改めしことゝ一つ建元と曰ふ太子が繼て立つ是れを世祖武皇帝となす

〔武皇帝〕名賾。即位十一年殂。改元者一。曰永明。太子長懋已卒。

さねることにて潘妃があゆむたび毎に蓮花が出來ると蓋し佛に極樂世界蓮花歩々に生ずるの說あり齊主之れを信ずるが故なり

伊霍之事　伊尹が太甲を放ち霍光が昌邑を廢せし故事

歸東（建康）　は東にある故に云ふ

梁　姓は蕭氏齊の疎族なり蕭衍は梁王より起りて齊の禪を受く故に梁を以て國號となす建康に都す

疏族　世祖梁と齊に

太孫立。是爲廢帝鬱林王。**講義**（皇帝ハ名を賾（さく）と云ふ位に卽き十一年目にして殂す年號を改めしこと一つ永明と曰ふ太子の長懋（ばう）は已に卒せし故に太孫が立てり是れを廢帝鬱林王となす）

〔廢帝鬱林王〕名昭業。即位一年改元曰隆昌。西昌侯鸞弑之。新安王立。是爲廢帝海陵王。**講義**（廢帝鬱林王は名を昭業と曰ふ位に卽き一年にして年號を改め隆昌と曰ふ西昌侯の鸞がこれを弑したり新安王が繼ぎて立つ是れを廢帝海陵王となす）

〔廢帝海陵王〕名昭文。爲鸞所立。改元延興。鸞自爲宣城王。帝即位未四月。廢而弑之。宣城王自立。是爲高宗明皇帝。**講義**（廢帝海陵王は名を昭文と曰ふ鸞が爲めに立てらる年號を改めて延興といふ鸞が自ら宣城王となりたり帝は位に即て未だ四ケ月ならざるに廢して之れを弑し宣城王が自ら立つ是れを高宗明皇帝となす）

〔明皇帝〕名鸞。高帝之兄子也。高帝愛之過於己子。而武帝之太子長懋最惡之。及得志。殺高武子孫無遺類。即位五年殂。改元者二。曰建武。永泰。太子立。是爲廢帝東昏侯。**講義**（明皇帝は名を鸞と曰ふ高帝の兄道生の子なり高帝が之れを愛すること自分の子よりも過ぎたり而して武帝の太子の長懋なるものハ最も之れを惡む志を得て天子となるに及んで高武帝の子孫を殺して遺類なく皆な害したり位に即きて五年に殂す年号を改めしこと二つ建武、永泰と曰ふ太子が嗣て立つ是れを廢帝東昏侯と爲したり）

〔廢帝東昏侯〕名寶卷。自在東宮。不好學。嬉戲無度。既即位。不接朝士。惟親信嬖倖。屢誅大臣。○魏主宏殂。在位二十七年。仁孝

と同じく蕭何の二十世の孫整に出づ整が鎋を生み鎋が副子が道賜を生み道賜が順之を生み順之が衍を生むと

伐材沈檀溪　材木を伐り倒して襄陽城の西にある檀溪といふ谷に沈め置し也

積茆如岡阜　かやをつみおくること山や岡の如く澤山ありしと山の背を岡と云ひ土山を阜と曰ふ

建牙集衆　牙門に旗竿を建て

恭儉。制禮作樂。蔚然有太平之風。禁胡服胡語。改姓元氏。遷都洛陽。爲魏盛德之主。諡曰孝文皇帝。廟號高祖。太子恪立。**講義**廢帝東昏侯は名を寶卷と曰ふ未だ東宮に在りて太子たりし時より學問を好まず嬉しみ戯むれること法度節ちきまりなし既に位に即き朝廷の士に接し面會せず惟だ嬖倖の氣に入りなる小人のみを親み信じて度々大臣を誅戮せり〇魏主の宏が殂せり宏は位に在ること二十七年なり其の人と爲り能く人を愛して仁に親に事へて孝に恭謙にして儉約なり禮儀を制し音樂を作り蔚然と盛にして太平の風ありすべて胡(えびす)の衣服やえびすの言語を禁止す姓を元氏と改め都を洛陽に遷す實に魏の國の威德ある人主と爲せり依て諡して孝文皇帝と曰ひ廟を高祖と號す太子の恪が繼で立ちたり

○齊主昏淫狂恣。所幸潘妃。以金爲蓮花。帖地上。使步之。曰。此步步生蓮花也。左右用事。賊虐日甚。太尉陳顯達。先舉兵襲建康。敗死。將軍崔慧景。受命出討叛州。還兵逼建康。時南豫州刺史蕭懿將兵在近。齊主急召入援。慧景敗死。以懿爲尚書。懿弟南雍州刺史衍。使人勸懿。行伊霍故事。不爾亟還歷陽。懿不能用。竟賜死。衍起兵襄陽。引而東圍建康。齊人弑主而迎衍。主在位三年。改元者一。曰永元。時南康王先已自立。是爲和皇帝。**講義**齊主は昏愚淫乱にして心が狂ひ恣まゝなり齊の後宮火あり時に嬖倖する所の徒皆號して魏となす趙鬼なるものあり能く西京賦を讀む齊主に言て曰ふにい柏梁既に災あり建章を是れ營せんと齊主卽ら大に芳樂玉壽等の諸殿を起す麝を以て壁にぬり畫をきざみ裝飾し綺麗を窮極す後宮の幸する所の潘妃の服御は極めて珍奇をえらみ金を以て蓮花となし以て地に帖しつけて潘妃をして其の上を歩み行かしむ曰く此れ歩々蓮花を生ずるなりと蓋し佛法に蓮花歩々に生ずるの說あり齊主佛を信ず故に此の戯をなすなり左右の事を用ゆるものが人民を賊ひ虐くこと日々に甚し太尉の陳顯達なるものが先づ兵を擧げて建康の都を不意に撃ちしに敗れて死したり將軍の崔慧景は命を受けて出で叛きたる諸州を討伐せしが兵を引き返して建康に還る時に南豫州の刺史の

衆人を集むる也將軍の旗を牙と云ふ解は漢の節に詳也

喧謗　悪口々にすることなり

封事　封書にして言が意見を申上けることこれは他に言の漏れんことを恐るゝ故なり

榜　たてふだのこと

居其家　一家のもの一人も殘らずころしつくすを云ふ

懾懼　二字共におそるゝことなり

函使　凡そ書狀は皆

蕭懿(しようい)なるものが兵に將となりて近方にあり齊主は急に召して入りて援けしむ崔慧景は敗れて死せり齊懿を以て尚書の官となす懿が弟の刺史の蕭衍なるものが人をして兄の懿に勧めしむるに伊尹霍光が君を廢したる故事を行へ爾らざれは亟かに歴陽の地に逃れと懿は其の言を用ゆること能はず竟に死を賜ふ衍は兵を襄陽に於て起し其の兵を引て東の方建康を囲む齊人は主を弑して衍を迎ふ主は位に在ること三年にして年號を改めしこと一つ永元と曰ふ時に南康王が先に已に自立せり是れを和皇帝となす

〔和皇帝〕名寶融。東昏末。寶融起兵於江陵。已而稱帝。改元曰中興。未及東歸。齊太后稱制。以蕭衍爲相國。封梁公。加九錫。尋進爵爲王。齊主至姑孰。詔禪于梁。卽位僅一年。被弑。齊自高帝至是七世。凡二十三年而亡。**講義**和皇帝は名を寶融(はうゆう)と曰ふ明帝の第八子なり東昏侯の末年に寶融が兵を江陵の地に於て起し已にして帝と稱す年號を改めて中興と曰ふ未だ東の方へ歸るに及ばずして齊太后が制を稱して政事を聽き蕭衍を以て相國となし梁公に封じ且つ九錫を加ふ尋で爵を進めて王となる齊王は姑孰(こじゆく)に至りて詔して位を梁に禪る位に卽きしより僅に一年にして弑せらる齊は高帝より是に至り七世にして凡て二十三年にして亡びたり

梁

〔梁高祖武皇帝〕姓蕭氏。名衍。齊之疎族也。母張氏。見菖蒲生花。旁人皆不見。呑之。已而生衍。英達有文學。東昏初。衍鎭襄陽。知齊將亂。乃密修武備。聚驍勇。以萬數。伐材沈檀溪。積茆如岡阜。兄懿死。衍建牙集衆。出檀溪竹木裝艦。葺之以茆。事皆立辦。兵起一年餘。遂入建康。受禪卽帝位。**講義**梁の高祖武皇帝は姓を蕭氏名を衍(えん)と曰ふ齊の疎遠なる一族なり母は張氏と曰ふ

な函封なり函使は函を奉じて京師にいたらしむるなり

宿衛 羽林虎賁の兵をさすなり

事可知矣 國家の振はざることを推して知るべしの意なり

懷朔鎭 北方の鎭撫に置く所の鎭戍兵營を云ふなり

好遊騁 四方に周遊して俊逸の士と交を結ぶ如きなり

坐法 法を以て罪にあてらるゝこと

葛州に花を生ずるを見る旁にある人は皆な見ず張氏之れを呑みしに已にして衍を生む英才あり洒達にして能く物事に通じ文學を能く知る東昏侯の初めに衍が襄陽の地を鎭撫す齊の世は將に亂れんとするを知り乃ち密かに武事の備を修め用意をなす驍勇なる人をあつむること萬を以て數ふる位なり材木を伐り采り檀溪に沈め茆(かや)を積み上ぐることが岡や阜の如くす兄の懿が死すや衍は城門に牙旗を建てゝ衆人を集め檀溪の竹や木を取り出して艦を裝ひ作り其の屋根を葺くに茆を以てす萬事皆な立どころに辨じ兵が起りて一年餘にして遂に建康に入りて禪を受け天子の位に即きたり

○魏主恪殂。諡曰宣武皇帝。廟號世宗。子詡立。甫六歲。母胡氏稱制。及魏主既長。好遊騁。不親視朝。而胡后方淫亂。魏政始亂。將軍張彝之子仲瑀。上封事排抑武人。喧謗盈路。立榜大巷。剋期會集。屠其家。彝父子不以爲意。至是羽林虎賁近千人。相率至尚書省。詬罵以瓦石擊省門。上下懾懼。不敢禁討。遂至彝第。焚其舍。曳彝父子。歐擊投火中。仲瑀重傷走。免。彝死。遠近震駭。胡后收其凶强八人斬之。餘不復治。大赦以安之。懷朔鎭函使高歡。至洛陽。見張彝之死。還家傾貲以結客。或問其故。歡曰。宿衛相率焚大臣之第。朝廷懼而不問。爲政如此。事可知矣。財物豈可常守邪。歡自先世坐法徙北邊。遂習鮮卑之俗。沈深有大志。與侯景等相友善。以任俠雄鄉里。

講義 魏主の恪(かく)が殂す諡して宣武皇帝と曰ひ廟を世宗と號す子の詡(く)が繼て立つ甫(はじ)めて六歲なり母の胡氏が制を稱して政をなせり魏主が既に成長するに及び遊獵して山野の間を騁(はす)せまはることを好み朝廷の政事を視ることを親らせず而して胡后も方さに淫亂にして魏の政事が始めて亂れたり將軍の張彝(い)が子の仲瑀(く)は封じたる書を上りて武勇なる人を排(お)しのけ抑(お)さゆ故に喧しく謗(そしる)ることが道路に盈つ榜(ふだ)を大なる巷(ちまた)に立て期限を剋し定めて會し集まり彝の家を屠り斬らんとす彝の父子は之を聞けども以て心配とせず是に至りて羽林や虎賁の親兵が千人に近きけども集まり相ひ引き連れて尚書の役所に至りて詬(そし)り罵りて瓦や石を以て尚書省の門を擊ち破れり上下のものが懾(おそ)れ懼れて敢て其の暴を禁じ討たず遂に張彝の屋敷に至り其の舍(いへ)を焚き拂ひ張彝父子を曳(ひ)きて歐打しうちたゝきて火の中に投げ入れたり仲瑀は重く傷を負ひて走り免る時に父の彝は死したり遠近の人々震ひ駭く胡后は其の凶惡の强きもの八人を收め捕らへて之を斬る其の餘は復た治し吟味せず大赦して以て之れを安心させたり懷朔鎭の函使といふ役の高歡なるもの洛陽に至り張彝の死するを見て自分の家に還り貲(音し、財産を云ふ)を傾け以て賓客に結ぶ或人が其の故を問ふに歡が曰く宿衛の士が相ひ引き連れて大臣たる人の第宅を焚きしに朝廷は懼れて之を問はず政事をなすこと此の如し是によりて見ても天下の事は大体知られたるなり財貨の如きものは豈に常々守ることが出來得べきやと歡は先世より法に坐せられて北の邊鄙に徙り居る遂に鮮卑の風俗に習ひたり心が沈深にして大なる量あり侯景等と相友とし善し任俠即ち男だての氣象を以て鄉黨や邑里に雄となり第一等にてありしと

任俠 俗に云ふ男だて弱きを憐み亂暴をこらす如き行なり

蠭起 蠭は蜂と同じ蜂の如くにさわがしく起ることなり

天柱 天文に柱は三公の位なり一に曰く天の三台の六星なりと高く貴き官名のことなり

手刺 魏帝が手づから榮を刺し殺すを云ふ

遷于鄴 舊註に世に東魏と號するは此に始まるとあり

○魏胡太后臨朝以來。嬖倖用事。政事縱弛。盜賊蠭起。封疆日蹙。魏主詡寢長。太后自知所爲不謹。務爲壅蔽。母子嫌隙日深。時六州大都督秀容酋長爾朱榮兵强。高歡見榮。即勸擧兵清帝側。會魏主殂。胡太后鴆之也。後諡曰孝明皇帝。爾朱榮擧兵。立孝文之姪長樂王子攸。沈胡后于河。封榮太原王。還晉陽。北海王顥奔梁。梁立之。遣將送入洛陽。子攸出奔。爾朱榮渡河來救。顥走死。子攸歸。加榮天柱大將軍。榮蓄不臣之志。魏主陰謀誅榮。榮入。手刺之。爾朱世隆與爾朱兆。立宗室長廣王曄。入洛陽。子攸遇弒。後諡曰孝莊皇帝。世隆又以曄疎遠廢之。立孝文之姪廣陵王恭。高歡起

南斗　南極座なり箕星（きせい）の北にあり夏秋の際だに南方にあらはる

跣　はだしのことなり

御　馭（ぎよ）と同じおさむること

國家如金甌　一ノ金の小さな椀（わん）を金甌といふ内外にかけ損じのなきこと

因以生事　侯景を納るゝに因りて東西魏に怨みを招き兵を構ふに至るを云ふ

意欲得

兵誅爾朱氏。入洛陽。廢恭而立孝文之孫平陽王脩。脩弑恭。後諡曰節閔皇帝。高歡爲太丞相。建府於晉陽居之。魏主畏歡。謀伐晉陽。歡擁兵來。魏主奔長安。依關西大都督宇文泰。以泰爲大丞相。歡追魏主不及。遂立清河王世子善見於洛陽。遷于鄴。魏自道武至是十二世・一百四十九年。而分爲東魏 西魏。譜識

魏の胡太后が朝廷に臨みて制を稱してより以來嬖倖卽ち氣に入り幸せらるゝ所の佞臣が事を用ひて政事が縦（ほしひ）まゝに弛ひたりしかば盜賊は此の時てこそ蜂（はち）の如く起りて國の封疆界域は日に蹙（ちゞまる）りたり時に魏主の詡は段々生長せり太后は自分になす所の事が謹愼ならざるを知りて務めて物事を壅（ふさぐ）ぎ蔽ふを爲しそれが爲めに母と子との間に嫌疑を生じて隙あるが日に深し時に六ケ州の大都督の秀容の酋長の爾朱榮（爾朱ハ姓榮ハ名時に幷肆汾廣恒雲六州に都督として幷せて秀容部落の長たり）なるものゝ兵が强し高歡は是に見へて卽ち勸めて兵を擧げて帝の側に居る奸惡の徒を除き淸めしむ時にたま〳〵魏主の殂するに出會ひしが是れは全く胡太后が手にて鴆殺せしものなり後に諡して孝明皇帝と曰ふ爾朱榮が兵を擧げ、孝文帝の姪の長樂王子攸（ゆう）を立つ子攸は彭城王の勰（し）の子なり胡太后を河の中へ沈め榮を太原王に封じて晉陽の土地に還りしかば北海王の顥（こう）は梁に走れり梁は顥を立て將をして送り洛陽に入らしむ子攸は之を懼れて出奔す爾朱榮が河を渡りて來り救ひし故に顥は走り死して子攸は復た歸れり是に於て榮に天柱大將軍の役目を加へたり元來榮は不臣として謀反の志を蓄ふ魏主は陰かに榮を誅戮せんと謀る榮が入るに及び魏主は手自から之れを刺（さ）し殺す爾朱世隆なるものが爾朱兆と與に宗室の人長廣王の曄（よう）を立て洛陽に入る曄とは太武の玄孫にわたる人なり子攸は弑逆に遇ふ後ちには諡して孝莊皇帝と曰ふ世隆は又た曄が疏遠なる族なるを以て之れを廢して孝文帝の姪にわたる廣陵王の恭を立つ恭は廣陵王羽が子なり高歡は兵を起して爾朱氏を誅戮し洛陽に入り恭を廢して孝文帝の孫の平陽王脩を立つ脩は廣平王懷が子なり脩が恭を弑したり後に諡して節閔皇帝と曰ふ高歡は大丞相となり政府を晉陽に立てゝ之れに居る魏主は高歡を畏れて晉陽を伐ち滅ぼさんと謀る歡が兵士を連れて來りし故に魏主は長安に出奔し關西の大都督の宇文泰に依る泰を以て大丞相となす歡は魏主を追ひかけしかとも及ばざりし遂に清河王（孝文帝の子）の世子の善見なるものを洛陽の都に立つそれより鄴（げふ）に遷る魏は道武帝より是に至るまで十二代にして一百四十九年にして分かれて東魏西魏の二國となる

○先是熒惑入南斗。梁主曰。熒惑入南斗。天子下殿走。乃跣下殿。禳之。及聞脩出奔。慙曰。虜亦應天象邪。脩至長安。踰年。又與泰有隙。泰鴆之。後諡曰孝武皇帝。孝武既遇弑。泰立南陽王寶炬。歡與泰連年相攻戰。互有勝負。歡卒。遺言囑其子澄曰。侯景有飛揚跋扈之志。非汝所能御。堪敵景者。惟慕容紹宗。景果以河南降西魏。未幾復附于梁。梁封景爲河南王。景使至梁。梁群臣皆不欲納。梁主亦自謂。我國家如金甌。無一傷缺。恐納景因以生事。惟朱异力勸納之。東魏遣慕容紹宗擊景。景敗南走。襲梁壽春。據之。請命。梁就以爲南豫州牧。既而東魏求成於梁。意欲得景。景恨梁。通東魏。遂反於壽陽。引兵南渡。圍建康。梁主自卽位以來。江左久無事。惟崇佛法。屢捨身佛寺。上下化之。及景逼臺城。援兵至者。爲景所敗。梁主遣人與景盟。以爲大丞相。臺城受圍五月而陷。景入見。引就三公位。梁主神色不變。謂景曰。卿在軍中久。毋乃爲勞。景不敢仰視。流汗不能對。景退謂人曰。吾常跨鞍對陣。矢石交下。了無怖心。今見蕭公。使人自慴。豈非天威難犯。吾不可以復見此人。梁主爲景所

成を求む　景の意は反人侯景を手前の方に引き取りて誅殺を行はんと欲する也

捨身佛寺　佛寺は同泰寺なり中大通元年九月梁主寺に入り法衣を著（つ）け淸淨大捨を行ふ群臣錢一億萬を以て帝をあがなひ宮に還る

毋乃爲勞　毋乃の二字はむしろと讀みて寧と同じ難とす乃ち毋らんやと云ふも同じほねおりではなかつたかと云ふこと

臺城　晉宋の頃

禁内を謂て臺となす故に臺城となす

矢石交下　矢や石のまじりて下るを云ふ石とは弩弓につかふものなりそれがとびきたるなり

口苦求蜜　口中熱して苦（にが）き故蜂の蜜を求るを云

荷々　筌蹄に云く呵々と同じ責め怒るの聲なり

齊王洋受禪　世に北齊と號することと此に始まる

尸位　尸とは祭祀の

制。飮膳亦被裁損。憂憤成疾。口苦索蜜不得。再曰荷荷。遂殂。在位四十八年。改元者七。曰天監。普通。大通。中大通。大同。中大同。太淸。壽八十六。先是。太子統仁明孝儉。好學有文。在東宮三十年而終。梁主舍嫡孫而立別子。至是即位。是爲太宗簡文皇帝。

補義　これより先きに熒惑と曰ふ惡星が南斗と曰ふ星の宿所に入りたり梁主の曰く熒惑が南斗に入るときは天子が宮殿より下りまするべきなりと乃ち跣足（はだし）にて殿を下りて之れを禳（はら）ひ祈禱（きとう）したりしが魏が出奔することを聞くに及んで慚（はぢ）て曰く戎狄（ゑびす）の如きものも亦た天の氣象に應ずるかと帝は長安に至り半年を踰へて又た宇文泰と隙（ひま）わり中がわし、泰は鴆を以て殺す後に謚して孝武皇帝と曰ふ孝武皇帝が已に弑に遇ふて泰は南陽王の寶炬（ほうきよ）といへる人を立てたり寶炬は孝文帝の孫にして京兆王の子なり歡は泰と毎年相ひ攻め戰ひ互にかちまけあり歡が卒するとき遺言して其の子の澄に囑しひつけて曰ふに彼の侯景ハ專ら河南を制する十四年なり常に飛び揚り跋扈するの志あり我は能く之を畜ひしも中々汝が從の能く制御する所にわらず侯景に敵するに堪ゆるものは惟だ慕容紹宗のみなり我故に之を貴ばず留て以て汝に遺すと後に景ハ案の如く河南の地を以て西魏に降服し間もなく復た梁に附く梁ハ景を封じて河南王となす景が使者梁に至る梁主群臣をして廷議せしむ僕射の謝擧等が曰く頃ろ魏と和し邊境無事なり今其の叛臣を納るゝ宜しきにわらずとて梁の群臣等は皆な景を納るゝことを欲せず梁主も亦た自分に思ふに我が國家は金の甌の如きものにて一も傷つき缺くることなし恐らくは景を納れたらばそれに因りて事を生ぜんと惟だ朱异（い）のみは力めて之れを納る東魏は慕容紹宗なるものをして景を擊たしむ景は敗北して南に走れり梁の壽春といふ地を襲ひ據ちて之れに據り命令を請ふ梁は就て以て南豫州の牧となす既にして東魏は成（たひらぎ）を和睦せんことを梁に求む其の意は景を手に入れんと欲してなり景は梁が東魏と通ぜしことを恨みとし遂に壽陽に於て反し兵を引き連れて南方へ渡りて建康を囲みたり梁主は位に卽きてより以來江左卽ち江東の方が無事なる故に惟だ佛法を崇め敬ひ度々自分の身を佛寺に捨て、奴となる上も下も之れに化し習ふて皆な佛法を信仰したり侯景が臺城に逼まるに及びて援兵の至るものは景が爲めに敗られたり梁主が人を遣はし景と盟ふて景を以て大丞相となす臺城は景の囲みを受くること凡そ五月にして陷る景ハ入りて梁主に見ゆ引きて三公の位に就かしめたり梁主は精神顏色が少しも變ぜずして侯景に謂ふて曰く卿（おんみ）軍中に在ることの日が久し乃ち苦勞することなからふや定めて苦勞をしたであらふ景は敢て梁主の顏を仰ぎ見ず汗を流して對ふるあたはざりし景は退きて人に謂て曰ふに吾れは常に馬の鞍に跨り軍陣に對して矢や石が代る〲に下れども了（ついに）に怖るゝ心はなかりしに今ま蕭衍公を見るに人を

尸の如し梁帝位に居ると雖も而かも其の事を爲さず猶ほ尸主のごときを云ふ

棟　昭明太子の長孫

送於北齊　梁が初め東魏に叛ひて而して北齊東魏の禪を受くるを以てなり

眇　音眇說文に云く一目小なりと

突厥　古の匈奴の北部を云ふなり

廓　文帝の第四子

柱國　官の名輔弼の臣國の棟梁なり故に柱國とな

して自ら惜（おそれ）れしむ豈に是れが天の威光といふものは犯し難きに非ずや吾れは以て復た再び此の人を見ることが出來ぬと梁主は侯景のために制御せられて飮食や膳部も亦た裁損し減らされし故に憂ひ憤りて爲めに疾をなす口が苦くして蜜（みつ）を索めたれども得ざりしかば二度までも荷々といひて遂に殂したり荷々とは呵々と云ふが如く責め怒るの聲を云ふ位に在る四十八年にして年號を改めしこと七つ天監、普通、大通、中大通、大同、中大同、大淸と曰ふ壽が八十六なり是より先きに太子の統ハ仁ありて且つ明かに孝行にして儉約なり而して又學問を好み文事あり東宮に在り太子となること三十年の間にして世を終れり故に梁主は嫡孫を舍て、別子を立て、置きしに是に至りて位に卽く是を太宗簡文皇帝となす

〔簡文皇帝〕名綱。在東宮十八年。而後遇侯景之亂。既立受制於景而已。湘東王繹鎭江陵。自稱假黃鉞大都督。中外諸軍承制。岳陽王詧。昭明太子統之第三子也。鎭襄陽。與繹相攻。詧遣使降于西魏。以求援。

補義　簡文皇帝は名を綱（こう）と曰ふ武帝の第三子なり東宮に在ること十八年にして後ち侯景の騷亂に遇ふ既に立て制を景に受くるばかりにて自分の自由にすることが出來ず湘東王繹が江陵を鎭撫す自ら假黃鉞（ゑつ）大都督中外諸軍承制の官を稱す岳陽王の詧（さつ察と同じ）は昭明太子統の第三番目の子なり統は武帝の太子にして昭明とは其の謚なり襄陽の地を鎭撫し繹と相ひ攻め戰ふ詧は使者を遣はし西魏に降服して以て援兵を求めたり

〇東魏大將軍渤海王澄。先是爲其下所殺。弟洋爲丞相。封齊王。逼東魏主禪位。尋弑之。諡曰孝靜皇帝。東魏建國一十七年而亡。

補義　東魏の大將軍の渤海王澄は高歡が子なり是より先き武帝の大淸三年に膳奴蘭京なるもの、爲めに弑せらる弟の洋が丞相となり齊王に封ぜらる東魏の主に逼りて位を禪らしめ尋て之れを弑し謚して孝靜皇帝と曰ふ東魏ハ國を立て、より十七年にして亡びたり〇西魏立梁蕭詧爲梁王。

〇西魏主寶炬殂。諡曰文皇帝。太子欽立。〇侯景自立爲漢王。

廢梁主弑之。尸位不及三年。改元者一。曰大寶。景立豫章王棟。

云ふなり
淵明 梁の宗室の子
南史に蕭淵明に作る
護 覺が從兄なり
周 世に後周と号す
霸先 武帝紀に曰く陳主我に臨み勝を制し英謀獨り運らす而して政を爲す務めて寬簡を崇ひ軍旅の急務に非らざれば輕しく調發せず性儉素にして後宮に金翠の飾り無し
沒入長安 長安は西魏の都なり後に後周の都となる沒は

已而簒位。先是始興大守陳霸先。起兵討景。湘東王遣王僧辯討景。景簒數月。而爲僧辯霸先所敗。亡走吳。欲入海。爲其下所斬。送尸建康。傳首江陵。藏其手足送於北齊。湘東王立。是爲元皇帝。【講義】西魏が梁の蕭詧を立て梁王となす○西魏の主寶炬が殂す謚して文皇帝と曰ふ太子の欽(きん)が立てり○侯景が自ら立て漢王となり梁主を廢して之れを弑せり梁主の尸位三年に及ばず改元する者一つ大寶と曰ふ○景豫章王の棟を立つ已にして而して位を簒ふ是より先き始興の太守陳霸先なるもの兵を興して景を討ず梁の湘東王が王僧辯をして景を討たしむ景位を簒て數月にして而して僧辯霸先が爲めに敗らるそれより亡(にぐ)げて吳に走る海に入らんと欲す其の下の羊鵾なるもの丶爲めに斬られ尸を建康に送り首を江陵に傳へ其の手足を截て北齊に送る景尸を市に暴らす士民爭ひ取りこれを食ふ骨を并せて皆な盡す景が五子北齊にあり皆な之を殺す湘東王立つ是を元皇帝となす

〔元皇帝〕名繹。一目眇。性殘忍。即位于江陵。自侯景之亂。州郡大半入西魏。蜀亦爲魏有。梁自巴陵以下至建康。以長江爲限。【講義】元皇帝名は繹と云ひ片目が少くある生れつき殘忍乃ち酷くものにしのひ殺戮などを好むなり江陵と云ふ處で位に即きたり侯景が謀反じてより國中の州や郡があちらこちらと段々西魏の領分に入り蜀の地も亦た魏の爲めに所領せられて梁の地所は巴陵より以下建康に至るまで長江を以て限られ甚だ狹くなれり○突厥攻柔然。北齊擊突厥。遷柔然。是時柔然衰。突厥始强大。【講義】突厥が柔然を攻む北齊もまた突厥を擊て柔然をうつせり是の時より柔然が衰へて突厥始めて强くして國も亦た大きくなりたり○西魏宇文泰廢其主欽。而立其弟廓。欽遇弑。【講義】西魏の宇文泰其の主の欽を廢してその弟の廓を立てたり欽は弑に遇へり姓を拓跋氏に復す○西魏遣柱國于謹。伐梁入江陵。梁主焚古今圖書十四萬卷。歎曰。文武之道今夜盡矣。乃出降。或問。何意焚書。

陷沒とて我が國にて言ふけつしよになること然れどもこゝにてハ敵に降參する故に沒入と曰ふ
梁乱 侯景の亂をいふなり
囏難 囏は艱と同字なり
知民疾苦 下民のやましくくるしきことがらを知りわけることと
究 古の光の字なり
五世 通鑑の註に北齊の祚ハ六主を修す文宣帝洋、廢帝殷、孝昭帝演、武

曰。讀書萬卷。猶有今日。尋被殺。在位三年。改元者一。曰承聖。【講義】西魏が柱國の于謹を遣はし梁を伐たしめ江陵に入れり梁主猶は老子を講す百官戎服して以て聽く敵軍柵下に至り長圍を築かしむ中外遂に絕つ梁主城を巡り猶は口占して詩を作り群臣も亦た和するものあり城陷る梁主乃ち古今の圖書十四萬卷を焚き歎じて曰ふ文武の道ハ今夜盡きぬと或る人が梁主に問ふに何の意あつて書を焚かと梁主の曰く書萬卷を讀むも猶は今日あり故に之を焚くと尋て殺さる位にある三年改元する者一つ承聖と曰ふ○西魏取襄陽。徙梁王詧于江陵。使稱帝。屯兵守之。是爲後梁。臣于西魏。王僧辯陳霸先。奉晉安王。稱制于建康。貞陽侯淵明。先是爲北齊所獲。至是以兵納之。王僧辯奉歸建康稱帝。陳霸先殺僧辯。廢淵明。立晉安王。是爲敬皇帝。【講義】西魏が襄陽を取り梁主詧を江陵に徙し帝と稱せしむ兵を屯して之を守らしむ是れを後梁となす西魏に臣たり王僧辯、陳霸先が晉安王を奉して制を建康に稱す貞陽侯淵明が是より先きに北齊の爲めに獲らる是に至て兵を以てこれを納る王僧辯が奉して建康に歸り帝と稱す陳霸先は僧辯を殺し淵明を廢して晉安王を立つ是を敬皇帝となす

〔敬皇帝〕名方智。元帝子也。年十三即位。陳霸先爲丞相。○西魏太師大冢宰安定公宇文泰卒。世子覺嗣。年十五。宇文護輔之。未幾以覺爲周公。【講義】梁の敬皇帝名は方智と云ふ元帝の第九子なり年十三にして位に即けり陳霸先が丞相となる○西魏の太師大冢宰の安定公宇文泰が卒せり泰能く英雄を駕馭す其の力用を得たり性質樸を好み虛飾を尙ばす政事に明達なり儒を崇ひ古を好む凡そ施設する所は皆な三代に依り倣ふて之れを爲せり世子の覺が世を嗣ぐ年十五宇文護(ご)之に輔佐たり未だ幾日にもならず覺を以て周公となせり○西魏主廓禪于周。廓遇弑。後諡曰恭皇帝。西魏建國四世二十四年而亡。覺稱周天王。性剛果。惡護之專。護弑之。後諡曰

成帝湛、後主緯、幼主恆中とあり

洋殂　洋暴酒過度遂に酒疾の爲めに殂せり

毓弟邕立　周主毓が宇文護の爲めに毒弑せらるゝに當り太子尚は幼なり故に遺詔を其の后及ひ大臣に授けて曰く朕が介弟魯國公の邕が寬仁にして大度あり天下の望み必ず歸せんと立て以て社稷に方らしめよと終に立てり

廣有乱　廣州に於て歐子略なるもの乱を

孝閔皇帝。立泰之長子毓。**講義** 西魏の主廓が周に禪る廓弑に遇ふて後ち謚して恭皇帝と曰ふ西魏は國を建つる四世二十四年にして而して亡ひたり覺ハ周天王と稱す性が剛毅果斷にして護が專らなるを惡む故に護が之を弑せり後ちに謚して孝閔皇帝と曰ふ泰が長子毓を立てたり

○梁丞相陳霸先。爲相國。封陳公。加九錫。尋進爵爲王。梁主改元者二。曰紹泰曰太平。尸位未三年而禪于陳。尋遇弑。梁自高祖武帝至是四世。凡五十六年而亡。**講義** 梁の丞相陳霸先が相國となり陳公に封せらる九錫を加ふ尋で爵を進めて王と爲る梁主は改元する者が二つにて紹泰太平と曰ふ尸(解前に出づ)未だ三年にもならずして陳に禪る尋で弑に遇へり梁は高祖武帝より是に至て四世凡そ五十六年にして亡ひぬ

陳

講義 虞の陳室の後と稱す因りて陳王に封せらる禪を受くるに及んで遂に國號を建てゝ陳と曰ふ建康に都せり

〔陳高祖武皇帝〕姓陳。名霸先。吳興人也。梁武帝大同中。爲廣州參軍。廣有亂。討平之。以功爲將軍。尋爲交州司馬。西江都護。高要太守。督七郡諸軍。屢平寇亂。侯景陷臺城。霸先時守始興。結郡中豪傑。起兵討景。先取江州。爲州刺史。引兵會諸軍。卒以平景。遂爲將相於梁。以至受禪。卽位三年殂。改元者一。曰永定。子二人。昌頊。皆以江陵陷時。沒入長安。臨川王立。是爲世祖文皇帝。**講義** 陳の高祖武皇帝は姓を陳名を霸先(はせん)と曰ふ吳興の人なり梁の武帝の大同年中に廣州の參軍と爲る時に廣州に兵乱ありしかば討して之れを平げ其の功名を以て將軍と爲る尋で交州の司馬、西江の都護、高要の太守と爲り七郡の諸軍を總督し屢ば寇や乱を平げたり侯景が臺城を陷る霸先が時に始興に太守たり郡中の豪傑等を結び約束して兵を起して侯景を討じ先づ江州を取りて其の州の刺史と爲る兵を引て諸軍を督し

を爲せり

周主邕誅宇文護　宇文護周主毓に毒を進め弑し弟邕が立て以來政柄を專握し勢ひ甚た盛にして恣まゝなり邕積んで平かなる能はずたまたま護入りて帝を謁す其の言甚だ不遜なり邕大に怒り案上の玉珽を持つて之を擊ちて誅殺せり

昵近小人　つまらぬ人ともがらを近かづけることなり

明敏　事理に明らかに

て卒に以て侯景を平げ遂に梁に將相たり以て禪を受くるに至れり位に卽て三年目にして殂せり年號を改めしこと一つ永定と曰ふ子二人あり昌、頊(きよく)と曰ふ皆な江陵の陷るる時を以て長安の方へ沒入せられ捕らへられたり臨川王が繼ぎて立つ是れを世祖文皇帝となす

〔文皇帝〕名蒨。武帝之兄子也。在武帝平梁亂時。已有功。至是卽位。**講義** 文皇帝ハ名を蒨(せん)と曰ふ武帝の兄の子なり武帝が梁の騷乱を平げし時より己に勳功ありしか是に至りて位に卽きたり○周王毓稱帝。○北齊主洋。盡滅元氏之族。洋殂。謚曰文宣皇帝。**講義** 周王の毓(いく)が帝と稱せり○北齊の主の洋が盡く元氏の一族を滅したり洋は殂す謚して文宣皇帝と曰へり○周宇文護。憚周帝明敏有識量。進毒弑之。謚曰明皇帝。毓弟邕立。○北齊文宣帝之母弟。常山王演。廢其主殷而自立。尋弑殷。演立一年而殂。謚曰孝昭皇帝。母弟長廣王湛。又廢演子百年而自立。後殺百年。**講義** 周の宇文護ハ周帝が明らかにさとくして知識度量あるを憚かり恐れ毒を進めて之れを弑し謚して明皇帝と曰ふ毓が弟の邕(ゆう)が繼ぎて立ちたり○北齊の文宣帝の同母弟の常山王演が其の主人の殷を廢して自分に立ち尋て殷を弑したり演ハ立ちて僅かに一年にして殂す謚して孝昭皇帝と曰ふ同母弟の長廣王湛が又た演が子の百年と云ふを廢して自立し後ちに百年を弑したり○後梁主詧殂。太子巋立。**講義** 後梁の主の詧が殂したり太子の巋(き)が繼ぎ立てり○北齊主湛。傳位於太子緯。自稱太上皇帝。○陳主起自艱難。知民疾苦。性明察儉勤。在位八年殂。改元者二。曰天嘉。曰天康。太子立。是爲廢帝臨海王。**講義** 北齊の主の湛は位を太子の緯(ゐ)に讓へ自ら太上皇帝と稱したり○陳主は艱難(かんなん、なんぎなるを云ふ)より起て人民の疾(やむ)み苦むことを能く知りたり性質は明らかに物を察し且つ儉約につとむ位に在ること八年にして殂す年號を改めしこと二つ天嘉と曰ひ天康と曰ふ太子が繼ひで立つ是れを廢帝臨海王となす

にして事をなすに甚ださとくして乃ちすばやきを云ふ

周伐齊　北齊の後主緯國に當るより荒淫度なく宦官共の他群小人朝廷に横はり其の幸臣等貪惡にして百歛横制衆民の困しむこと甚し周主邕其の政の立たざるを窺み之を討伐す

楊堅　所謂外戚を以て隋の政を專らにす

沈檀　沈香檀香の木にして貴重の木材を云ふ

玉樹後庭花　即ち妃嬪等と共に

〔廢帝臨海王〕名伯宗。在位三年。改元者一。曰光大。爲安成王頊所廢。講義（廢帝臨海王は名を伯宗と曰ふ位に在ること三年にして年號を改めしこと一つ光大(くわうだい)と曰ふ安成王の頊が爲めに廢せられたり）○北齊上皇湛殂。諡曰武成皇帝。○陳安成王自立。是爲高宗宣皇帝。講義（北齊の上皇湛が殂せり諡して武成皇帝と曰ふ○陳の安成王が自分に立てり是れを高宗皇帝となす）

〔宣皇帝〕名頊。初陷入長安。文帝時。周人送頊還陳。至是即位。○周王邕誅宇文護。始親政。○北齊後主緯。多嬖寵。政亂。周伐齊入鄴。執緯歸殺之。夷其族。北齊建國五世。三十年而亡。講義（宣皇帝は名を頊と曰ふ初め長安の方へ陷り捕らへられたりしが文帝の時に周人が頊を送りて陳へ還したり是に至りて位に即けり○周主の邕が宇文護を誅戮して始めて政事を親(みづから)なせり○北齊の後主の緯は嬖寵は氣に入りのものか多く政事が亂れたり周は齊を伐ちて鄴(げう)に攻め入り緯を執らへて歸りて之れを殺し其の一族を一人も殘りなく夷(たひら)げ殺したり北齊は國を建てしこと五世にして三十年にて亡びたり）○周主邕。深沈有遠識。政事嚴明。稱爲賢主。滅齊一年而殂。壽三十六。諡曰武皇帝。太子贇立。立皇后楊氏。后父隋公楊堅用事。爲上柱國大司馬。贇自爲太子時。好昵近小人。立未一年。傳位於子闡。自稱天元皇帝。驕侈彌甚。未一年而殂。諡曰宣皇帝。楊堅自爲大丞相。進相國隋王。加九錫。未幾周主闡禪位于隋。尋被弑。隋主盡滅宇文氏之族。周自稱帝。至是五世。二十五年而亡。講義（周主の邕は性質が深く沈みて落ちつき遠き智識あり政事が嚴重に明らかにして稱して賢明の人主と爲す齊を滅ぼし一年にして殂せり壽は三十六歳なり諡して武皇帝と曰ふ太子の贇(いん)か立ち皇后の楊氏を立てたり后が父の隋公楊堅が政事を用ゆ上柱國大司馬の役と爲る贇は太子と爲りし時より好んで小人等を昵(したし)み近づく立ちて未だ一年ならずして位を子の闡(たん)に傳へ自ら天元皇帝と稱す驕り侈ること彌(いよ〳〵)甚しく未だ一年ならずして殂せり諡して宣皇帝と曰ふ楊堅が自分に大丞相と爲り相國隋王に進み九錫を加ふ未だ幾日も立たずして周主の闡が位を隋に禪り尋で弑せらる隋主は盡く宇文氏の一族を滅ぼしたり周は帝と稱してより是に至るまで五世二十五年にして亡びたり）

作りたる歌曲の新譜の名にして多くは諸妃嬪の容色を讃美する亡國の妖調淫風の雜曲なり

珠簾　たまを以て飾りたるすだれなり

寶帳　色々の寶を以て飾りたるとばりなり

瑰麗　瑰は珍奇麗は美好なり

妃嬪　皆な女官の名を云ふなり

詹事　東宮に隷事するを掌とる官を云ふ

狎客　狎はなれるゝ

○陳主在位十四年。改元者一。曰大建。殂。太子立。是爲後主長城公煬公。講義（陳王は位に在ること十四年にして年號を改めしこと一つ大建と曰ふ己に殂して太子が繼ぎて立つ是れを後主長城公煬公と爲す）

〔後主長城煬公〕名叔寶。自爲太子。與詹事江總。爲長夜之飲。即位未幾。起臨春結綺望仙閣。各高數十丈。連延數十間。皆以沈檀爲之。金玉珠翠爲之飾。珠簾寶帳。服玩瑰麗。近古未有。其下積石爲山。引水爲池。雜植花卉。陳主居臨春閣。貴妃張麗華居結綺。龔孔二貴嬪居望仙。複道往來。江總爲宰輔。不親政事。日與孔範等文士。侍宴後庭。謂之狎客。使諸貴嬪與客唱和。其曲有玉樹後庭花等。君臣酣歌。自夕達旦。宦官近習。內外連結。宗戚縱橫。貨賂公行。孔範與貴嬪結爲兄弟。範自謂文武才能。舉朝莫及。將帥微有過失。即奪兵權。由是文武解體。以至覆滅。講義（後主長城煬公は名を叔寶と宣帝の長子なり太子たるの時より側役の江總等を相手に毎日毎夜長がつゞきの酒宴を爲す位に即て未だ間もなくして臨春、結綺、望仙の三樓閣を起し各々高さ五六十丈にて連り延ひること

といふは心やすくつきあふ者と云ふなり

縱橫　通鑑の註に云く放縱にして而して恣橫(ほしいまゝ)なりと

解躰　そむきはなるゝを云ふなり

天塹　塹は池(いけ)にして城砦を固むる水嶮なり乃ち江水の大なる自然の濠にして南北を限り容易しく渉る能はざるを云ふ

王氣在此　昔し楚の威王此の地に帝王の居る運氣あるを以て金を

五六十間悉く沈檀とて香のある名木を以て之を爲る金玉や珠翠を用ひて以て之れが飾と爲す珠の簾や寶の帳や衣服又は玩ぶものに至るまで頗る綺麗にして古より近年にまで未だ嘗て無き所の奢美なる建物で有る其の樓閣の下には石を積み上げて山と爲し水を引て池と爲す其の間には花や草木を雜へ植えて眺めとなす陳主乃ち楊公自らは臨春閣に居り貴妃の張麗華と云ふは結綺閣に居り龔(きよう)及び孔と呼ぶ二人の貴嬪(ひん)は望仙閣に居らしめ二嬪の廊下より往來せり江總を宰輔と爲して一切の政事を任せ王親らは少しもまつりごとを行なはない宮人の袁大捨と云ふを女學士と爲し毎日侍御の役なる孔範、散騎王瑳等の文人十四五名を宮殿の奥庭にての酒宴に侍坐せしめ之れを狎客と謂ひなせり諸の貴嬪等をして客と共に詩を作り共に唱なへ和せしむ其の作りたる詩歌の曲には玉樹、後庭花などの曲あり君も臣下も酣はに酔ひ歌ひて夕方より翌日の明け方に至るも擱はざるなり故に宦官や近習のものは内ち外と共に連なり結び乃ち組み合ひて惡事を働き宗戚は勝手きまゝの行ひをなし貨賄(まいない)を贈りて官途の採用方を頼むなどは公然とおもてむきに行はれたり孔範は貴嬪たちと結びて兄弟と爲り以て惡る事をなすの便利とせり範が自分で思ふのに文武のことや才能即ちはたらきあること朝廷中にてよく己れに及ぶものはあるまいと我がまゝの心になれりもし將帥の中にて少しにても過ちなどあればすぐに兵權を取り上げて非役になす心次第に行ひたり故に文官や武官の規律が乱れ弛び解きはなれて締が無くなり終に隋は襲へり滅ぶに至れり

○後梁主巋殂。太子琮立。隋主廢而滅之。自詧稱帝於江陵。臣於西魏周隋。所統數郡而已。凡三十三年而亡。評義（後梁の主の巋が殂して太子の琮(そう)が立てり隋王が琮を廢して之れを滅ぼしたり詧が江陵の地に帝と稱へてより西魏や周、隋にかはる〴〵臣となり仕へ統べ所有したる所は僅かに數郡のみである詧が起てより今の琮に至る凡て三十三年にして亡ひたり）

○隋以晉王廣爲元帥。帥師伐陳。楊素韓擒虎賀若弼。分道而出。高熲爲元帥長史。問薛道衡。江東可克乎。對曰。克之。郭璞言。江東分王三百年。與中國合。此數將周。陳主聞有隋兵。謂近臣曰。王氣在此。彼何爲者。孔範曰。長江天塹。豈能飛渡。臣每患官卑。虜若渡江。定作太尉公矣。陳主以爲然。奏伎縱酒。賦詩不輟。賀若弼自廣漢濟江。韓擒虎自橫江。宵濟采石。守者皆醉。擒虎遂自新林進。直入朱雀門。陳主自投景陽井中。軍人窺井。將下石。乃叫。以繩引之。與張麗華孔貴嬪同束而上。俘以歸。後主在位七年。改元者二。曰至德。曰禎明。陳自高祖武帝。至是五世。凡二十二年而亡。評義（隋は晉王の廣を以て惣大將と爲し師を帥）ひて陳を伐たしめり楊素、韓擒虎(かんきんこ)賀若弼(かしやくひつ)の三人が兵を分ちて三道より進みたり高熲(ねい)なる者が元帥(げんすい)の長史と云ふ役に居れり其の者が薛道衡(せつどうこう)に問ふに江東の方は克つことが出來るや否や乃ち陳の方に對する軍は克つことが出來るかと道衡が對へていへるよう之に克たんと其の故は昔て郭璞と云ふ者の言ひしには江東の方は分れ獨立して王となることが三百年にして再び中國に合併すべしと此の三百年の數は今日にて丁度周ねからんとす乃ち三百年に滿ちたる年に當る故に彼の陳の方が敗滅して此の中國の方へ合せらるゝ時機になりて居る故に必ず克ちであらふと答へたり陳主は隋の兵が來ることを聞き近習の臣に謂ふて曰ふのに此の土地は王氣ありて吾は王者たること極り切つて居る即ち天命である齊の兵が三たび來り周の師が再び犯し來りても摧(くだ)け敗れて遲れないことはない然るにわざ〴〵兵を起して吾が土地を伺ひに來る何ういふ心得の者であるや決して懼るゝに足らずと頗る驕り居れり孔範も亦た傍より陳主に曰ふのに長江は天の塹に同じき險阻なり豈に能く隋は飛び渡ることが出來んや臣は毎に官の卑賤なるを患ひ居る故に虜乃ち隋が若し江を渡り攻め來るならば太尉公を作るであらふ則ち自分が必ず戰爭に克ち功名を以て此の首を頂戴することになるだらふ勝つことが受け合ひなりと是も亦甚だ驕り居れり陳主も孔範の言を尤と爲し少しも隋の兵を意に介せず只だ音樂を奏し酒を縱ひまゝに飲み詩歌などを作りたのしむことを休めざりし然るに隋の大將たる賀若弼は廣漢より江を濟り韓擒虎は橫江より宵る采石を濟り攻め來りしに守衛の兵は皆な酒に酔ふて居り物の役に立たず擒虎は遂に新林より進んで直ちに陳の城下なる朱雀門へ進み入れり陳主は不意を討たれて大に驚き爲す所を知らず自ら景陽の井戶の中へ身を投げたり隋の方の軍兵が井戶を窺ひ見て將に石を投げ下し探らんとせしに陳主は乃ち大聲をあげて石を投げ下すことを止めよと呼べり依て軍兵等は繩を以て之れを引き上ぐるに甚だ重き故に不思議に思ひしに陳主は常に寵愛する所の張麗華及び孔貴嬪と云ふ二人の美人と一處に束ね結びて上かり來れり軍兵は終に俘(とら)へ以て連れ歸れり後主は位に在ること七年にして年號を改めしことと二つ至德と曰ひ禎明と曰ふ陳は高祖武帝より是に至るまで五世にて凡て二十二年にして亡びたり

隋　評義（隋はもとの隨郡なり梁ハ隨州と云ひ後西魏に入る楊忠周の太祖に從ひ功を以て隋國公に封せらる子の堅爵位をつぎ周の禪を受け遂に隋を以て國號となす隨とせしは後に之を除く也）

うづめて之れをしつむ因りて金陵と云ふ故に斯く云ふ

豈能飛渡　此の如き長江ありどうしてよくとびわたりきたること出來きべきやと

定作太尉公　虜此に至らば臣必ず大功を立てゝ必らず武職の長たる太尉國公となるらん

俘　敵兵に獲らるゝを俘と云ふ

震之後　世紀に震四世の孫を孕と曰ふ孕渠を生む渠鉉を生む鉉元壽

を生む元壽惠嘏を生む惠嘏烈を生む烈禎を生む禎忠を生む乃ち帝の父なり

尼　女僧を尼と曰ふ

有異　紫氣庭に充つ文手にあり

心動　俗にむなさわぎして心安すからざるなり

周人　王軌を云ふ

相表奇異　人相があやしきなり眼は星の如く額上肉角あり容を云ふなり

晦匿　沈晦隱匿

〔隋高祖文皇帝〕姓楊氏。名堅。弘農人也。相傳爲東漢太尉震之後。父忠仕魏及周。以功封隋公。堅襲爵。堅生而有異。宅旁有尼寺。一尼抱歸自鞠之。一日尼出。付其母自抱。角出鱗起。母大驚墜之地。尼心動。亟還見之曰。驚我兒。致令晩得天下。及長相表奇異。周人嘗告武帝。普六茹堅有反相。堅聞之深自晦匿。女爲周宣帝后。周靜帝立。堅以太后父秉政。遂移周祚。卽位九年。平陳天下爲一。開皇二十年。廢太子勇爲庶人。初帝使勇參決政事。時有損益。勇性寛厚。率意無矯飾。帝性節儉。勇服用侈。恩寵始衰。勇多內寵。妃無寵死。而多庶子。獨孤皇后深惡之。晉王廣彌自矯飾。爲奪嫡計。后贊帝廢勇。而立廣爲太子。

講義 隋の高祖文皇帝は姓を楊氏と曰ひ名を堅と曰ふ弘農と云ふ地の人なり世に相傳へて云ふには東漢の時に太尉なりし震と云ふ人の子孫なりと父の忠は魏及周の大朝に仕へて大功ありし爲めに隋公に封ぜられたり堅は隋公なる父の爵位を嗣ぎたり堅が生れたる時に不思儀のしるしが有りたり乃ち生れたるときに紫氣が庭に充つ手の平に文（あや）を生じ所謂る王者たるのしるしがありたりと堅が宅の近邊に尼寺ありしが其處の一人の尼が堅を貰ひ抱き歸りて自分の手にて之を鞠（やしなふ）へり一日尼が他行の節に其の母親に付託して抱かしめたるに角が出で鱗（うろこ）が生じたり母親大に驚いて之れを地上に墜せり然るに尼が他出先きにて心が動く即ちむなさはぎせる故に急ぎ還りて此の地上に落したるを見て謂ふに我が兒を地上に落し驚しびつくりせしめ爲めに天下を得るを晩くなるようなことをしたりと生長するに及ひて其の人相が凡人と大に異なり周の人が嘗て周の武帝に告げて曰ふに普六茹（ふろくしよ、乃ち魏の武帝の賜ひし姓にして楊氏は本姓なり）は謀反するの人相がありと堅之れを漏れ聞いて深く愼んで自分の智恵を晦（くら）ましかくして人に能く見ねぬようにして害に遇ふことを避けたり堅が女の子は周の宣帝の皇后と爲れり故に周の靜帝が嗣ぎ立ちしときには太后の父と云ふを以て勢ひ盛にし政事を秉（と）れり然して遂には周の王位を移し自分が取て代れり位に即てより九年目にして陳の國を討ち平げて天下を一統せり開皇二十年に太子の勇を廢して平民となす初め文帝勇をして政事をあづかりあつかはしむるに時には大に益することもあり時には失敗することもあれども兎に角く役に立ちたり勇が性質寛大にして厚くまつすぐにして矯（た）め飾りすることなく自分の心通りに行なへり文帝は性質儉約なり勇は思ひ通にして衣服なども甚だ侈れり帝之れを戒めて曰く古よりの帝王にて奢侈を好んで長く續きなるものなしと此の頃よりして恩寵が段々衰へ治めたり勇は寵愛の婦人が多くして正妃を寵愛せられずして死せり而して妾腹の子獨孤皇后（きさき）深く勇を惡む晉王の廣は彌々自ら矯め飾りておとなしき素振りに見せ掛け傍に楊素と云ふ者と謀り勇を廢せしめ已れ嫡子の地位を奪はんとの計を爲せり獨孤皇后も亦た帝を贊（たすけ）て勇を廢せしめ廣を立てゝ太子と爲せり

とて行かをつゝみかくすを云ふ

移周祚　周の帝位を奪ふことを云ふ

率意無矯飾　一徹の心にて少しもみへかざりのなきこと

服用侈　衣服調度のはでやかなこと

無寵死　疎んぜられ遂に病を得て死せり

不豫　病を得て快癒の見込なきを云ふ

預擬不諱　不諱は後事を擬かるな

○龍門王通。詣闕獻太平十二策。帝不能用。罷歸。教授於河汾之間。弟子自遠至者甚衆。

講義 龍門の王通なるものが朝廷に詣り太平の十二箇條の策を獻白せしに帝は用ゆる能はず通は罷（や）め歸り河汾の間に教授して居たりしに弟子は遠方より至るもの甚だ多分にありたり累りに徵せども起たず楊素之に仕るを勸む通が曰ふ通は先人の弊廬あり以て風雨を蔽ふに足るの藪田以て饘粥（さんしく）に供するに足れり書を讀み道を談ずる以て自ら樂むに足る願はくは明公身を正ふして以て天下を治め時をして和し年をして豐かならしむれば通や賜ものを受くる多しと大業の末家に卒す門人謚して文中子と云ふ

○仁壽四年。帝不豫。召太子入居殿中。太子預擬帝不諱後事。爲書問僕射楊素。得報。宮人誤送帝所。帝覽之大恚。帝所寵陳夫人出更衣。爲太子所逼。拒之得免。帝怪其神色有異。問故。夫人泫然曰。太子無禮。帝恚抵牀曰。畜生何足付大事。獨孤誤我。將召故太子勇。廣聞之。令右庶子張衡入侍疾。因弒帝。遣人縊殺勇。帝性嚴重。勤於攻事。令行禁止。雖嗇於財。賞功不吝。愛養百姓。勸課農桑。輕徭薄賦。自奉儉薄。天下化之。受禪之初。

り不諱は死を聞ふなり死は人の常なり故に諱ますと云ふ則ち死後の處置をわてはめてはかるなり

更衣（コウイ）便所に行くてとなり衣服を着更へるといは非なり

泫然（ゲンゼン）さめざめと涙を流す貌

畜生（チクシヤウ）畜生は罵るの辭なり其の無識無禮馬牛犬豕のごとく然るを云ふ

太子廢は父の妾を姦せんとす故に云ふなり

獨孤（ドクコ）誤（アヤマル）我 獨孤皇后帝をすゝめて廣を太子と爲す故にいふ

民戸不滿四百萬。末年踰八百萬。然自以詐力得天下。猜忌苛察。信受讒言。功臣故舊。無終始保全者。在位二十四年。改元者二。曰開皇。仁壽。太子立。是爲煬皇帝。【講義】仁壽四年に帝は病氣となり太子を召して殿中に居らしむ太子が預（あらかじ）め帝の不諱後即ち崩後の事を擬し斯く〳〵せんとはかり書を作りて僕射（ぼくしや）の役の楊素に問ふて報答を得たりしに宮中の女が誤て其の返書を帝の所に送る帝は之れを覧て大に怒る帝の寵愛する所の陳夫人が旦（あした）に更衣して便所へ行きしに太子の爲めに迫りいどまれ之れを拒みてやうやく其の場を免るゝを得たり帝は其の精神顏色の常と異なるあるを怪みて其の故を問ふに夫人は泫然と涕を流して曰ふに太子は無禮のことを爲したりと帝は大に怒り床を抵（うつ）ちて曰ふに吾が愛する所の女を挑（いど）む畜生ものは何ぞ天下の大事を付託するに足らんや獨孤后は我れを誤らしむと乃ち述巖を呼び將さに故（もと）の太子の勇を召し呼んとす述巖は閣を出でゝ勅書を作る楊素之を聞て以て太子に白し詔を矯め述巖を執へ獄に繫ぎ右庶子の張衡をして入りて疾に侍坐せしめ因りて帝を弑したり人を遣はし勇の首を縊り殺す帝は性質嚴重にして政事を勤む令すれば其の令は行はれ禁ずれば其の禁を犯すものなし財貨は吝嗇（りんしよく）にして惜むと雖とも勸功あるものを賞することとい吝（おしむ）まず百姓を愛し養ひ農桑を勸め分課す徭役を輕くし賦税をすくなくす自分に奉ずることは儉約に手薄くせしかば天下皆な之れに遷り化せり隋より禪を受けし初めは人民の戸數が四百萬にも滿たざりしに末年にし至りては八百萬戸に踰へたり然れとも自ら詐僞の力を以て天下を得たり故に人を猜忌（さいき）しそねみいみ又たむごく物事を察して讒言を信じ受く功臣や故舊の人々は始めより終りまで保ち全くせしものなし位に在ること二十四年にして年號を改めしてと二つ曰く開皇仁壽と太子が繼ぎて立ちたり是れを煬皇帝と爲す

〔煬皇帝〕名廣。開皇末立爲太子。是日天下地震。即位首營洛陽顯仁宮。發江嶺奇材異石。又求海內嘉木異草。珍禽奇獸。以實苑囿。又開通濟渠。自長安西苑。引穀洛水。達于河。引河入汴。引汴入泗。以達于淮。又發民開邗溝。入江。旁築御道。樹以柳。自長安至江都。置離宮四十餘所。遣人往江南。造龍舟及雜船數萬

生の子無しと嘗つて群臣に謂て曰く前世の天子嬖倖に溺れ嫡庶分爭し或は國を滅ぼすに至る朕旁に姫侍無し五子同母眞兄弟と謂ふ可きなり豈に此の憂有らんや

ふ高祖紀に曰く初め高祖獨孤后と甚だ相愛重す誓て異生の子無しと嘗つて群臣に謂て曰く前世の天子嬖倖に溺れ嫡庶分爭し或は國を滅ぼすに至る朕旁に姫侍無し五子同母眞兄弟と謂ふ可きなり豈に此の憂有らんや

無終始保全者（ナシシウシホゼンノモノ）生涯無難に過ぐる者なく多くは幽囚（ゆうちゆう）刑戮（けいりく）に罹る

右庶子（ウシヨシ）東宮の官

艘。以備遊幸之用。西苑周二百里。其內爲海。周十餘里。爲蓬萊方丈瀛州諸山。高百餘尺。臺觀宮殿。羅絡山上。海北有渠。縈紆注海。緣渠作十六院。門皆臨渠。窮極華麗。宮樹凋落。剪綵爲花葉綴之。沼內亦剪綵爲荷芰菱芡。色渝則易新者。好以月夜從宮女數千騎。遊西苑。作清夜遊曲。馬上奏之。【講義】煬皇帝ハ名を廣と曰ふ文帝の開皇年代の末に立ちて太子と爲れり其の太子と爲りし當日に天下大に地震ありたり位に即くや匆々（さう〳〵）に手初めに顯仁宮と云ふ宮殿を洛陽の地に營み作る其の工事に用ゆる爲めに江嶺の地より奇妙なる材木や形或は色などのかはりたる石類を發し乃ち切り出し洛陽に運び來らしめ又た天下中のよきにほひのする樹木や世の中へ余り多からざるかはりたる草珍らしき鳥や奇妙なる獸などを搜し求めて以て苑囿（花園や動物を飼ふ場所を云ふ乃ち音はえんなり）則ち庭に十分に植ゑ蓄へたり又た通濟渠なる堀河を開ひて運漕に便にす長安の西の園庭より洛水穀水の二つの流れを引き來りて河に通せしめ河を引き汴に入れ汴水を引て泗川に入れ以て江淮に達し通せしめ又た江淮地方の人民を發し（徵發（ちようはつ）とて各人民に割付け使役するなり）て邗溝（みぞの名）を開き堀り江水に注ぎ入れ其のみぞの旁には天子の往來する道路を開き造り其の道側にハ柳の木を樹（う）え付け長安の都より江都と云ふ所に至るの間に離宮（天子の別莊）を築き作り置くことが四十箇所餘なり又た人を江南に遣り往かしめて龍の飾りを付けたる舟及び種々の船數萬艘を造らしめ以て遊び幸するの入用に當てたり西の園庭は周（まはり）り二百里其の內に海を引て堀の樣につくることを周り十里餘なり其の外蓬萊、方丈、瀛州とて三つの仙人の居る山をまねてつくる其の高さ百尺に餘りて遙を眺め覽るたかどのや宮でんなど山の上につらなりまとまりて海の北の方にハ龍鱗と名づくる渠（みぞ）あり縈紆（けいう）めぐりめぐりて海に注ぎ入る渠の旁に緣（よ）り沿ふて十六箇所の院殿を作り其の門は皆な渠に向けて設けたり其の作り飾りいはなやかに立派を作盡したり宮殿に植ゑ付けたる樹木や草花が凋（しぼむ）み落れば彩なる絹を剪（きり）りたるを以て花や葉を爲りて之を綴（つゞ）り付けて補ひ又た沼の內にも綵を剪りて作りたる荷芰（はす）菱芡（りようけつ乃ちひし）を植へ付け若し色が渝れば則ち新らしき者を以て之に易へ改め月の明なる夜を以て宮女數千人を馬に乘らせ從へて遊び戲むることを尤も好めり然して淸夜遊と云ふ歌曲を作り馬上にて之を奏し歌はしめて樂みたり○後又開永濟渠。引沁水。南達于河。北通涿郡。又營汾陽宮。又穿江南河。自京口

名左右中の三等有り

不吝（オシンナラ）有功を賞するに則ち吝惜せざるなり

江嶺（コウレイ）通鑑に大江以南五嶺以北と師古曰く嶺は西衡山の南より海に窮る一山之を限るのみ名を標すれば則ち五あり大庾、始安、臨賀、桂陽、揭陽なり

苑囿（エンイウ）苑は果木を種る所囿は禽獸を養ふ所

臺觀（ダイクワン）臺は土を高くつみ上げ上に屋あるを云ふ觀はものみの屋を云ふなり

宮樹（キウジユ）宮園内の樹木

至餘杭八百里。講義 後に又永濟と云ふ渠を開き堀り沁水を引き來り南の方河水に通せしめ北の方涿郡に通せしめたり又汾陽(ふんよう)宮を營み作り又た江南の地を穿ちて京口と云ふ所より餘杭と云ふ地に至り其の間八百里の長さなりと云ふ○置洛口倉於鞏東南原上。城周二十餘里。穿三千窖。窖皆容八千石。帝或如洛陽。或如江都。或北巡至楡林金河。或如五原。巡長城。或巡河右。營造巡遊無虛歲。講義 洛口倉を鞏縣の東南にある原野上に置けり城卽ち倉の周りが二十里餘にして三千窖(こう)卽ち三千個の土中の坑藏をほり又興洛倉とて洛陽の非常に備ふる爲め積み蓄への倉を洛陽の北の方に置く城の周りは十里もあり此の倉も三百の穴倉を穿ちほれり兩方の窖何れも皆な八千石を容るゝことを得るなり帝或ハ洛陽に如き或は江都に行けり其のときの如き帝は兼て作らしめし龍舟に乘御し挽士(舟をやる人夫)が八萬人もあり皆な奇麗なる絹を以て其等の者の衣服と爲し舳艫相つゞいて旗じるしの如きは野原を蔽ひ囲み其の通り過ぎる道筋五百里程の場所にては皆な御馳走を獻上せしめ悉く山海の珍味を寄せ集し宮女始め腹一杯に食ひ後には厭いて食する者なく帝の出發せんとするときは多く之れを棄て埋めしめりと實に驕り極りたる沙汰なり其外北の方を巡ぐり楡林、金河など云ふ處に至り或は五原の方へ如き又た或るときは自身が數多の金錢を費し人民を勞役して造りたる長城などを巡り或は河右の地を巡り宮殿や樓閣を營み造り然して其の作りたる所其他處々へ巡り遊ぶことを仕事の樣にして一年間たりとも休むことなく此上なき奢侈に耽けりたりき

徵天下散樂。諸蕃來朝。陳百戲於端門。執絲竹者萬八千人。終月而罷。費巨萬。歲以爲常。講義 天下の能く樂を使ふ者を召し集めたるに至りたる者一萬餘人もありたり又天下の樂人を召し音樂の上手なる者は樂官に任せんと詔せし故其亦大に集まりたり諸蕃の酋長(しうちよう)乃ちかしら共が朝廷に貢物などを以て來る時は盛んに種々の戲むれ物を端門に陳べ列ねて見物せしめたり音樂を開かしめたり欵(もてなす)てなせり笛か琴や樂器の類を執り藝をなすもの一萬八千人餘もあり昏(くれ)より旦(あした)に續き一ケ月餘を經へて而して罷むるなり其費用は數万圓を遣かひ每年以て常例とせり○徵高麗王入朝。不至。大業七年。帝自將擊高麗。徵天下兵。會涿郡。敕河南淮南江南。造

綴之（セツスコレヲ）樹枝につける

剪綵（センサイ）奇麗なる絹をきりて花木を作る

清夜遊曲（セイヤユウキヨク）魏の曹植清夜西園に遊ぶの詩を歌ひ曲名とす

端門（タンモン）君の正門を端門と云ふ

絲竹（シチク）絃を絲と曰ひ管を竹と曰ふ

城周（シロノメグリ）通常の城の廓を云ふに非ず米倉の四圍を云ふなり

無虛歲（ナキキヨサイ）年々常例の如くに工事を起し遊

戎車五萬乘。供載衣甲等。發河南河北民夫。供軍須。江淮以南民夫。船運黎陽及洛口諸倉米。舳艫千里。往還常數十萬人。晝夜不絕。死者相枕。天下騷動。百姓窮困。始相聚爲盜。講義 高麗王を徵(めす)し招きて入朝せしむるに至らず帝高麗を討するの詔を發し大業七年に帝自ら高麗を討つの將と爲り天下の兵を徵して涿(たく)郡に集會せしむ幽州の總管元弘嗣と云ふ者に敕して東萊海口に往き船を造らしむ官吏等仕事を取締り晝夜水中に立ちつゞけ腰の下に疽と云ふ腫物が出來て死する者が十三四人もありたり河南淮南江南に敕して兵事に用ゆる車五萬輛を造らしめ高陽に送り衣服や甲冑(かつちう)や帷幕(まく)などの軍陣の器物を載するの用に供へ又河南河北地方の民人を軍の須(もとめ乃ち用なり)めに供へ當て又た江淮より南の方の民人を召しつどひ船を以て黎陽及び洛口等にある諸倉の米を運ばしむ舳艫(ふねのとも、へさき)相次ぐこと千余里の長きに至り其の間を往きつ還りつする者が數十萬の人にて晝夜共に絕ゆ間なし其中にて疲れたり或は病に罹りたりして死去する者が枕を并べて睡て居るように道の側に倒れ居る有樣目も當てられぬなり是の時頃よりして天下も段々騷がしく乱れ來り百姓が漸く窮乏し困み仕方なさに初めて相ひ聚りて盜賊をなすに至れり○漳南竇建德兵起。講義 漳水の南の方に居る竇建德(とうけんとく)が兵を擧げて起りたり建德少くして氣俠(おとこぎ)を尙とび膽力(どきようのこと)人に勝り過ぎたり會々高麗征伐の爲めに人を募るに遇ひ選ばれて二百人の長と爲り無賴の少年五六百人を集め得て同縣の孫安祖なる者を推して大將と爲し時の騷がしきに乘じ群り起り遂に盜掠を爲せり是より前後に於て鄒鄒平民は血を擁して長白山に據り立ちて張金稱なる者は衆人を河曲の地に聚め高士達は衆を聚めて清河に起りたり是よりして所々盜賊が蜂の如く起り立ちて城邑を攻め陷ること頻なり是れ隋國乱亡の始めなり○帝所徵四方兵。皆集涿郡。一百一十三萬。餽運者倍之。首尾亘千餘里。帝至遼東。攻城不克。諸軍大敗而還。明年再徵兵。自將擊之。講義 帝が高麗征伐の爲めに徵し集めたる四方の兵士が皆な涿郡に集る乃ち軍を二分し道を分ちて總て平壤（朝鮮乃ち當時高麗の大都）に進み集らしむ其の總數が一百一十三萬人にて兵糧を運び送る人夫の數は兵隊の數に一倍せり先鋒より後陣に至るまで千餘里の間に續づき亘れり帝進んで遼東に至り囲み攻むるも克つ能はず尋で諸方の軍皆な大に敗れて而して還れり翌く年再ひ兵を徵し帝自ら將として之を擊てり○楚公楊玄感。見朝政日紊。潛謀作亂。至

ひ廻り休むてなきなり

散樂（サンガク）雅樂にあらざるを以て散樂と云ふ

諸藩（シヨハン）夷狄の諸國

供軍須（キヨウスクンスウ）軍の求めなり則ち品を運ぶ如きとなり

歌曰云々（ウタニイハクウンヽ）走の字通鑑に繞に作る皇と后とハ皆なきみなり楊州は即ち江都なり宛轉は遊宴流連の状をいふ言ふハ李密潜かに作すことを謀る而して帝自ら知らず日夜花園の中に遊樂して反るを忘ると子

是督運黎陽。遂反。帝引軍還。遣將擊之。玄感自洛陽。引兵趨潼關。兵敗走死。帝又如涿郡。伐高麗。高麗遣使請降。帝還長安。已而如洛陽。如汾陽。如江都。巡遊仍無虚歲。**講義**楚公の楊玄感が朝政の日一日と紊れ乱るゝを見て且つは帝が猜忌多くして己れの身体の安からざるを思ひ潜かに乱を作(なす)さんことを謀る是に至りて黎陽に兵粮を運ぶことを督促するを名として遂に反せり帝玄感が叛せりとの報を聞き蘇威を引て帳中に入り問て曰く此兒聰明患を爲す無きを得んと威が曰く玄感は麁疎(そゝ)なり必らず慮る所なし但だ恐る此によりて寖(やゝ)亂階を成さんのみと帝乃ち兵を引て還る宇文述等の大將を遣はして之を擊たしむ玄感は洛陽より兵を引き連れて潼關に趨る兵が打ち敗れて走り死せり帝は又涿郡に如き高麗を伐ちしが高麗は使を遣はして降服せんことを請へり帝ハ乃ちそこで長安に還りしが已にして洛陽に如き又汾陽に如きそれより江都に如き巡遊することが仍(なほ)も一年とて虚(むなし)き歳はなかりし

○蒲山公李密兵起。密少有才略。志氣雄遠。輕財好士。嘗乘黄牛。以漢書掛牛角讀之。楚公楊素遇而奇之。由是與素子玄感游。初從玄感起兵。玄感敗。密變姓名亡匿。時人皆云。楊氏將滅。李氏將興。又有民謠。歌曰。桃李子。皇后走楊州。宛轉花園裏。勿浪語。誰道許。謂桃李子者。逃亡李氏子也。莫浪語。誰道許者。密也。密遂與群盜翟讓等起。攻滎陽下之。建牙統所部西行。説下諸城。大獲。**講義**蒲山公李密が兵起れり李密は李弼(りひつ)の曾孫にして幼年の時より才氣や雄略があり其志や氣象が雄剛に且つ遠大にあり財寶ハ之を輕んじて賢士と交はるを好めり嘗て黄色なる牛に乗りて漢書を以てその牛の角にかけて行く〳〵之を讀みたり楚公の楊素が之に出逢ふて之を異奇の人となし子の玄感に謂て曰く汝等はとても彼の人には及ばざるなりと是に由りて素が子の玄感と交り遊べり初め玄感に從ひて兵を起す玄感が敗れしかば己れは姓名を變じて亡(にぐ)げ匿くれたり時の人が皆な云ふに楊氏即ち楊玄感の家ハ將に滅亡せんとし李氏即ち密の家は將さに興らんとすと

と裏と語と許とは韻を押せるなり

遙尊（ハルカニタツトンデ）長安より江都に居る煬帝に太上皇の号を上つる故に遙尊と云ふなり

酒巵（シユシ）巵はさかつきなり巵をはなさぬとは日夜酒を飲みつゞくることなり

北歸（ホクキ）北は長安洛陽を指す

縊殺煬帝（イツサツスヤウテイ）宇文化及の謀叛虔通等叉を以て帝に逼る帝の愛子杲年十二傍にありて號慟す虔通之れを斬る血御衣に濺ぐ帝

又民の謠とてはやりうたがありて歌て曰ふに桃李が子ありて皇后が楊州に走り花園の裏(うち)に宛轉(ゑんてん)として遊び居れり浪(みだり)に語り話すこと勿れ誰れが許(かくと訓す猶ほ斯くと同じ)の如くに道(いふ)やとその謂ふ心は桃李子とは逃亡の李氏の子と云ふことにて桃と逃と字音相同じきに取り浪りに語る莫れ誰か許く道ふとは穏やかに内密にすべしとの意なり之を略言すれば李密が起りて楊氏は殄滅し皇后も亦走るとの意なり猶ほ解釋を参考すべし密は遂に群盗の翟讓(てきじやう)等と與に起り滎陽の城を攻めて之を下だし牙旗を建てゝ所部則ち組下たのもの統べそれより遂に西の方に行き到る所のもろ〳〵の城を説き付けて降參せしめ大に敵軍のものを獲て勢ははなはだ強くなりたり

○鄱陽賊帥林士弘。稱楚帝。據江南。**講義**鄱陽の賊の帥(すい、かしら)の林士弘なるものが楚帝と稱して江南の地に據れり

○杜伏威據歷陽。○竇建德稱長樂王。○馬邑校尉劉武周。朔方郎將梁師都。各據郡起兵。○李密據興洛倉。略取河南諸郡。稱魏公。○突厥立劉武周。爲定陽可汗。取樓煩定襄雁門諸郡。**講義**杜伏威と云ふものが歷陽の地に據りたり○竇建德(とうけんとく)が長樂王と稱せり○馬邑郡の校尉の官たりし劉武周と云ふもの及び朔方郡の郎將たりし梁師都等が各々その郡に據りて兵を起したり○李密ハ興洛倉(こうらくそう)に據りところとして河南の諸郡を略取しきりとりておのれ自身から魏公と稱せり○突厥が劉武周を立てゝ定陽可汗(可汗とは匈奴の單于の如し)となり樓煩定襄雁門の諸郡を取れり

○梁師都取雕陰弘化延安等郡。自稱梁帝。**講義**梁師都なるものが雕陰(てういん)弘化、延安等の郡を取りて自から梁帝と稱したり

○金城校尉薛擧。起兵隴西。自稱西秦霸王。○武威司馬李軌。起兵河西。自稱涼王。○薛擧自稱秦帝。徙據天水。○蕭銑起兵巴陵。自稱梁王。**講義**金城の校尉たりし薛擧(せつきよ)なるものが兵を隴西に起して自ら西秦の霸王と稱したり○武威の司馬の官たりし李軌が兵を河西に起して自ら涼王と稱したり○薛擧が自ら秦帝と稱し徙りて天水郡に據れり○蕭銑(せん)が兵を巴陵に起し自ら梁王と稱せり

○唐公李淵。起兵太原。克諸郡。入長安。時隋大業十二年。帝在江都。淵遙尊爲太上

曰く天子の死自ら法あり何ぞ鋒刃を加ふるを得ん鴆酒を取り來れと賊許さず帝を頓して坐せしむ帝自ら練巾を解き賊をして縊らしむ

可汗　可汗は單于に同じく猶は中國の天子といふが如し此所前に錄すべきを誤脱せり依てこゝに之を揭出せり

皇。而立代王。是爲恭皇帝。**講義**唐公の李淵が兵を太原に起し諸郡に打ち克ちて長安に入れり時に隋の大業十二年なり帝は江都にありし故に淵は遥かに尊びて太上皇と爲し而して代王を立てたり是れを恭皇帝と爲す

〔恭皇帝〕名侑。煬帝之孫也。年十三爲李淵所立。改太業十三年爲義寧。淵爲大丞相。封唐王。煬帝在江都。淫虐日甚。酒卮不離口。見中原已亂。無心北歸。從駕多關中人。思歸遂謀叛。以許公宇文化及爲主。夜引兵入宮縊殺煬帝。宗室無少長皆死。惟存秦王浩立之。而自爲大丞相。擁衆而西。**講義**恭皇帝は名を侑と云ふ煬帝の孫なり年甫めて十三にして李淵が爲めに立てらる太業十三年を改めて義寧と年号をかへたり李淵ハ大丞相の高官と爲り唐王に封せらる煬帝が江都にありて淫乱にあり且つ暴逆なることが日に〳〵甚しく酒卮(しゆし)即ちさかづきを口より離さずして飲みつゞけたり中原が已に乱るゝを見て北方に歸るの心がなく而して帝の駕に從ふ所のもの共には關中の人が多ければ歸らんことを思ふて遂に謀叛せり許公の宇文化及を以て主と爲さんと請ふ化及遂に之に從ふ夜中に兵を引て玄武門より宮中に入り刄を露はして侍立す帝の曰く我何の罪ありて此に至るか馬文擧が曰く陛下は宗廟を棄て巡遊して息まず外は征討を勤め内は淫酒を恣にし四民業をうしなひ盗賊さかんに起る何ぞ罪なしといはんや我れ實に百姓にそむけり卿等も亦榮祿を極む何ぞ乃ち是の如くなる虔通遂に帝を弑せんとす帝曰く鋒刃を假らんや鴆毒を以て來れと令狐行達之を縊り殺せり宗室少長となく皆な死せり惟だ秦王の浩のみを存して之を立て而して自ら大丞相と爲り衆を擁して西せり

○梁蕭銑稱帝於江陵。○隋帝侑。卽位半年。禪于唐。隋自高祖至是三世。凡三十七年而亡。**講義**梁の蕭銑なるものが帝を江陵の地に稱したり○隋帝の侑が位に卽くこと半年にして唐に禪りたり隋は高祖より是に至りて三世凡そ三十有七年にして全くほろびたり

十八史略講義卷之四　終

鼇頭解釋

唐　唐は古國の名周の成王の同母弟叔虞と云ふものゝ此地に封せらる其地は帝堯夏禹都する所のあとなり

御衆寛簡　人つかひ應揚（おうよう）にしてこせつかぬこと

名應圖讖　周の代に深水蕩楊を没するの詩あり深水ハ李淵の淵なり蕩楊の楊は隋の姓なり又た隋の末に李氏將さに興らんとするの謡あり

十八史畧講義卷之五

元　曾先之編次

日本　的場麗水講義

唐

〔唐高祖神堯皇帝〕姓李氏。名淵。隴西成紀人也。西涼武昭王暠之後。祖虎仕西魏。有功。封隴西公。父昞於周世。封唐公。淵襲爵。隋煬帝以淵爲弘化留守。御衆寬簡。人多附之。煬帝以淵相表奇異。名應圖讖。忌之。淵懼。縱酒納賂以自晦。天下盜起。以淵爲山西河東撫慰大使。承制黜陟。討捕群盜。多捷。突厥寇邊。詔淵擊之。淵次子世民。聰明勇決。識量過人。見隋室方亂。陰有安天下之志。與晉陽宮監裴寂。晉陽令劉文靜相結。文靜謂世民曰。今主上南巡。群盜萬數。當此之際。有眞主驅駕而用之。取天下如反掌耳。太原百姓。收拾可得十萬人。尊公所將兵復數萬。以此乘虛入關。號令天下。不過半年。帝業成矣。世民笑曰。君言正合我意。乃陰部署。而淵不知也。會淵兵拒突厥不利。恐獲罪。世

承制 天子の制詔を承けて賞爵を專決すなり

驅駕 邪盜を驅逐駕御し軍事に使役するを云ふ

順民心 民皆煬帝の虐政に疲れ明君の世に出づるを待てり其の心に順へ應ずることなり

義兵 亂を救ひ暴を誅するを義兵と云ふ

代王 隋の恭帝初め代王に封せらる

撫而有之 豪傑を鎭撫して吾が所用となすなり

民衆間說淵。順民心興義兵。轉禍爲福。淵大驚曰。汝安得爲此言。吾今執汝告縣官。世民徐曰。世民覩天時人事如此。故敢發言。必執告。不敢辭死。淵曰。吾豈忍告。汝愼勿出口。明日復說曰。人皆傳李氏當應圖讖。故李金才無故族滅。大人能盡賊。則功高不賞。身益危矣。惟昨日之言。可以救禍。此萬全策。願勿疑。淵歎曰。吾一夕思汝言。亦大有理。今日破家亡身亦由汝。化家爲國亦由汝矣。先是。裴寂私以晉陽宮人侍淵。淵從寂飮。酒酣。寂曰。二郎陰養士馬。欲擧大事。正爲寂以宮人侍公。恐事覺併誅耳。會煬帝以淵不能禦寇。遣使者執詣江都。世民與寂等復說曰。事已迫矣。宜早定計。且晉陽士馬精强。宮監蓄積巨萬。代王幼沖。關中豪傑並起。公若鼓行而西。撫而有之。如探囊中物耳。淵乃召募起兵。遠近赴集。仍遣使借兵於突厥。

講義 唐の高祖神堯皇帝は姓は李氏名淵字は叔德と曰ふ隴西成紀の人なり西涼の武昭王暠（こう）の子孫にして（世紀に暠が歆を生み歆が重耳を生み重耳が熙を生み熙が天錫を生み天錫が虎を生む乃ち帝の祖なりと）祖父の虎は西魏に仕へて功勞ありしを以て隴西公に封せらる父の昞（へい）は周の世に於て唐公に封せらる淵は父の爵位を襲ぐ隋の煬帝に至り淵を以て弘化の留守居の役と爲す淵は衆人を御し使用することが寛大にして且つ簡易なりしかば人多く之に附き從へり煬帝は李淵の相表卽ち人相が奇態異狀にして名も亦た圖讖（未來記）に應ずるを以て之れを忌み惡む淵懼れてそれよりハ酒を縱まゝに飮み又は賄賂を受け納れて以て自ら己の才德を晦まして忌みをさけたり時に天下に盜賊起る淵を以て山西河東の撫慰使と爲す天子の制詔を承けて人を黜（音ちゆつ、しりぞく）け人を陟（音ちよく、のぼす）し群盜を討ち捕らへ多く捷（かち）を得たり突厥が邊鄙に寇せしとき淵に詔して之れを擊たしむ突厥敗れ走る淵を以て大原の留守となす淵の次男に世民なる者あり耳は聰に目は明にして勇氣あり能く事を決斷し智識度量共に人に過ぎこゑたり隋室の方さに乱るゝ見をて陰に天下を安んじ定めんとの志あり晉陽の宮禁を監察する裴寂及び晉陽の縣令たりし劉文靜と相結び交いる文靜が世民に謂ふて曰ふに今ま主上が南方に巡狩するに群盜ハ萬を以て數ふべきほどに多くあり此時に當り眞の人主たるべき人あり驅り使ふて之を用ふれば天下を取らんことは掌を反へすが如く易きのみ太原の百姓豪傑も收め拾（摭と同し）めたなれば十萬人を得べし尊公卽ち父君李淵公の將たる所の兵また數萬あり此れを以て帝の虛に乘し關中に入り天下に號令せば半年を過ぎざる間に帝たるの事業は成就すべければ世民は笑て曰く君が言は正しく我が意に合ふたりと乃ち陰に兵を部署してくばりをなして而して淵は之を知らず淵が兵突厥を拒て利あらず罪を獲んことを恐るゝに會ふ世民は閑暇に乘じて淵に說て曰く主上無道なり大人若し小節を守らは下には寇盜あり上には嚴刑あり危亡日なけん若かず民の心に順て義兵を起さば禍を轉じて福と爲さん此れ天より授くるの時なりと淵大に驚て曰く汝ち安ぞ此言を爲すことを得たるや吾れ今汝を執らへて此事を縣官に告げんと世民徐ろに曰く私は天の時や人の事を視るに此の如きなり故に敢て此言を發す必ず執へ告げられても敢て死するを辭せぬと淵が曰く吾れ豈に告ぐるに忍びんや汝愼で此言を口外に發すること勿れと明日復た說て曰く人皆な傳ふ李氏は當に圖讖に應じて天子となるべしと故に李金才は事故なくして一族を滅さる大人能く賊を殺し盜さば功高くして却て賞せられず身は益々危からん昨日の言以て禍を救ふべし願くハ疑ふこと勿れと淵歎じて曰く吾れ一夕汝か言を思ふに亦大に道理あり今日家を破るも身を亡ぼすも汝に由らん家を化して國と爲すも亦汝に由らんと是より先き裴寂か私に晉陽の宮女を以て淵に侍せしむ淵は寂の家に往て酒を飮み大に醉ひたる時に寂か曰ふに二郎（世民を斥す）は陰に士卒や馬を選び大事を擧げんと欲す正に寂が宮人を以て私に公に侍せしめし故に其事が發覺せば公は勿論世民も併せ誅せられんことを恐るゝ爲めのみと蓋し李淵を恐嚇して意を決し事を擧けしめんと欲するなり會々煬帝が淵の寇を禦ぐこと能はさるを以て執へて江都に詣らしむ世民と寂等と復た說て曰く事已に迫る宜しく早く計を定むべし且つ晉陽の士馬は精强なり宮監の蓄積は巨萬あり代王幼沖にして關中の豪傑並び起る公若し鼓行して西し鎭撫して之を有（たもつ）たば囊中の物を探るが如くならんと淵乃ち召し募りて公を起す遠兵赴き集る依て唐より使をやり兵を突厥に借る突厥曰く唐公自ら天子となる當に兵馬を以て之をたすくべしと

探囊中物 其得やすきこと猶を囊中の物を探りて之をとるがごときのみ

數之 其の罪をかぞへたてゝせめることなり

圍長安克之 秦王浩字文化及を圍み攻めて之れに克つ

舊境 李密已に唐に降る故に舊境といふ即ち山東の地

唐人 行軍總管の盜

彥師

俘 軍に獲る所の者又云く

世民引兵擊西河。拔之。斬郡丞高德儒。數之曰。汝指野鳥爲鸞。以欺人主。吾興義兵。正爲誅佞人耳。進兵取霍邑。克臨汾絳郡。下韓城。降馮翊。淵留兵圍河東。自引兵西。遣世子建成守潼關。

仇敵なり

行臺（尙書省を外に設く之を行臺といひ又之を行臺省といふ尙書令僕射各一人あり蓋し其管する所の道に隨て外州に置て以て尙書の事を行はしむ）

釋奠（釋奠の禮は幣帛あり牲牢あり合樂あり三献あり先つ其釆帛を釋置して而して神位の前に奠安す故に之を釋奠といふ又之を舍釆といふなり而して釋菜と相混する者は非なり釋菜は禮の輕き者なり惟た介粢

世民徇渭北。關中群盜悉降於淵。合諸軍圍長安。克之。立恭帝。淵爲大丞相唐王。加九錫。尋受禪。立子建成爲皇太子。世民爲秦王。元吉爲齊王。【講義】世民は兵を引て西河郡を擊ちて之を拔き取りたり郡の丞官高德儒を斬り之をせめて曰く汝は野に居る鳥を指して鸞なりといひ以て人主を欺き高官を取る此事は隋の大業十二年に二の孔雀（くじやく）ありて西苑より飛んで寶成朝堂の前に集る德儒等奏して以て鸞（らん）となす是に於て百官稱賀す詔して德儒を以て擢んで、朝散大夫に拜すと云ふことあり之を指せしなり吾れ今義兵を興すは正に侫人を誅するが爲めのみと遂に之を斬り自餘は一人を戮せず秋毫も犯はなし溜兵大に悅ぶ淵喜んで曰く此を以て兵をやらば天下に橫行すと雖とも可なりと乃ち兵を進めて霍（くわく）邑を攻め取り臨汾絳（かう）郡に克ち韓城を下し馮翊（ひやうよく）を降服せしむ淵は兵を留め置きて河東を圍ましめ自分は兵を引て西す世子の建城に潼（とう）關を守らしめ世民は渭北の地を徇へ降し關中の群盜ハ悉く淵に降服す諸軍を合せて長安を圍み之に克つ恭帝を立て淵は大丞相唐王と爲る九錫を加へ尋で禪を受け子の建成を立てゝ皇太子と爲し世民を秦王と爲し元吉を齊王と爲す元吉は淵が第三子なり

○隋東都留守越王侗。煬帝之孫也。亦爲衆所立。稱帝於洛陽。【講義】隋の東都（隋は河南府を以東都とす）の留守官越王侗（とう）は煬帝の子孫なり亦た衆人の爲めに立てられ帝を洛陽に於て稱す

○秦主薛擧卒。子仁杲立。○魏公李密。與隋兵戰。大敗降於唐。○宇文化及。弒其所立主浩。自稱許帝。○涼王李軌稱帝。○唐秦王世民破秦。秦王薛仁杲降。送長安斬於市。【講義】秦主薛擧（せつきよ）が卒し子の仁杲（かう）が繼ぎて立てり○魏公の李密が隋の兵と戰爭し大に打ち敗れ唐に降參せり○宇文化及が其立つる所の主人の浩を弑し自から許帝と稱したり○涼王の李軌（き）が帝と稱したり○唐の秦王世民は秦國を破る秦主の薛仁杲が降服す長安に送り市中に於て斬りころし薛擧が隋の煬帝大業十三年に僭号してより二世二年にして亡ろぶ

○李密之將徐世勣。據密舊境降唐。賜姓李。【講義】李密の大將の徐世勣（せき）なるもの密が舊境に據りて唐に降服す姓を李と賜ふ

○竇建德取河北諸州。自稱夏王。○李密叛唐。唐人獲而斬之。【講義】竇建德なるものが河北の諸州を取りて自ら夏王と稱したり○李密が唐に叛く唐人は獲て之れを斬り殺せり李密隋の大業十三年より僭号す後ち唐に降り是に至りて復叛く凡そ二年にして亡ぶ

を釋說するのみ王制の疏及び文獻通考に詳かなり）

均田（田地を人民に平均に分配すること）

租（土地の價格に應し穀を出す）

庸（傭に同じ卽ち人別稅にして絹を出たす）

調（戶數制にして絹（きぬ）綿（わた）布（ぬの）麻（あさ）を出す）

丁中之民（丁は人夫中は上中下を通しいふ）

田一頃（百畝）

○夏主竇建德。破宇文化及誅之。【講義】夏主の竇建德が宇文化及を破りて之れを誅殺したり

○隋主侗立一年。王世充廢之。而自立爲鄭帝。尋弒侗。○唐遣將襲涼主李軌。執歸殺之。河西平。【講義】隋主の侗は立て一年に王世充が之を廢し自立して鄭帝と爲る間なく侗を弑したり○唐は大將安貴輿を遣はし涼主の李軌を不意に擊ち執らへ歸りて之れを殺す河西ハ是にて全く平定したり李軌隋の大業十三年に僭号してより三年にして亡ぶ

○沈法興稱梁王於毗陵。【講義】沈法興は梁王と毗陵（ひりよう）郡即ち延陵に於て稱したり

○李子通稱吳帝於江都。○杜伏威降唐。○唐秦王世民擊定陽將宋金剛破之。定陽可汗劉武周。及金剛。皆走死。【講義】李子通が吳帝と江都に於て稱したり○杜伏威唐に降服したり○唐の秦王世民が定陽の將の宋金剛を擊ちて之を破る定陽の可汗（こくかん）の劉武周及び金剛ハ皆な突厥に走りて死したり是より先き宋金剛の將尉遲敬德等相戰ひ屢々敗る金剛食盡き北走す秦王世民勝に乘して北くるを追ふ一晝夜に行くこと二百餘里戰數十合雀鼠谷に金剛に追ひ及ぶ一日に八たび戰ひ皆な之を破る兵を引て介休に趨く金剛大に敗る敬德等相介休及ひ永安を擧げて世民に降る世民敬德を得て喜ぶ甚し其舊衆八千に將たらしめ諸營と相參す屈突通其の變たるに慮り言をなす世民聽かず劉武周金剛敗るときいて大に懼れ并州を棄てゝ走る突厥金剛亦た走る尋で皆な死す世民并州に入る武周が得る所の州縣を皆唐に歸せり

○唐秦王世民。督諸軍伐鄭。○吳主李子通襲梁。梁主沈法興走死。【講義】唐秦王世民諸軍を督して鄭を擊つ○吳主の李子通が梁を襲ひしに梁主の沈法興が走りて死せり

○夏主竇建德救鄭。唐秦王世民。大破擒之。鄭主王世充降。世民至長安。被黃金甲。二十五將從其後。鐵騎萬匹。甲士三萬。獻俘太廟。斬建德於市。赦世充。尋使人潛殺之。【講義】夏主の竇建德が鄭を救ふに唐の秦王世民が大に破りて之を擒にす鄭主の王世充は降服したり世民ハ長安に至に黃金の甲を被る

尺を步とし二百四十步を畝とし百畝を頃とす

寡妻（クワサイ） 夫なき婦女を云ふ

十之二（ジフブンノニ） 十分を率とし民其八を得官其二を得即ち只だ二十畝

八爲口分（ハチヲナスコウブンニ） 八十畝を口分とし世業ハ子孫に傳へ口分は死すれバ官に收む

綾（リヤウ） 帛の微細なるもの

絁（チ） あしきぬ

加役（エキヲ） 歲役二旬の外の役

（齊王元吉李世勣(せき)等の二十五人の大將が其後に從ふ鐵の甲を裝ひたるは騎馬万匹甲を着たる士三萬もあり凱旋して獲たる所の俘囚(とりこ)のものを太廟に献ず竇建德を市中に斬り王世充を赦す尋て人をして潛かに之を殺さしめたり）○竇建德故將劉黑闥。始起兵於漳南。○唐遣將李靖伐梁。梁主蕭銑降。送長安斬之。講義（竇建德が故の將の劉黑闥(りうこくたつ)なる者始めて兵を漳(しやう)南に起したり○唐は大將の李靖を遣し梁を伐たしむ梁主の蕭銑(しん)が降服す依て長安に送りて之を斬り棄てたり）○杜伏威擊吳主李子通。執送長安。伏誅。講義（杜伏威なる者吳主の李子通を擊ち執らへて長安に送り誅に服したり）○劉黑闥自稱漢東王。○楚主林士弘卒。其衆遂散。講義（劉黑闥が自分に漢東王と稱したり○楚王の林士弘が卒す其衆が遂に散じたり）○漢東將執黑闥降唐。斬之。講義（漢東の將諸葛德威は劉黑闥を執らへて唐に降り之れを斬る）○唐淮南道行臺僕射輔公祏反於丹陽。唐將擊斬之。講義（唐の淮南道の行臺の僕射の役の輔公祏(せき)なるもの丹陽に反す唐の大將李靖が擊ちて之れを斬りたり）○慶州都督楊文幹反。遣秦王世民討平之。講義（慶州の都督の役の楊文幹(かん)なるもの反す秦王の世民を遣し之れを討ち平らげたり）○突厥入寇。遣秦王世民禦之。遇於豳州。世民帥騎馳詣虜陣。告之曰。我秦王也。虜不敢戰。受盟而退。講義（突厥が入りて寇すので秦王の世民を遣し之れを禦がしめ豳(ひん)州に遇ふ世民ハ騎兵を師ひ連れて馳せて虜の陣屋に詣りて之れに告げて曰ふに我れは秦王なりと虜ハ之れを聞て敢て戰かはずして盟約を受けて退きたり）○唐興七年。僭僞皆亡。天下既定。是歲初置州縣鄉學。帝親詣國子學。釋奠于先聖先師。始定官制。頒新律令。講義（唐が興りてより七年目にして僭号して僞り帝王と稱せしものは皆な亡び天下既に平定したりしかば是の歲に初めて州縣や鄉里の學校を設け置きたり帝ハ自から國子學(國子ハ胄子なり即ち長子の入りて學ぶ學校なり)に臨りて先聖人即ち孔夫子及び先師顏回等を釋奠の禮を以て祭れり釋奠とは禮の最も重き者なり(解上に出づ)始めて

蟲霜（チウソウ） 蟲は稻を食む螟蟲なり霜ハ不時に霜降り穀を枯すをいふ

貲業（シギヤウ） よわたりの業

與民爭利（トタミアラソフリヲ） 食祿を有して工商の利を兼ぬるを云ふ

雜類 雜業の種類即ち農工商の外のものなり

計帳 課役賦税明年の豫算帳なり

儲嗣（チヨシ） わとつぎ即ち皇太子のこと

短（ソシル） ゆきとゞかぬ處をとりてそしること

官制を定め新律令を頒てり官制とハ通鑑に大總官を改めて大都督府と爲し大尉、司徒、司空を以て三公と爲す次に尙書、門下、中書、秘書、殿中、內侍を六省と爲す次に御史臺次に太常より大府に至るまでを九等と爲す次に國子學次に天策上將府次に左右衞より左右領衞に至るまでを十四衞となす東宮に三師三少詹(せん)事及び兩坊三寺十率府を置く王公は府佐國官を置く公主は邑司を置く並に京職事官となる州縣鎭戍は外職事官と爲る開府儀同三司より將仕郎に至るまで二十八階を文の散官と爲す驃騎大將軍より信義副尉に至るまで三十一階を武の散官と爲す上柱國より武騎尉に至るまで十二等を勳官と爲すと云ふ）定均田租庸調法。丁中之民。給田一頃。篤疾減十之六。寡妻妾減七。皆以十之二爲世業。八爲口分。每丁歲入租粟二石。調隨土地所宜。綾絹絁布。歲役二旬。不役則收其傭。日三尺。有事而加役者。旬有五日免其調。三旬租調俱免。水旱蟲霜。十損四以上免租。損六以上免調。損七以上。課役俱免。民貲業分九等。百戶爲里。五里爲鄉。四鄉爲保。在城邑者爲坊。田野者爲村。食祿之家。無得與民爭利。工商雜類。無預士伍。男女始生爲黃。四歲爲小。十六爲中。二十爲丁。六十爲老。歲造計帳。三歲造戶籍。講義（凡そ田あれば則ち租あり家あれば則ち調あり身あれば則ち庸あり茲に均田、租、庸、調の三法を定む丁中の民即ち十六以上及び二十以上の民には田一頃即ち百畝の田を給與す篤疾即ち不治の疾に罹る其十分の六を減じて四十畝とす寡妻(俗に云ふ後家)やには七分を減じて三十畝とす皆な十分の二を以て世業即ち活計と爲す八十畝を口分田と爲す丁ごとに歲々租税の粟二石を入る調を取り立てるには其土地の能く出來る所の物に隨ふて上納せしめ綾や絹や絁や布を收む歲々に役に使ふこと二十日にして役に出でざるときは則ち其の傭とて賃金を收む其割合は一日に布三尺とす若し又事故有りて定役の外に加へて役することあれば十五日間にして其の調を免るす三十日役すれば租も調も俱に免るす水害や旱害や蟲害霜害等の不時又は避くべからさることあるときは十分の内にて四分以上を損するときは租を免るし六分以上を損するときハ調を免るす七以上を損するときは課役も俱に之を免るす民

見秦分　秦の國の上にあらはる秦王世民が兄弟を殺し天下を取るの兆

周公之事　兄管叔蔡叔を殺す故例

天日之表　表は顔面なりいふハ日に對する如くまばゆくて見つめられぬこと

幾冠　二十歲にちかきを云ふ

王佐才　王業を輔佐するを得るの才智

剖決如流

（の黨類即ち身代を九等即ち上の上、上の中、上の下、中の上、中の中、中の下、下の上、下の中、下の下、に分つ百戸を一里と爲し五里を一郷と爲し四家を隣と爲す四隣を保と爲す城邑に在るものを坊と爲し田野にあるものは村と爲す官の祿即ち知行を食むの家は民と利を爭ふことを得る無し工や商や又は雜類雜業は士の伍組の中へは預かり入ることを無し男女の始めて生るゝものを黄と爲し四歲を小と爲し十六を中と爲し二十を丁と爲し六十を老と爲す歲ごとに計算の帳簿を造り三歲毎に戸口の簿籍を造りたり）○初唐之起晉陽。皆世民之謀。帝欲以世民爲儲嗣。世民固辭而止。太子建成。喜酒色遊畋。齊王元吉多過失。而世民功名日盛。建成乃與元吉。協謀傾世民。曲意諂事諸妃嬪。世民獨不事之。由是左右皆譽建成元吉。而短世民。【講義】（初め唐の晉陽より起るは皆な世民の謀なり帝は世民を以て世嗣と爲さんとす世民は固辭く退して止む太子の建成は酒宴や女色や及び遊び畋（音でん、田獵なり）することを喜む齊王の元吉は過ち失錯すること多し而して世民は功業名聲が一日一日に盛んなりしかば建成は乃ち元吉と謀を協（あはす）せて世民を傾け倒さんとし無理に意を曲げて諸ろの妃嬪に媚び諂ひて事ふ世民は獨り之れを事とせず是れに由りて左右のものは皆な建成と元吉とを譽めて世民を短（そしる）りたり）○武德九年六月。太白經天。見秦分。建成元吉欲殺世民。秦府僚屬。勸王行周公之事。力請乃決。於是密奏。兄弟專欲殺臣。似爲世充建德報讐。明日帥兵伏玄武門。建成元吉入。覺有變欲還。世民追射建成殺之。尉遲敬德射殺元吉。遂立世民爲太子。軍國事悉委太子處決。然後聞奏。初東宮官屬魏徵。屢勸建成除世民。及是世民召徵責以離間兄弟。徵擧止自若。對不屈。世民禮之。王珪亦嘗爲建成謀。皆以爲諫議太夫。帝自稱

理をわかち疑を決するに滯りなきこと水の流るゝが如し

身幾危　內には妃嬪之を譏ひ外には兄弟身を傾けんと謀る

決策　兄弟を殺す事

四部　又た四庫書と曰ふ經書、史書、子類、詩文集を言ふ

前言往行　古聖人の言行の迹と云ふの義なり

商榷　はかりしらべるなど

爲太上皇帝。詔傳位於太子。是爲太宗文武皇帝。【講義】（武德九年六月に太白の星が天に經（わたる）り秦の分野に見はる太白ハ星の名にして春は東方にあらはれ秋は西方にあらはる此の星不時に出つれば兵亂の兆とす建成と元吉とが世民を殺さんと欲す秦王の府內の僚屬即ち下役のものどもが秦王に勸めて周公の事を行はしむ力をこめて秦王に請ひて乃ち一決したり是に於て內密に奏するに兄弟の建成元吉は專ら臣を殺さんと欲す王世充や竇建德の爲めに讐を報ずるに似たりと明日に兵を帥ゐて玄武門に匿くれ居たりし建成元吉の二人が門に入り變事のあるを覺りて還らんと欲す世民は追ひかけて建成を射て之れを殺し尉遲敬德（うつちけいとく）は元吉を射殺す帝曰く圖らざりき今日乃ち此事を見んとゝと世民を召して之を撫す世民跪き帝の乳を吮ふて號慟すること之を久くす遂に世民を立てゝ太子と爲し軍事國事とも悉く太子の世民に委任して處置し斷決せしむ然して後に天子に上聞奏上す初め東宮の官屬即ち太子建成の洗馬たりし魏徵なるもの度々建成に勸めて世民を除き去らんとす是に及びて世民が魏徵を召し詰問するに兄弟間を離なすを以てす徵は其擧止自若平氣にして世民に抗對して曰く先太子早く徵が言に從はゞ必らず今日の禍なからんとて屈せざりしかば世民は之れを禮したり王珪といへるものも亦た嘗て建成が爲めに謀りしことあり皆な以て諫議大夫の役としたり帝は自ら稱して太上皇帝と爲り詔して位を太子の世民に傳へたり是れを太宗文武皇帝と爲す）

〔太宗文武皇帝〕名世民。幼日有書生見之曰。龍鳳之姿。天日之表。其年幾冠。必能濟世安民。書生去。高祖使人追之。不見。乃採其語爲名。年十八擧義兵。李密降唐。初見高祖。色倘傲。及見秦王。不敢仰視。退而歎曰。眞英主也。高祖以秦王功高。特置天策上將。位在王公上。以秦王爲之。開府置屬。開館以延文學之士。杜如晦。房玄齡。虞世南。褚亮。姚志廉。李玄道。蔡允恭。薛元敬。顏相時。蘇勗。于志寧。蘇世長。薛收。李守素。陸德明。孔穎達。蓋文達。許敬宗。爲文學館學士。分爲三番。更日直宿。王暇日輒至館中。

賈胡（胡國の商人のこと）

受賕（非道のまいなひを賕といふ即ち賄なり）

抵法（法律にかゝり罪におちゐるを云ふ）

大寶箴（聖人の位を太寶といふ即ち天子を云ふなり其本は易に出づ箴はいましめのことばなり）

九重（九門なり天子の居に關門遠郊門近郊門城門皐門庫門雉門應門路門の九つあり）

彼昏不知（昏迷にして物事の道理を知らず夏の桀王殷の紂王の如きをいふ詩の小雅に彼昏くして知らず一たび醉ふて云々とあるに基つく）

瑤其臺而瓊其室（瑤も瓊も共に玉なり瑤は瑪瑙の如きを云ひ瓊は赤色のものなり殷の紂王瑤臺を作り瓊室玉門をつくるの類なり）

八珍（周禮の膳夫に珍は八物を用ゆ淳熬（しゆんがう）淳母（しゆんぼ）炮（はう）擣珍（とうちん）漬）

討論文籍。或至夜分。使閻立本圖像。褚亮爲贊。號十八學士。士大夫得預其選者。時人謂之登瀛洲。時府僚多補外。如晦亦出。玄齡曰。餘人不足惜。如晦王佐才。大王欲經營四方。非如晦不可。王卽奏留之。使參謀帷幄。剖決如流。玄齡每入奏事。高祖曰。玄齡爲吾兒謀事。雖隔千里。如對面語。

講義　太宗文武皇帝は名を世民と曰ふ高祖の二子なり幼少なりし時に一人の書生あり帝を見て曰く此の兒は龍や鳳凰の姿にて天子となるべき風自然に顯われ天日の表即ち人相なり其の年が冠するに幾（ちかし）くして必ず能く世を濟ひ民を安んぜんと云ふて書生は立ち去りたり高祖人をして之れを追ひかけしめしに其の書生は早や影も見へさりしかば乃ち其の書生のいひし語を採り名と爲して世民と曰へり年が十八にして雜兵を擧ぐ李密が唐に降服し初めて高祖に見へし時は顏色が倨り傲り高ぶりしに秦王の世民を見るに及びて敢て頭を仰ぎ視ること能はず其座を退きて歎賞して曰く世民こそは眞の英雄なる主なりと感服したり高祖は秦王世民が功大なるを以て特に天策上將を置き位王公の上にあり秦王世民を以て之をなし天策府を開き長史司馬各一人從事中郎二人軍諮祭酒二人典籤四人主簿二人錄事二人記室參軍事二人六曹參軍各二人參軍事六人の官屬を置く世民乃ち館を開き以て文學の士を招き延く杜如晦（とじよかい）房玄齡（ばうげんれい）虞世南（ぐせいなん）褚亮（ちよりよう）姚思廉（ようしれん）李玄道（りげんだう）蔡允恭（さいげんきよう）薛元敬（せつげんけい）顏相時（がんしようじ）于志寧（うしねい）蘇世長（そせいちやう）李守素（りしゆそ）陸德明（りくとくめい）孔穎達（くゑいだつ）蓋文達（こうぶんたつ）許敬宗（きよけいそう）の十八人を文學館の學士と爲し分ちて三番と爲し六人つゝを一番とし日を更へて宿直せしむ王も閒暇の日には輙ち學舘の中に至り文籍典物を討議論難し或は夜分に爲る閻立本（えんりうほん）といへる畫工をして其肖像を圖せしめ褚亮が其の贊を爲る此れを十八學士と號す士大夫の其の人選に預ることを得しものは時の人之れを登瀛洲（とうゑいしう）と謂ひて羨めり其意は相傳ふ海中に三神山あり人至るあたはず至れば則ち仙となると瀛州は其一なり其選にあづかるの榮幸を言ふなり秦王の府中の僚吏は多く外部の役に補せられ杜如晦も亦た外に出でしに房玄齡の曰く外の人は惜むに足らざれども如晦は王を佐くるの才あり大王四方を經營して治めんと欲せば如晦に非ざれば不可なりと秦王は即ち奏上して之れを留め帷幄の中に居て秦王の參謀たらしむるに物事の剖判決斷は水の流るゝが如し玄齡が秦朝に入て事を奏する毎に高祖曰く玄齡は吾が兒の世民の爲めに事を謀ること千里の遠を隔てたりと雖も面に對してまのあたりにて語るが如しと稱せらる

秦王功蓋天下。身幾危。賴玄齡如晦決策。至是卽位。首放宮女三千餘人。

講義　秦王の力は天下を蓋ふ程にて身も殆んど殺されんとする位の危きに至りたれども玄齡と如晦とに賴りて計策を決斷し是に至りて位に即く第一に宮女三千人を放つ

○突厥頡利突利二可汗。合十餘萬騎入寇。進至渭水便橋之北。上自與房玄齡等六騎。徑詣渭水上。與頡利隔水語。責以負約。突厥大驚。皆下馬羅拜。俄而諸軍繼至。旗甲蔽野。頡利懼請盟而退。○置弘文館。聚四部二十餘萬卷。選天下文學之士。虞世南等。以本官兼學士。聽朝之隙。引入內殿。講論前言往行。商權政事。或夜分乃罷。取三品以上子孫。充弘文館學士。

講義　突厥の頡（きつ）利突利の二可汗は十餘萬人の騎兵を合はせ入りて寇す進みて渭水の便橋の北に至れり上は自ら房玄齡等の六人の騎長武者と徑（たゞち）に渭水の上（ほとり）に詣りて頡利と渭水を隔てながら語りて責め問ふに武德六年帝の秦王たるとき豳（ひん）州に盟約せし其約束に負くといふを以てせしかば突厥は之れを聞て大に驚き皆馬より下りて一列に羅（音ら、ならぶ）び拜したり俄にして諸軍が繼きて至りその旗や甲冑のおびたゞしきことが野を蔽ふばかりなりしかば頡利は懼れて盟約を請ひて退きたり初め蕭瑀が上の敵を輕んずるを以て馬を叩きて諫めたり上の曰く吾之を籌（はかる）こと已に熟せり突厥が敢て國を傾むけて來り郊甸にいたる所以のものは我が國內に難あり我が新に位に卽くを以て我れ之を扞禦する能はずと謂（おもふ）が故なり我もし之に示すに弱きを以てせば虜は必ず兵を放て大に掠め復た制すべからず故に朕は獨り出で之を輕ずるが若きを示し又軍容を震耀す之に必戰を示す虜すでに深く入る必ず懼るゝ心あり故に與に戰はゞ則ち克ち與に和すれば則ち固し突厥を制服する此の一擧にありと○弘文館を置き四部の書二十餘萬卷を聚め大ひに天下の文學士を選び擧けたり虞世南等は本官を以て學士を兼務す上は朝廷の政事を聽く隙に內殿へ引き入れて前言即ち前人の言ひしことや往行即ち過ぎ往きたる行事を講議論し政事を商（はか）り權（くらぶ）べて時によりては或は夜分まで掛りて乃ち罷み三品以上の人の子孫を取りて弘文館の學士に充てたり

○有上書請去佞臣者曰。願陽怒以試之。執理不屈者直臣也。畏威順旨

（し）爲熬（あがう）糅肝（さんかん）糌（れう）を云ふ
惟狂罔念　夏桀殷紂をいふ
丘其糟　酒かすをつみて堤をつくる
池其酒　酒をたゝへて池につくる
沒沒　水に沒するが如く暗きを云ふ一本に汶汶につくる從ふべし
察察　明察なり
冕旒　冕は冠なり旒は冠の前後にたるゝ玉なり漢の制度に云く冕の長さは一尺

者佞臣也。上曰。吾自爲詐。何以責臣下之直乎。朕方以至誠治天下。或請重法禁盜。上曰。當去奢省費。輕徭薄賦。選用廉吏。使民衣食有餘。自不爲盜。安用重法邪。自是數年之後。路不拾遺。商旅野宿焉。上嘗曰。君依於國。國依於民。刻民以奉君。猶割肉以充腹。腹飽而身斃。君富而國亡矣。又嘗謂侍臣曰。聞西域賈胡。得美珠。剖身而藏之。有諸。曰有之。曰吏受賕抵法。與帝王狗奢欲而亡國者。何以異此胡之可笑邪。魏徵曰。昔魯哀公謂孔子曰。人有好忘者。徙宅而忘其妻。孔子曰。又有甚者。桀紂乃忘其身。亦猶是也。

講義上奢して姦佞なる臣を去らんと請ふものあり曰く願くは上ハ陽（いつはる）り怒りて以て群臣を試みんに上の怒を恐れずして理を執りて屈服せざるものは正直なり又上の威を畏れて上の旨のまゝに順ふものハ姦佞なる臣なりと上の曰く吾れ自ら詐を爲さば何を以てか臣下の正直なるを責め導かんや朕は方さに至極の誠なる道を以て天下を治めんと思へは詐りて以て人を試むることは能ハずと又或人が法律を重くし盜賊を禁止せんと請ふに上の曰く奢を去りて入らざる費用を省き徭役を輕くし賦税を薄くし清廉潔白なる吏人を選び用ゐ民をして其衣食のもとに十分に餘りあらしめしなれは自然と盜を爲さず安んぞ嚴き法律のみを用ゐんやと是れより四五年の後は道を通る人が遺（おちすたる）てあるものも拾ひ取らさるほどに民皆な正直になりゆき旅行する商人等の野中に宿することありても盜賊が徘徊せされは品物を盜まるること無きに至れり上嘗て曰く君は國に依賴し國は民に依賴するものなり故に民を殘刻に取り扱ひて以て君に奉せば猶ほ肉を割きて以て腹に充てるが如くたとへ其腹ハ飽くとも身は斃れて死せんこれも一つ道理にして民の物を取るときハ君は富むとも國は亡びんと又た嘗て左右に侍坐せる臣に謂て曰く西域の賈胡即ち胡國の商人は美なる珠を得れば吾が身を剖（さく）きて之れを藏むといふことを聞けるが果して此の事ありや否やと問ひしに對へて曰く之れ有りと上の曰く役人が賕（きう、まいない）を受けて罪法に抵ると帝王が奢侈や多欲に狗ふて國を亡ぼすものとは何を以てか此の胡商の笑ふべきに異ならんやと魏徵の曰く昔し魯の哀公が孔子に謂て曰く人に好く物を

六寸廣さは八寸あり前の方は圓にして後の方は方形なり其旒は皆な五采の絲繩を以て五采の玉を貫ぬく旒毎に各々十二あり冕の前後に垂る
黈纊　黈は黃色なり纊は綿なり黃色の綿を以て圓と爲し紐を用て之れを冕に垂る兩耳の旁に當りて外聽せざるを示すなり
五花判事　五花とは綾紙（りようし）五張綾の類をいふ中書舍人の判は必ず此の綾紙に書す故

忘るゝものあり其家宅を徙して而して其の妻を忘るといひしに孔子の曰く又た甚だしきものあり桀紂は乃ち其身を忘れたりといひし事あるが胡賈も亦た猶ほ是の如きなりと○張蘊古獻大寶箴。有曰。以一人治天下。不以天下奉一人。又曰。壯九重於內。所居不過容膝。彼昏不知。瑤其臺而瓊其室。羅八珍於前。所食不過適口。惟狂罔念。丘其糟而池其酒。又曰。勿沒沒而闇。勿察察而明。雖冕旒蔽目。而視於無形。雖黈纊塞耳。而聽於無聲。上嘉其言。

講義張蘊（うん）古といふもの大寶の箴といへる書を獻上せり其の文に云へることあり天子は一人を以て天下を治む天下中を以て一人を奉養するにあらずと又た曰く天子は九重の門を內に壯大にするとも自分の居る所は膝を容れるに過ぎずして其の外はいらぬものなり彼の昏迷頑愚にして何にも知らざる天子ハ其の臺（うてな）を瑤（よう、たま）にて飾り其の宮室を瓊（音瓊に同じ赤色の玉）にてかされり又た八種の珍味（八珍の解は上に詳なり）を前に列しても其食する所のものは口に適ふだけのことなり而して惟だ狂暴にして物の道理を思ふこと罔（なし）きものは酒の糟を丘山の如くに積みて而して其の酒を池の如くす又た曰く沒々として物を知らずして闇（くらく）きこと勿れ察々として物を明らかに知り過きること勿れ冕と云ふ冠の旒（音りう）が目を蔽ふと雖とも形無きに觀て目に見ずとも心に考へよ黈纊（音とうくわう、黈ハ黃色なり纊は綿なり冠の左右に垂るゝものが耳を塞ぐと雖とも聲なきに聽けよと此意は天子たるものは餘り下の情を知らざるもわるく餘り知り過ぎたるもわるしとなり上は其の言を嘉みして納れたり○分天下爲十道。因山川形便。曰關內。河南。河東。河北。山南。隴右。淮南。江南。劍南。嶺南。○遣將討梁師都。其下殺之以降。以其地爲夏州。

講義帝は民のそく吏の多きを以て大に併省を加へ天下を分ちて十道と爲す山や川の自然の形勢便宜に因れり其十道とは曰く關內（今の陝西河南）河東（今の山西）河北（今の直隷）山南（今の湖南北）隴右（長城以西北）淮南（今の江蘇安徽）江南（今の江西）劍南（今の四川雲南）嶺南（今の廣東西）なり○大將（即ち右衞大將軍柴紹）を遣はして梁師都を討す其の下（梁仁）と云ふものが之れを殺して以て降れり其地を以て夏州と爲す今の朔方是なり梁師都は隋の恭帝義寧元年に僭號してより是に至りて十二年にして亡ぶ○太常祖孝孫。奏唐雅樂。**講義**太常役の祖孝孫なるもの唐の正雅なる音樂を

に此の稱呼なり

中書門下

唐の制に中書省は詔令を出たし門下省は之を審較す詔令或ハ差失あれば則ち門下塗竄して而して奏還し之を塗歸といふ新唐書の百官志に中書省の中書令は二人正二品天子を佐け大政を執るを掌る而して總て省の事を判す中書侍郎二人正三品令の職に貳ふてとを掌る朝廷の大政參議す中書舍人六人正五品の上進奏に侍り來章を參議するを掌る凡そ詔旨

（奏上す初め上皇孝孫に命して雅樂を定めしむ孝孫以爲らく梁陳之音ハ呉楚に多しと是に於て古聲を考へ唐の雅樂を作る凡そ八十四調三十一曲十二和なり是に至りて之を奏す）

又出宮女三千餘人。○故事軍國大事。中書舍人各執所見。雜署其名。謂之五花判事。中書侍郎。中書令。省審之。給事中。黃門侍郎。駮正之。上謂王珪曰。國家本置中書門下以相檢察。卿曹勿雷同也。時王珪爲侍中。房玄齡杜如晦爲僕射。魏徵守秘書監。參預朝政。玄齡謀事。必曰。非如晦不能決。及如晦至。卒用玄齡策。蓋玄齡善謀。如晦善斷。二人同心徇國。故唐世稱賢相。推房杜焉。徵嘗告上曰。願使臣爲良臣。勿使臣爲忠臣。上曰。忠良異乎。徵曰。稷契皐陶。君臣協心。俱享尊榮。所謂良臣。龍逢比干。面折廷爭。身誅國亡。所謂忠臣。上悅。**講義**貞觀二年に天雨ふること少なかりければ李百藥なるもの上言すらく宮人無用のもの尚多く陰氣鬱積すれは亦旱を致すに足ると上命して又々宮女三千餘人を放ち出したり○故事先例に軍國の大事は中書舍人が各々自分の見る所を執りて其名を雜へ署して之に進名進署す之れを五花判事といふ是れは中書舍人が評議して各々其所見をとつて其判詞を錄し而して其名を雜署するなり唐の制に朝廷より郡縣に至るまで凡事皆な詞あり之を判といふ中書侍郎と中書令とが之れを省審とて更に其可否をかへりみつまひらかにす給事中と黃門侍郎とが之を辨駁し改正するの法則なり上は王珪に謂て曰く國家に本と中書と門下との二省を置き以て相ひ互に檢察しともぎんみするやうにしたり卿が曹(汝等と云ふが如し曹とはともからなり)は雷同すること勿れと雷同とは同發相應するを云ふ時に王珪は侍中の官たり房玄齡と杜如晦とは僕射(ぼくや)の官たり魏徵ハ秘書監に守となり朝廷の政事に參(ましはる)り預かる玄齡が事を謀る時には必ず曰く如晦に非ずんは決斷すること能はずと如晦が至るに及んで卒に玄齡が策を用ふ蓋し玄齡は善く事を謀り如晦ハ善く事を決斷し二人が心を同一にして國に徇ふ古に唐の世に賢相たる人のことを稱するには必ず先つ房玄齡と杜如晦との二人を推し尊ぶ魏徵嘗て上に告げて曰く

制敕詔册命皆草を起す門下省の侍中二人正二品凡そ國家の務め中書令と參總して而して總て省の事を判す黃門侍郎二人正三品侍中の職に貳ふを掌る給事中四人正五品の上省右に侍して左の事を分判するを駁る

卿曹勿雷同

そなたのなかまたちは事の可否を辨せず衆議に從ふなどいふこと

秘書監

監は秘奥を掌とり巾籍を明らかにする官なり

願くは臣をして良き臣と爲らしめよ臣をして忠義なる臣と爲らしむること勿れと上の曰く忠臣と良臣とは異なるかと徵が曰く稷契(しよくせつ)皐(かう)の三人の如きは君と臣と共に心を協はせて俱に尊く榮ふることを享く是れか謂はゆる良臣なり龍逢(りようはう)や比干ハ天子を面のあたりに折しき朝廷にて爭ひ自分の身は誅せられ國も亦た亡ぶ謂ゆる忠臣なりと對へしに上は大に悅びたり○初突厥既强。敕勒諸部分散。有薛延陀回紇等十五部。皆居磧北。頡利政亂。薛延陀回紇等叛之。加以民大飢。羊馬多死。奉使者還。及邊帥。皆言突厥可取之狀。詔以李靖爲定襄道行軍總管。統諸軍討之。靖襲破突厥於陰山。頡利可汗遁走。唐將擒之以獻。時突利可汗先已入朝。上處突厥降衆。東自幽州。西至靈州。分突利地。爲四川。分頡利地爲六州。左置定襄都督。右置雲中都督。以統其衆。以突利爲順州都督。頡利爲右衛大將軍。**講義**初め突厥が既に強しと敕勒の諸部落が分れ散せり薛延陀(せつえんだ)回紇(こつ)等十五部薛延陀、回紇、都播、骨利幹、多濫葛、同羅、僕固、拔野古、思結、渾、斛薛、奚結、阿跌、契苾、白霫ありて皆な沙磧(させき)の北の方に居れり時に頡利が政事乱れしかば薛延陀、回紇等は之に叛きそれに加ふるに民が大に飢へ羊や馬が多く死するを以てせり突厥へ使せし者が還り及び邊鄙の將師ともが皆な突厥ハ取り得べきの狀(樣子)を言へり詔して李靖を以て定襄道の行軍總管と爲す諸軍を統べて之れを討せしむ靖は突厥を陰山(開平の北に在り東西千餘里茂木茂盛し禽獸多し匈奴其中に依阻す漢武匈奴に克つ陰山縣を置く東漢省して五原に入る唐の天寶元年陰山縣を復せり)に於て不意に擊ち破る頡利可汗は逃れ走る唐の將之れを擒にして以て獻上す是の時に突利可汗は先きに已に入朝す上は突厥が降參の衆を處き東の方幽州より西の方靈州に至る突利が地を分つて四州と爲し頡利が土地を分つて六州と爲す左には定襄都督を置き右には雲中都督を置きて以て其部衆を統べ治む突利を以て順州の都督とし頡利を右衛大將軍と爲したり○林邑遣使入貢。○伊吾來降。置伊西州。**講義**林邑が使者を遣はして入りて貢せり○伊吾が來り降る故に伊西といふ州を置きたり高昌王麴文泰入朝。**講義**高昌王の麴文

面折 君の面前に其の非をいひくぢく

廷爭 朝廷に爭論し正を守り屈せぬなり

饑者易爲食渴者易爲飲 饑渴のときは飲食の善惡を擇ばざるものなりとす治め易きことゝの譬なり孟子より出つ

未嘗嗟怨 民飢餓に苦めどもその怨惡に感じて少しも飢餓をうらみず

外戸不閉

泰（きくぶんたい）が入朝したり○先是。四夷君長詣闕。請帝爲天可汗。上曰。我爲大唐天子。又下行可汗事乎。群臣及四夷皆稱萬歲。自是後璽書賜西北君長。皆稱天可汗。○貞觀四年。蔡公如晦卒。上語及必流涕。**講義** 是より先きに四方の夷狄の君長等が闕門に詣り帝を請ふて天可汗と爲さんとせしに帝の曰く我れは大唐の天子たり又た下も可汗の事を行はんやと群臣及び四夷のものが皆な萬歳と稱したり是より後璽書（天子の印判を押したる書）を以て西北の君長に賜ふには皆天可汗と稱したり○貞觀四年に蔡公の如晦が卒したり上は談が如晦の事に及べハ必ず涕を流がしたり初め如晦疾ひ篤し上太子を遣り疾を問はしむ又自ら臨んで之を哭る卒するに及で上語及べば必す流涕す房玄齡に謂て曰ふ公と如晦と同じく朕を佐く今獨り公を見る如晦を見ずと○是歲大有秊。上之初即位也。常與群臣語及教化。曰。大亂之後。其難治乎。魏徵對曰。饑者易爲食。渴者易爲飲。封德彝曰。三代以還。人漸澆訛。故秦任法律。漢雜霸道。蓋欲化不能。豈能之而不欲耶。徵曰。五帝三王。不易民而化。湯武皆乘大亂之後。身致太平。行帝道而帝。行王道而王。顧所行何如耳。上卒從徵言。元年關中饑。斗米直絹一匹。二年天下蝗。三年大水。上勤而撫之。未嘗嗟怨。至是天下大稔。米斗三四錢。終歲斷死刑纔十九人。東至于海。南及五嶺。皆外戸不閉。行旅不齎糧。取給於道路焉。上曰。魏徵勸我行仁義。今既效矣。惜不令封德彝見之。蓋德彝元年六月死矣**講義** 是の歳は大に秊（とし

盜賊家を窺はずが故に外の戸は閉ぢざるなり

奏七德 太常蕭瑀上言す七德舞聖功を形容し未だ盡さゞる所あり請ふ劉武周薛仁杲竇建德王世充等擒虜の狀を寫さん上曰く彼皆一時の英雄今朝廷の臣往々嘗て北面して之に事ふ若し其故主屈辱の狀を覩ば能く心を傷めざらん乎瑀謝して曰く此臣愚慮及ぶ所に非ず

偃武 兵事をやめるを

修文 禮樂をおこす

）わり豐年なり上の初めて位に即くや嘗て群臣と語りて教化のことに及ぶ上の曰く朕は大亂の後を承けて民の未だ化し易からざるを恐る大亂の後はそれ治め難きものかと魏徵對て曰ふ然らず久安の民は驕佚なり驕佚なれば則ち教へかたし乱を經るの民は愁苦なり愁苦なれは則ち化し易し譬へば飢へたりしものは食をなしやすく渴したりしものは飲をなしやすきかごときなりと封德彝か曰く夏殷周三代より以還人漸く澆訛（けうくわうすきなり訛はいつはるなり）なるが故に秦ハ法律に任し漢は霸道を雜ゆ蓋し化せんと欲すれともしかれとも化する能はず豈に化することを能すれともしかも化することを欲せざらんや魏徵ハ書生にして未た時務を識らす其虛論を信して必ず國家を敗ると徵か曰く五帝三王は民を易へずして而して能く化す湯武は皆大乱の後に乘して其身太平を致せり帝道を行ふて而して帝たり王道を行ふて而して王たり唯た其人の行ふ所如何と顧みるのみと上卒に徵か言に從へり元年に關中が飢ゆ米麥の價ひ頗に騰貴して一斗の米が絹一匹（四丈を匹となす）の價に直（あたる）れり二年に天下蝗蟲がわきて稻を害し三年に大洪水がありたれとも上の勤め糈を出して之を撫で安んし故に未だ嘗て嗟歎し怨まざりしが是年に至り天下が大に稔（みのる）りて米一斗ハ三四錢と爲り（唐の一斗は今の三升ばかり）一歲を終ふるまで死罪を決斷すること僅かに十九人なり東の方は海に至り南の方は五嶺（廣東にあり）に及ぶまで皆な外の戸を閉ぢざれとも盜賊の患無く道を行く旅人は糧食を齎（もたらす）し辨當を所持せずして給（まかなひ）を道筋で取るほとの太平に至れり上の曰く貞觀の初め議者皆云ふ宜しく威武を震耀し四夷を征討すべしと惟た魏徵は朕に勸めて武を偃せ文を修め仁義の道を行はしむ終るに今既に効わりて中國は既に安く四夷自然と服從せり是皆徵の力なり惜むらくハ封德彝をして之れを見せしめざることをと蓋し德彝は元年六月に死したり

○五年。林邑新羅入貢。**講義** 五年に林邑と新羅（朝鮮をいふ）が入りて貢せり林邑は五色の鸚鵡を獻し新羅は美女三人を獻ず魏徵おもへらく宜しく卻くべからずと上許ふ各々使に付して之を歸す○黨項內附。開其地爲十六州。**講義** 西羌の別種の黨項が內附したり其の地を開拓して十六州と爲したり○七年春。宴玄武門。奏七德九功舞。徵欲上偃武修文。每侍宴。見七德舞。輒俛首不視。七德舞者。秦王破陣曲也。見九功舞。則諦觀之。王珪罷。徵爲侍中。**講義** 七年の春に玄武門に酒宴す七德と九功との舞を奏せり徵は上が武道は偃せ止め文道を修めおさんことを欲す酒宴に侍することに七德の舞を見ては輒ち首を俛（ふす）したれて視ず七德の舞とは秦王が敵陣を破りし曲なり九功の舞を觀ては則ち之を諦（音てい、つまびらかに）に觀たり七德の舞とは通鑑の註に太宗が秦王たりし時に劉武周を破りて軍中相ひ與に秦王破陣樂の曲を作る位に即くに及んで宴會には必ずこれを奏す百二十八人を以て銀甲を被せ戟を執りて舞ふ凡そ三變ごとに四陣を爲り驟刺往來に象どる後ちあらためて七德の舞と名つく七德は

諦觀　しかと見物すること

胡越　胡は頡利をいひ越は智戴をいふ戴は南蠻の酋長なり

抵璧投珠　抵はなげうちなり聖人は金玉を寶とせずして善を寶とす故に然て、邪欲を塞ぐ

俟我　俟は待と通す待過するの意にして見なしあしらふと云ふ意なり

諸衞　左右の羽林左右の龍武左右の神武

折衝果毅

（盡し暴を禁じ兵を治め大を保ち功を定め民を安んじ衆を和し財を豐にするの義に取るなり九功の舞とは通鑑の註に唐の功成慶善樂見童六十四人を以て進德冠を冠し紫袴褶（してしよう）長袖漆髻（しつけい）屣履（しり）して舞ふ後ち更めて九功の舞と號す九功は盡し書の九功惟叙の義に取るなり）○上親錄囚徒。見應死者閔之。縱使歸家期以來秋就死。仍敕天下死囚皆縱遣。至期來詣京師。至是皆如期自詣朝堂。上皆赦之。凡三百九十人。○上奉太上皇置酒未央宮。上皇命頡利可汗起舞。馮智戴詠詩。笑曰。胡越一家。古未有也。講義（上ハ親から囚徒を記錄し死罪に應し行ふべきものを見てハ之れを閔（あはれむ）み縱（ゆるす）して家に歸らしめ期し約束するに來年の秋を以て來りて死罪に就かしむ仍て天下の死罪に行ふべき囚人に敕して皆な縱るし遣る日限に至れば京師に來り詣れと言ひ付け置きしに是に至り皆な約束の如く自ら朝廷の堂に詣る上ハ皆な之を赦す其の囚徒が凡そ三百九十人ありたり○上は太上皇を以て奉して未央宮（びおうきう）に酒を置きて宴す上皇頡利可汗に命じて起つて舞はしむ馮智戴（ひようちたい）が詩を詠ず笑ふて曰く胡と越とが一家の如く親しくなるは古より未だ有ずと）○八年。吐蕃遣使入貢。講義（八年に吐蕃（とつばん）の國が使者を遣はし入貢せり吐蕃は西羌の別種なり）○九年。太上皇崩。上皇即位九年而禪位。至是又九年。○吐谷渾。先是入寇涼州。以李靖帥諸軍討破之。講義（九年に太上皇が崩御す上皇は位に即きて九年にして位を禪り是に至て又九年なり○吐谷渾なるものが是より先き涼州に入りて寇せり李靖を以て諸軍を帥て討しめ之を破れり）○十年。吐谷渾遣子入侍。○治書侍御史權萬紀言。宣饒銀大發。采之歲可得數百萬。上曰。卿未嘗進一賢才。而專言銀利。昔堯舜抵璧於山。投珠於谷。漢之桓靈。乃聚錢爲私藏。卿欲以桓靈俟我耶。黜之。講義（十年に吐谷渾が已れの子を遣はして入て侍坐せしむ○治書侍御史の官にある權萬紀なるものが言ふに宣州饒（せう）州の地に礦山

通鑑に曰く統軍を更命して折衝都尉と爲し別將を果毅都尉と爲すと

與直　官より價直を與へて自ら馬を買しむ

給番　土地の遠近に隨て以て番上の制を定むるなり

不克終　結局のよろしからぬこと

屯衞飛騎　左右の親軍僕官なり全書の註に曰く唐の姜行本屯衞將軍と爲り分ちて飛騎を典どれり

を發見し銀が大に發せり之を取らば歲々に數百萬の銀を得ることができると上の曰く朕は貴きこと天子たり乏しき所のものは財にあらず只嘉言の以て民を利すべきなきを恨るのみ其數百萬緡を得るは一の賢才を得るに如かす卿は未だ嘗て一人の賢才あるものを進めずして而して專ら銀を取ることの利益を言ふは何故なるや昔し堯帝舜帝は璧を山に抵（なげうつ）ち珠玉を谷に投げ棄て後漢の桓帝ハ百官の俸を減じて爵を賣り靈帝は西邸を開て官を賣り乃ち錢を聚めて私の藏物と爲せり今卿は亦桓靈二帝の仕方を以て我れを俟たんと欲するかとて之れを黜けたり）○定府兵。凡十道。置府六百三十四。而關內二百六十一。皆隸諸衞及東宮六率。上府兵凡千二百人。中府千人。下府八百人。三百人爲團。團有校尉。五十人爲隊。隊有正。十人爲火。火有長。每人兵甲糧裝各有數。輸之庫。征行給之。二十爲兵。六十而免。能騎射者爲越騎。其餘爲步兵。更命統軍別將。爲折衝果毅都尉。每歲季。各折衝都尉。帥以教戰。當給馬者官與直。當宿衞者番上。兵部以遠近給番。遠疏近數。皆一月而更。講義（府の兵を定む凡そ十道府を置く六百三十四關內には二百六十一皆諸衞及び東宮の六率に隷す上府の兵は凡そ千二百人中府は千人下府は八百人三百人を團となし團に校尉あり五十人を隊となし隊に正あり十人を火となし火に長あり人每に兵器甲冑糧食衣裝が各數あり之を府庫に輸（いたす）し征行即ちいくさのあるときには之れを給す年二十にして兵となる六十歲にして免す能く馬に乘り弓を射る者を越騎となす其の餘は步兵とす統軍別將を更め命じて折衝果毅（せつしようくわき）都尉とす歲の季（すゑ）每に各折衝都尉が之を帥て戰を教ゆ馬を給すべき者には官より馬の代値を與ふ宿衞すべき者は交番に上直す兵部は遠近を以て番を給す遠方は疎にして少く近邊は數（しば〳〵）す皆一月にして更れり）○十三年。夏旱。詔五品以上言事。魏徵言。陛下比貞觀初。漸不克終者十條。上深獎歎。講義（十三年の夏に旱す五品以上の官吏に詔して事言はしむ魏徵が陛下ハ貞觀の初めに比較するに漸く終を克くせずして心の弛るびたること十ケ條ありと並べ立てしに上は深く之を

孔穎達　は字仲達と云ふ衡水の人なり顏師古、司馬才章、王琰と與に詔を受け五經の義訓を撰ぶ凡百餘篇義贊と號す詔して改めて正義と爲せり唐の儒林傳に詳見す

師說多門　春秋に服虔（けん）杜預の說あり書經に孔安國鄭玄の註ある如きをいふ

諸儒　顏師古、司馬才章、王琰（えん）等

興替　替は廢なり猶は興亡といふがごとし

奬歎しほめたり其十條は一に曰く使を遣はして徵求す二に曰く奢靡（しやし）にして人力を用ゆることを思ふ三に曰く欲を縱まゝにして人を勞す四に曰く小人を昵み君子を疎んず五に曰く異物を貴び無益を作す六に曰く輕がろしく賢に與へずして人を棄て易し七に曰く田獵馳騁（ちへい）八に曰く外官事を奏するに顏色接せず九に曰く傲を長じ欲を縱まゝにし事なくして兵を興す十に曰く關中の民徭役勞弊す以上皆な貞觀の初めに如かずといふなり

○十四年。上詣國子監。親釋奠。是時大徵天下名儒爲學官。數幸國子監。使之講論。學生能明一經已上者。皆得補官。增築學舍千二百間。增學生滿三千二百六十員。自屯營飛騎。亦給博士授經。有能通經者。聽得貢舉。於是四方學者。雲集京師。乃至高麗。百濟。新羅。高昌。吐蕃。諸酋長。亦遣子弟請入國學。升講筵者。至八千餘人。上以師說多門章句繁雜。命孔穎達與諸儒定五經疏。謂之正義。【講義】十四年に上は國子監に詣りて親から釋奠の禮を以て孔子を祭りたり是の時大に天下の名たかき儒者を徵して學官と爲す數々國子監に行幸し名儒をして經史を講論せしむ學生の能く一經より以上に明かなるものは皆な官に補することを得たり學舍を增し築くこと千二百間にして學生を增し三千二百六十員に滿つ屯營飛騎のものよりして亦た博士を給し經を授く能く經に通ずるものあれば貢舉せらるゝを得ることを許す是の時に於て四方の學者は京師に雲の如く集まる乃ち高麗、新羅、百濟、高昌、吐蕃の諸酋長に至るまでも亦たその子弟を遣はし請ふて國學に入る講筵即ち講義の席に升るもの八千餘人に至れり上は師說が門多くして書物の章句が繁雜なるを以て孔穎達（くえいだつ）に命じてあまたの儒者と五經の註疏を定めしむ之れを正義といふ○高昌王麴文泰。先是多遏絕西域朝貢。及拘留中國人。以侯君集爲交河大總管。將兵擊之。至是滅高昌。以其地爲西州。【講義】高昌王麴（きく）文泰（たい）が是れより先きに多く西域より朝貢するところのものを遏絕（あつせつ）とて使者を路にせきとめ通せしめず及び中國より往來する人を拘へ留めし故に侯君集を交河の大總管と爲し兵に將として之れを擊つ是に至りて高昌を滅ぼし其州の地を以て西州と爲したり

製碑　碑は碑文にして功勞ありしことがらを石に刻むをいふ製は文を作るなり

書石　釋名に曰く臣子が其君父の功を追述して以て石に書するを碑と曰ふと

李勣　通鑑に曰く李世勣に作る是に世を省くものは太宗の諱をさけてなり

怨望　通鑑に曰く侯君集が高昌を破りしとき私に其の珍寶を取て有司の爲めに劾せらる詔して君集を

○十五年。吐蕃求婚。以文成公主嫁之。○十七年。鄭公魏徵卒。上曰。以銅爲鏡。可正衣冠。以古爲鏡。可見興替。以人爲鏡。可知得失。徵沒。朕亡一鏡矣。徵葬。上自製碑書石。【講義】十五年に吐蕃が婚姻を求め來りしかば文成公主を以て之に嫁したり○十七年に鄭公の魏徵が卒したり上の曰く人が銅を以て鏡と爲せば以て衣服や冠を正ふす可く古を以て鏡と爲せば以て國の興るか替（すたる）れたるかを知る可く人を以て鏡と爲せば事の得失即ちよしあしを知る可し今や魏徵が沒したれば朕は一の鏡を亡ふたりと徵を葬る時に上は自ら碑（いしぶみ）を製して其功勞ありし事蹟を其石に刻みつけたり謚して文貞と云へり○圖畫功臣長孫無忌。趙郡王孝恭。杜如晦。魏徵。房玄齡。高士廉。尉遲敬德。李靖。蕭瑀。段志玄。劉弘基。屈突通。殷開山。柴紹。長孫順德。張亮。侯君集。張公謹。程知節。虞世南。劉政會。唐儉。李勣。秦叔寶。等於凌煙閣。【講義】同年の二月に有功の臣長孫無忌（趙公）趙郡王孝恭（太宗の再從兄弟）杜如晦（萊成公）魏徵（鄭文貞公）房玄齡（梁公）高士廉（申公）尉遲敬德（鄂公）李靖（衞公）蕭瑀（宋公）段志玄（褒忠壯公）劉弘基屈突通（蔣忠公）殷開山（鄖節公）柴紹（譙襄公）長孫順德（邳襄公）張亮（鄖公）侯君集（陳公）張公謹（夔公）程知節（盧公）虞世南（文懿公）劉政會（渝襄公）唐儉（莒公）李勣（英公）秦叔寶（胡壯公）二十四人の像を凌煙閣（れうえんかく）に圖畫したり○太子承乾不才。魏王泰多能有寵。潛有奪嫡之志。侯君集負功怨望。以承乾暗劣。欲乘釁。因勸之反。事覺。廢爲庶人。君集坐誅。泰亦以險詐不立。立晉王治爲太子。【講義】太子の承乾は不才にして音聲女色及び田獵をこのみ其爲す所奢靡なり魏王の泰即ち太宗の第二子は多能にして寵愛あり潛（ひそか）に嫡嗣を奪ひて自分に立たんの志あり節を折りて士に下だり以て名聲稱譽を求めたり侯君集は功名を負んで上を怨み望みたりしが承乾の暗く劣りたるを以て釁（ひま）に乘ぜんと欲す因りて之れに謀反を勸む事が覺はる廢して庶人即ち平人と爲す君集も亦た其事に連坐して誅し殺さる泰も亦た險惡にして詐るを以て立つことが出來ず晉王の治即ち太宗

獄に下だす後中書侍郎岑本か上疏せしを以て免ることを得たり詳に貞觀十四年に見ゆ

嘗薦 魏徵嘗て君集を薦む宰相の材有り宜しく委して諸衛の兵馬を專知すべしと

起居郎 國史院の官なり典に曰く起居郎は天子の動作法度を錄し以て修記することを掌るの史なり

覆其本根 平壤城の本城を攻め陷るる

（の第九子を立てて太子と爲せり）魏徵嘗薦君集。上始疑徵阿黨。又有言。徵自錄前後諫辭。示起居郎褚遂良。上愈不悅。徵臨終。上面指公主。欲妻其子叔玉。至是停其婚。踣所立碑。**講義**（魏徵が嘗て君集を上に薦めたり上は初めて徵が君集に黨しおもねりくみするかと疑ふ又上に言ふ者あり徵は自ら前後に諫めたる辭を記錄して起居郎の役の褚遂良（ちよすいりよう）に示せりと上ハ愈〻悅びず徵の終に臨む時に上は公主を面あたり指して徵が子の叔玉に妻さんと欲せしに是に至りて其婚姻をとゞめ立てし所の徵が石碑をたほしたり）

○十八年。上親征高麗。先是高麗泉蓋蘇文弑其君。新羅又遣使言。百濟與高麗連兵。謀絕新羅入貢之路。乞兵救援。上遂討之。先如洛陽。**講義**（十八年に上は親から高麗を征伐せり時に褚遂良が上疏して諫めて曰はく天下は譬へは猶は一身の如し兩京は心服なり州縣は四支なり四夷ハ身外の者なり高麗罪大なれは誠に當に討を致すべし但た一二の猛將に四五萬の衆を以て之れを取ること掌を反す如きのみ今太子新に立ち諸王幼穉なり一旦金湯の全きを舍て遼海の險を踰へて天下の君を以て輕行遠征するは皆臣が甚だ憂ふる所なりと上は聽かざりき是れより先に高麗の君長たる泉蓋蘇文（せんてうぞぶん）といへるもの其の君を弑す新羅が又た使を遣はし言ふに百濟ハ高麗と兵を連ねて新羅が入貢する路を絕たんと謀る故に兵を乞ふて救ひ援けしむ上は遂に之を討し先洛陽に如（ゆく）きたり）

○十九年。上發洛陽。至定州。進諸軍。上渡遼水。拔遼東城。降白巖城。攻安市城。大破其救兵於城下。安市城險兵精。堅守不下。議者欲拔烏骨城。渡鴨綠水。直取平壤。覆其本根。則餘可不戰而降。或又謂。親征異於諸將。不可乘危。上以遼左早寒。草枯水凍。士馬難久留。且糧將盡。敕班師。是行拔十城。徙戶口七萬。三大戰。斬首四萬餘級。然戰士死者幾三千人。戰

班師 班ハ師をまとめかへるなり

十城 通鑑に曰く玄菟、橫山、蓋牟、磨米、遼東、白巖、卑沙、麥谷、銀山、後黃の十城を拔きたり

十一姓 回紇、拔野古、同羅、僕骨、多濫葛、思結、阿跌、契苾、跌結、渾、斛薛等の十一姓を云ふ

混元以降 混沌元始にして天地開闢よりてのかたといふ義なり

馬死什七八。不能成功。深悔之。歎曰。魏徵若在。不使我有此行也。命馳驛祠徵。以少牢。復立所製碑。**講義**（十九年に上は洛陽を發して定州に至る諸軍を進め上は遼水（遼河なり）を渡る遼東即ち今の盛京の城を拔き取り白巖城を降服す安市城（亦朝鮮にあり）を攻め大に其救援の兵を城下に破る安市は城ハ險阻にして兵は精銳なり堅く守りて下らず議者は曰く烏骨城（うこつじやう）を拔き取り鴨綠水即ち今の鴨綠江を渡り直ちに平壤の地を取らんと欲す其根本を覆へさば則ち餘のものは戰爭せずして降服すべしと或る人が又た謂ふに天子が親征するは諸將と異なれは危險に乘ずべきのみにあらずと安城を圍むこと六十日にして猶は下だすこと能はざりしかば上ハ遼左の方は早く寒くして草も枯れ水も凍りて士卒や軍馬が久しく留め難く且つ其の上に兵糧も將さに盡きんとするを以て敕して師をかへせり是の征行に十城を拔き取り蓋州遼州岩州の戶數人數七萬を徙し三度大に戰爭して首を斬ることが四萬餘級わりたり然れども戰士の死せしもの幾んど三千人にて戰馬の死することを十匹の內で七八匹もありてとても功業を成す能はじと深く之れを後悔し歎息して曰ふに魏徵が若し生きて在りたらんには我れをして此度の軍行は有らしめじと命じて驛（宿つぎ）の使を馳せて魏徵を祠るに少牢（羊と豕とを供ふるなり）を以てし復た製したる所の石碑を立て其妻子を召して上の行在所に至らしめ之を勞して厚く賜ふたり）

○二十年。上如靈州。遣李世勣擊薛延陀。破降之。招諭敕勒諸部。回紇等十一姓。各遣使歸命。乞置官司。詔曰。朕聊命偏師。遂擒頡利。始弘廟略。已滅延陀。鐵勒百餘萬戶。請爲州郡。混元以降。殊未前聞。宜備禮告廟。仍頒示天下。上爲詩曰。雪恥酬百王。除兇報千古。刻石於靈州。**講義**（二十年に上は靈州に如けり李世勣をして薛延陀（せつえんだ）を擊たしむ破りて之を降服せしめ敕勒（ちよくろく）の諸部の衆を招き諭す回紇等の十一姓のもの各〻使者を遣ハして朝廷の命に歸し從へり官司を唐より置かんことをこふたり詔して曰く朕は聊か偏師に命令して頡利を逐ひ擒にす始めて廟略を弘めたり略とは古へ將を遣るに必ず廟堂の上に於て先つ制勝の策を定たむ之を廟策といひ又之を廟略といふ已に延陀を滅ぼし西夷の一種なる鐵勒百餘萬が請ふて州郡と爲るは混沌たる太古より以降今に至るまで未た前古より之を聞かず宜しく典禮を備へて太廟に告ぐべしと仍りて天下に頒ちて此ことを示したり上は詩を作りて曰く恥辱を雪めて百王に酬ひ兇惡の夷狄を除きて千古に報ゆと耻をそゝぐとは周の大王ハ狄人に土地を奪はれ漢の高祖は匈奴に圍まる如きをいひ

報千古　背し大王に岐山に遷り給ふ帝は平城に圍まる皆な夷狄の耻なり今既に皆な得て之を臣とす倘ほ前王に申報するがごとし

徘徊顧望（ハイクワイコバウ）　徘徊は猶ほ彷徨のごとしいふは疊州に赴くを怒り進みかぬるなり

輻湊　車の矢集まるごとく舟の湊にあつまるが如きを云ふ

創業　業を創めるといふことにて國をひらき家をおこすを云ふ

守成　成るを守るといふことにて國家をもりたてるを云ふ

草昧（サウマイ）　易に曰く天造草昧と物のハじまりをいふ

帝範　君體篇、建親篇、求賢篇、審官篇、納諫篇、去讒篇、誡盈篇、崇儉篇、賞罰篇、務農篇、閱武篇、崇文篇

李勣（リセキ）　李世勣のこと此後ち世の字を去るものハ太宗世民の諱を避くるなり

才人昭儀

百王に酬ゆとハ周漢以後の帝王にむくふと云の意なり此詩を石に刻みて靈州に立てたり○二十二年。司空梁公房玄齡卒。上悲不自勝。玄齡佐上定天下。及終相位三十二年。號爲賢相。然無迹可尋。上定禍亂。而房杜不言功。王魏善諫諍。而房杜讓其賢。英衞善將兵。而房杜行其道。理致太平。善歸人主。爲唐宗臣。

講義　二十二年に司空の梁公房玄齡が卒せり上ハ悲みて自ら勝へざりし房玄齡は上を佐けて天下を定めたり宰相の位を終ふるに及ぶまで三十二年の間なり號して賢相と爲し然れども功迹のこれだと云ふて尋ぬべきことなし上ハ禍亂を定めたれども房玄齡杜如晦は少しも自分の功をいはず王珪、魏徵は善く上を諫諍す而して房と杜との二人は王と魏との賢に讓る公李勣、衞公李靖は善く兵に將たり而して房と杜の二人は英衞二人の兵道を行ふ理（おさむ）め方は太平を致し善は人主に歸す唐の宗（おほもと）と謂ふべきなり諡して文昭と云へり○二十三年。上有疾。謂太子曰。李世勣才知有餘。然汝與之無恩。我今黜之。我死。用爲僕射親任之。若徘徊顧望。則當殺之耳。乃左遷疊州都督。受詔不至家而去。

講義　二十三年に上は疾氣あり天子に謂て曰く李世勣は才氣智識餘り有り然れども汝は之れと恩誼あるなし恐らくハ懷服する能はざらん故に我れ之れを黜けん我れ死なば用ゐて僕射の官となして之を親み任せよ若し勣が徘徊顧望してうろうろと進みもせず後を顧み前を望み疑惑を懷き猶豫したれば必らず叛心あるに相違なければ之を殺すべきのみと乃ち疊州の都督に左遷せり（左遷の解は前に出づ）李世勣は詔を受けて家に歸らずして去りたり○上崩。在位二十四年。改元者一。曰貞觀。

講義　上が崩御す位に在すこと二十四年にして改元せしこと一つ貞觀と曰ふ

上雖以武功定禍亂。終以文德綏海內。常自以驕侈爲懼。嘗曰。人主惟一心。攻之者衆。或以勇力。或以辯口。或以諂諛。或以姦詐。或以嗜欲。輻湊各求自售。人主少懈而受其一。則危亡隨之。此其所以難也。嘗問侍臣。創業守成孰難。玄齡曰。草昧之初。群雄竝起。角力而後臣之。創業難矣。魏徵曰。自古帝王。莫不得之於艱難。失之於安逸。守成難矣。上曰。玄齡與吾共取天下。出百死得一生。故知創業之難。徵與吾共安天下。常恐驕奢生於富貴。禍亂生於所忽。故知守成之難。然創業之難往矣。守成之難。方與諸公愼之。

講義　上は武功を以て國家の禍亂を平げ定むと雖とも終に文德を以て海內を綏（やすんず）せり常に自ら驕奢侈靡を以て懼と爲す嘗て曰く人主は惟だ一心にして之れを攻むる者甚だ衆し或は勇氣や威力を以てし或は辯佞なる口舌を以てし或は諂諛（二字共にへつらふ）を以てし或は姦邪にして詐るを以てし或は種々の嗜好や利欲を以てして輻湊即ち來り來りて各々自から其得意なる說を以て之を售らんことを求む故に人主たるものが少しく懈（おこたる）りて其の內の一つにても之を受けたれば則ち危く亡ぶることが之れに隨はん此れ人主たるものゝ難きわけなりと嘗て左右に侍する臣に問ふに業を創むると成就したるの後を守るとは孰れが難きぞやと玄齡が曰く草昧即ち物事は初めは群雄が並び起り勇力を角（くらぶ）べて而して後に之れを臣下とす故に業を創むること難しと徵が曰く古より帝王は之れを艱難即ちなんぎなる所に得て之れを安逸なる爲めに失はざることなし故に成を守ること難しと上の曰く房玄齡は吾れと共に天下を取り百たびも死すべき中を出で唯た一生を得たり故に業を創むるの難きことを知るなり魏徵は吾れと共に天下を安んず常に驕奢即ちおごりは富貴なる所より生じ禍亂は粗忽にする所より生ずることを恐る故に成るを守るの難きことを知る然れども業を創むるの難きは既に早や過ぎ往きたり成を守るの難きは方さに諸公等と之れを愼しまんと

自知神采爲臣下所畏。常溫顏接群臣。導人使諫。賞諫者以來之。惟末年東征之役。褚遂良嘗諫。不聽。太子立。是爲高宗皇帝。

講義　上は自から威神風采が臣下の人をして畏れ縮ましむるを知る故に常に溫和なる顏色を以て群臣に面接し人を導きて諫めしめ諫むる者を賞して以て之れを來たす惟ゝ末年に東の方高麗を征伐するの役（いくさ）のみは褚遂良が諫めすれども聽かざりし太子が繼で立つ是れを高宗皇帝と爲す

皆な女官の名通鑑の註に曰く昭儀はその儀を昭顯して隆寵を示すなりと

參知政事　官宰司に陪載し朝廷に參預するを掌ると

狡險　狡は狂なり猾なり險は險惡なり

忌　忌は猜惡を謂ふ　克　好んて勝ち殘害するを謂ふ左傳に今其言忌克に多しと

無忌不助己　永徽五年廢立の志有又た大臣の從はさるを畏る乃

〔高宗皇帝〕名治。母長孫皇后。承乾廢。長孫無忌。力勸太宗立治。在東宮七年。太宗嘗作帝範十二篇以賜。曰。修身治國盡在其中。一旦不諱。更無言矣。至是即位。長孫無忌褚遂良。受先帝遺詔輔政。以李勣爲左僕射。尋爲司空。（通釋　高宗皇帝は名を治と曰ふ太宗の第九子なり母は長孫皇后なり太宗の貞觀十八年に承乾太子が廢せられ長孫無忌が力(つとむ)めて太宗をすゝめて治を立てたり治は東宮卽ち太子の宮に在ること七年なり太宗が嘗て帝王の模範と爲るべきもの十二篇を作り以て太子の治に賜ふて曰く身を修め國を治むるの要は悉く其中に在り若し一旦不諱（ふき、死するを云ふ解前出つ）あれば更に言ふこと無し故に之を與へ置くと是に至りて位に卽く長孫無忌と褚遂良とが先帝の遺詔を受けて政事を輔佐す李勣を以て左僕射と爲し尋て司空と爲したり）○永徽五年。以太宗才人武氏爲昭儀。（通釋　永徽五年に太宗才人武氏を以て昭儀の官と爲せり）

○六年。上欲廢皇后王氏。立武昭儀爲后。許敬宗李義府贊之。褚遂良不可。以問李勣。勣曰。此陛下家事。何必更問外人。事遂決。（通釋　六年に上は皇后の王氏を廢して昭儀の武氏を立てゝ后と爲さんと欲す許敬宗、李義府の二人は之れを贊成したりしに褚遂良は之を可かず高宗以て李勣に問ふに勣が曰く此れは陛下の家內中の事なり故に何ぞ必ずしも更に外方の人に問はんやと其皇后の王氏を廢し武昭儀を立てゝ皇后となすことは遂に決したり）褚遂良貶。義府參知政事。義府貌若溫恭。與人嬉怡。而狡險忌克。人謂笑中有刀。柔而害物。謂之李猫。（通釋　褚遂良が位を貶（音へん、おとす）されて潭州の都督となり義府が參知政事たり義府は容貌は溫厚恭謙なるが若くにして人と語るに必ず微笑して嬉怡（うれしくたのしむ）すれども狡黠險惡にして能を忌み克を好む故に時の人が謂ふに笑ふ中に刀が有りて中々おそろしと其柔らかにして物を害するを以て名て之を李猫と謂へり）

武后以長孫無忌不助己。深怨之。顯慶四年。削無忌官。黔州安置。遂良先一年卒。

ち昭儀と與に無忌の第に幸きして酬飮して歡を極む無忌が寵姬の子三人を拜して大夫と爲し仍て金寶繒錦十車を載せて以て無忌に賜ふ上因て從容として皇后の子無きを言ひ以て無忌に諷す無忌對るに他の辭を以てし竟に順はす上及ひ昭儀皆な悅はすして而罷む

老君　老子姓は李名は耼唐は老子を以て祖とす故に太上玄元皇帝と諡す

一諫　通鑑に曰く永淳元年上既に嵩山を封す偏

至是無忌與初議者柳奭韓瑗。皆被殺。（通釋　武后は長孫無忌が己れを助けざるを以て深く之れを怨む顯慶四年に無忌が官を削りて黔(けん)州に安置せり安置とは猶ほ之を放つと云ふが如し遂良は是より先き一年に卒す是に至りて無忌と初めの議者柳奭、韓瑗、と皆殺されたりしなり）○乾封元年。上封泰山。至亳州。尊老君爲太上玄元皇帝。（通釋　乾封元年に上は泰山に封禪して亳(はく)州に至る老君卽ち老子を尊びて太上玄元皇帝と爲せり）○以李勣爲遼東大總管。伐高麗。○總章元年。李勣拔平壤。降其王。高麗悉平。置安東都護府。○上元元年。帝稱天皇。后稱天后。○初帝以賤妾子忠爲太子。武后廢之。立后之子弘。弘仁孝。中外屬心。忤后意。鴆之。立其次曰賢。又以事廢之。而立其次哲。（通釋　李勣を以て遼東の大總管と爲し高麗を伐たしむ○總章元年に李勣が平壤の地を拔き取り其の王を降す高麗の地は悉く平定したり安東の都護府といふ役所を置けり○上元元年に帝は天皇と稱し武后を天后と稱せり○初め帝は賤しき妾の子の忠を以て太子と爲したりしが武后は之れを廢して己の子の弘を立てたり弘は仁あり孝行にして中外のものは心を屬したり然るに弘は嘗て后の意に忤（さからふ）らひたる事ありしかば之れを鴆殺して其の次を立つ之を賢と曰ふ又た事を以て之れを廢して其の次の哲と云ふを立てたり）○上在位改元者十三。曰永徽。顯慶。龍朔。麟德。乾封。總章。咸亨。上元。儀鳳。永隆。開耀。永淳。弘道。凡三十四年。而政在中宮者三十年矣。自褚遂良等死後。群臣無敢諫者。李善感嘗因事一諫。人以爲鳳鳴朝陽。上崩。太子哲卽位。是爲中宗皇帝。（通釋　上が在位の間だに改元するもの十三なり永徽顯慶龍朔麟德乾封總章咸亨上元儀鳳永隆開耀永淳弘道と曰ふ凡て三十四年にして政事は中宮卽ち武后の手に在るもの三十年なり褚遂良等が諫めて死してより後ち群臣は敢て諫るものなし李善感が嘗て事に因り一たび諫めしことあり人は以て鳳凰が朝陽に鳴くが如しとなせり詩の大雅生民の篇に鳳凰鳴

く五嶽を封せんと欲し諫て曰く陛下泰山を封し太平を告ぐ群瑞を致すは三皇五帝と德を比す數年穀粟稔せす餓莩相望む四夷交〳〵侵し兵車歲々絕す陛下宜く恭默して道を思ひ以て災譴を禳ふべし乃ち更に宮室を廣營し勞役休ます天下望を失はさるなし臣忝く國家の耳目に備はる竊に此を以て憂と爲すと上之を優容せり

嗣聖（シセイ）　明年當に元年に作るべし通鑑に曰ふ嗣聖元年二月戊午武后帝を廢し

矣于彼高岡梧桐生矣于彼朝陽とあり鳳は靈鳥の名朝陽は山の東をいふまれにして珍らしと云ふ意なり上は崩御して太子の哲が位に即く是れを中宗皇帝とす

〔中宗皇帝〕初名顯。改名哲。既卽位。立韋妃爲后。改元曰嗣聖。明年。武后廢帝爲廬陵王。而立其弟旦。旦擁虛器者七年。改元曰垂拱。曰永昌。太后廢旦爲皇嗣。而稱帝。是爲則天武氏。【講義】中宗皇帝は初の名を顯と曰ふ哲と名を改む既に位に即き韋（い）妃を立て、皇后と爲し年号を改めて嗣聖と曰ふ元年に武后は帝を廢して廬陵王と爲し而して其弟旦を立つ旦は名のみ天子にして其實は虛しき位を擁するものが七年の間にて年号を改めて垂拱と曰ひ永昌と曰ふ太后は旦を廢して皇嗣と爲し而して自ら帝と稱せり是れを則天武と爲す

○則天武氏。故荊州都督武士彠之女也。太原人。年十四。太宗聞其美。召入後宮。以貞觀十一年。爲才人。時天下歌曲名娬媚娘。已成讖。貞觀末。太白屢晝見。太史占云。女主昌。又傳秘記。唐三世後。女主武王代有天下。太宗惡之。嘗與群臣宴。令各言小名。武衛將軍李君羨。官稱封邑。皆有武字。而小名五娘。太宗愕曰。何物女子。乃爾健邪。或奏。君羨謀不軌。遂誅之。密問太史李淳風。對曰。臣仰觀天象。俯察曆數。其人已在陛下宮中。不過三十年。當王天下。殺唐子孫殆盡。其兆已成矣。太宗崩。才人年二十四矣。爲尼。高宗幸寺。見之而泣。時王皇后。與蕭淑妃爭寵。密令長髮。勸高宗納之。既入。而后與

て廬陵王となす

娬媚娘（ブビヂヤウ）は嫵と同じ媚びるなりこれは武后が世に出づる前兆

涉獵　水を涉り獸を獵するが若く歷覽する事多しと雖も精ならさるを謂ふ

武氏七廟（ブシシチベウ）　七廟とは三昭三穆太祖の廟とともに七つこれ天子の制なり武后は天子の事をなす故にわが家に七廟をたつ

一杯之土（イツパイノド）未乾（カワカ）　高祖崩して日淺く山陵の土未だかわかず

淑妃皆失寵。武氏年三十二。遂自昭儀爲后。王蕭皆爲所殺。贈父士彠周國公。尋加贈太原王。高宗苦風眩。不能視百司奏事。或使皇后決之。后性明敏。涉獵文史。處事皆稱旨。由是委以政事。權與人主侔。人謂之二聖。在高宗之世。后自殺子弘。廢子賢。高宗既崩。子哲卽位。廢爲廬陵王。而立子旦。后臨朝稱制。立武氏七廟。【講義】則天武氏は故との荊州の都督たりし武士彠（くわく）が女（むすめ）なり大原の人にして年十四の時に太宗が其の美なることを聞き之を召して後宮（おくでん）に入る貞觀十一年を以て才人と爲り太宗號を武媚と賜ふ時に天下の歌の曲を娬媚娘（ぶびらう）と名つけたり其名が已に讖即ち未來の徴なりと又た秘密の記を傳ふるに唐三世の後は主女の武王が代りて天下を有たんとありければ太宗は之れを惡めり嘗て群臣等と酒宴するときに各をして幼少の時の名を言はしむ武衛將軍の李君羨（りくんせん）は官の名稱や封邑に皆な武の字が附てあり（通鑑に左武衛將軍武連縣公武安の李君羨とあり）而して小名は五娘と曰へり太宗が愕（おどろ）きて曰く何物の女子であるぞ乃ち爾かくそのやうに壯健なるやと或る人が奏聞するに君羨は反逆を謀ると遂に之れを誅殺したり密かに大史の李淳風なるもの此頃の天象を問ふに對て曰く臣は仰て天の形象を觀又た俯して曆數を察し考ふるに其の人は已に陛下の宮中に在り三十年に過ぎずして其の人が當さに天下に王と爲るべし唐の子孫たるものを殺して殆んど盡さん其の兆候が已に成れりと太宗が崩御し才人（即ち武后なり）が年に十四にて尼と爲る高宗が太宗の妃嬪が尼となりおるところの寺に幸せしに才人は之れを見て泣きたりこれは高宗の未た太子にてありたるときより心に武氏を愛したるは武氏が今ま高宗を見て泣き再たび愛情を起さしめしなり時に王皇后は蕭淑妃（せうしゆくひ）と寵愛を爭ひ居る故に高宗に武氏を納れしめんと欲し密かに髮を長せしめ高宗に勸めて武氏を納る武氏既に入る而して王后と蕭淑妃は皆な寵愛を失へり武氏は是の時に年三十二なり遂に昭儀の官より皇后と爲る王后と蕭淑妃は皆な武氏の爲めに殺されたり父の士彠に周國公の位を贈る尋で又た太原王を加へ贈れり高宗は風眩とて中風にて目まひのする病を苦しみわづらひ百司の奏聞する事を視る能はず或は皇后に之れを決斷せしむ后は性質明らかに敏（さとく）して文章や歷史を涉獵（解上にあり）せり事を處理して皆帝の心に稱ふ是れに由りて委托するに政事を以てすその權威は人主と侔（ひとし）く同一なり人は之れを二聖即ち二人の天子と云へり高宗の時代に在りて后は自から子の弘を殺し子の賢を廢し高宗が既に崩御して子の哲が位に即きし

といふこと

六尺之孤

安在 六尺の孤は論語にあり少帝哲已に廢せらる故に安くにあるといふなり周禮の疏に曰く六尺は年十五なりと

竟是誰家

之天下 到底この天下は誰が家之有ぞやといふことすなはち李氏の有か武氏の有かわからぬといふこと

大殺唐宗室 韓王李元嘉魯王李

（に武氏は哲を廢して廬陵王と爲し吾が子の旦を立つ武后は朝廷に臨み立つて詔制を稱し武氏の七廟を立てたり）英公李敬業起兵討之。檄曰。一抔之土未乾。六尺之孤安在。又曰。試觀今日之域中。竟是誰家之天下。太后遣將擊殺之。越王貞。又擧兵匡復。不克而死。太后遂大殺唐宗室。自名曌。稱皇帝。國號周。以旦爲皇嗣。改姓武。時曌年六十七矣。初寵僧懷義。後寵張易之張昌宗。兄弟居中用事。易之五郎。昌宗六郎。佞者曰。人言六郎似蓮花。吾謂蓮花似六郎耳。曌知人心不服。且內行不正。畏人議己。盛開告密之門。用酷吏侯思止。索元禮。周興。來俊臣。吉頊等。鍛鍊羅織。率以反逆誣人。誅殺不可勝紀。用此拑制天下。然有權數善用人。賢才亦樂爲之用。徐有功仁恕執法。曌每屈意從之。將相多得人。魏元忠。婁師德。狄仁傑。姚元崇。皆名相。宋璟亦顯於朝。師德寬厚清愼。犯而不挍。弟除代州刺史。師德謂兄弟榮寵過盛人所嫉也。何以自免。弟曰。自今人雖唾某面。拭之而已。師德愀然。曰此所以爲吾憂也。人唾汝面。怒汝也。而拭之。則逆其意而重其怒。夫唾不拭自乾。當笑而受之耳。師德每薦仁傑。而仁傑每毀師

靈夔等三十餘人を殺し又た公主を逼り殺す

佞者（楊再思）

蓮花似大郎 花の人に及ばざるなり時人易之昌宗に諂ふもの之を五郎六郎と呼び敢て名をいはず郎は尊稱なり五六は其行なり

告密之門 網目密を告くるものあり馬を給し食を供し行在所に詣らしむ農夫樵人も皆な召見を得たり或は不次に官に除せらる實無き者は問はず是

德。曌語仁傑曰。朕用卿。師德所薦也。仁傑退而歎曰。婁公盛德。我爲所容久矣。武承嗣三思。營求爲太子。仁傑從容言於曌曰。太宗櫛風沐雨。親冒鋒鏑。以定天下。傳之子孫。太帝以二子托陛下。今乃欲移之他族。無乃非天意乎。姑姪與母子孰親。陛下立子。則千秋萬歲後。配食太廟。立姪。則未聞姪爲天子而祔姑於廟者也。曌稍悟。已而又力勸之。遂自房州召廬陵王還都。立爲皇太子。以子旦爲相王。仁傑最見信重。好面折廷爭。曌常屈從。稱爲國老而不名。仁傑卒。曌泣歎。元行沖博學多通。仁傑重之。行沖多規諫。曰。明公之門珍味多矣。請備藥物之末。仁傑笑曰。吾藥籠中物。何可一日無也。姚元崇等數十人。皆仁傑所薦。或曰。天下桃李悉在公門矣。仁傑曰。薦賢爲國。非爲私也。曌嘗問仁傑。欲得一佳士用之。仁傑曰。有張柬之者。雖老宰相才也。後竟用柬之爲相。曌寢疾甚。柬之與崔玄暐。敬暉。桓彥範。袁恕已。率羽林將軍李多祚等。擧兵討內亂。迎太子於東宮。斬關入。斬易之昌宗於廡下。遷曌於上陽宮。上尊號。曰則天大聖皇帝。

に於て四方告密の者起れり

鍛鍊　わざと罪を造り人を陷るなり旨は深文の吏人の罪を入る喩は工冶の陶鑄し鍛鍊して之を熟せしむるがごときなり

羅織　無辜を羅網して罪狀を織成するなり

李敬業　勣か孫にして震か子なり勣死す敬業爵を嗣く

犯而不挍　人に無禮非儀をかけられてもそのわだかへしせぬこと

太帝　高宗

是冬殂。年八十二。易唐爲周者十有六年。改元者十。曰天授。如意。長壽。延載。曰萬歲通天。曰神功。聖曆。久視。大足。長安。

講義　英公の敬李業が兵を起して之れを討ず其檄文に曰く高宗を葬りて未だ一抔一とすくひの土が未だ乾（かはく）かさゞはやに閒合のなきに六尺の孤即ち幼君の皆はいづくにか在るぞ最早や廢せられたるにあらずやと又た曰く試みに今日の域中即ち國內のありさまを視よ必竟は是れ誰れが家の天下と爲るや武氏に取られることはきまりてあるぞ太后は將を遣はし擊ちて之れを殺せり越王貞高宗の弟が又た兵を擧げて唐の天下を匡（たゞす）し取り復さんとして克たずして死す太后は遂に大に唐の宗室一門の人々を殺す自分に曌（せう）と名つけ聖帝と稱し國を周と號したり旦を以て世嗣と爲し姓を武と改む時に曌が六十七なり初めに僧の懷義を寵愛し後ち張易之、張昌宗を寵愛す兄弟が中に居て政事を用ゆ易之ハ五郎と曰ひ昌宗は六郎と曰ふ太后の機嫌を取る佞者の曰ふに人が言ふに六郎は其面が蓮花に似て美なりと然るに吾が思ふには蓮花が六郎に似たるのみと是れは花人に及ばざるの意にて極めて諛めたるなり曌は人の心が服せずといふことを知り且つは內分の品行が正しからずして人が己れを評議せんことを畏れ盛んに內密の事を告げ來る門を開く殘酷なる役人の侯思止や索元禮、周興、來俊臣、吉頊（きよく）等を用ゐ鍛鍊（わざと罪をつくり人を陷るを云ふ解上にあれば參看すべし）羅織（連累をよせて多く人を苦しむ解亦上に出づれば參看すべし）して卒に反逆を以て人を誣ゆ誅殺すること勝（あげ）て紀す可からず此道を以て天下を拑制とせかなばさみにてしめつけるが如くせり然れども權謀術數即ち手段計略ありて善く善良なる人物を用ゆ故に賢才も亦た之れが爲めに用ゐらるゝことを願ふ徐有功なるもの仁德にして恕（おもひやり）ありよく法を取り守る故に曌も每に已れの意を屈して之れに從ふ將相は多く善き人を得たり魏元忠婁（ろう）師德狄（てき）仁傑、姚元崇（ようげんそう）ハ皆な名高き宰相なり宋璟（えい）も亦た朝廷に顯れたり師德は寬大に手厚く淸白に愼み深き人なり人より犯しても其返報を挍るやうなことはせず弟が代州の刺史に除任せらるとき師德が謂ふに兄弟共に榮華寵愛を受けること盛んに過ぎるは人の疾（にくむ）所なり何を以て自から禍を免れんと弟の曰く今よりは人が其の面に唾（つばき）をはきかくるとも拭ひ取らんのみと師德は愀然と悲んで曰く此れ吾が憂を爲すゆゑんなり人が汝の面に唾するは汝を怒らしめんとの意なり而るを之れを拭はゞ則ち其の先方の意見に逆らふて其の怒を重ぬるなり唾は拭はずとも自然に乾くもの故に笑ふて之を受くべきのみと師德ハ每に仁傑を薦め擧ぐ而して仁傑は每に師德を毀（そしる）るゆへに　が仁傑に語りて曰く朕が卿（おんみ）を用ゐしは本と師德が薦めし所なりと仁傑は退きて歎美して曰く婁公師德は盛德ありて我が罪を容れ許さるゝこと久しと武承嗣字は三思といへるものが太子と爲らんことをさまざまに事を營み求む仁傑は從容として曌に言ふて曰ふに太宗皇帝は風の中にて髮を梳り結び雨の中にて沐浴せし如くに辛苦して親から鋒即ち刃物のはこさき鏑即ち矢さきを冒して以て天下を定め之れを子孫に傳ふ大帝の高宗は二子を以て陛下に托す而るに今ま乃ち之れを他の一族へ移し取らんと欲するは乃ち天の正意で無きこと無からふ

二子　中宗及び弟旦

他族　武承嗣三思

姑姪　武后は姑承嗣ハ姪

母子　母は武后子ハ中宗と弟旦

明公之門　仁傑の家をいふ

藥籠中物　足下の規諫は我が必用といふその意

天下桃李　天下の人をすゝむる所の士をいふて桃李となすなり衛子が曰く惟々賢者は能く恩

や且つ又た姑（おば即ち武后なり）と姪（おい承嗣なり）との間の母と子との間とは孰れが親しきや陛下は若し子を立てば則ち千秋萬歲の後まで太廟に配食として合せ祭らるゝことを得ん若し姪を立てば則ち未だ姪が天子と爲りて姑を廟に祔して合いせ祭るといふことを聞かずと曌は稍々悟りたり已にして又た力めて之れを勸め遂に房州より廬陵王を召して都に還らしめ立てゝ皇太子と爲す子の旦を以て相王と爲す仁傑ハ最も信重せられ面わたり折じき朝廷で爭ふことを好む曌は每に屈し從ひ稱して國老と爲して名を言はず仁傑が卒して曌は泣き歎息せり元行冲なるものは博學にして多く物事に通じたり仁傑は之れを重んぜり行冲は規諫（たゞしいさむる）ること多し曰く明公の門には珍物の美味なるもの多し行冲請ふ藥の末に備へんと是れは我が一言をも良言善謀の末に入れおけといふてとなり蓋し藥物は規諫に喩へしなり仁傑が笑ふて曰く君は正さに吾が藥籠の中の物ゆへに何ぞ一日も無かる可けんやと姚元崇等數十人は皆な仁傑が曰く賢人を薦め擧ぐることは國の爲めにして私の爲めには非ずと曌は嘗て仁傑に問ふに一人の佳（よき）士を得て之れを用ゐんと欲すと仁傑が曰く張柬（かん）之といふものあり年老たりと雖とも宰相の才氣ありと後ち竟に柬之を用ゐて相と爲す曌ハ疾に寢ぬること甚し張柬之は崔玄暐（さいげんき）敬暉（けいき）桓彥範袁恕己（ゑんじよき）と羽林將軍の李多祚等を率ゐて兵を擧げ內乱を討ず太子を東宮に迎へ關を斬りて攻め入り易之と昌宗との二人を廡（ひさし）の下に斬り殺し曌を上陽宮に遷す尊号を上りて則天大聖皇帝と曰ふ是の冬に殂せり年八十二なり唐を易（へ）て周と爲せしこと十有六年の間にて改元せしこと十天授、如意、長壽、延載、萬歲通天、神功、聖曆、久視、大足、長安と曰ふ

長安之五年。帝復位。號唐。帝卽位二月而被廢。居均州者一年。居房州者十三年。還爲太子者又八年。而後反正。韋氏復爲皇后。上在房陵每欲自殺。后每止之。上與私誓。異時幸復見天日。惟所欲不禁。至是每臨朝。后必施帷幔坐殿上。預聞朝政。如武氏在高宗之世。上女安樂公主。適武三思之子。三思以是得入宮禁。通於韋后。后與三思雙陸。而上爲點籌。上遂與三思圖議政事。張柬之等皆受制。五人皆賜王爵而罷政。已而遠貶殺之。安樂公主等。依勢用事。請謁受賕。降墨敕除官。

に報ずるをなす不背者は能はず夫れ桃李を樹る者は夏は休息を得て秋日其食を得る蒺藜を樹るものは夏は休息を得ず秋は其刺を得たり云々と

太子（中宗）

是冬殂（ソス） 朝に臨むこと凡二十三年案するに通鑑に則天既に殂す遺制して帝号を去りて而て后と稱す

雙陸（ソウリク） すごろくして勝敗を爭ふこと

點籌（テンチウ） 數を記して勝敗を判するを云ふ

五人 張柬之、崔玄暐（さいげんき）、敬暉、桓彦範（くわんげんばん）、袁恕己にて武氏の亂を平げたる人々なり

受賕（ジユキウ） 賕は賄賂即ちまひなへのこと也

墨勅（ボクチヨク） 墨書の勅書にして朱印なきもの安樂公主が勝手に作りしもの也

人有上言 人とは燕欽融（えんきんゆう）と云ふもの

皇太女 世嗣

斜封付中書。時謂之斜封官。凡數千人。人有上言。皇后淫亂。上面詰之。其人抗言不撓。中書令宗楚客。矯制撲殺之。上意快快。后及其黨始懼。馬秦客楊均皆幸於后。恐事泄。安樂公主亦欲臨朝。以己爲皇大女。乃相與謀。於餅餤中進毒。上復位。改元者二。曰神龍。景龍。景龍四年而遇弑。立溫王重茂。后攝政。相王子隆基。起兵討亂。斬后及安樂公主。幷其黨皆誅之。廢重茂。奉相王立之。是爲睿宗皇帝。

講義 長安の五年に至り帝始めて位に復して周の姓を改めて唐と号せりさて帝は位に即きしより二ケ月にして廢せられ河南の均州に居たまふこと一ケ年の間次に房州に居玉ふこと十三年の間にして還りて太子と爲られしもの又八年と前後二十二年の長き年月を以て玆に始めて正即ち天子の正位に反り玉へり而して韋氏が復た以前の如く皇后と爲れり上が前に房陵即ち房州に在りて積鬱に堪へかね自殺して死せんとし玉ふことも度々なりしがその度毎に后の韋氏が之を止められたり后は上と共に久しく幽閉せられてありしことなれば備さに艱難や危患を嘗めてしれば其情愛も甚だ篤くして嘗て上が后と與に私に誓ひ約束するに異時即ち後日に至りて幸にも再び天日を見て位に即くこともあらばその時こそハ惟だ汝が欲する所のまゝにして何一つとして禁じハせぬと是に至りて帝が朝廷に臨み玉ふ毎に后は必らず帷幔(いまん、とばりを云ふ)を施し垂れて殿上に坐し朝廷の政事を預り聞くこと恰も則天武氏が高宗皇帝の世にありて朝政に預りし時の如くなり上の女にて安樂公主と云ふがありしがこの人は武三思なるものゝ子の崇訓(すうくん)なるものに嫁して適(ゆく)きたりければ武三思はこの因緣を以て宮禁の門内に入ることを得て遂には韋后に密通するに至れり韋后が三思と雙陸(そうりく、すごろくを云ふ)の戯をなして遊ぶときハ上はその爲めに點籌とて數とりして勝負を判する人と爲れり斯く三思の相親しみ睦かりければ上ハ遂に三思と政事までも圖(はかる)り議論するほどになり彼の張柬之等の人々は三思の制度を受くるに至りそれのみならず帝が復位の事に就て大功ありし五人の人々にそれ〳〵王爵を賜ひてこれ等の人の政事を爲すことを罷めたり然るに又間もなく遠き地方に貶してこの五人を殺したり是れ皆三思が韋后と密議せし結果なり斯かる有樣なれば三思の權威は並ぶものもなきほどにして安樂公主もその勢に依りて事を用ゐ色々の事を請ひたのむものあれば皆賄賂を受けて之をなす又墨にて書したる勅書を降して官に除し又正しく封せず斜に封じて中書の役人に付せり故に時の人之を斜封官斜封官と謂ひしが其の多きこと凡そ四五千人にもなれり時に人の上言するものがありて皇后は淫乱なり武三思に通じて政事を干すと言ひしかば上ハ之れを召し出し面のあたり詰問するに其人は抗言しいひはりて少しも屈し撓(たゆむ)まず依て中書令の宗楚客なるものが天子の命令なりとためいつはりてその人を撲(うつ)ち殺したり是より上の意も快々(わうわう)として不滿にありければ皇后や並びに其徒黨のものどもは始めて懼れびく〳〵せり馬秦客、楊均は皆な后の氣に入りてありければ色々の惡事が泄(もる)れはせんかと恐れたり安樂公主も亦皇后が朝廷に臨みて自分を以て皇太女と爲さんことを欲してありければ乃ち相共々に相談をなして餅の餤(たん)の中に毒を入れて上に進め上を毒殺せり上は位に復せられてより改元するもの二つにして神龍、景龍と云へりその景龍四年にして弑に遇ひ玉へり依て溫王の重茂と云ふを立てゝ韋后が政事を攝行せり相王の子の隆基なるものが兵を起して乱を討ち終に韋后及び安樂公主を斬り其徒黨の人即ち昭容等を并せて皆之を誅罰し重茂を廢して父の相王を奉じ之を立てたり是を睿宗皇帝と爲せり

二、（睿宗皇帝）名旦。初高宗崩。中宗廢。武氏立旦爲帝。者七年矣。而廢爲周皇嗣者九年。改封相王者十年。至是復爲帝。立隆基爲太子。宋璟姚元之爲政。二人協心革弊政。進忠良退不肖。賞罰盡公。請托不行。紀綱脩擧。當時翕然。貶祝欽明等。欽明嘗爲八風舞。人曰五經掃地矣。

講義 睿宗皇帝は名を旦と云ひ高宗の第八子に當る初め高宗が崩御せられ中宗が廢せられてより武氏がこの旦を立てゝ帝と爲るもの七年の間なりしが而して又廢せられて周の皇嗣即ち世嗣たること九年の間にして後ち相王に改め封せらるゝもの十年の間なりしが是に至りて復た再たび帝と爲り隆基(りうき)を立てゝ太子と爲したり而して宋璟(そうけい)と姚元之(ようげんし)の二人が政事を爲せりこの二人は心を協せてこれまでの弊政即ちふるびたるわるき政事を革(あらたむ)め忠義にして賢良なる人を進め上げ不肖にして役に立ちがたき人は之を退ぞけ人を賞するにも人を罰するにも公(おほやけ)の道を盡くして假りにも偏頗の行わるゝことなくすべての請ひ托して事をなすが如きは更に行いれず天下の紀綱即ち法制律度も能く修り擧がりて當時の勢ハ實に翕然(音きうせん)として盛んに一致して復た貞觀や永徽(えいき)の時の風ありと爲せり時に祝欽明等の人々の官を貶(おとす)したり祝欽明は嘗て八風の舞と云ふを作れり祝欽明は國子祭酒の職にある人にして八風の舞とハ頭を搖かし目を轉じ諸ろの醜態を備へたるものなり時の人が同く祝公の五經は地を掃ふて盡きたりと是れは景雲元年の夏五月に中宗が近臣を召して宴を賜はりし時に祝欽明が自ら請ふて八風の舞を作したりこれは彼の八音を節し八風を行ふの舞にはあらずして八風とは

の女と云ふことと

餅餤　即ち我が國のうどんの如きなり

紀綱修擧　紀綱とは大づなと云ふことにて政事のことを云ふ修擧とはおさまりとゝなふを云ふ

翕然　翕然とは鳥の羽を合せたるが如くよくそろうことを云へり

處分　通鑑の註に曰く處は制なり定なり分は當さに然るべき所なりとありとりさばくことを云ふ

假りの名たるに止まり其實ハ尚に述べし如き[illegible]淫風の備はりし舞なり五經地を掃ふとは儒者道德の行義作法は更になくして恰も物の盡きてあまりなきが如きを云ふなり○帝妹太平公主。於誅二張誅韋氏時皆有力。既屢立大功。勢尊重。上嘗與議政。權傾人主。其門如市。憚太子英武。欲易之。賴韋安石。宋璟。張說。姚元之等。感悟上意。政事皆取太子處分。上自復爲帝。改元者二。曰景雲。太極。至是三年。自稱太上皇。傳位於太子。是爲玄宗明皇帝。講義 帝の妹たる太平公主は二張即ち張易之と張昌宗の兄弟とを誅し幷に皇后韋氏を誅せし時に於ていづれも皆力ありたれば既に早やしば〳〵大なる功名に立てけるが爲めに勢力あつて甚だ尊信し敬重せられたり上は嘗てのことこれと與に政事を議論するによりて其權威は人主たる天子をも傾くるほどなり就てはこれを訪ひ來る人々は誠に多くして其門前には市をなすが如く雜沓を極めたり太子が年少にして英才武勇なるを憚りおそれて之を易(かふ)へんものと思へり然るに韋安石(ゐあんせき)宋璟(けい)張說、姚(よう)元之等の人々が上の意中を感じ悟りたるに縁(よる)りて政事は皆太子の處分を取りそのさばくに任せたり上は復た帝と爲りしより改元するもの二つにして景雲、太極と曰へり是歲に至るまで三年の間にして自ら太上皇と稱し太極元年の秋八月に位を太子に傳へたり是を玄宗明皇帝と爲す

〔玄宗明皇帝〕名隆基。初爲臨淄王。韋氏之亂。陰聚才勇之士。密謀匡復。太宗初選驍勇。爲百騎。武后增爲千騎。隷左右羽林。中宗謂之萬騎。置使領之。隆基皆厚結其豪傑。卒誅韋氏。奉睿宗。封爲平王。睿宗將建儲。嫡長子成器。以平王有功。力讓之。遂爲太子。受禪。講義 玄宗明皇帝は名は隆基と曰ひ睿宗の第三子なり初め臨淄(りんし)王と爲りしが韋皇后の一乱に當り陰(ひそか)に才力あり武勇ある所の士を聚めて密かに天下國家を太平の時代にとりかへさんことを謀りたり是よりも先きに太宗が驍勇(げうゆう、つよくいさましきこと)の聞えある人を多くの兵士中より選び出してこれを百騎組となしたりしに則天武后が之を增して千騎と爲し左右の

謀匡復　匡はたゞすなり復はかへすなり天下を太平にかへすを云ふ

建儲嫡　儲嫡とは皇太子のことを云ふ嫡は長子の稱なり

內侍　宦官のこと

不置三品　宦官は三品官となることを得ざるなり

黃衣　黃衣は宦官の賤者の服

姚崇　即ち元之なり

開元廿七年に群臣が開元聖文神武皇帝と尊号を上りし

羽林即ち我が國の近衛兵の如きに隷屬せしめたりしが中宗は更に之を增して万騎と謂ひ使(し)即ちそれ〳〵の役人を置て之を領し統べしめたり然るに隆基は其內の豪傑と呼ばるゝ人々と皆厚く結び約束して卒(つひ)に韋氏を誅して睿宗即ち其父君たる人を奉じて天子と爲し己れは封ぜられて平王と爲れり初め睿宗が天子となり將さに儲嫡即ち太子を建てんとせしに宋王の成器は嫡長なり平王の隆基は功勞のありしを以て何れを立つべきやと疑ふて決斷すること能はざりしが平王の成器は辭して曰く國家が安ければ嫡長を先にし危ければ有功を先にす苟も其宜しきに違はゞ四海望みを失はん臣は死すとも敢て平王の上に居らじと涕泣して固く請ふもの累日力めて平王に譲り又劉幽求も曰く平王は社稷の危きを拯へ君親の難を救へたり功を論じ德を語らば疑ふべきものなしと帝も之に從へ遂に隆基を以て太子とし尋て位を讓れり○開元元年。高力士爲右監門將軍。知內侍省事。初太宗定制。內侍省不置三品官。黃衣廩食。守門傳命而已。至是除三品將軍者寖多。宦官增至三千人。內侍之盛始此。講義 開元元年に高力士が右監門の將軍と爲り兼て內侍省の知事たり初め太宗が制度を定めて內侍省には三品の官を置かず黃色の衣服を着て官の廩(りん、くらのこと)から給米を受け門を守りて番をしたり又命を傳へて取次をするのみなりしが是に至りて三品將軍に除せらるゝもの段々多く宦官が增して三千人の多きにも至る內侍の盛なることは實に此より始りたり○姚崇爲紫微令。講義 姚崇が紫微省の令となれり初め帝が崇を相とせんと欲せしに張說は之を疾み御史大夫の趙彥昭と殿中監の姜皎(きやうかう)とに之を彈劾せしめしかば帝の曰く此は張說の意ならん汝何の面ありて欺くことを得んと崇既に相となる張說懼れ乃ち潛に岐王に詣り款(まこと)を申す他日崇便殿に對す行く微して蹇(なやむ)めり上問ふ足疾ありやと對へ曰く臣に心腹の疾ありと上其故を問ふ對て曰く岐王は陛下の愛弟にして張說は輔臣たり而して密かに車に乘じて王の家に入る恐らくは誤る所とならん故に之を憂ふ遂に張說を左遷して相州の刺史となせり○二年。以太常不應典俗樂。置左右教坊。謂之皇帝梨園弟子。講義 舊制に雅俗の樂は皆太常に隷せしが二年に太常の官に俗樂を合併し典とることが出來ぬを以て更に左右の教坊と云ふ役人を置きて俗樂を教へたり之れを皇帝梨園の弟子と謂ふ○焚珠玉錦繡於殿前。講義 帝は風俗の侈靡なるを以て制するに乘輿服御金銀器玩は宜しく有司をして銷毀して以て軍國の用に供すべしとて其珠玉錦繡は殿前に於て焚く后妃以下皆服することを得ず今より天下更に珠玉を采り錦繡等を織るを得るなからしむ兩京織錦坊を罷めたり○作興慶宮。置樓。西曰花蕚相輝。南

を避けて
樂と改む
俗樂（俳優雜伎の戲雜を云ふ）
左右敎坊 中官を以て之が使と爲せり是よりは太常に隷せず
梨園弟子 初め隋に法曲あり其聲淸く雅に近し明皇之を愛す坐部の伎子弟三百を選で梨園に敎ゆ皇帝梨園弟子と号せり唐書の禮樂志に樂を分て二部と爲す堂下に立て之を奏す之を立部伎と謂ひ堂上に坐して奏す之を坐部伎と謂

日勤政務本。宋王成器等宅環其側。講義（宋王成器等が興慶坊の宅を献して離宮となさんと請ひしかば之を許るして興慶宮を作り西南に於て高樓を設き其西を花萼相輝と云ひ其南を勤政務本と曰へり而して宋王成器等に宅を賜ひ宮の側を環らしめたり）

◎三年。盧懷愼爲黄門監。懷愼清謹儉素。妻子不免饑寒。所居不蔽風雨。姚崇嘗謁告十餘日。政事委積。懷愼不能決。崇出。須臾裁決盡。顧謂齊澣曰。我爲相何如。澣曰。可謂救時之相。懷愼知才不及。毎事推崇。時謂之伴食宰相。講義（三年に盧懷愼を以て黄門監と爲せり懷愼は清廉謹愼にして能く儉約質素を守る妻子は饑へたり寒へたりすることを免れず居る所は風や雨を蔽はざる程なり姚崇が嘗て謁告（解上に出づ）して歸省すること十日餘りなりしが政事を積み滯りて懷愼ハ決斷すること能はず然るに崇出でゝから須臾即ち暫時にして判決し盡し頗る自得の色あり顧みて齊澣に謂て曰く我が宰相たることが如何であろうと澣が曰く時世を救ふの宰相と謂ふべしと崇よろこびて筆を投じて曰く時を救ふの相ハ豈に得易からんやと懷愼は己れの才の姚崇に及ばざるを知りて事ある毎に崇に推し讓る時の人之を相伴の宰相と謂ひたりとぞ）

○四年。姚崇罷。宋璟爲黄門監。璟爲相。務擇人。百官各得其職。好犯顏正諫。上甚敬憚之。璟與姚崇相繼爲政。崇善應變。璟善守文。志操不同。然協心輔佐。使賦役寬平。刑罰清省。百姓富庶。唐世賢相。前稱房杜。後稱姚宋。佗莫得比。二人毎進見。上輒爲之起。去則臨軒送之。講義（四年姚崇が請ふて官を罷め宋璟が黄門監となれり璟は宰相となり務めてよき人を撰び材に順ひ位を授けしかば百官は各々其の職を得たり好んで上の顏色を犯して正しく諫む上は甚だ之れを敬ひ憚る璟は姚崇と相繼ぎて政事をなす崇はよく變に應じて處置す璟はよく格を守る其志操が同じからず然れども二人は心を協はせて上を輔け佐く賦稅や役夫は寬大に公平ならしめ刑罰も清く省きて百姓が富み榮へたり唐の世の賢相は前には房玄齡杜如晦を稱し后には姚崇宋璟を稱す他の人々は比較するを得るなし二人が上に進み見ゆる毎に上は輙ち之れが爲めに起つて禮す去る時

花萼相輝 萼は花跗の花を承くる者なり花萼相輝ハ詩の（棠棣之花萼として韡々たらず）蓋し兄弟翕歡するの意に取て以て樓に名づくなり
勤政務本 君子本を務む本立て道生ず云々に基づき以て樓に名く
宋王成器等（成器は睿宗の嫡子にして玄宗の兄自ら其功力の玄宗に及ばざるを知り太子の位を讓り五王の兄弟邸舍を並べ住む故に邸と云ふ）

は軒まで臨んで之を見送るなり）○八年。宋璟罷。講義（八年に宋璟が相を罷めたり）○九年。宇文融言。天下戸口逃移。巧僞甚衆。請加檢括。同平章事源乾曜贊成之。以融爲勸農使。奏置勸農判官十人。分行天下。競爲刻急。州縣承風勞擾。百姓苦之。講義（九年に宇文融が曰く天下の家や人が戶稅や夫役をまぬがれんとて家を移し人を逃しめ巧に僞ることと甚だ多し故に請ふらくは戶口を檢して調べることを加へんと同平章事の役の源乾曜（けんよう）が之れを贊成し文融を以て勸農使と爲したり融は奏聞して勸農判官といふ役員十人を置き天下に分ち行かしめわれおとらじと競ひて刻薄急速にしらべを爲せり故に州縣の人々は其の風を承けて擾き乱れければ百姓は之れを苦みたり）○同三品張說。建議召募壯士。旬日得精兵十三萬。分隷諸衞。更番上下。兵農之分始此。講義（同三品の張說か評議を建てゝ勇氣壯なる士を召し募りしに十日ほどの間にすぐりたちたる兵士十三萬人を得たりければこれを分ちて諸方の衞士に附屬せしめ番を更て上下せしめたり兵と農との分別することと此の時より始まりたり）○十三年。更命長從宿衞爲彍騎。講義（十三年に長從宿衞の名を改め命じて彍騎と爲せり長從宿衞とは府兵及び白丁十二万を選びたるものにして一年に二度交代せしむるもの州縣にて雜役使することを得るなからしむ彍騎とは網鑑に註の一に射騎と曰ふ其法十人を火と爲し五火を團となし皆會長あり又材勇の者を擇びて番頭と爲し弩射を習はしむと）

○二十一年。韓休同平章事。休爲人峭直。上或宴遊小過。輒謂左右曰。韓休知否。言終諫疏已至。左右曰。休爲相。陛下殊瘦於舊。上歎曰。吾雖瘠。天下肥矣。休罷。張九齡繼之。講義（二十一年に韓休が同平章事の役となりたり休は其の人と爲りが峭直とてきびしくして正直なり上或は酒宴し遊んで少しく過失あれば輙ち左右のものに謂ふて曰く韓休が此の事を知るや否やと其の言が終る間もなく韓休が諫めの上疏が已に至る帝嘗て鏡に對して默然と樂まざりしに左右のもの曰く休が宰相と爲りてより陛下は別段に以前より痩せ衰へたり何ぞ之を逐はざると上は歎息して曰ふに吾れは痩せたりと雖とも天下が肥へたりと休が罷めて張九齡が之れに繼きて宰相となれりと云ふ）○二十二年。九齡爲中

齊澣　紫微の舍人を云ふなり

伴食宰相　宰相に任ずれども主任の力なしかの饗客の相伴人の如しと云ふ又一説に當時宰相日に政事堂に會食す故に惟だ堂上に伴食するのみにて其餘は宰相の職なしと云云

王夷甫識石勒　後趙の石勒幼なるとき晉の王衍（字は夷甫）なるものを見て之を異しみ他日乱を起す志あるを知り人を馳せて之を執らへしむ

雜胡　四民外の業をなす胡人（胡人營州の塞内に）雜はり居る者を云ふ

同里閈　同じ所の生れを云ふ閈は里門なり

千秋節　玄宗誕辰の賀日なり

從祖兄　曾祖を同ふするの兄を云ふ

帑藏充牣　金帛の藏に充つることを云ふなり

有赤心耳

書令。李林甫同三品。林甫柔佞多狡數。深結宦官及妃嬪家。伺上動靜。無不知之。由是每奏對常稱旨。

講義 二十二年に張九齡が中書の令と爲り李林甫が同三品の官と爲りたり林甫は柔順にして佞辯多く又狡猾術數あり深く宦官及妃嬪(ひひん)即ち宮女の家に交際を結び上の動靜(様子を云ふ)を伺ひ之を知らざるは無し是れに由りて天子に奏問して對ふる毎に常に上の旨に稱ひたり

○二十四年。幽州節度使張守珪。執敗軍將安祿山送京師。張九齡批曰。守珪軍令若行。祿山不宜免死。上惜其才勇赦之。九齡力爭曰。祿山有反相。不誅。必爲後患。上曰。卿勿以王夷甫識石勒。枉害忠良。竟不誅祿山。祿山本營州雜胡也。初名阿犖山。母再適安氏。故冒其姓。部落破散逃來。狡黠爲守珪所愛。又有史窣干者。與祿山同里閈。亦驍勇。守珪遣入奏事。上賜名思明。

講義 二十四年に幽州の節度使たりし張守珪(けい)が敗軍の大將安祿山を執らへて京師に送る張九齡が其の罪を批して曰く守珪の軍令が若し行はれたるなれば祿山は必らず死罪を免ることの出來ぬものなりと上其の才あり勇あるを惜みて之を赦したり九齡は力め爭ふて曰く律を失ひ師を喪ふ誅せざるべからず且つ其の貌を見るに謀反するの人相あり今ま誅殺せねば必らず後日の患を爲さんと上の曰く卿は昔し王夷甫たるものが石勒の反心あるを識りしと云ふを以て例と爲し枉げて忠貞なる祿山の如きものを害すること勿れとて竟に誅殺せざりしこれぞ實に後日騷乱を醸すの基とは知られたり祿山は本と營州と云ふところの雜胡なり初め名は阿犖(あつらく)山といひしが母が安氏に再たび適く故に其の姓を冒して安と曰ふ部落即ち組下の衆人が破れ散して逃れ來る狡黠(こうきつ)即ちわるがしこくして守珪が爲めに愛せられたり又た史窣于(しりつう)といふものあり祿山と里閈(りかん、村里の門)を同しくす亦た驍勇なり守珪が入りて事を奏問せしむるに上名を思明と賜ふたり

○千秋節。群臣皆獻寶鏡。九齡述前世興廢。爲千秋金鑑錄五卷上之。

講義 千秋の節に群臣が皆な寶物の鏡を獻上す寶鏡を献ずるものは蓋し唐の時の俗古鏡を好尙す故に群臣各々自ら其寶とする鏡を獻じて以て帝の德神明能く妖邪をさけ能く疾病を除き永昌堅固なる此の寶鏡の如きを表するなり張九齡は思ふに鏡を以て自ら照せば形容を見る人を以て自ら照せば吉凶を見ると乃ち前代興廢せしことがらを述べて千秋の金鑑錄五卷を作りて之れを上りたり

○九齡罷。李林甫兼中書令。上在位久。漸肆奢欲。林甫遂得專政。

講義 九齡が官を罷め李林甫が中書令を兼ねたり上は位に在ること日久しく段々奢の欲を肆(ほしいまゝ)にす林甫は遂に政事を專はらにすることを得たり

○二十六年。立忠王爲太子。

講義 二十六年玄宗の第三子忠王を立てゝ太子と爲す

○二十九年。以安祿山爲營州都督。祿山傾巧善事人。上左右至平盧。皆厚賂。歸譽之。上益以爲賢。

講義 二十九年に安祿山を以て營州の都督と爲す祿山は心を傾けて巧にへつらひ善く人に事ふ上の左右のもの平盧城に至れは皆な厚く賄ふ故に歸りて祿山を譽む上は益々以て賢人となせり

○天寶元年。以祿山爲平盧節度使。○二年。祿山入朝。○三年。改年曰載。○以祿山兼范陽節度使。

講義 天寶元年に祿山を以て平盧(今の順天府)の節度使と爲したり○二年に祿山が入朝したり○三年に年の字を改めて載と云へり即ち三年四年といふを三載四載と云ふことなり○祿山を以て范陽(亦た今の順天府)の節度を兼ぬ

○四載。以楊太眞爲貴妃。故蜀州司戶玄琰女也。爲上子壽王妃十年矣。上見其美。令自以其意乞爲女官。且爲壽王別娶。而後納之。遂專寵。

講義 四載に楊太眞と云へる美人を以て貴妃の官と爲す妃は故の蜀州の司戶玄琰(えん)が女なり上の子の壽王の妃たること十年なり初武惠妃薨じ後宮に意に當るものなし或る人云ふ壽王の妃楊氏の美は絕世無雙なりと上ハ其美なるを見て自から貴妃の意を乞ひ女官と爲らしめ壽王の爲めには別に女を娶り而して後に之を納る大眞は肌膚豐艶にして性頴悟善く帝の意を迎ふ遂に寵愛を專らにしたり

○六載。以祿山兼御史大夫。祿山請爲楊貴妃兒。九載。賜祿山爵東平郡王。兼河北道採訪處置使。祿山入朝。楊釗兄弟姊妹。皆往戲

赤心とはまごゝろなりてこれは誠心の外一物もなきを云ふなり

揣知　祿山の意中をはかり知ること

噫嘻我死矣　噫嘻は心の悶せる時の聲なり我れ死なんとは終には罪死せらるゝべしと思ふなり

掩蔽聰明　聰は耳なり明は目なり玄宗の耳目をおひかくして事の知れぬやうにするを云ふ

立仗馬　仗は儀仗なり宮の制每日尙乘官飛龍厩龍馬は匹を出だして左右に立ちて正殿の側宮門外に列せしむ之れを南衙立仗馬と名つけたり

執鞚　鞚は玉轡に馬勒とありくつわの事也

烟塵千里　人馬のけだてる土ほこりが長くつゞき烟のごときを云ふ

不識兵革　大平がつゞきしゆへに武器を見たることなくめづらしきなり

水迎之。釗貴妃之從祖兄也。得出入禁中。先是判度支屢奏。帑藏充物。上帥群臣觀之。由是視金帛如糞土。賞賜無限。賜釗名國忠。**講義**（六載に祿山を以て御史大夫の役を兼ねしむ祿山は上に請ふて貴妃の子と爲る九載に祿山に爵を東平郡王と賜ひて河北道の採訪處置使を兼ねしむ祿山が入朝するに楊釗（せう）兄弟や姉妹等皆な戯水に往きて之れを迎ふ釗は貴妃の從祖兄（またいとこ）なり宮禁の中に出入するを得たり是より先き判度支が度々奏上するに帑藏に金帛が充ち物（みつ）てりと上は群臣を帥ゐて之を視る是に由りて金帛を見ること糞土の如く賞し賜ふこと限りなし釗に名を國忠と賜ひたり）

○十載。爲安祿山起第。窮極華麗。上日遣諸楊與之游。祿山體肥大。上嘗指其腹曰。此胡腹中何所有。對曰。有赤心耳。祿山入禁中。先拜貴妃。上問其故。曰。胡人先母而後父。祿山生日。賜予甚厚。後三日召入。貴妃以錦綉爲大襁褓。使宮人以綵輿舁之。上聞歡笑問故。左右以貴妃洗祿兒對。上賜妃浴兒金銀錢。盡歡而罷。自是出入宮掖。通宵不出。頗有醜聲聞于外。上亦不疑。又以祿山兼河東節度使。李林甫與祿山語。每揣知其情先言之。祿山驚服。每見盛冬必汗。謂林甫爲十郎。既歸范陽。其下自長安歸。必問十郎何言。得美言則喜。或但云語安太夫。須好點撿。卽曰。噫嘻我死矣。**講義**（十載に祿山が爲めに第即ち屋敷を起す立派に華やかなることを窮め極め尽せり上は毎日諸の楊氏をして之れと遊ばしむ祿山の身体は肥大にして腹がたれて膝を過ぐ上は嘗て戯はむれて其腹を指して曰く此の胡の腹中には何の有る所ぞ乃ち斯くは其大なることはと（祿山は胡の人故に胡と云ふ）對へて曰ふに何も外にあるものはなし但だ赤き誠の心があるばかりと祿山禁中に入れば上貴妃と共に坐す先づ貴妃を拜す上其故を問ふ對へて曰く胡（えびす）の人は母を先きにして父を後にすと祿山が誕生日に賜予（しよくだされもの）の物品甚だ厚し後ち三日目に召し入る貴妃は錦を以て大なる襁褓（むつき）を造り祿山をつゝみ宮人をして綵輿とて五色の糸を以て飾りたる輿（かご）を以て之を舁（かく）かしめたり上ハ後宮の歡び笑ふ聲を聞きて何事ぞと問ふ左右のものが貴妃は祿兒を洗ふと云ふて答へたり上自ら往て之を觀て喜び妃に兒を浴するの費用として金銀錢を賜ひ復た厚く祿山に賜ひ歡樂を尽してやむ是より祿山ハ宮掖に出入し夜もすがら出でず醜聲が頗る外に聞ゆるあれど上は亦た疑はず又祿山を以て河東の節度使を兼ねしむ李林甫が祿山と語るごとに祿山の意中を揣（はかり）知りて先づ之を言ふに祿山は驚きて感心す林甫を見るごとに寒中と雖とも必らず汗を出だす林甫を謂て十郎とせり既にして范陽に歸る其の下のものが長安より歸れば必らず十郎は何を言ふや美き言を聞き得れば則ち喜ぶ或はたゞ云ふに安大夫に語れ須らく自分の身を点撿し謂へよと云ひしと聞きて則ち應へて曰ふに噫々（あゝ）我ハ殺さるであらうと）

○十一載。李林甫卒。林甫媚事上左右。迎合上意。以固寵。杜絕言路。掩蔽聰明。嘗語諸御史曰。不見立仗馬乎。一鳴輒斥去。妒賢嫉能。排抑勝己。性陰險。人以爲口有蜜腹有劍。每夜獨坐偃月堂。有所深思。明日必有誅殺。屢起大獄。自太子以下皆畏之。在相位十九年。養成天下之亂。而上不悟。然祿山畏林甫術數。故終其世未敢反。是歲國忠爲相。言祿山必反。且曰。試召必不來。**講義**（十一載に李林甫が卒したり上ハ晩年に自ら承平をたのみ深く禁中に居りて專ら聲色を以て自ら娛しめ悉く政事を林甫に委せり林甫は上の左右のものに媚び事へ上の意を迎へ合して以て寵愛を固ふす諫の路を杜（ふさぐ）ぎ絶ち上の聰明を蔽ひかくす嘗て諸の御史に語りて曰く諸君天子の行列に立つ馬を見ずやと一度鳴けば輒ち斥け去らる夫れと同じく一たび諫めるものあれば直に位を斥けられんと賢人を妒み才能ある人を嫉む自分より勝るものを推し除け推さへ性質は陰深にして險惡なり人が以て林甫は口に蜜あり腹に劍ありとなす每夜偃月堂に獨坐し深く思慮する所あれば明日必らず誅殺する所あり屢々大なる訟獄を起す太子より以下の人々ハ皆な之を畏る宰相の位に在ること十九年なり天下の禍乱を醸し成す而して上は悟らず然れども祿山ハ林甫の術數を畏る故に林甫の世を終るまでは敢て反せず是の歲に國忠が宰相となり祿山は必ら

臊羯狗（腥ハ臊なり羯ハ羊なり狗は犬なりこれ畜生奴と云ふにおなじ）

咼（肉をそぎとりて骨に至るを云ふ）

留後（留後は官の名にて恰かも留守の如き者也）

馬嵬之命（位を傳へんと欲すとの命を宣告するを云ふ）

牋五上（太子諸王に表をたてまつるを上牋と曰ふ肅宗かたく卽位を辭す故に五たび上牋しねんごろ

（ず謀反せんと云ふ且つ曰ふに試みに祿山を召べ必らず來らぬであろうと云へり）○十三載。祿山聞召即至。上由是不信國忠之言。加祿山左僕射而歸。○十四載。祿山請以蕃將代漢將。上猶不疑。表請獻馬三千匹。每匹二人執鞚二十二將部送河南。上始疑之。遣使止其獻。祿山踞床不拜。曰。馬不獻亦可。十月當詣京師。使還亦無表。是冬祿山遂反。發所部兵及奚契丹。凡十五萬。發范陽。引而南。步騎精鋭。煙塵千里。時承平久。百姓不識兵革。州縣皆望風瓦解。進陷東京。【講義】（十三載に祿山が天子の召を聞きて即ち至り上を華清宮に見て泣て曰く臣は本と胡人陛下の寵愛を以て此に至れり國忠の爲めに疾(にくむ)まる臣の死すること日なけんと帝之を憐み賞賜すること巨万是によりて國忠の言を信ぜず祿山に左僕射(さぼくや)の役を加へて歸らしむ○十四載に祿山が蕃將即ち胡人の將を以て漢の將と代へんと請ふに上猶は疑はず上表して請ふて馬三千匹を獻ず一匹ごとに二人が控(こう、くつわ)を執り二十二の部將が河南まで送り來る上ハ始めて之を疑ひ使者を遣はして其獻上物を止めしむ祿山ハ床に踞し腰をかけて拜禮せずして曰く馬は獻上せずとも亦可なり十月には何れ當さに京師に詣るべしと使が還る時にも亦上表することなし是の冬に果して祿山は遂に反す部下の兵士及び奚(けい)(匈奴の別種)契丹(きつたん)(東胡)の兵を發す凡そ十五万人なり范陽を發し兵を引きて南す步兵騎兵が精しく鋭く烟や塵が千里ほど續きたり時に承平にして天下に兵乱なきこと久しく續き百姓が兵革(いくさどうぐ)のことは少しも識らず州縣は皆な風を望んで瓦の如く解け散ず遂に進んで東京を陷れたり）○平原太守顏眞卿。起兵討賊。上始聞河北從賊。歎曰。二十四郡。曾無一人義士邪。及眞卿奏至。大喜曰。朕不識眞卿何狀。乃能如此。【講義】（太原の太守の顏眞卿が兵を起して賊を討す上ハ初めて安祿山が反し河北が賊に從ふと聞き歎息して曰ふに河北二十四郡又曾て一人の義士なく皆な賊に降りしやと而して眞卿の奏文至るに及んで大に喜んで曰ふに朕は眞卿が何如なる人なるを識らず乃ち能く斯の如く勤王すると時に朝廷には兵を諸道より徴せども皆至らず眞卿は勇士を募り

に請ふなり）

冊寶（冊は玉冊とて譲位の冊書なり寶は傳國の璽を云ふ）

躁暴（病にかゝりくるしみ氣色のあら〳〵しくあらだつを云ふなり）

羅雀（雀をあみにて取る羅ハ(あみ)と訓す）

堀鼠（地の鼠をほりとるなり）

西向（上皇新帝ともに西の方蜀の成都と鳳翔にあり故に西向すなり）

厲鬼（しにがみと云）

（旬日にして万餘人に至る諭すに祿山を討つを以てし繼ぐに涕泣を以てせり士皆感憤して之れに應ぜり）○常山太守顏杲卿。起兵討賊。河北諸郡皆應之。【講義】（常山の太守の顏杲卿(顏眞卿の從兄なり)が兵を起して賊を討ず河北の諸郡が皆な之れに應ぜり）○十五載。安祿山僭號稱大燕皇帝。○賊將史思明。陷常山。執顏杲卿送洛陽。祿山數其反已。杲卿曰。我爲國討賊。恨不斬汝。何謂反也。臊羯狗。何不速殺我。祿山大怒。縛而咼之。比死罵不絕口。【講義】（十五載に安祿山が號を僭して大燕皇帝と稱せり○賊の將史思明が常山を陷れ顏杲卿を執らへて洛陽に送る祿山之を見て曰く我れ汝を奏して判官と爲し超えて太守に至れり何の故にか恩を忘れて己れに反せるやと責む杲卿が曰く我れハ國の爲めに賊を討ず惟だ汝を斬らざるを之れ恨むのみ何ぞ反すと謂はんやてゝを腥き畜生よ何ぞ速かに我を殺ろさゞるやと祿山は大に怒かり縛りて之れが肉をそぎとりしが死に至るまでも罵りて口を絕たざりし）○眞源令張巡。帥吏民哭於玄元皇帝廟。起兵於雍丘討賊。【講義】（眞源の令の張巡が吏民を帥ひ連れて玄元皇帝の廟に哭泣し兵を雍丘に起して身士卒に先ち直ちに敵陣を衝き大小三百戰大に賊を討ち破り軍聲大に振へり）○朔方節度使郭子儀。河北節度使李光弼。與賊將史思明戰。大破之。首復河北數郡。副元帥哥舒翰。與賊戰大敗。麾下執翰降賊。賊遂入關。上出奔。次于馬嵬。將士飢疲皆憤怒。殺楊國忠等。及逼上縊殺貴妃。然後發。父老遮道請留。上命太子慰撫之。父老擁太子馬。不復得行。使皇孫俶白上。上曰。天也。使喩太子曰。汝勉之。西北諸胡。吾撫之素厚。汝必得其力。且宣旨欲傳位。太子至平涼。朔方留後

ふに同じ

元年（グワンネン）　是歳また載を改めて年となす

九節度（キウセッド）　朔方の郭子儀、淮西の魯炅、興平の李奐、滑濮の許叔冀、鎭西北庭の李嗣業、鄭蔡の李廣琛、河内の崔光遠、河東の李光弼、澤路の王思禮を云なり

西内（セイナイ）　大明宮を以て東内となし大極宮を以て西内となし興慶宮を南内となす

御樓（ギョロウ）　天子の臨む所を御と曰ふ所謂天子の

杜鴻漸。迎入靈武。請遵馬嵬之命。牋五上。乃許。尊上爲上皇天帝。上在位四十五年。改元者三。曰先天。開元。天寶。太子立。是爲肅宗皇帝。講義 朔方の節度使の郭子儀河北の節度使李光弼が賊の將史思明と戰爭して大に之を破る第一番には河北の數郡を取り返す副元帥の哥舒翰（かじよかん）が賊と戰爭して大に敗る麾下の火拔歸仁等翰を執らへて賊に降服す賊は遂に關に入る上は出奔して馬嵬（ばくわい）の驛にやどる將士卒は飢へ疲れて皆な憤怒す陳玄禮は禍は楊國忠に由ると云ふを以て楊國忠等を殺す而して猶ほ喧嘩せり上高力士をして之を問はしむ玄禮曰く國忠反す貴妃宜しく奉供すべからずと帝曰く貴妃深宮に居る安んぞ國忠の反を知らんや力士曰く貴妃誠に罪なし然れども貴妃上の左右に在る將士等之を首しめて殺す而して發足す年よりのものなと道を遮ぎり留らんことを請ふ上は太子に命じて之を慰め撫でしむ年よりだちは太子の馬を擁して復た行くことを得ざらしむ皇孫俶をして上に白さしむるに上の曰く天命なりと太子に喩さしめて曰く汝は之を勉めよ西北の諸胡等は吾れ之れを撫で安んずること素より厚し汝は必らず其助力を得ん且詔ありて位を傳へんと欲すと太子は平涼に至る朔方の留後官の杜鴻漸が靈武に迎へて入る馬嵬にての命令に遵はんと請ふ其の牋書を五たびも上りて乃ち許す上を尊んで上皇天帝と爲せり上は位に在ること四十五年にて年号を改めしこと三つ曰く先天開元天寶と太子立つ是れを肅宗皇帝とす

〔肅宗皇帝〕初名璵。改名亨。自忠王爲太子。二十年而遇祿山之亂。至是即位。京兆李泌。自幼以才敏聞。上在東宮。嘗與泌爲布衣交。遣使召之。謁見於靈武。事無大小與之謀。上皇至成都。遣册寶如靈武。講義 肅宗皇帝は初の名は璵（よ）と曰ひしが後に亨（こう）と改元す忠王より太子となる二十年にして祿山の亂に遇ふ是に至りて位に即く京兆の李泌（ひつ）が幼年より才氣に敏きを以て名が聞へたり上は東宮にありて太子たりし時嘗て泌と布衣の交をなし上下の差別なかりしが使者を遣はし之を召ばしめ靈武に謁見し事は大小の別ちなく之れと相談せり上皇は成都に至り册寶を遣はして靈武に如かしむ○遣使徵兵於回紇。○招討節度使房琯。與賊戰于陳濤邪。琯用車戰大敗。講義 使者を遣はして兵を回紇（こつ）に徵したり○招討節度使の房琯（くわん）なるものが賊と陳濤に戰爭す琯は車戰を用ひて大に敗北したるなり

樓にみゆきするを云ふなり

葷（クン）　禮記に曰く辛菜なりと世俗に曰ふ所の肉食のことなり

辟穀（サクコク）　辟は避と同じことにて食物を食はぬ所謂絶食のことなり

少子（ショウシ）　清朝

八道行營（ハチドウノコウエイ）　即ち前の九節度なり而して光弼は子儀に代て朔方の節度を兼ぬ故に八道の行營とは云ふなり

登遐（トウカ）　天子の崩御するを云ふなり

○至德二載。安慶緒殺祿山。祿山自起兵以來目昏。至是不復見物。又病疽躁暴。欲以嬖妾子代慶緒爲嗣。慶緒使人弑之。而自立。祿山僭號僅一年餘。講義 至德二年に安慶緒が祿山を殺したり祿山は兵を起してより以來目が昏らみ是に至りて復た物を見ることが出來ぬようになりたり又た疽といふ腫物を病んで心が躁暴となりあらく〱しかりし氣に入りの妾の子慶恩を以て慶緒に代へて世嗣と爲さんと欲す慶緒は懼れて嚴莊なるものと謀り人をして之れを弑せしめ而して自分に立てり祿山が僭稱して居ること僅に一年餘なり○上至鳳翔。回紇遣子葉護。將精兵四千人至。天下兵馬都元帥廣平王俶。副元帥郭子儀。將朔方等軍。及回紇西域之衆。發鳳翔至長安。擊賊。賊大潰。大軍入西京。俶留鎭撫三日。引軍東出至洛陽。與回紇夾擊。賊大敗。遂復東京。安慶緒走保鄴。講義 上は鳳翔に至る回紇は子の葉（せう）護を遣はしすぐりたる兵士四千人に將として至る天下の兵馬都元帥の廣平王俶と副元帥の郭子儀とが朔方等の軍及び回紇西域の衆を率ゐて鳳翔を發して長安に至り賊を擊つ賊は大に潰ゆ大軍が西京に入る俶は留りて鎭撫すること三日にして軍を引き連れ東に出で洛陽に至る回紇と夾み擊つ賊は大に敗る遂に東京を取り返す安慶緒が走りて鄴（げう）を保ちたり

○賊將尹子奇陷睢陽。張巡許遠死之。巡先守雍丘。移軍寧陵。屢破賊。既而入睢陽。與遠共守。屢却賊。食盡。或欲棄城。巡遠謀曰。睢陽江淮之保障。若棄之。賊必長驅。是無江淮也。不如堅守以待救。食茶紙。盡。遂食馬。馬盡。羅雀掘鼠。雀鼠又盡。巡殺愛妾以食士。四萬人僅餘四百。終無叛者。賊登城。將士困病不能戰。巡

苟冀無事　たゞく暫時の間にても無事平穏なれかしと冀ふを云ふ也

不以時奏　其の時直ちに入寇の事を奏聞せざるなり

致上狼狽　代宗がうろたへ遑に出奔したるを云ふなり

中外切齒　朝野のものが齒をくひしばり元振の不屆千萬なるを怒りしなり

擁兵不

西向再拜曰。臣力竭矣。生既無以報陛下。死當爲厲鬼以殺賊。城遂陷。巡遠被執。南霽雲雷萬春等。三十六人。皆被殺。講義（賊の大將伊子奇等が睢(すい)陽を陷るゝ張巡許遠の二將が之に死せり巡は先きに雍丘の土地を守り軍を寧陵に移す度々賊を破る既にして睢陽に入る遠と共に守りて度々賊を却(しりぞ)く食物が已に盡きたれば或人が城を棄てんと欲す然るに巡と遠と謀りて曰く睢陽の地ハ江淮の保障となるべき所なり若し之れを棄てるならば賊は必らず長驅して都に入らん果して然らば是れ江淮の地なきと一般なり如かずそれより堅く守り以て救ひの兵の來るを待たんにはとそれより茶や紙を食すそれも盡きたり遂に馬を食ふ馬も盡きたり雀を網で取り鼠を堀り取りしに雀鼠も又た盡き士多く饑死しければ巡は愛妾を出して曰く吾は自ら肌をさき以て衆人に喰はしめざるを恨む寧ろ愛妾を惜みて士の飢ゆるを坐視するに忍びんやと乃ち殺して以て士卒に食はしむ四萬人の內僅に四百人を餘す然れども終に叛くものなし時に許叔冀は譙郡に在り尙衡は彭城に在り賀蘭進明は臨淮に在り皆な兵を擁して救はず城中は日に窘まる巡は乃ち南霽雲をして圍を犯して出で急を臨淮に告げしむ進明ハ霽雲の勇壯なるを愛して食を具へて之を延く霽雲泣て曰く睢陽の人は食せざること月餘なり霽雲は雖(たと)へ獨り食はんと欲するも咽を下らず大夫は坐ながら强兵を擁して曾て災を分ち患を救ふの意無し豈に忠臣義士の爲す所ならんやと因て一指を嚙み落して以て進明に示して曰く霽雲は既に主將の意を達すること能はず請ふ一指を留めて以て信を示して歸り報せんと座下皆爲めに泣く而して賊の圍むこと益々急にして城に登るに將士は困み病んで戰爭すること能はず巡は西の方に向ひ再拜して曰ふに臣が力盡きたり生きて既に以て陛下に報ゆるなし死せば當さに厲鬼となりて以て賊を殺すべしと城は遂に陷る巡遠の二人は執らへらる南霽雲及び雷萬春等三十六人皆な殺されたり）○上皇發蜀郡。還西京。○乾元元年。命郭子儀等九節度。討安慶緒。講義（上皇は蜀都を發して西京に還れり○乾元元年に郭子儀等九人の節度使に命じ安慶緒を討伐せしむ）

○二年。史思明引兵救慶緒。九節度之兵潰于鄴。思明殺慶緒。還范陽僭號。講義（二年に史思明が兵を引て慶緒を救ふ九節度使の兵が鄴に於て敗れ潰ゆ思明は慶緒を殺し范陽に還り仍ほ僭号して大燕皇帝と稱せり）○李光弼代郭子儀。爲朔方節度使兵馬元帥。光弼號令嚴整。始至。號令一施。士卒壁壘。旗幟精明皆變。與史思明戰。屢敗之。講義（李光弼が郭子儀に代りて朔方の節度使兵馬元帥となる光弼は號令が嚴重に整ふ始めに朔方に至る時に一度號令を施せば士卒や壁壘や旗幟の色までも皆な變ずる位なり思史明と戰爭して度々之れを破りたり）●

朝　軍兵を擁し山に發ひ居りて朝廷の離發に赴かざるを謂ふ乃ち代宗が陝州に朝せざるを云ふなり

詔因而授之　●因て懷玉をして平盧の節度使たらしむ後ち凡そ詔を領す因て以て鎭を領し因て之を授く皆な之れに倣ふなり

僕固懷恩　僕固は姓懷恩は名なり

進人　牙將李先瓚(さん)をやるなり

令公　郭子儀時に中

○上元元年。太僕卿李輔國。遷上皇於西內。上皇愛興慶宮。自蜀歸即居之。多御樓。父老過者。往往瞻拜呼萬歲。上皇常於樓下。賜以酒食。又嘗召將軍郭英乂等。上樓賜宴。輔國言。上皇居興慶。日與外人交通。陳玄禮高力士謀。不利於上。數啓上。遷之。不許。乘上不豫。率衆劫遷。上皇日以不懌。因不茹葷。辟穀寢以成疾。講義（上元元年に太僕卿の李輔國が上皇を西內に遷す上皇が興慶宮を愛し蜀より歸りて即ち之に居る多く樓上に御す故に老人たちの過ぎ通行するものが往々に樓上を見あげて拜し聖壽萬歲と呼び祝ひたり上皇は常に樓の下に於て賜ふに酒や食物を以てす又た嘗て將軍の郭英乂(かい)等を召して樓に上らせ酒宴を賜ひたり時に輔國が言ふに上皇は興慶宮に居り日々外の人と交り通じ陳玄禮や高力士が上に不利益なることを謀るとて度々上に啓し申上げて之れを遷さんとすれども許されず上の不豫即ち御病氣に乘じて輔國が命を矯めて兵衆を率ひて劫(おびやか)して上皇を迎へて西內に遷せり上皇は日に以て懌ひず因りて葷(くん)即ち肉を茹はず五穀を避(さ)け段々病をなす）

○二年。史朝義殺史思明。思明愛少子而惡朝義。因其敗軍欲斬之。朝義使人射殺思明。而自立。講義（二年に史朝義が父の史思明を殺したり思明は少子を愛して朝義を惡む其の敗軍せし罪に因りてこれを斬らんと欲す朝義が駱悦と云ふ人をして思明を射殺さしめ而して自分に立ちたり）○李光弼爲大尉。統八道行營。鎭臨淮。講義（李光弼が大尉となり八道の營所を統轄して臨淮を鎭撫せり）○寶應元年。郭子儀知諸道節度行營。兼興平定國等軍副元帥。復入朔方。講義（寶應元年に郭子儀が諸道の節度行營に知事となり興平定國等の軍の副元帥を兼ね復た朔方に入りたり）○上皇崩於西內。傳位後七年也。壽七十八。○上寢疾。聞上皇

書令たり故に号して令公と呼ぶ

藥葛羅 回紇（くわいこつの）元帥乃ち總大將なり

兩京 長安と洛陽の二つの都を云ふ

鼎覆餗 易の鼎の卦の爻辭に曰く鼎足を折る公の餗を覆すと餗は君にたとへ鼎の三足ハ三公にたとふ三公不德なれば足折れ鼎中のものをくつがへす如く君位危きを云ふ也又易の正義に曰く餗は糁なり

登遐。轉劇遂崩。在位七年。改元者四。曰至德。乾元。上元。寶應。初張皇后與李輔國相表裡。專權用事。晩更有隙。上疾篤。后召太子謂曰。輔國久典禁兵。陰謀作亂。不可不誅。太子恐震驚上體。不可。輔國聞其謀。上崩。殺后而後引太子立之。是爲代宗皇帝。

講義 上皇は西内に崩御す實に位を傳へて後ち七年目なり壽七十八と云ふ○上が病氣づきたり上皇の崩御せられしことを聞きます〱病が甚しくして遂に崩御す位に在ること七年にして年を改むる四つ曰く至德乾元、上元、寶應と初め張皇后が李輔國と相互に表となり裡となり威權を專にして事を用ふ晩年に至りて中わしくなりたり上病氣愈々危篤なり后は太子を召して謂て曰く輔國ハ久しく禁中の兵を典どり陰かに乱を爲さんと謀る誅殺せねばならずと太子が上の休を震はし驚かさんことを恐れて可（きく）かず輔國ハ其の謀を聞き居たり上の崩御するに及んで后を殺し而して後ち太子を引きて之れを立つ是を代宗皇帝と云ふなり

〔代宗皇帝〕初名俶。封廣平王。爲元帥定兩京。封楚王。改成王。已而爲太子。改名豫。至是即位。誅李輔國。以雍王适爲天下兵馬元帥。率諸將及回紇援兵。討史朝義。大敗之。賊將李懷仙斬朝義以降。以賊將張志忠鎭成德軍。賜姓名李寶臣。薛嵩鎭相衛邢洺貝磁等州。田承嗣鎭魏博德滄瀛等州。李懷仙鎭盧龍。朝廷厭苦兵革。苟冀無事。因而授之。諸鎭自爲黨援。河朔敢抗朝命。始此。

講義 代宗皇帝は初めの名を俶と曰ふ廣平王に封ぜられ元帥（げんすい）即ち大將となり東西の兩京を定む初め楚王に封ぜられ復た成王に改めらる已にして太子となり豫と改名す是に至りて位に即き李輔國を誅す雍王の适（くわつ）を以て天下の兵馬元帥と爲す諸將及び回紇の援兵をひきつれて史朝義を討じ大に之れを敗りたり賊の大將李懷仙なるものが朝義を斬りて以て降參せり賊將の張志忠

周禮天官醢人糁食の註に糁食は菜餗蒸なりと疏に曰く今の煮菜を蒸菜と云ふが若とし と

胡椒 味ひ辛くして性ハ温なり狀は鼠李の如し西戎及び南海諸國に生ず菜に入れるものなり

斛 石と同じ十斗を斛と曰ふなり

騶從甚盛 騶從は車馬及び隷卒を云ふ甚盛は其衆多なるを云ふ

除官 除ハ舊官を除きて

を以て成德軍を鎭撫せしめ姓名を李寶臣と賜へり薛嵩（せつすう）が相、衛、邢、洺、貝、磁等の州を鎭撫す田承嗣が魏、博、德、滄、瀛、等の州を鎭撫す李懷仙が盧龍を鎭撫す此の時朝廷は兵事を厭ひ苦んで暫らくにても無事なることを冀ふ因て之れに鎭撫を授け與へり諸鎭は各々徒黨して援助をなす河朔の土地が敢て朝廷の命令に抗敵することは此れより始りたり

○廣德元年。吐蕃入寇。上出奔陝州。吐蕃入長安。關內副元帥郭子儀擊之。吐蕃遁去。○二年。流宦者程元振。元振初附李輔國。輔國死。元振專權。自恣尤甚。忌諸將有大功者。皆欲害之。吐蕃入。元振掩蔽不以時奏。致上狼狽。中外切齒。至是流溱州。

講義 廣德元年に吐蕃が入りて寇せり上ハ陝州に出奔したり吐蕃が長安に入る關內の副元帥の郭子儀が之れを擊つ吐蕃は遁れ去りたり○二年に宦官の程元振を遠方へ流したり元振は初め李輔國に附隨せしに輔國が死して元振が威權を專らにし自から恣まゝなること尤も甚し諸將の大功あるものを忌み惡んで皆之れを害し殺さんと欲す吐蕃が入る時に元振が掩ひ蔽くして其の時を以て奏聞せず上の狼狽することを致せり依て中外のもの皆齒をくひしばりて憎きものと思へり是に至りて溱州へ流したり

○臨淮王李光弼卒。上之幸陝。光弼不至。上撫之加厚。素與子儀齊名。及在徐州。擁兵不朝。麾下諸大將不復尊畏。光弼愧恨。成疾而死。○永泰元年。平盧將李懷玉。逐節度使侯希逸。而自知留後。詔因而授之。賜名正已。

講義 臨淮王の李光弼が卒せり初め上の陝州に行幸するや光弼すでに大功あり元振等之をねたみ讒を搆ふ光弼之を聞きて逃疑して至らず然かるに上は之を慰する加（ます〱）厚し素より郭子儀と名を齊ふす光弼は軍を治ることを嚴肅に認定て而して後に戰ふ常に能く小を以て衆を制す天下其威名に服す故に世に李郭と稱す徐州に在るに及び兵を擁して入朝せず旗下の諸大將は復た尊び畏れず光弼は愧ち恨んで之れが爲めに病を作して死せり時に廣德二年の秋七月なり○永泰元年に平盧の將の李懷玉が節度使の侯希逸を追ひ退け而して自分に留後に知れたり詔ありて因りて之れに其の官を授づけ名を正已と賜ふ

○叛將僕固懷恩。誘回紇吐蕃入寇。召郭子儀。屯涇陽。

新官に還る
涉親故 親族及び故舊に及ぼすことを云ふ
兩稅法 六月十二月の二度に稅を納めるの法なり
版籍寖壞 戶籍の法が何時となくみだれるを云ふ寖は漸くと云ふが如し
至德兵起 至德は肅宗の年號安祿山史思明の二賊が兵を擧げて反せしを云ふ
追趣取辨

懷恩道死。二虜爭長不睦。子儀遣人說回紇。欲共擊吐蕃。先是懷恩欺回紇。謂子儀已死。使至。回紇不信曰。郭公在可得見乎。使還報。子儀與數騎出。使人傳呼曰。令公來。回紇大驚。藥葛羅執弓矢立陣前。子儀免冑釋甲而進。諸酋長相顧曰。是也。皆下馬羅拜。子儀亦下馬。執手與之語。取酒相與誓約而還。吐蕃聞之夜遁。諸軍與回紇共追。大破之。**講義**叛將の僕固懷恩なるものが回紇や吐蕃を誘き入りて寇す郭子儀を召して涇(けい)陽に屯せしむ懷恩は途中にて死せり回紇吐蕃は長たることを爭ひ睦しからざりければ郭子儀ハ之を知りて乃ち人をして回紇に說諭せしめ共に吐蕃をうたんと欲すてれより先き懷恩が回紇を欺き子儀は已に死すと謂ふ然かるに是にも至り使者が至りしかば回紇は之を信ぜずして曰ふに郭公が生きて居るならば相見ることを得べきや使者が還りて其由を報知せしかば子儀が曰ふ今衆寡敵せず力を以て勝ちがたし昔し回紇と契約甚だ厚し如かず身をぬきんで往て之に說かば戰はずして下すべきなりと郭晞が馬を叩いて諫て曰ふに大人は國の元帥なり奈何ぞ身を以て虜の餌とならんと子儀が曰ふに今戰いゝ則ち父子倶に死して而して國家危し往て至誠を以て之れと唱はゞ或は幸にして而して從はるれば則ち四海の福なり然らずんば則ち身沒して而して家全しと鞭を以て其手をうち曰く去れと遂に數騎と出づ人をして傳へ呼ばしめて曰く郭公が來ると回紇は大に驚く藥葛羅が弓矢を執り陣前に立ちしかば子儀は冑(かぶと)をぬぎ甲(よろひ)をすてゝ進めりもろ〳〵の酋長が相顧みて曰ふに是れが郭公なりと皆馬を下り羅列して拜禮す子儀も亦馬より下り藥葛羅の手をとりて之と語り酒を取り寄せ與に誓ひて約して還る吐蕃は之れを聞きて夜中に遁る諸軍は回紇と共に追ひつめて大に之れを破れり

○三年。幽州將朱希彩。殺李懷仙。詔因以希彩領鎮。**講義**三年に幽州の將朱希彩(しゆきさい)が李懷仙を殺す詔して因て希彩を以て鎮を領せしめたり

○大曆五年。誅宦者魚朝恩。朝恩在肅宗時。嘗爲觀軍容使。觀軍容之名始此。九節度相州之敗其時也。至廣德初。爲天下觀軍容宣慰處置使。專總禁

せりたてとりたてさつそくの用辨となすなり
常準 則なり又例なり
下戶不勝
困弊 貧民は困苦疲弊にてこらへえぬを云ふなり
所用 官吏の俸給を云ふなり
上供 天子の御入用を云ふ
賦於人 人每にわりつける
主容 元居を主と爲し寄居を客となす

兵。勢傾朝野。大曆初。判國子監。升座講鼎覆餗。以譏宰相。王瑨怒。元載怡然。朝恩曰。怒者常情。笑者不可測也。朝政有不預者。輒怒曰。天下事有不由我者邪。上聞之不懌。載乘間奏其專恣不軌。遂誅之。**講義**大曆五年に宦官の魚朝恩を誅せり朝恩は肅宗の時に在り嘗て觀軍容使の役と爲る軍容の名は此の時より始むる九節度が相州にて敗れたれば丁度其の時なり廣德の初めに至りて天下の觀軍容宣慰處置使と爲り專ら禁中の兵を總ぶ其の勢が朝野を傾く位なり大曆中の初めに國子監の判事たり易を取りて座に昇り鼎が餗を覆す(解上にあり)と云ふ所を講じて以て宰相を譏りしに王瑨(しん)は怒り元載は怡然(いぜん)と喜び居たり朝恩が曰ふに譏られて怒るは情の常なり笑ふものは其の慮測るべからずと朝廷の政事に自分の預からざるものあれば輒ち怒りて曰ふに天下の事務が吾によらずしてよきものありやと上は之れを聞きて懌びす載は上の閑暇に乘じて朝恩の專はら恣まゝにして不軌(ふき)即ち不法なることを奏問し遂に之れを誅せり

○七年。盧龍將殺朱希彩。而以朱泚領鎮。詔因授之。**講義**七年に盧龍の大將が朱希彩を殺し朱泚(せい)を以て鎮を領せしむ詔して因て朱泚に鎮を授けられたり

○九年。朱泚以弟滔領鎮。而入朝。**講義**九年に朱泚が弟の滔(たう)と云ふものを以て鎮を領せしめて入朝せり

○十二年。有告元載圖不軌者。案問賜死。籍其家。胡椒至八百斛。他物稱是。**講義**十二年に元載が不軌を圖り反逆すと告ぐる者ありよく案問吟味して死を賜ひ其家財一切を官の籍册に斥けとめて上へ取り上げたりしに胡椒(こしよう)といふ藥がありて其の多きこと八百斛(こく)にも至る其の外の物も之に準じて多く有りたり

○以楊綰常袞同平章事。綰素淸儉。制下。郭子儀方宴。減坐中聲樂五分之四。京兆尹黎幹。騶從甚盛。卽日省之。止存十騎。綰相三月而卒。上痛悼之曰。天乎。不欲朕致太平。何奪朕楊綰之速也。**講義**楊綰(くわん)と常袞(こん)とを以て同平章事と爲す綰は其の性もとより淸節に節儉なる人なり制卽ち命令が下るとき郭子儀が方さに酒

以見居爲簿　現在の住所につき人別の籍を編す見は現と同じ

在所云々　も賣り去る所の處にして稅を納めて賦數の如きを罰ふなり

雜徭　徭は賦役なり、絹、布、帛、繒等の國産を出だすを云ふ一ならず

治財計　財をふやし利をおこすに功者なること

度支　天下の租賦物錢計の出づる所を掌りて之を支調するの官なり

鹽鐵　鹽湖鐵礦のもとじめ

轉運　貨物の通轉率行なり

漕運　漕は船運運は陸運なり

斡　運なり卽ちとりあつかふこと

希炎旨　楊炎の心中を一察するなり

盧杞　德宗杞に郭子儀賓客を見るごとに姬妾を側にはなさず杞嘗て往て疾を問ふ子儀悉く侍妾を屛け

（宴す坐中の音樂五分の四を減らす京兆の尹の黎幹は趨從の者甚だ盛んなりしに其の卽日に之れを省ぶきたゞ十騎を存せり是れ皆な綰を懼るゝ故なり綰は宰相たること三月にして卒せり上は之を痛み悼んで曰ふに天命なるか天は朕が太平を致すことを欲せざるなり何ぞ朕が楊綰を奪ふことの速かなるやと）○十四年。田承嗣卒。姪悅代之。○淮西將李希烈。逐節度使。詔因以鎭授希烈。講義（十四年に田承嗣が卒して姪の悅が之れに代る○淮西の將の李希烈が節度使の李忠臣を逐ひ退けたり詔して因りて淮西の鎭を以て希烈に授けしむ）○上在位十八年。改元者三。曰廣德。永泰。大曆。崩。太子立。是爲德宗皇帝。講義（上が位に在すこと十八年にて年號を改めしこと三つ廣德、永泰、大曆と曰ふ崩御して太子が繼ぎて立つ是れを德宗皇帝と爲す）

〔德宗皇帝〕名适。自雍王爲太子。至是卽位。○常袞以欺罔貶。崔祐甫同平章事。祐甫欲收時望。未二百日。除官八百人。上曰。人謗卿所用多涉親故。何也。對曰。臣爲陛下擇人。不敢不愼。非親非故。何以諳其才行而用之。講義（德宗皇帝は名を适（くわつ）と曰ふ雍王より太子と爲る是に至りて位に卽きたり○常袞は欺きいつはるを以て貶せらる崔祐甫が同平章事たり祐甫は時の人の德望を收めんと欲す未だ二百日にならざるに官に除したるもの八百人もありたり上の曰ふに人は卿が用ゆる所の人多く親類緣故に涉ると謗るは何故なりやと祐甫が對へて曰ふに臣は陛下の爲めに人物を擇ぶに敢て愼まざるべからずもし親類にも非ず故舊にもあらざる人は何を以てか其の才智や行狀を暗知して之れを用ひんやと）○淄青李正已。畏上威名。表獻錢三十萬緡。崔祐甫請。遣使慰勞淄青將士。因以賜之。正已慚服。天下以爲太平庶幾可望。講義（淄州青州の長官李正已なるもの上の威光ある名を畏れ上表して錢三十萬緡を献上せり崔祐甫が請ふて使者を遣はし淄州青州の將士を慰め勞はしむ因りて其の金を賜ふ正已は慚ぢ服す天下のものが思ふに太平はおほかた望むことが出來るであらふと）○上方勵精求治。不次用人。祐甫薦楊炎。自司馬除爲同平章事。既而祐甫病不視事。講義（上は方さに精を勵まし治め方を求む不次に人を擧げ用ゆ祐甫が楊炎を薦め司馬の役より除せられて同平章事となる既にして祐甫は病氣で國政を視ることが出來ぬようになりたり）○建中元年。始作兩稅法。唐初賦斂之法。有田則有租。有身則有庸。有戶則有調。玄宗之末。版籍寖壞。至德兵起。所在賦斂。迫趣取辦。無復常準。下戶不勝困弊。率皆逃徙。至是楊炎建議。先計州縣每歲所用。及上供之數。而賦於人。量出以制入。戶無主客。以見居爲簿。人無丁中。以貧富爲差。爲行商者。在所州縣。稅三十之一。居人之稅。秋夏兩徵之。其租庸調雜徭。悉省。講義（建中元年に始めて兩稅の法を作す唐の初めの賦斂の法は田地有れば則ち租有り身体あれば則ち庸役あり戶有れば則ち調乃ち運上有りしが玄宗皇帝の末年に版籍帳面が段々壞れ至德年間に兵が起り所在の年貢や運上も一々催促して取り辦じ復た常の準法なき故に下等の戶々は困み疲弊に勝へず卒ゐて皆な逃れ徙れり是に至りて楊炎が建議して先づ州縣に每歲用ゆる所の數や及び上供の數を計り而して人に賦す出づる費用を量り以て入る制度を作す家は主客の別ち無く現に居る所の人々を以て帳面を爲れり人は丁（二十歲）中（十六歲）の分ちなく貧と富とを以て差別をなすたひ商ひをなすものは其の所の州縣にて三十の一を以て稅とす現今居る人の稅は秋夏に分ち之を兩度に徵す其の租庸調雜徭は悉く省ぶきたり）○崔祐甫卒。○殺忠州刺史劉晏。晏善治財計。自肅宗代宗以來。領戶部度支。鑄錢鹽鐵轉運等事。以同平章事充使。通漕運斡鹽利。制百貨之低昂。軍國之用。賴以充足。然久典利權。衆頗疾之。又與楊炎不相悅。竟貶忠州。人希炎旨。告晏怨望。

獨り几に隱し之を待す或人其故を問ふ子儀曰く杞貌陋にして心險なり婦人之を見ば必らず笑はん他日杞志を得ば吾族遺類なからんと

藍面鬼色　藍はあいの染草鬼は幽靈面色のあおざめたるを云ふ

尙父　尙父は号なり德宗は位につきて子儀の功德を以て太公望に比しよりて此の號を賜へり

忠武　子儀の諡なり

天下安危　子儀の一進一退によりて天

上遣人縊之。【講義】（崔祐甫が死去したり○忠州の刺史の劉晏を殺す晏は善く貨財の計謀を治む肅宗代宗より以來戸部と度支と鹽鐵運輸等の事務を領し同平章事の役を兼ねて以上の役の使に充てらる物の運送を通し鹽の利を斡（音あつ、運ぶなり）して融通せしめ百貨の價の上がり下がりをきめ軍事ある國の入用ハそれに賴りて以て充て足す然れども久しく利權を典どり衆人は殊の外之れを惡む又た楊炎と相悅ばずして不和なり竟に忠州に流され位を降さる人は楊炎の氣に入るようにと希ひ晏が上を怨望すと告ぐ上は人をして之を縊め殺さしめたり）○二年。成德李寶臣卒。子惟嶽自領軍務。後王武俊斬而代之。○楊炎盧杞同平章事。炎未幾罷。杞藍面鬼色。有口辯。上悅之。【講義】（二年に成德の李寶臣が卒し子の惟嶽が自ら軍の事務を領す後ち王武俊が斬りて之れに代りたり○楊炎と盧杞（ろき）とが同平章事の役となれり炎は間もなくして罷めらる杞ハ藍の如き靑き面にて厲鬼の如き顏色なり辯舌よし上はこれを悅ひたり）○尙父大尉中書令汾陽忠武王郭子儀卒。子儀以身爲天下安危者三十年。功蓋天下而主不疑。位極人臣而衆不疾。嘗遣使至魏博。田承嗣西望拜之曰。茲膝不屈於人久矣。今爲公拜。校中書令。凡二十四考。家人三千人。八子七壻皆顯。諸孫數十人。每問安不能盡辨。頷之而已。年八十三而終。【講義】（尙父の大尉中書令汾陽の忠武王郭子儀が卒したり子儀が自分の身を以て天下の安危となることが殆んど三十年の間にて蓋し至德元載子儀朔方より從ふて而して賊を討ず是に至て二十六年なり故に殆んど三十年と云ふ功績は天下を蓋ふ而して人主も疑はず位は人臣を極めたれども衆人も疾まず嘗て使者をして魏博に至らしむるに田承嗣が西の方を望んで之れを拜して曰ふに此の膝は人に屈せぬことが年久し然れども今公の爲めに拜すと子儀は中書令をしらべて居ること凡て二十四考なり（考の解は上にあり）家族が三千人もあり八人の子に七人の壻は皆な貴き官に登り諸孫が五六十人も有りて安否を問ふ每に一々辨別する能はず惟だ之を頷（ひたい）にて合點々々するのみ年が八十三にして死せり）○平盧李正巳卒。子納自領鎭。朱滔。田悅。王武俊。李納。先後皆反。○三年。四人

下の安危存亡がかゝると云ふことあれハ任の重きを云ふなり

校中書令　校ハ中書省にて毎年の末に官吏の功をしらべその人を黜陟賞罰するを云ふ

二十四考　唐の制は一歲の末に一たひ功を考ふ子儀ハ肅宗の乾元元年に中書令に拜せられてより是に至るまで凡て二十四考なり

不支數月　四五月の軍用金につかへる

皆自稱王。【講義】（平盧の李正巳が卒し子の納が自から鎭を領す朱滔田悅王武俊李納等ハ先後に皆な反したり○三年に以上の四人は皆な自から王と稱したり）○李希烈反。○兩河用兵。府庫不支數月。先括富商錢。增諸道稅。四年行稅間架除陌錢等法。【講義】（李希烈が反せり○河南河北に兵を用ゆることが度々なる故に府庫の貨財が盡きて支出にたへざること四五ヶ月なりしかば先づ富商の錢を括しらべ諸道の稅を增せり四年に稅間架と除陌錢との法を行ひたり屋每に二架を間となし間每に上間は錢二千中間は一千下間は五百これを間稅架と云ふ又公私の給與及ひ賣買するものは各々緡ごとに五十錢を留む他物を給し及ひ相貿易するものは錢を約して率となす之を除陌錢と云ふ）○李希烈寇襄城。詔發涇原等道兵救之。涇原節度使姚令言。將兵過京師。犒師惟糲食菜餤。衆怒作亂入城。上出奔。亂兵奉太尉朱泚爲主。司農卿段秀實謀誅泚。不克。泚召衆議稱帝。秀實唾其面大罵。以笏擊泚額。血濺地。泚殺之。遂僭號大秦皇帝。先是有術士桑道茂。言數年後有離宮之厄。奉天有天子氣。宜高大其城以備非常。上從之。至是遂奔奉天。泚犯奉天。李晟率兵赴援。渾瑊擊泚破之。奉天圍解。李懷光赴難。亦破泚兵。至奉天。欲入白盧杞之姦。杞隔之。不得入見。而行。上表暴杞惡。衆論亦喧騰咎杞。上不得已遠貶之。【講義】（李希烈が襄城に寇せり詔して涇州原州等の兵を發して之を救ふ涇原の節度使の姚令言が兵の大將と爲り京師に過り師を犒ひいたはるに惟だ糲食と菜餤とのみなりしかば衆は怒りて亂を作し城中に入る是に於て上は出奔す亂兵が大尉の朱泚（せい）を奉じて主と爲す司農卿の段秀實なるものが泚を誅せんと謀るも克たハず泚は衆人を召して自ら帝と稱せんことを評議す秀實は其の面に唾はき大に罵り惡口を言ひ笏（しやくいた）を以て泚が額を擊ちしかば血

を云ふ

増諸道稅 淮南の節度使陳少游奏す本道の稅錢を千每に百を增さんと乃詔して諸道の稅をますてと淮南の如し又鹽一斗の價皆百錢を增せり

稅間架 屋家兩架を一間と云ふ每間上稅は二千錢中は千錢下は五百錢間をかくすものは杖罪に處す

除陌錢 は陌百なり千錢に五十錢を添へ官に納め他物をわたす其法

（は地上に流れて溉ぐ泚は之れを殺したり遂に大秦皇帝と僭り號す是より先き方術の士桑道茂といへるもの有りて言ふに四五年の後には宮を離るゝの厄難わらん奉天には天子の氣あり宜しく其の城を高く大にして以て非常の變に備へ置くべしと上は之れに從ふ是に至りて遂に奉天に奔る泚は奉天を犯す李晟(せい)は兵を率ゐて赴き援く渾瑊(てんかん)が泚を擊つて之れを破る依りて奉天の囲は解けたり李懷光は雜に赴く亦た泚が兵を破りて奉天に至る入りて盧杞の姦邪を白さんことを欲す杞が之れを隔てし故に入りて見ることを得ずして行(さる)れり依て裴文を上り杞が罪惡をあらはす衆人の議論も亦た喧ずく沸騰して杞を咎む上は止むことを得ずして之を遠方に貶せり）

○興元元年。大赦。陸贄勸上。罪己以謝天下。奉天所下書詔。驕將悍卒。聞之無不感激揮涕。王武俊田悅李納上表謝罪。**講義**（興元元年に大赦の令を布き天下の罪人を赦す陸贄(りくし)が上に勸めて已れを罪して以て天下に謝言せしむ奉天より下す所の大赦の詔勅は驕傲の大將や勇悍の士卒も之れを聞き感激して涕を揮はざるなし王武俊田悅李納は書き付けを上りて罪を謝したり）○李希烈僭號大楚皇帝。○置瓊林大盈庫於行宮。陸贄諫去其榜。**講義**（李希烈が太楚皇帝と僭はり號せり瓊林の大盈庫を行在所へ置きたり陸贄が諫めて其の榜札をとりすてたり陸贄以爲へらく戰守の功賞未だ行はずして而してにわかに私に庫を別にせば則ち士卒怨望して復た鬪志なけんと乃ち上疏して之を諫む）○李懷光反。上奔梁州。**講義**（李懷光は功あれども上に見ることの出來ぬを怒りて反す上は梁州に走りたり）○魏博田緖。殺田悅。自領軍府。**講義**（魏博の田緖なるものが田悅を殺して自から軍府を領有したり）○李晟克復長安。朱泚走。其將斬之以降。晟露布至行在。曰。臣已肅清宮禁。祇謁寢園。鍾簴不移。廟貌如故。上覽之泣曰。天生李晟。以爲社稷。非爲朕也。**講義**（李晟が克ちて長安の地を取り復せり朱泚は出奔したり其の大將がこれを斬りて以て降る晟が露布して天子の行在所に至り曰ふに臣は已に宮禁の内をつゝしみ淸め寢園に祇み謁す鐘簴などの音樂の器械は移らず廟の貌は故の如しと上は之れを覽て泣て曰ふに天が李晟を生じて以て社稷國家の爲めにす朕が爲めに非ざるなりと）○車駕還長安。○顏眞卿爲李希烈所殺。先是眞卿爲盧杞所陷。遣

光文錢の如し貿易にも錢を約し率とす

犒師 軍中に飲食を給して勞することと

糲食 精げざる所の惡米なり

粢餤 小麥の粉に栄の子をつゝみて團にせしもの

謝罪 是年王武俊等皆王號を去る

榜 木片に題書するを榜と云ふ

瓊林大盈庫 瓊林大盈は二庫の名玄宗の朝に之れをおく今德宗奉天の行宮にたてゝ踏

奉使希烈所。人言失一元老。爲國家羞。至賊中。留之。將二歲。不屈。竟爲賊所縊。**講義**（車駕天子の乘物が長安へ還りたり○顏眞卿ハ李希烈が爲めに殺さる建中四年李希烈反す盧杞顏眞卿を害せんと欲して建議して請ふに曰く眞卿は四方の信ずるところ若し往て諭さしめば師を勞せずして而して定むべしと詔して可とす此れ盧杞に陷いれられたるなり乃ち希烈の處へ終に使に行きたり人々言ふに一の元老を失ふ國家の爲めに羞づと賊中に至るに賊ハ之れを留めて將さに二歲ならんとす眞卿ハ少しも賊に屈服せず竟に賊の爲めに首しめ殺されたり）○貞元元年。盧杞量移將再入而卒。**講義**（貞元元年に盧杞が量り移されて再び入らんとせしに間もなく卒したり）○幽州朱滔卒。○馬燧及諸軍平河中。李懷光縊死。**講義**（幽州の朱滔か卒せり初め滔は王武俊の攻むる所となる而かるに之れと軍する能はず表を上て罪を待つ是に至りて病死せり○馬燧及び諸軍が進んで河中を平らぐ李懷光縊れて死せり）○二年。淮西將陳仙奇。殺李希烈以降。吳少誠殺仙奇。朝廷因以少誠領鎮。○三年。張延賞同平章事。先是吐蕃尙結贊。據鹽夏州。李晟嘗破其一堡。渾瑊馬燧各擧兵臨之。懼而請和。卑辭厚禮。求於馬燧。燧信而請於朝。晟曰。戎狄無信。不如擊之。延賞與晟有隙。數言和便。遣渾瑊與吐蕃盟於平涼。吐蕃劫盟。瑊走免。吐蕃畏晟燧瑊。曰去此三人。則唐可圖也。於是離間晟。因燧以求盟。欲執瑊以賣燧。使併得罪。因縱兵直犯長安。會失瑊而止。**講義**（二年の夏四月に淮西の大將陳仙奇が李希烈を毒殺して以て降參せり而かるに吳小誠が又仙奇を殺して留後と爲る因りて朝廷は少誠を以て淮西の節を領せしめたり○三年に張延賞が同平章事となりたり是よりさきに吐蕃の尙結贊が入寇して鹽夏州と云ふ所に立てこもれり然かるに李晟ハ嘗て其の一の小なる陣屋を破れり渾瑊馬燧は各々兵を擧げて之れに臨めり吐蕃おそれて辞を下くし禮を厚くして和睦を燧により

州の貢献物をたくはふ本文には瓊林の大盈庫とよみ四註にも亦此の如し未だ何れか是なるを知らず疑を存す

露布　直に克復の事を帛に書して漆竿に建て露し布を封せず以て中外に示す

祇謁寢園　陵は廟なり園は塋（はか）なり歷代の廟塋に拜禮せりと云ふこと陵は陵寢を云ふなり園は塋域を謂ふ綱目集覽に古へは宗廟前に廟を制し後に寢を制す秦に至て始て

て請ひ求めければ燧は之れを信實と思ひて朝廷に請へり晟の曰く思ふに戎狄は信なし之れをうつにしかずと又延賞は晟と隙あり即ち中が睦くなき故に度々晟に反對して和するの便宜を說けり己にして渾瑊を遣はして平凉と云ふ處にて吐蕃と會して盟約せしむしかるに吐蕃は盟を劫かし（解上に詳なり）其の將に盟（ちかふ）はんとするの時に當り兵を伏せて瑊をとらへんとす瑊は之を知り疾走して免るを得たり初め吐蕃が言ふに晟燧瑊の三人は尤も畏るゝ所なり若し此の三人を除去せば唐は實に自由自在にすべきことであると是に於て晟を離（へだつ、解上にあり）だてん爲め燧により以て盟ひを求め瑊を執らへて燧を賣りだまし（解上にあり）併せて罪を得せしめて直に兵を長安にはなちやり長安を犯さんと欲すしかるにたま〳〵瑊を失して止めり○李泌同平章事。上與泌從容論。即位以來宰相。人言盧杞姦邪。朕殊不覺。泌曰。此乃所以爲姦邪也。儻覺之。豈有建中之亂乎。泌有謀畧。而好談神仙詭誕。故爲世所輕。爲相未三歲而卒。講義（李泌（ひつ）が同平章事となれり帝は泌とある時ゆる〳〵として位に即てより以來の宰相の人々を議論し盧杞の事を論ずるに當り帝）の曰く世の人々ハ盧杞を以て姦惡にして邪なりと言ふけれども朕ハ殊に杞の姦惡にして且邪なるの点を覺えずと泌が曰く此れが姦邪の姦邪たる所以なり陛下若し杞の姦邪なることを覺りしなれば豈に建中の騷亂即ち建中の奉天の兵難に遇ふことなしと泌は謀畧あり而れども好んで神仙の事を談じ說き詭り多く且つ誕侫なり故に世の人の爲めに輕んぜられたり宰相の位にあること未だ三年にならずして遂に卒したり ○八年。陸贄同平章事。○九年。大尉中書令西平忠武王李晟卒。○十年。陸贄罷。講義（八年に陸贄が同平章事となれり○九年に大尉中書令の西平忠武王李晟が卒去したり○十年に陸贄が官をやめられたりこれ裴延齡が姦邪を論ずるの故に坐してやめて太子の）賓客となる ○十一年。貶贄忠州別駕。贄自奉天以來。宣力最多。隨事論諫。剴切百奏。帝追仇盡言。又被讒。故貶。初夏縣陽城以處士徵。爲諫議大夫。皆想望風采。在職七年而不諫。韓愈作爭臣論議之。至是判度支裴延齡譖贄。城率諸諫官。守闕論延齡姦佞。贄

寢を出して墓側に起す故に陵上を寢殿と稱す衣冠几杖象生の具あり以て新物をすゝむるなり

鐘虡不移　廟内の樂器をすべて言へるなり鐘はつりがね虡は其のつりぎなり

廟貌如故　宗廟もとのごとく安泰にて未甞に毀壞せられざるを奏す

量移　遠地に貶せられしものを赦にあへば其輕近をはかりてだん〳〵都

無罪。時朝夕且相延齡。城曰。脫以延齡爲相。當取白麻壞之。慟哭於庭。遂沮。城左遷國子司業。後又貶道州刺史。治民如治家。自書其考曰。撫字心勞。催科政拙。考下下。講義（十一年に陸贄を忠州の別駕に貶す贄は奉天の亂ありしより）この方力を王室に宣べ盡すこと最も多く事に臨て議論し物に因りて諫爭し百事の奏聞をきびしく正せり帝ハ贄が餘り言を盡し過ぎるを追ひ仇とす又人の爲めに讒せられたる故に位を貶せられたるなり初め夏縣の人陽城は隱者を以て朝に徵されて諫議太夫となる人皆な風儀丰采を想ひ望む城日夜痛飲し人よく其際を窺ふなし皆な以て虛しく名を得ると爲すのみ位にあること七年にし手未だ嘗て一度も諫めず故に前進士の韓愈が爭臣論を作り以て之を譏る是の時判度支の裴延齡（はいえんれい）が贄を讒言す城諸の諫官を率ゐ朝廷の闕を守て延齡の姦惡邪佞にして贄の無罪なるを論ずる時に朝野の者延齡を宰相とせんとするに城が曰く脫（もし）し延齡を相とせば我れ當さに白麻に書き付けたる（白麻の詳解上にあり）詔書を取りて之を破り裂くべしとて庭中に於て号哭したる故に其事は遂に沮（はばみ）みたり城ハ國子司業の官に降され後又道州の刺史に貶けらるさて城は民百姓を親み治めることは自分の家を治るがごとくせり自から其考即ち勤勞の課狀を（解上にあり）書して曰ふに民を撫で安んずることハ甚だ心を苦しめ勞して爲し租稅をとりたてる科即ち催科（解上にあり）は至て政拙く故に考は下の下なりと ○十四年。淮西吳少誠叛。○二十一年。上崩。在位二十七年。改元者三。曰建中。興元。貞元。初政清明者二歲。而盧杞用矣。叛亂相繼。末年姑息而已。太子立。是爲順宗皇帝。講義（十四年に淮西の吳小誠が兵を擧けて叛せり○二十一年に帝）崩御したり位に在ること二十七年にして年号を改むる三つ建中、興元、貞元と曰ふ初めは政事が淸く明らかなりしも二歲にして姦邪甚しき盧杞が用ひられてより强藩陸梁として反亂し其絕間なく僅かに末年に至り其場のがれの政事なり苟くも容れて安きを取るなり太子がつぎて立つてこれを順宗皇帝とす

（順宗皇帝）名誦。方爲太子。時有善書者王伾。善棋者王叔文。俱出入娛侍。因言某可相。某可將。幸異日用之。密結學士韋執誼。

近き地へ移すを云

劫盟　盟約の席に兵を伏せて渾瑊をとらへんとす

離間晟　吐番實に盟を乞ふならば主將なる李晟に乞ふが當然なれども今三人を除かんとするの姦謀なればわざと晟をはなし疑かはしむ

賣燧　燧につきて盟を請ひ而して會上にて瑊をとらへば燧ハ罪を朝廷に得んしかるときハ吐番の姦策が行はるなり

及朝士有名而求速進者。陸淳。呂温。李景儉。韓曄。韓泰。陳諫。柳宗元。劉禹錫等。定爲死交。日與游處。蹤跡詭秘。莫有知其端倪者。德宗崩。太子卽位。先是有風疾失音。五閲月矣。伾叔文等用事。【講義】順宗皇帝名は誦（しよう）と曰ふ太子たりし時碁を善くするもの王伾（ひ）棋を善くするもの王叔文と云ふものあり俱に宮中に出入し左右に侍坐し娯みあへり因りて言ふに某は宰相となすべし某は大將となすべしと他日之れを用ひんことを幸ふ密かに學士の韋執誼及び朝廷の有名なる人にて速かに官に進むことを求むるものに交りて結び陸淳（りくじゆん）呂温（りよおん）李景（りけい）韓曄（かんよう）韓泰（かんたい）陳諫（ちんかん）柳宗元（りうそうげん）劉禹錫（りうしやく）等定めて死生を共にするの交友となし日々與に游び樂めりその事の縦跡は秘（ひ）かくして其一端をも得知る者なし德宗が崩御して太子が位に卽く是より先きに風邪の病ありて聲が枯れて出ぬ程なり五ヶ月を閲たり伾叔文などが政事を用ひたり

○追陸贄陽城赴京。未至卒。○上在位改元日永貞。僅八月。自稱太上皇。傳位於太子。是爲憲宗章武皇帝。【講義】陸贄が陽城を追ひ返へして京師に赴かしむ而かるに城は未だ至らず途中に卒せり○上在位改元する一つ永貞と曰ふ僅かに八ヶ月にして自から太上皇と稱し位を太子に傳ふこれを憲宗章武皇帝となすなり

〔憲宗皇帝〕名純。年二十八爲太子監國。尋卽位。貶王伾王叔文。伾病死。叔文賜死。其黨皆遠貶。【講義】憲宗皇帝は名は純（じゆん）と曰ふ年二十八にして太子監國の役たりしが尋で位に卽けり王伾や正叔文の位を貶（おとす）したり伾は病にかゝりて死亡し叔文は死を賜ふ其他の徒黨は皆な遠く貶し官を遷されたり

○元和元年。西川節度使劉闢反。同平章事杜黃裳。薦高崇文。討之。【講義】元和元年に西川の節度使の劉闢が叛す同平章事の杜黃裳（とくわうしやう）が高崇文を薦めて之を討たしむ

○夏州留後楊惠琳。拒朝命。詔討之。爲兵馬使所

失瑊　會上に瑊をとらへんとするの時瑊が疾走して免れたるを云ふ

詭誕　とりとめもなき邪說を云ふ乃ち泌が好んで神仙を說くを云ふ

守闕　闕に至り退出せずして諫爭するを云

白麻　詔勅を寫すの紙なり儒林傳に蔡倫木膚麻の頭絲布を用ひ紙と爲す按んずるに唐の制中書舍人文書詔令を掌とる之を外制と曰ひ黃麻を用ひ翰林學士の掌する之を內制と曰ひ白麻を用ゆ

斬。【講義】夏州の留後役の楊惠林（ちん）が朝廷の命令を拒みし故に詔して之れを討せしむ兵馬使の爲めに斬らる

○高崇文克成都。擒劉闢。送京師斬之。○二年。鎭海節度使李錡反。詔討之。兵馬使執錡。送京師斬之。【講義】高崇文が成都にかち劉闢を擒にして京師に送り之を斬れり○二年に鎭海の節度使の李錡が反す詔して之を討ず兵馬使が錡を執らへて京師に送くりて之れを斬りたり

○三年。沙陀朱邪盡忠。與其子執宜來降。沙陀勁勇冠諸胡。吐蕃每戰以爲前鋒。後疑其貳於回鶻。欲遷之河外。懼而歸唐。置之靈州。用以征討。皆捷。【講義】三年に沙汰の朱邪盡忠なるものが其の子の執宜と與に來り降參せり沙汰は西突厥より出て後に沙陀と號せり朱邪は姓盡忠は名なり其強く勇なること諸胡中で第一番なり吐蕃が戰爭する每に以て前鋒となす後にその回鶻（くわいてつ）に貳心あるを疑がひ之を河外に遷さんと欲するに懼れて唐に歸服す唐は之れを靈州に置き用いて以て征討するに皆な捷ちけり

○自杜黃裳以後。相繼爲相者。武元衡。李吉甫。裴垍。李藩。李絳。皆賢相。垍嘗爲李吉甫疏人才三十餘。數月用盡。翕然稱爲得人。垍器局峻整。人人不敢干以私。藩嘗爲給事中。制敕有不可者。卽批之。吏請更連素紙。藩曰。如此則狀也。何名批敕。垍薦之爲相。知無不言。絳鯁直。吉甫善逢迎。絳每與爭論於上前。上多直絳。時在朝如崔群白居易等。皆讜讜直。元和之世。朝廷清明以此。【講義】杜黃裳より以後ハ相ひ繼て宰相と爲りしものは武元衡、李吉甫、裴垍（はいき）、李藩、李絳（りかう）は皆賢才あるの宰相なり垍は嘗て李吉甫の爲めに人才を上疏し申し上げること三十餘人なれども四五月の間にして皆な用ひ盡せり翕然として盛に稱して曰く善き人々を得たりと垍は器度局量が峻整としてきつぞうひいでゝ高く能くとゝのひ人々は敢て干（おかす）すに私を以て爲さず藩は嘗て給事中と

を用ゆ

考　勤勞の課引乃ち考課状なり

催科政拙　ねんぐの取り立て方が甚だ下手（へた）なりとて常時の賦税を寛くし故に拙なるを暗に諷刺す

考下下　殿科　拙なれば考績上にては最下におるなり乃ち考は核實なり其功を考實すればその則下の下に當る如しと謂ふなり

死交　死生を共にす

なるに制敕の内に不可なるものあれば即ち其由を批評す胥吏が更めて紫紙を用ひて敕の後に進られんと請ふに藩が曰ふに此の如くするならば則ち狀と云ふものなり何ぞ批敕と名づけんやと垍は之れを薦めて宰相と爲す知りて言はざるなし絳は鯁直にして忠直の人なり吉甫はよく君の意を迎ふ絳は與に上の前に爭ひ論んずるごとに上は多く絳を正直とす時に朝廷にある人々にて崔群（さいぐん）や白居易の如きは皆な謇々として正直なり元和の世朝廷が淸く明らかなるは此の如き人のあるを以てなり○七年。魏博兵馬使田興。請吏奉貢。詔以爲節度使。遣裴度宣慰。賜錢百五十萬緡犒其軍。六州百姓。皆給復一年。軍受賜歡聲如雷。成德兗鄆諸鎭使者見之。相顧失色。歎曰。倔強者果何益乎。賜興名弘正。**講義**七年に魏博の兵馬使の田興が役人を請ふて來り貢物せり詔して興を以て節度使と爲す又裴度を遣はし上の命を宣べて慰め錢百五十万緡を賜ふて其軍勢を犒（ねぎら）ひ又六州の百姓等は皆な賦税を給復して免除することが一年の間なり軍中は賜を受けて歡ぶ聲が雷の如し成德兗鄆の諸鎭の使者が之れを見て相ひ顧みて顏色を失ひ歎息して曰ふに倔強にして柔服せざる者は果して何の益もなしとて大に悔ひたり興に名を弘正と賜ひたり○初彰義節度使吳少誠死。弟少陽自領軍府。少陽陰養亡命。少陽死。子元濟自領軍府。縱兵侵掠。及東畿。詔發十六道兵討之。平盧節度使李師道。請赦元濟。不許。裴度宣慰淮西行營還。言淮西可決取。上悉以兵事委同平章事武元衡。師道素養刺客姦人。客請密往刺元衡。則他相必爭勸天子罷兵矣。元衡入朝。賊暗射殺之。又擊度傷首。上怒。討賊愈急。以度同平章事。上曰。吾倚度一人。足破賊。命度兼彰義節度使。充淮西宣慰招討使。督諸軍進討。唐鄧節

無二の交友を云ふ

蹤跡詭秘　出入往來とも死交の外他人の知らぬ樣にすること

端倪　莊子の注に端は緒倪は畔なりと之れ物のなりたち、ゆきはと云ふが如し

監國　父に代り天下をあづかり總監するなり

兵馬使　其の下丁士良李奉仙田少卿等を云ふなり

批之　直に黄紙の後に不可を批寫するなり

度使李愬。先擒賊將丁士良吳秀琳李祐。釋而用之。用祐計。雪夜七十里。引兵入蔡州城。擊鵝鴨池。混軍聲。鵝鴨入據元濟之外宅。元濟登牙城拒戰。已而就擒。檻送京師斬之。自叛及誅。凡用兵二歲。時元和十二年也。淮西既平。上浸驕侈。先是二歲。已用李逢吉同平章事。至十三年。又用度支使皇甫鎛。鹽鐵使程异進羨餘。有寵。並同平章事。朝野駭愕。元和之政非矣。**講義**初め彰義の節度使の吳少誠が死し弟の小陽が自から軍府を領せしが小陽は陰に亡命とてかけおち者を養ひたり小陽が死して子の元濟が自から軍府を領し兵を縱ちて侵し掠めて東畿にまで及ぶ詔して十六道の兵士を發して之れを討せり平盧の節度使の李師道なるものが元濟を赦さんと請ふにより朝廷より許さず裴度が淮西の行營を宣撫慰諭してより還て言ふに淮西はもはや取るべしと上は悉く兵の事を以て同平章事の武元衡に委任す師道は素より刺客や姦悪なる人を養ふ客が請ひ言ふに密かに往て元衡を刺し殺さば則ち他の宰相は必ず爭ふて天子にすゝめ兵を罷めんと元衡が入朝する時に夜未だ明けず故に賊暗に乘じて之を射殺す又裴度を擊て首に傷つく上は大に怒り賊を討伐することを愈々急なり度を以て同平章事とす上の曰く吾れは裴度一人に倚り賴みて賊を破ぶるに足れりと度に命じて彰義の節度使を兼ねしむ淮西の宣慰招討使に充て諸軍を總督して進みて討てり唐鄧の節度使の李愬（りそ）なるもの先づ賊の大將丁士良吳秀琳（ちん）李祐を擒にせしが釋るして之を用ふ祐が計を用ひて雪夜に七十里も兵を引て蔡州の城に入る鵝鳥（がちやう）や鴨（かも）の居る地を擊て軍の聲を混雜せしむ鵝の鳴く頃に入りて元濟の外宅に據る元濟は牙城即ち本丸に登り拒ぎたゝかふ已にして擒に就く檻の乘物に乘せて京師に送り之れを斬る叛してより誅せらるゝに及ぶまで凡そ兵を用ふること二歲の間にして時に元和十二年なり淮西が既に平ぎて上は浸（やゝ）段々に驕り侈るこれより先き二年に已に李逢吉なるものを用ひて同平章事となす十三年に至り又度支使の皇甫鎛（ばく）を用ひたり鹽鐵使の程异が羨餘の即ち賦税外の物をすゝめて寵愛あり並に同平章事の役となれり朝野の者はこれに驚き愕けり元和年間の善き政事が是に至りてわるくなりたり○十四年。迎鳳翔法門寺塔佛指骨。至京師。留禁中三日。歷送諸寺。王公士民。瞻奉捨施。惟恐不及。侍郎

鯁 魚の骨なり直言を君に納るゝを云ふ委しく二の巻の下に解す

逢迎 君の意が未だ萌（きざす）さゞるに先づ意を以て之を導く之れを逢迎と曰ふ

讜々 正直の貌を云ふなり

諸吏 朝廷より命ずる官吏を圖に迎へ命を聞かんと欲するなり

六州 魏博の統ぶる魏州、博州、貝州、衛州、澶（せん）州、相州なり

韓愈上表極諫。乞以投之水火。上大怒。貶潮州刺史。講義（十四年に鳳翔の法門寺の塔に在る佛の指骨即ち佛舎利と云ふを迎へて京師に至らしめ宮禁の中に留め置くこと三日の間なりそれより諸方の寺に順々に送る王公や士民等は瞻望供奉し錢を捨て施して惟々及ばざらんことを恐る侍郎の韓愈が表文を上りて言を極めて諫め乞ふて以て之れを水火の中へ投げ込まんと上は大に怒りて愈を潮州の刺史に貶したり）○平盧將執斬李師道。講義（平盧の大將が李師道を執らへ斬りたり）○裴度罷。講義（裴度が官をやめらる）○十五年。上暴崩。上服金丹。多躁。左右獲罪有死者。人人自危。宦者陳弘志弑逆。其黨諱之。但言藥發。在位十六年。改元者一。曰元和。太子立。是爲穆宗皇帝。講義（十五年に上は暴（にはか）に崩御す上は金丹と云へる藥を服用して逆上し左右の近侍の者が罪を獲て殺されたるものあり人々は自から危み安き心とてはなかりけるに宦官の陳弘志と云へるものが上を弑せり其の徒黨のものが之れを諱み匿くして但だ藥毒が發したるのみと云ふ位に在ること十六年にして年号を改めしこと一つ元和と曰ふ太子がつぎて立つ是を穆宗皇帝とす）

〔穆宗皇帝〕名恒。即位改元曰長慶。四年崩。太子立。是爲敬宗皇帝。講義（穆宗皇帝は名は恒と曰ふ位に即きて年号を改めて長慶と曰ふ四年にして崩御せり太子が繼で立つこれを敬宗皇帝となす）

〔敬宗皇帝〕名湛。即位荒淫。嬖倖用事。講義（敬宗皇帝は名は湛（たん）と曰ふ位に即きて酒色にすさみ甚だ淫亂なり氣に入りの倖臣即ち小人だちが政事を用ゆ）○李德裕獻丹扆六箴。一曰宵衣。二曰正服。三曰罷獻。四曰納誨。五曰辨邪。六曰防微。講義（李德裕が天子の傍らにある丹扆（たんい）即ち赤き屏風の如きものに認したる六ケ條の誠を獻ず其の一に曰く夜の明ぬ内から衣服をきて朝早く外朝に御し政事を視るを諫諷す其二に曰く正しき衣服を着て服制にそむき異樣ならぬ樣に諷す三に曰く色々の玩弄物を徵し求めることをやむべしと諷す四に曰く正官を以て諫め教誨するを納れ用ゆるを諷す五に曰く多くのよこしまなる小人を辨別することを諷す六に曰く事を微小なる内に用心して之れを防ぎとゞむることを諷す又一説に防微とは微行を防ぐと曰ふ而れども未だ何れか是なるを知らず）

亡命 逃亡の人なり

十六道 笠跡に載する所河東、魏博、部陽、朔方、雖成、陝、益、鳳翔、延慶、宣武、淮南、宣歙、浙西の十二道と他の四道は未だ詳かならず

撃鵝鴨池混軍聲 水鳥の驚きさはぐ聲を以て人馬の足音をまぎらすなり

牙城 古は行軍に牙あり尊者の在る所后人因て所治を以て衙となす牙城とは即衙城なり

羨餘 賦外の餘物也

○上遊戲無度。性復褊急。宦官動遭捶撻。皆怨。夜獵還宮。酒酣。爲宦者劉克明所弑。在位三年。改元者一。曰寶曆。江王立。是爲文宗皇帝。講義（上は遊び戲むることと極りなし性質が狹まくかたよりきみじかく宦官ともは時によると少しの罪にても痛たくうちちうたるゝ故に皆な怨み恨む帝は夜出でゝ獵して宮に還りし時ひどく酒に醉ひて居りたりしに宦官の劉克明が爲めに弑せらる位に在ること三年にして年號を改むること一つ寶曆と曰ふ江王が繼で立つ是を文宗皇帝とす）

〔文宗皇帝〕名涵。穆宗子也。爲宦者王守澄所立。後改名昂。太和二年。親策制擧人。宦者益横。建置天子。在其掌握。權出人主之右。無人敢言。賢良方正劉蕡對策。極言之。考官皆歎服。而不敢取。中第者裴休李郃杜牧崔愼由等。二十二人。皆除官。物論囂然稱屈。郃曰。劉蕡下第。我輩登科。能無顔厚。上疏乞回所授官於蕡。不報。講義（文宗皇帝は名は涵と曰ふ穆宗の子なり宦官の王守澄の立つる所なり後名を昂と改たむ太和二年に親から題を出し人を試驗して官に擧ぐ宦官が益々横しまなり天子を廢立するとは掌握即ち掌の内にて自由自在になせり而して威權は人主より甚しく乃ち右に出づ故に人々おそれて敢て宦官のことを是非言ふものなし賢良方正の科目に擧げられたる劉蕡が試驗の題に對へて宦官のこと惡く極め言ふ試驗官らは皆之に感心し歎ずれども宦官を懼れて敢て採用せず時に試驗に應じて及第せしものは裴休（はいきう）李郃（りかう）杜牧（とぼく）崔愼由（さいしんゆう）等の二十二人は皆な官に除せられしに衆人の議論囂然（がうぜん）まち〱としてかまびすしく皆な蕡を採らず意屈して枉げられたりと爲す李郃が曰く劉蕡は落第し我れ〱は及第すよく顔の皮が厚くして恥づることなからんやと上疏して我が受く所の官をうりかへて蕡に讓らんと乞ひたれども上は何とも返事をせざりしなり）○太和五年。上與同平章事宋申錫。謀誅宦官。不克。申錫貶死。講義（太和五年に帝は同平章事の宋申錫（そうしんしやく）と宦官を誅し殺すを謀り企つ然るに京兆の尹王璠其謀を泄らす王守澄等之れを知り申錫は廢立をはかると誣ひ告

歷送諸寺（レキソウシヨジ）寺院に順々に送り人民に拜せしむ

捨施（シヤシ）財寶を寄進すること

丹扆（タンイ）あかききぬにて張りたる屏風類にて天子の御坐近くにてめぐらす物

宵衣（シヨウイ）早朝より外朝に出御し政事を聽くこと

正服（セイフク）衣服の正しきものを着すること

罷獻（ヒケン）玩弄物の進獻をやむ

納誨（ノウクワイ）臣下の諫

（げて開州の司馬に貶とす申錫はつひに謫所（たくしよ）にて卒す）○九年。上與李訓鄭注等。謀誅宦官。不克。注本宦者王守澄所引。訓本名仲言。又爲注所引。得見守澄。守澄薦於上。倜儻尚氣。有文辭口辯。多權數。上悅之。訓注揣知上意。數以微言動上。上意其可謀大事。以誠告之。訓注遂以誅宦官爲己任。訓既與注勢位俱盛。頗忌注。託以中外協勢。出注鎭鳳翔。進擢宦者仇士良。以分王守澄之權。訓同平章事。請除守澄。遣中使鴆殺之。注始與訓謀至鎭。遣壯士數百入護守澄葬。仍請令內臣盡送。然後殺之無遺類。訓心以爲如此則功專歸注。乃謀先發。令人奏金吾廳事後石榴有甘露。宰相帥百官拜賀。後勸上往觀。上令宰相先往視。訓陽言非眞。上顧仇士良帥諸宦官往視。士良等既至。見風吹幕起。執兵者無數。驚走告變。訓呼金吾衛士等上殿。僅擊死傷宦者十餘人。知事不濟而走。士良等命神策兵。殺金吾吏卒。執宰相王涯賈餗舒元輿等。誣以謀反腰斬之。訓之謀惟元輿知之。他相實不知也。自是天下事。皆決於北司。宰相行文書而已。李訓爲人所殺傳首。鄭注亦爲

言を聞き入るゝこと

辨邪（ベンジヤ）百官の姦邪を辨別すること

防微（バウビ）微小なる事を微に用心して防ぐこと

遏捶撻（アツスイタツ）むちうたるゝことなり

制擧（セイキヨ）唐士を取るに三有り學館に由る者を生徒と曰ふ州縣に由るものを鄉貢と曰ひ皆有司に昇げ而して並に之を進す其の天子自ら詔するものを制擧と曰ふ非常の才を待する所以なり

鳳翔監軍宦者所殺。【譯義】（九年に文宗が李訓や鄭注等と宦官を誅殺せんと謀りしかども克たざりし鄭注は本と宦官の王守澄が引き上ぐる所なり訓は元の名を仲言と云ふこれ亦注が爲めに引き上げられて守澄に見るを得て守澄が之を帝に進薦したり倜儻（てきとう）とて其志が大きくすれあがり氣を尙ぶ文辭口辯ありて權謀術數多し帝之を悅ぶ李訓鄭注は帝の意を揣（はか）り知て數々微言を以て帝の心を動かす帝はその共に宦者を除くの大事を謀る可しと意ふ故に誠心を以て之に告げたり李訓鄭注ハ遂に宦官を誅殺するを以て己れの任乃ち役目となす是を以て李訓は已に鄭注と勢も位も倶に盛んなり訓は頗る注が勢を忌むにより言を託するに中と外と勢を協合するを以てし鄭注を出だして鳳翔を鎭せしめ又宦官の仇士良をすゝめ擢んでゝ王守澄の權威を分つ李訓は同平章事たり守澄を除かんと請ふ中使の李好古なるものをして守澄を鴆毒を以て殺さしむ鄭注始め李訓と謀て鳳翔に至る壯士數百をして入て守澄が葬式を守護せしむ夫れに仍（よ）て請ふには宦者をして尽く送らしめ然して後ち之を殺さば遺れる類ひはなけんと訓心に以爲らく此の如くならば則ち功は專ら注に歸せんと乃ち此擧に先ちて發せんと謀る韓約なるものをして金吾廳事の後（うしろ）の石榴に甘露ありと奏せしむ宰相百官を帥ひて拜賀す后ち帝を勸めて往て觀せしむ帝宰相をして先づ往て視せしむ訓陽（いつハり）言ふ眞に非らずと帝仇士良を顧みて諸の宦官を帥て往て視せしむ士良等已に至るに風が幕を吹き起げしに兵器をとる者が無數なるを見る仍て驚き走て變の生ずるを告ぐ李訓が金吾衛士を呼んで殿に上す僅かに擊て宦者十餘人を死傷す李訓等事の濟（なる）らざるを知て而して走る士良等神策の兵に命じて金吾の吏卒を殺し宰相の王涯賈餗、舒元輿等を執らへて誣るに謀反なりと云ふを以てす之れを腰斬の刑に處せり李訓の謀は惟だ舒元輿のみ之を知る他の宰相は實に知らざるなりこれより天下事皆北司の宦者に決す宰相は文書を行ふのみなり李訓は人の殺す所となり首を傳ふ鄭注も亦鳳翔の監軍宦者張仲淸の殺す所たり）○開成三年。司徒中書令晉公裴度卒。度自憲宗時。罷相後。無意世事。治園池。有綠野堂子午橋等別墅之勝。與詩人觴詠自娛。穆宗敬宗時。皆嘗一入輔政。至上之世。亦嘗平章軍國重事。與時浮沉而已。然四朝將相。威望遠達四夷。四夷見唐使。輒問度安否。以身繫國家輕重。如郭子儀者。二十餘年。【譯義】（開成三年司徒中書令晉公裴度が卒せり度は憲宗の時に相をやめてより後ハ世の中の事に意なし園や池を治さめ綠野堂子午橋等の別墅乃ち下も屋敷の勝景あり詩人と酒を觴して詩を詠じて自から娛しむ穆宗敬宗の時皆嘗て一たび入て政を輔く帝の世に至て亦た嘗て平章軍國重事、）

考官（貢士を試むる委員即ち試験官を云ふ）中第（考試にわたり採用せらるゝこと）至鎭（鳳翔を云）神策兵（徳宗の時左右の羽林を分ちて神策の兵となす）北司（宦官を北司と名づく）李訓爲人所殺（是の時涯等すでに死す訓は鳳翔に奔る盩厔（しうしつ）の將の爲めに捕りてとなりて

亦の官たり時世と浮び沈みするのみ然れども憲宗、穆宗、敬宗、文宗四朝の間將相の官たれば威光人望が遠く四方の夷狄まで達せり四夷が唐の使を見れば輙（すなはち）度が安きや否やと其機嫌を問ふ身を以て國家の輕重に繫（つなぐ）ることと恰も郭子儀が如きもの二十餘年なりしと謚して文忠とす

○五年。上崩。上即位之初。厲精求治。去奢從儉。中外翕然。謂太平可冀。然制於宦寺。竟不能有爲。嘗問宰相。何時太平。牛僧孺答以太平無象。末年嘗問近臣。朕何如周赧漢獻。對者憮然。上曰。赧獻受制強臣。今朕受制家奴。殆不如也。在位十五年。改元者二。曰太和開成。弟潁王立。是爲武宗皇帝。

講義　五年に帝が崩御せり帝は位に即きし初め精を勵まし國の治らんを求め奢を去り儉約に從ふ中外翕然として安泰にあり太平も冀ふ可しと謂へり然れども官者に制せられ竟に爲すことある能はず嘗て宰相に問て曰く何れの時か天下が太平に治まる可きやと牛僧孺が答るに太平亦た一定の象なしと云ふを以てせしなり末年に當て近臣の學士周墀（しうち）に問ふて曰く朕は前代何れの主にか方ぶべき墀答て曰く陛下は堯舜の主なりと帝曰く朕豈に敢て堯舜に比せんや卿に問ふ所以の者は周の赧王漢獻帝に何如んぞや對ふるもの憮然として曰く彼れ亡國の主豈に聖徳を比すべけんやと帝曰く赧獻ハ制を強き臣に受く今朕は制を家奴に受くこれを以て之を言へば殆んど赧獻に如かざるなりと因て泣下り襟を沾す墀地に伏し流涕し是より朝を視ず在位十五年改元する者二つ太和開成と曰ふ弟の潁王が立つ是を武宗皇帝とす

〔武宗皇帝〕名瀍。穆宗子也。文宗嘗立敬宗子成美爲太子。臨崩。欲以成美監國。宦者以爲立不由己。廢之而立瀍爲太弟。遂殺成美而即位。後改名炎。以李德裕同平章事。德裕在穆宗初爲學士。以李宗閔者。嘗對制策譏切其父吉甫恨之。構貶宗閔。自是各分朋黨。更相排軋者。垂四十年。在文宗時。德裕爲侍郎。裴

てろされたり　別墅（東都にあり）寺（衆人の相ひ集ひて治め相ひ嗣續するなり）家奴（宦官を云ふなり）官者（仇士良を云ふ）軋（車輪の物をきしるが如く相互に傾け陥るを云）出之（徳裕出でゝ鄭滑の節度となりしを云）籌邊樓（成都州治にあり）南詔（國名にして南夷にあり）

度薦其可爲相。宗閔有宦官之助遂相。惡德裕逼己而出之。且引牛僧孺並相。相與排擯德裕之黨。尋以德裕鎭西川。德裕作籌邊樓。圖蜀地形。南入南詔。西達吐蕃。日召老於軍旅習邊事者。訪以險易遠近。皆若身歷。練士卒。葺堡障。以備邊。吐蕃將悉怛謀。以維州來降。維州本漢地。入兵之路。吐蕃得之。號爲無憂城。德裕極以得此州爲便。牛僧孺以爲不可納。以城併叛將歸。吐蕃誅之境上。極慘酷。牛李之怨。自是愈深。僧孺尋罷。德裕入相。宗閔亦罷。宗閔再相。德裕又罷。二黨互相擠援。文宗每歎曰。去河北賊易。去朝廷朋黨難。德裕連被貶黜。及上立。召德裕相之。德裕言於上曰。正人指邪人爲邪。邪人亦指正人爲邪。在人主辨之。上嘉納。德裕追論維州事。悉怛謀加褒贈。

講義　武宗皇帝名は瀍（てん）と云ふ穆宗の第五子なり文宗嘗て敬宗の子の成美を立てゝ太子となす文宗崩ずるに臨んで成美を以て國を監せしめんと欲す宦官以爲く之を立つる己れに由らずと之を廢して而して瀍を立て太弟となす遂に成美を殺して而して位に即く初め文宗疾甚し太子に命じて國を監せしめんとす中尉仇士良魚弘志太子の立つハ功は己れに在らざるを以て詔を矯めて瀍を立つて太弟となし成美沖幼なりとて復た陳王に封せらる帝崩ず太弟は陳王の成美を殺し遂に位に即く後に名を炎と改む李德裕を以て同平章事となす德裕穆宗の初めにありて學士となる李宗閔なるもの嘗て制策に對して其父吉甫を譏（そしる）り切なるを以て之を恨み宗閔が罪を搆へなして之を貶す初め憲宗の元和三年に賢良方正を試む宗閔當路をいたく詆る時政を指諫して避くる所なし吉甫時に相の位にありて之を惡み泣て帝に訴へ且つ言ふ翰林の覆策異同する所なし久しくして調せられず遂に與に怨をなす穆宗の長慶元年に至て錢徽貢擧を典どる宗閔

褒贈（ホウソウ）　詔して追ひて怛謀に右衛将軍を贈りしを云ふなり

又罷（ヤム）　李訓、鄭注が求を用ひて徳裕を疾みて共に之に譖（そしる）りてわるく言ひ宗閔を召し入れて乃ち徳裕をやむ

昭義節度（シヤウギセツド）　澤潞号して昭義の節度となす

澤潞（タクロ）　二州皆山西路に属す即ち上黨郡なり

三鎮（サンチン）　成徳の節度使王元逵、魏博の節度使、何

時に中書舎人となる而して所親を徽に託す徳裕遂に徽が之を納れて士を取るを白す帝乃ち徽を江州の刺史に宗閔を剣州の刺史に貶す是より各々朋黨を分て更々相排擯軋轢するもの四十年に垂んとす文宗の時に在て徳裕侍郎と為る裴度その相となす可きを薦む而かるに宗閔宦官の助力ありて遂に相たり徳裕の己れに過るを悪んで而して之を出す先づ牛僧孺を引き入れて並び相となり相與に徳裕の徒黨を排除擯斥す尋て徳裕を以て西川を鎮せしむ徳裕籌邊樓をつくりて蜀の地形を圖す南の方は南詔に入り西の方は吐蕃に達す毎日軍旅に老（たけ）け邊防の事に習ふものを召して問ふに地勢の險易や道路の遠近を以てす故に皆己れの身が其土地經驗するが若し士卒を訓練し堡障を葺（ふく）き修繕し以て邊境に備へたり吐蕃の將の悉怛謀（しつたんぼう）が維州を以て來り降る夫の維州はもと淡の地にして兵を西戎に入るの要路なり吐蕃が之を得て号して無憂城となす徳裕は極めて此の州を得るを以て便となし牛僧孺は以て納る可らずと為す乃ち城と叛將とを以て歸へす吐蕃之れを境上に誅せしに慘酷にむごたらしくありたり牛僧孺と李徳裕との怨み合ひが是より愈深し僧孺尋で官をやむ徳裕入て相たり宗閔も亦やめしが又復び相たり徳裕又やむ二黨互に相ひ擠（おしおとす）し援けたりして已むなし文宗毎に歎じて曰く河北の賊を去るは易く朝廷の朋黨を去るゝ難たしと徳裕進りに貶し黜けらる武宗の立つに及んで徳裕を召して之を相とす徳裕帝に謂て曰く正人は邪人を指して邪となし邪人は亦正人を指して邪となす正邪の分別は只だ人主の之を辨ずるにありと帝之を嘉納せり徳裕維州の事を追論し悉怛謀に褒贈を加へて右衛將軍を贈れり

○昭義節度使劉從諫卒。姪稹自領軍府。徳裕謂澤潞事體。與河朔三鎮不同。河朔習亂已久。累朝置之度外。澤潞近在心腹。若又因而授之。威令不復行於諸鎮矣。上問何以制之。曰。稹所恃者三鎮。但得鎮魏不與之同。稹無能為也。遣重臣諭鎮魏討之。詔曰。澤潞一鎮。與卿事體不同。勿為子孫之謀。使存輔車之勢。鎮魏悚息聽命。二鎮兵。與朝廷所遣行營將王宰石雄。各進討。○河東都將楊弁作亂。逐節度使。遣中使馬元實曉諭且覘之。元實受賂還。於衆中大言。相公須早與之節。自牙門至柳子。列十五

弘敬、幽州の節度使、張仲武を云ふなり

鎮魏（チンギ）　鎮は成徳の節度と謂ふ魏は魏博の節度を云ふ

輔車（ホシヤ）　輔は車輪なり詩傳に曰く杖を輻に縛し以て車を防輔するなり左傳の僖公の五年の傳に曰く宮の奇諺を引て曰く輔車相倚り唇亡びて歯寒し

潞人（ロジン）　郭誼

北遷（ホクセン）　僧孺循州より衡州の長史に遷る宗閔封州より柳州の司馬にうつる故

里。曳地光明甲。若之何取之。徳裕詰之。辭屈。奏。微賊決不可恕。如國力不支。寧捨劉稹。河東兵出戍者。聞朝廷令客軍取太原。恐妻孥被屠。乃歸擒弁送京師。斬之。未幾。劉稹勢窮蹙。潞人殺稹以降。澤潞平。加徳裕太尉衛國公。貶牛僧孺為循州長史。流李宗閔於封州。

【講義】昭義の節度使の劉從諫が卒せり其姪の劉稹が自ら軍府を領す徳裕が謂ふに澤潞の事体（ことがらありさま）は河朔三鎮と同じからず河朔は乱に習ふこと已に久しければ累朝（代々の天子）が之を法度の外に置きて問はず澤潞は近く帝の心腹にあつて亦遠からず若し又劉稹が軍府を領するに因て之を授けば威光命令が再たび諸鎮に行ばれずと帝が問はるゝに何を以て之を制せんと徳裕が曰く稹が恃（たのむ）む所の者は三鎮なり但だ鎮魏が稹と同じからざるを得しならば稹は何事もよくなすなきなり故に重臣を遣りて鎮魏に諭して之を討せんと詔して曰く澤潞の一鎮は卿が事体と同じからず子孫の謀をなして輔車（解上にあり）の勢を存せしむること勿れど鎮魏は悚息（おそれいきのこもたてぬを云ふ）して命を聴く二鎮の兵と朝廷より遣る所の行營の將王宰石雄と與に各々進み討てり○河東の都將の楊弁が乱をなして節度使を逐ひ出せり中使の馬元實をして曉諭（さとす）し且つ之を覘（うかゞふ）はしむ然かるに元實は楊弁が賂を受けて還り衆中に於て大言するに相公須らく早く之に節を與ふべし牙門より柳子に至る柳子は其地に柳樹を植ゆる十五里に列しつゞき其間光明甲を曳く之を如何んぞ取らんと以て徳裕を脅（おびやかす）せり光明甲は蓋し明光甲を謂ふ北史蔡祐が傳に祐明光の鐵甲を著く向ふ所敵なし唐の六典に載する所鎖子甲、明光甲、要甲、細鱗甲、山文甲、烏鎚甲、白布甲、白絹甲、皁布甲、歩兵甲、皮甲、木甲、馬甲、共に十三制とあり徳裕之を詰りしかば元實語塞がれり乃ち徳裕奏するに微賊決して恕すべからず若し國力が支へずんば寧ろ劉稹を捨てんと河東の兵出で戍（まもる）るものが朝廷の客軍に令して太原を取らしむと聞き妻孥等の屠り殺されんことを恐れて乃ち歸て弁を擒にして京師に送り之を斬れり未だ幾日にもならざるに劉稹が勢窮蹙しせまりしかば潞人が稹を殺して以て降参し澤潞全く平らぐ徳裕に太尉衛國公を加へたり又牛僧孺を貶して循州の長史となす李宗閔を封州に流せり初文宗の時劉從諫入朝す僧孺宗閔政を執る之を留めず宰相を加ふ縱し去らしめ以て其患をなす是に至て既に平らぐ徳裕乃ち帝に謂ふて而して之れを黜ぞく

○削宦者仇士良官爵。籍沒其家。先是士良致仕。其黨送歸。士良教之曰。天子不可令閑。常宜以奢靡娯之。使無暇及他

に北に遷ると云ふなり

三貶　初め東都の留守に貶し再び潮州の司馬に貶し三たびめに崖州に貶す

頗牧　廉頗と李牧とを云ふなり

稱任　通鑑に諴を除して邠寧の節度使となす黨項を招諭す皆な降參せり

刺史　于延陵を云ふなり

階前萬里　天下の州郡政治異同備（つぶさ）に方策にあり笏を開けば一覽して及はざる所なし

事。愼勿使之讀書親近儒生。見前代興亡。心知憂懼。則吾輩踈斥矣。○毀天下佛寺。僧尼勒歸俗。○會昌六年。上崩。在位七年。改元者一。曰會昌。光王立。是爲宣宗皇帝。【講義】宦者仇士良が官爵を削り其家を籍没せり（解上にあり）是より先き士良が致任して隠居せしかば其黨人が送て歸れり時に士良が之れに教へて曰く天子をして閑暇ならしむ可からず常に宜しく奢靡（おごり）を以て其耳目を娯しましむ可し日に新に月に盛んにして更に他事に及ぶに暇なからしめよ然かる後に吾が儕が志を得べし愼しみて之をして書を讀み儒生を親近せしむる勿れ彼れ前代の興亡を見て心に憂懼を知て吾が儕を踈んじ斥けられんと○天下の佛寺を毀ち僧尼は勒制して俗に歸せしめたり凡そ天下寺を毀つ四千六百餘區招提蘭若四万餘區歸俗僧尼二十六万五百人と云ふ○會昌六年に帝崩御す位に在る七年改元する者一つ會昌と曰ふ光王立つ是を宣宗皇帝となす

（宣宗皇帝）名怡。憲宗子也。幼號不慧。太和後益自韜匿。文宗好誘其言以爲笑。武宗豪邁。尤不禮之。名爲光叔。武宗疾篤。子幼。宦官定策禁中。詔立怡爲皇太叔。更名忱。權勾當軍國事。裁決咸當理。人始知其隱德焉。尋即位。【講義】宣宗皇帝名は怡と曰ふ憲宗の子なり幼なる時は不慧にしておろかなるものなりと號せしが太和の後ちよりは益々自ら才能を韜匿（とうとく）しおさめかくして己れの才智を言行に出さず文宗は好んで其言を誘ふて以て笑となせり是れは宣宗が内明らかなるも外は故らに之を晦したり故に文宗は強て其語を誘ふて以て笑となせしなり武宗は豪邁にして尤も之れを禮せず名けて光叔となせり光叔とは宣帝は初め光王に封ぜらるが爲めなり武宗疾篤くして子幼なり宦官馬元贄が策を禁中に定めにして怡を立て皇太叔となし更めて忱と名づく權りに軍國の事を勾當しとりあつかふて裁判が咸く其道理に當れり是に於て人が始めて其隱德あるを知る尋で位に即けり

○李德裕罷。僧孺宗閔等北遷。德裕三貶。至崖州司戸以死。【講義】李德裕が政をやむ牛僧孺李宗閔等北に遷し李德裕は三たび貶せらる崖州の司戸に至りて以て死せり

○令狐綯同平章事。先是綯爲學士。上嘗以太宗所撰金

もし故に日ふ階前は即ち万里なりと云ふてと

興　物に託して胸を與しすを云ふ

廢格　格は止むるなり史記義縱傳に廢格して事を沮むと注に曰く詔書を廢格して成事を沮（はば）むを謂ふなり

負朕　恩に背き徳を忘るゝを負くと云ふ

如水火　共相尅して而して相ひ生ぜざるを云ふ尅は音かくにて殺（そぐ）なり

鏡録。授綯使讀之。又書貞觀政要於屏風。每正色拱手而讀。嘗與學士畢諴論邊事。諴具陳方略。上悅曰。不意頗牧在吾禁中。即用爲邊帥。果稱其任。上聰察强記。嘗密令學士韋澳纂次州縣境土風物及諸利害。爲一書。號曰處分語。刺史有入謝而出者。曰。上處分本州事驚人。建州刺史入辭。上問建州去京師幾何。曰。八千里。上曰。卿到彼爲政。朕皆知之。勿謂遠。此階前則萬里也。令狐綯奏擬李遠杭州刺史。上曰。吾聞遠詩云。長日惟消一局碁。安能理人。綯曰。詩人託此高興。未必實然。嘗詔刺史毋得外徙。必令至京面察。綯嘗徙故人爲隣州。便道之官。上問之曰。詔命既行。直廢格不用。宰相可謂有權。時方寒。綯汗透重裘。上臨朝對群臣。未嘗有惰容。每宰相奏事。旁無一人。威嚴不可仰視。奏事畢。忽怡然閑語一刻許。徐復整容曰。卿輩善爲之。常恐卿輩負朕。不得再相見。綯嘗謂人曰。吾十年秉政。最承恩遇。每延英奏事。未嘗不汗沾衣也。嘗召學士韋澳。屏左右問之曰。近日內侍權勢如何。對曰。陛下威斷。非前朝比。上閉目搖首曰。

裘甫　裘は姓甫は名なり本の姓は仇なり仇讐を避けて改めて裘となすと言へり

泗　州淮西に屬す即ち臨淮郡なり

赤心　人の名にして尽忠の孫執宜の子なりと云ふ

大同軍　今ハ府となる山西に屬せり即ち雲中郡これなり

振武　代州を号して振武の節度となすなり

播邕　交阯　西南の二國の蠻邑を云ふ

全未。全未。尚畏之在。又嘗與綯謀。盡誅宦官。恐濫及無辜。綯密奏曰。但有罪勿捨。有缺勿補。自然消耗。至盡。宦者竊見其奏。由是益與朝士相惡。南北司如水火。【講義】令狐綯が同平章事たり是より先き綯學士となる帝嘗て問ふに元和の故事を以てせしに綯の答ふること甚だ辯なり帝悦び大に用ゆるの意あり是に至り太宗の選する所の金鏡錄を以て綯に授けて之れを讀ましめ乱は未だ嘗て不肖に任せざるあらず治未だ嘗て忠賢に任せざるあらず賢に任ずれば天下の福を享け不肖に任ずれば天下の禍にかゝると云ふに至り帝曰く凡そ太平を致すを求むる當さに此言を以て首と爲す可しと又貞觀政要を屏風に書して毎に色を正ふし手を拱（まぬく）きて而して讀む嘗て學子の畢誠（ひつかん）と邊事を論ずるに誠具（つぶさ）さに方畧を陳べしかば帝悦こんで曰く吾が禁中にあらんとはと即ち用ひて邊帥と爲せしに果して其任に稱へり帝は聰察にして能く物事にさとく強記にして覺へがよかりし嘗て學士の韋澳をして州縣の境土、風物及び諸々利害を編纂序次せしめ一書をつくり號して處分語と曰ふ刺史入て謝して出るものあり曰く帝は本州の事を處分して人を驚かすと新に建州の刺史となり將に官に赴かんとするときに入て階辭せし帝問ふ建州は京師を去る幾何ぞと其人曰く八千里なりと帝の曰く卿が彼の地に至り政をなすことは朕皆之れを知れり遠しと謂ふなかれ此の階前は則ち万里なりと令狐綯が奏して李遠を杭州の刺史に擬しやらんとせり帝の曰く吾れ聞く遠が詩に曰く長日惟た消す一局の碁と此の如き語をなすの人は安んぞ能く人を理めんと綯が曰く詩人は此の高興に托するまでにして未だ必ずしも實に然かるにあらずと嘗て詔りするに刺史は外より徙ることを得る勿れ必らず京に出で面のあたり察せしめよと綯嘗て已れの故人卽ち朋友を徙して隣州の刺史となし便利の道より官に之（ゆ）かしむ帝之れに問ふて曰く詔命は既に行はれ京師に至らずして直に他に徙るを得ざるに直に廢格して用ひず宰相は實に權ありと謂ふ可しと時方さに寒かりしも綯は汗が出で重ねたる裘卽ちかはごろもに透れり帝が朝に臨んで群臣に對するに未だ嘗て惰容（おこたりしかたち）あらず宰相が事を奏するごとに旁らに一人もあるなし其威嚴なること仰ぎ觀る可からず事を奏し畢れば忽ち怡然（しづかなるかたち）として閑語すること一刻許り徐かに儼た容を整へて曰く卿が輩善く之れを爲せよ常に恐らくは卿が輩朕に負いて再び相見ることを得ざらんことをと綯嘗て人に謂て曰く吾れ十年の間政を秉（と）る最も帝の恩遇を承けたり然かるに延英殿に於て事を奏するごとに未だ嘗て汗が衣服を沾ふさゞことはあらずと嘗て學士の澳（いく）を召して左右の人を屏りぞけて之れに問て曰く近頃内侍卽ち宦官の權勢いかんと對へて曰く陛下の威光斷決は前朝の比にあらずと帝目を閉ぢて首を左右に搖かして曰く全く未だし全く未だし尚ほ之れを畏るゝことありと又嘗て綯と謀て盡く宦官を誅せんとせしに濫（みだり）りにして無辜卽ち罪のなきものにまで及ばんことを恐る綯が密かに奏して曰ふ但罪あらば捨ることと勿れ又缺くるあるも補ふなかれ左すれば自然に消耗して尽くるに至らんと宦者が竊かに其奏

殍　音剽の上聲餓死を殍と云ふ

控　告なり

販　物品を安く買ひて高く賣るを販と云ふ

鄂　州ハ湖廣に屬す卽ち江夏郡なり

黃梅　州縣は蘄州に屬せり

沂　州ハ山東に屬す卽ち瑯琊郡なり

宋　州は河南に屬す卽ち睢陽郡を云ふ

洪、虔、吉、饒、信　五州は江西に屬す洪は卽ち豫章[illegible]

を見る是に由て益々朝士と相惡みて仲が惡しく南北司が水と火の如く相容れず

○大中十三年上崩。在位十四年。改元者一。長子立。是爲懿宗皇帝。【講義】大中十三年に帝が崩ぜり位に在ること十四年改元するもの一つ長子が立つ是を懿宗皇帝となす

〔懿宗皇帝〕初名溫。封鄆王。以無寵不得爲太子。宣宗崩。宦者立之。更名漼。【講義】懿宗皇帝初めの名は溫鄆王に封ぜらる寵愛のなきを以て太子となることを得ず宣宗が崩じて宦者の王實が之れを立て名を更めて漼と云ふ

○浙東賊裘甫起。聲振中原。觀察使王式討斬之。【講義】浙東の賊裘甫が兵を擧げて起り爲めに聲威中原に振ひ揺でけり觀察使の王武式が諸道の軍を發し之を征討し大に之れを破り甫を擒にし京師に送りて東市に斬る是より先き甫衆山を攻めて之れを陷る觀察使の鄭祗德兵を遣はし之れを討じて大に敗らる甫勝に乘じ剡縣を陷れ自から天下都知兵馬使と稱號し府庫を開き壯士を募る衆數万人に至る是に至て誅せらる

○九年。徐州賊龐勛起。先是南詔稱大理皇帝。擧兵入寇。陷播邕交阯。敕徐泗兵戍桂州。過期不代。遂作亂。勛爲糧料判官。戍卒推以爲主。擁兵北還。所過剽掠。至徐州。因殺節度使。陷諸郡。招討使康承訓擊之。以沙陀朱邪赤心爲前鋒。勛敗死。賜赤心姓名李國昌。爲大同軍節度使。尋又爲振武節度使。【講義】九年に徐州の賊龐勛（はうくん）起る是より先き南詔の豐祐死し子酋龍立つ然かるに朝廷の來弔せざるを怒り自から皇帝と稱し國を大理と云ひ兵を擧げて入り寇す播邕、交阯、（ばんゆう）（かうち）の諸郡を陷ぬ朝廷徐泗の兵に敕して兵二千を募り赴き援けしむ內八百人を分て桂州を戍らしむ初め三年に一たび代るを約す而かるに六年に及べども未だ交代の兵來らず爲めに還ることを得ざれば終に大に怒り叛を謀り都將の王仲甫を殺し糧料判官の龐勛を推して元帥となし兵を擁して北に還る過ぐる所剽掠せざる所なく已にして徐州に至りて節度使の崔彥曾を殺す諸郡を陷る招討使の康承訓が大に兵を發し沙陀の朱邪赤心を以て前鋒となし勛と戰ひ之を破り勛敗死す朝廷功を以て赤心に姓名を李國昌と賜ひ大同軍の節度使となし尋て又振武の節度使となせり

○咸通十四年。上崩。

は今の贛州府、吉は今の吉安府を云ふなり

潁　州は河南にぞくせり

蔚　州は東平にぞくせり

李振武　李國昌府を振武の節度使となす故に振武と云ふ

雲　州は東平に屬す

達旦　五代史に韃靼につくる夷狄の別種の名にして克用父子逃れて此地に入る

鴉軍　軍中克用を号す李鴉兒となす其軍皆な黒きを服するを以ての故なり

在位十五年。改元者一。子晉王立。是爲僖宗皇帝。【講義】（咸通十四年に帝が崩御せり位に在ることと十九年にして元を改むるもの一つ子晉王立つこれを僖宗皇帝となす）

〔僖宗皇帝〕名儇。懿宗少子也。年十三爲宦官所立。自懿宗以來。奢侈日甚。用兵不息。賦斂愈急。水旱不以實聞。百姓流殍。無所控訴。所在相聚爲盜。濮州人王仙芝起。曹州冤句人黃巣應之。巣善騎射。喜任俠。嘗擧進士不第。與仙芝共販私鹽。至是聚衆攻剽州縣。窮民歸之。數月數萬。仙芝攻陷汝鄭唐鄧。寇鄂州。陷安州。寇荊南。與招討曾元裕。戰於申州而大敗。又大敗於黃梅。斬之。黃巣陷鄆沂濮。掠宋汴。南渡陷洪虔吉饒信。寇宣州。入浙東。爲鎭海節度使高駢所破。遂趁廣南。陷廣州。出潭州。北渡向襄陽。敗於荊門。復引而南。陷宣州。自采石渡江。已而渡淮。陷申州。入潁宋徐兗之境。陷東都。引而西。入潼關。入長安。上出奔蜀。巣僭號大齊皇帝。諸道發兵赴援。先是沙陀李國昌之子克用。爲兵馬使。戍蔚州大同軍。諸將謀曰。今天下大亂。朝廷號令不復行於四方。此乃英雄功名富貴之秋。李振武名聞天下。其子

賊黨　巣が甥の林吉を云ふ

同　州は陝西に屬す即ち馮翊郡なり

宣武節度使　汴州を号して宣武節使となす

驛　上原驛、汴州城内にありと云ふ

縋　なはを以て之れをかけそれにすがりて傳だい下るを云ふ

扼　把なり所謂ひきとめることなり

王重榮　節度使亂

勇冠諸軍。若輔以擧事。代北不足平也。遣人潛詣蔚州說克用。克用趁雲州取之。河東招義討之而大敗。克用寇忻代。逼晉陽。已而大爲盧龍兵所破。蔚朔兵亦討敗其父國昌。父子亡走達旦。朝廷赦其罪。召其兵討賊。克用將沙陀來。賊憚之曰。鴉軍至矣。連破賊。復長安。巣焚宮室而遁。至蔡州。節度秦宗權降之。巣趁汴州。克用追擊大破之。未幾賊黨斬巣以降。【講義】（僖宗皇帝名は儇と云ひ懿宗）の小子なり年十三にして宦官劉行深等の爲めに立てらる唐朝は懿宗の朝より以來は昏庸の主が相繼ぎ奢り侈るてと一日一日甚しく爲めに禍乱相起り兵乱の絶へ息む時がなかりし又重斂苛賦愈々急にして水害や旱魃（ひでり）の災禍に過ふとも姦邪佞人朝野に滿ち其實を以て奏聞せず上下相離（へだつ）たり上下明ならず下情通せず民百姓は彼所に流涙し此所に餓死し控訴乃ちなげき訴へる所なく至る處相聚り集ひ盜をなし復た支ふ可からず濮州の人の王仙芝兵をあげて起れり又曹州冤句の人黄巣も亦兵を擧げて仙芝に應ぜり巣は騎射を善くし且任俠（おとこだて）を喜む嘗て進士に擧げられて落第せり故を以て仙芝と共に私鹽を販るを以て事となす是に至て衆民を召び集めて州縣を攻め剽（かすむ）む窮民の之に應じ歸するもの數月の間に數万人の多きに至れり仙芝汝鄭唐鄧を攻めて陷れ鄂州に寇し安州を陷る荊南に寇し招討使の曾元裕と申州際に於て戰ひ大に敗れ又元裕と黄梅に戰ひ大に敗れ擒へられて斬らる黄巣は鄆沂濮を陷れ宋汴を掠む南に渡て洪虔吉饒信を陷れ宣州に寇す浙東に入る鎭海節度使の高駢が爲めに破ぶられ遂に廣南に移り廣州を陷れ潭州に出づ北に渡て襄陽に向ひ荊門に於て江西招討使曾全晸、劉巨容等と大に戰ひ伏に陷り大に敗る復た兵を集めて引きつれ南行し宣州を陷れ采石より江を渡れり已にして淮を渡り申州を陷れ潁、宋、徐、兗、の境に入り東都を陷れ引て西し潼關を攻む承範等力を悉して之を拒ぎ矢尽きて拒ぐ能はず賊遂に長安に入る承範脫走せり田令孜（でんれいし）兵五百を帥ひ帝を奉して鳳翔に留り尋で蜀に幸す巣大齊皇帝と僭号し令を百官に下し已れに從はざるものを皆な殺さしむ時に鳳翔の節度使鄭畋（ていでん）諸道の兵を合せて巣を伐つ帝も亦詔を下し諸道の兵を促し長安を恢復するを計らしむ是より先き沙陀の李國昌の子克用なるもの兵馬使となり蔚州大同軍を戍る諸將謀議して曰く今天下大に乱れ朝廷の号令は復た天下に行はれず此れ即ち英雄豪傑の功を立て名を顯はし身を富貴にするの最も良き秋（とき）なり且李振武即ち李國昌の威名は嘗て天下に聞へ響けり又其子克用も勇にして武なること諸軍中で第一番なり若し相輔けて以て大事を擧げば代北即ち北平

を作して自から安邑解縣の壊地を專にす

朱玫　邠寧の節度使なり

明粹　粹は物の純一なるを云ふ又全きなり

英氣　万人にすぐれたるを英と曰ふ又頴と相通ずるなり

大漸　疾病の漸く篤きを云ふなり

宦者　觀軍容使の楊復恭なり

曄　案ずるに僖宗崩ずるに臨んで遺制す傑が名を

軍は平ぐるに足らざるなりと人をして潜かに蔚州に詣り克用に說かしむ克用則ち雲州に赴きて之を取る河東節度崔彦昭に詔し之を擊たしむるに功なし已にして克用父子等忻州代州に入寇し晉陽に攻め逼る河東節度使康傳圭を殺す李琢蔚朔招討都統を以て代州に屯す克用傅文達なるものをして蔚朔の兵を調せしむるに文達高文集と共に李琢に降れり盧龍節度李可擧克用を討ち大に之れを破る李琢も亦國昌を破る是に於て克用父子達靼に走れり已にして朝廷克用の罪を許し詔して黃巢を伐たしむ克用喜び沙陀の兵を引て來る賊軍之れを聞き畏れ憚かりて曰く鴉軍至ると蓋し克用の軍皆黑を服するを以て鴉軍と云ふなり克用進りに賊を破り長安に入る巢力戰して勝たず宮室を焚き遁れ去りて蔡州に至る節度使秦宗權巢に降參せり尋で巢は汴州に赴く克用等追ひ擊ちて大に之を破る未だ幾ばくならずして巢が甥林言巢を斬て以て降れり○克用之至汴州。也。朱全忠襲之。全忠者巢將朱温也。先爲巢所遣。攻陷同華。尋以華州降。賜名全忠。爲宣武節度使。館克用甚恭。克用乘酒頗侵之。全忠不平。發兵圍驛攻之。克用醉。左右以水沃其面告之。克用乃張目援弓起而走。會大雷雨晦冥。扶醉乘電光縋城出。汴人扼橋。從者力戰得度而免。克用還晉陽。治甲兵。表乞討全忠。詔和解之。不聽。

講義　克用が所々の賊を擊ちて汴州に至るや朱全忠なるもの之を襲へり全忠なるものは巢が將朱温のことにして先きに巢が爲めに遣られ兵に將として同華を攻落し尋て巢の勢久しからざるを知り華州の兵を以て唐に降參せり名を全忠と賜へり宣武の節度使となる克用を城中に延て大饗を具し恭敬甚だつとむ克用乱醉太だしく遂に酒氣に乘じ語氣全忠を侵し耻かしむ全忠憤恚頗る不平なり故に兵を發して克用の館なる上源驛を圍て之を攻む克用醉ふ左右のものが水を其面に沃（へそゝぐ）ぎて乃ち之れに變を告ぐ克用目を張り瞋らし弓を援て起て而して走る會々大雨激雷晦冥（くらく）にして甚だ暗む左右醉を扶けて雷光に乘じて城に縋（なは）をつり下げそれにすがりておりて出づ而るに汴人が橋を扼（へやく、くひとめる）して拒ぎ守れり從者力め戰ひ渡るを得て免るを得たり克用晉陽に還り甲馬を治め兵士を訓練し上表して全忠が罪を具狀し其仇を討んと乞ふ其部下の將三百人亦一疏を上り全忠が罪を鳴し主の憤りを釋かんと乞ふ時に朝廷の處分姑息にて一日の安を圖かり詔諭人を下し之を和解す克用之を謝して曰く臣敢て詔を抗するにわらざれども陰賊の全忠異日必らず朝宗の大患をなさんこと鏡に照して見るが如し此機に乘じ其の禍根を絕たざれば臍をかむとも及ぶなけん請ふらくば速に彼が官爵を削り其罪を正したまへと廷臣大に困めり又全忠は宰臣に

敏と改たむ明年元を龍紀と改たむ復た名を曄と改たむ

朝廷日卑　唐の政綱懿宗にやぶれてより僖宗に至り大壞極る帝即位して其版籍を取て見るに其號令の及ぶ所僅かに河西山南より嶺南の數十州にして其間亦賊最も多し

恢復前烈之志　太宗の建てられたる大業を元の通りにふくすること

忻々　欣喜して仰ぎ悦ぶかたち

賂して密に克用の表請を沮む○上發成都還長安。○秦宗權僭號。○上之奔蜀也。宦者田令孜實挾之。自以爲功。權自己出。河中王重榮。前作亂自立。令孜遣朱玫等攻之。重榮求救於克用。克用方怨朝廷不罪全忠。上言玫等與全忠相表裡。欲共滅臣。引兵赴河中。京師震恐。令孜劫上奔鳳翔。朱玫追逼不及。立肅宗玄孫襄王熅爲帝。玫將王行瑜斬玫。熅奔河中。王重榮斬首送行在。上還長安。上在位十五年。改元者五。曰乾符。廣明。中和。光啓・文德。日與宦官相處而已。天下大亂。盜賊蠭起。豪傑因起其間。互相呑噬。朝廷不能制。上崩。壽王立。是爲昭宗皇帝。

講義　帝成都を發して長安に還へれり○秦宗權なるもの僭號して帝と曰ふ○帝の蜀に出奔するや宦官の田令孜が實に之を挾みて率せしかば自らこれを以て己れの功となし益々政權を專にし權皆な令孜より出づ河中の王重榮と云ふもの前に亂をなして自立す令孜が朱玫等を遣はし之を攻む重榮救を克用に求む時に克用方に朝廷が全忠を罪せざるを怨み軍を帥ひて全忠を討たんとす克用又朱玫李昌等令孜と共に全忠に結び陰計あるを偵して知り抗表を作り上て曰く玫等已に全忠と相黨し臣が身を斃さんと圖る臣亦其れ己れを救はざらんや今蕃漢の猛兵を集むること十五万なり必らず此兵を提げて明年春河を濟らんと朝廷表を見皆色を失へり已にして克用兵を引て河中に赴く是れが爲に京師震ひ恐れ甚し已にして令孜等帝を劫かして鳳翔に奔らしむ而かるに朱玫李昌等令孜が爲に役せらるゝを耻ち晉浦に如て和を乞ひ一つとなり帝を奪ひ還さんとすれども其在所を失し得る能はず時に肅宗の玄孫襄王熅を立てゝ帝となす玫の將王行瑜玫を斬る熅河中に奔れり王重榮偽はりて迎へ城中に入れ之を斬り熅が首及び玫が首を行在に送れり上長安に還る帝在位十五年にして改元するもの五つ乾符廣明中和光啓文德と曰ふ帝日々宦官と相處るのみ天下大に亂れて盜賊が蠭の如く群（むらがる）り起り英雄は因て其間に起り互に相鬪かひ呑噬（どんぜい）を事とし朝廷は之れを制御すること能はず帝崩ず壽王立つ是を昭宗皇帝となす

强鎭（李克用朱全忠及びその羽翼を持し割據の勢をなすもの二十四家なり）

十一人（通、儀隨、濟、韶、彭、韓陳、覃、延、用、）

神策將（指揮使孫德昭を云ふ）

定策國老

門生天子（その天子を策立するの功を以て故に國老と號す天子を見る試官の進士等を見るが如く故に門生と曰ふ）

有簒奪之志（天子の位を奪ひ取

〔昭宗皇帝〕名傑。僖宗之弟也。僖宗大漸。宦者立之爲太弟。遂卽位。後更名曄。帝明粹有英氣。喜文學。以僖宗威令不振。朝廷日卑。有恢復前烈之志。踐祚之始。中外忻忻焉。然而內制於宦寺・外有强鎭。初志竟不遂。講義（昭宗皇帝ハ名は傑と曰ひ僖宗の弟なり僖宗疾大に漸んで惟れ篤きに及んで宦者の楊復恭之を立てゝ太弟となし遂に位に卽く後名を曄(う)と改む帝事物に明らかに純一なり且英氣乃ち人にすぐれたる氣象がありて文學を好めり常に僖宗以來朝廷の政治命令が行はれず振はざるを以て疾くより前王の烈績を恢復するの志あり故に位に卽きたる初め中外の人々忻忻(きんきん)然としてよろこび賀せり然れども內は宦寺卽ち楊復恭、劉季述等の爲めに制御せられ外ハ李克用、朱全忠、を初めとして强き兵士を持し割據の勢を爲したる者二十四鎭ありて初志遂げず）○越州董昌僭號。昌先據杭州。錢鏐爲兵馬使。朝廷命昌師浙東。鏐領杭州。至是昌稱帝於越。詔鏐討之。講義（越州の董昌なるもの僭号して帝と稱せり昌先きに杭州に據れり錢鏐(せんきう)兵馬使と爲る朝廷昌に命じて浙東に帥とす錢杭州を鎭す是に至て昌越に與る朝廷錢に詔して之を討しむ）○鳳翔李茂貞・華州韓建・邠州王行瑜。三鎭擧兵犯闕。殺宰相。謀廢立。聞李克用來討。乃去。克用攻邠州。斬行瑜。將移兵岐華。貴近恐沙陀太盛。止之。克用自隴西郡王。進爵晉王。引兵還晉陽。講義（鳳翔の李茂貞華州の韓建邠州の王行瑜等三鎭の兵を擧げて禁闕を犯し宰相を殺し廢立を謀る而かるに李克用兵を以て來り討ずると聞て乃ち懼れ去る克用蕃漢の兵六万を擧げて南上し上表して曰く三鎭の奴輩兵を以て主上に迫り且つ大臣を賊害す臣今北方より寢食を忘れ朝廷の急に赴く途路の書を聞くに奴輩既に聖上廢立の事を企つと猜ふ是より逆賊を伐ち然後に上謁せんと檄文を還し三師の罪を鳴らし邠州を攻めて行瑜を斬り將さに兵を岐華に移さんとす帝は貴近(おそばづき)の權の者に謀る或人曰く茂貞復た滅せらるれば沙陀卽ち李克用が亦た盛になれば朝廷は危ふからんと帝之れを然かりとし克用に詔を賜ひ其忠勲を褒め二鎭を討することはやめ以て兵や民を安息せしむ克用隴西郡王より爵を晉王に進む尋で兵を引て晉陽に引き還へる）○

るの志わりと云ふなり

恐生變（若し全忠が西詣せばその留守につけ込み帝が勤の士を徵し集め恢復を圖り我が背后を擬ふを恐る）

以興復

爲辭（唐朝廷の辭ハ宦官及び全忠等の爲めに擅にせらるゝを濫み之を除きて朝廷を安んずることを以て檄文の辭となす）

非不夢想

賢豪（常に賢人豪傑を得んことを希がいる）

錢鏐克越州。董昌伏誅。○初李克用屯渭北。李茂貞韓建憚之。事朝廷甚恭。克用去。二鎭復驕慢。茂貞擧兵犯闕。上出奔華州。克用遣援。又聞朱全忠營洛陽。迎駕。茂貞與建皆懼。奉上還長安。先是嘗令諸王將兵巡警。又欲使出四方撫慰藩鎭。南北司用事者・恐其不利於已。交諫以爲不可。上不得已罷之。上在華時。宦官劉季述。圖殺諸王十一人。至是季述幽上於少陽院。而立太子裕。同平章事崔胤說神策將討誅季述。上復位。宦官謀去胤。時朱全忠有挾天子令諸侯之意・胤以書召之。全忠擧兵來。宦官韓全誨等。劫上如鳳翔。全忠圍之。李茂貞遂殺全誨等。奉上還長安。全忠以兵驅宦官。盡殺之・其出使外方者。詔所在誅之。存黃衣幼弱三十人。備洒掃。宦官自文宗已後。廢置在其掌握。至有定策國老。門生天子之號。及是大被誅殺。講義（錢鏐越州董昌を討つ昌誅に伏せり○李克用が渭北に屯在するや李茂貞韓建之を憚かり朝廷に事ふる甚だ恭しかりしが克用去るや否や二鎭復た驕慢なり茂貞ハ兵を擧げて禁闕を犯す帝華州に出奔す克用援兵を遣はし又朱全忠洛陽に營し駕を迎ふと聞て茂貞建等皆懼れ帝を奉じて長安に還れり是より先き嘗て諸王卽ち睦、昭、通、彭、韓、陳の八王を兵に將として巡警せしむ又四方に出だし藩鎭を撫慰せしめんと欲す而かるに南北司事を用ゆるもの其の己れに利なきを以て恐れて交々諫めて以て不可と爲す帝已むを得ずして之を罷む帝華にありし時宦官の劉季述と韓建等と共に惡計を施し誣ひて反逆なりと稱し諸王十一人を圍み狂殺す是に於て季述外鎭の諸將帝を助けて强勢なるを恐れ密か

故に夢中幼想の間に入てその人を得たり殷の高宗の故事にして史の假托の語辞なり

朝士鄭綮 鄭元規の弟

恢諧 わが國の俳諧家流者の如きものにして諺歟なり

所蘊 は蘊內に聚成することを有て未だ外に發せざるを云ふ

班簿 朝廷の百官をたゞし爵位官銓を記するの密なり

堂吏 官者の極めて

に窩人を集めて謀議して曰く主上輕誤浮薄にして變詐常なく南司の武官に與みし我黨終に身を安んぜず廢立を謀るに如かずと此の日帝上苑に獵し夜還る述等衛府の兵を遣して帝を內殿の長廊に要して小室に舍き亦何后及び嬪御十餘人を執へ帝を小室より迎へ出し同車に載せて小陽宮に幽し其外從來帝に就て親寵を蒙むる者は悉く捕へ殺す太子裕を立つ同平章事の崔胤神策の將孫德に說て季述を討て之を誅す因て帝は位に復せり宦官胤を惡み之を除去せんとす時に朱全忠天子を挾みて天下の諸侯に命令するの志あり胤書を以てこれを召す全忠兵を擧げて來る宦官韓全誨等帝を劫かして鳳翔に幸きせしめ諸門を禁じ兵を增して防守す朱全忠鳳翔に至り城東に軍す李茂貞城に登り謂て曰く天子災を避く臣下の罪なきにあらずと全忠曰く韓全誨は天子を劫して遷す今來て罪を問ふと全忠進んで鳳翔の城下に逼る李茂貞遂に全誨等を殺し帝を奉じて長安に還へ　崔胤奏して思へらく宦官兵を典とり政に預かる國家を傾き危くす其根を剪除せざれば禍終に已まざらん請ふ悉く內諸司をやめ其事務をして悉く之を省寺に歸せしめん諸道監軍を俱に召して闕下に還さん帝之に從ふ全忠遂に兵を以て宦官數百人を驅り悉く之れを殺す せり爲めに哀號冤叫の聲長安の內外に響き亘り慘狀を極む又其出でゝ外方に使せる者ハ所在に詔して之れを殺す只だ黃衣幼弱なるもの三十人を留めて以て洒掃郎そふじ役に備ふ又崔胤を以て六軍十二衛の事を兼ね判す宦官文宗より已後天子を廢置することは其掌の內に握り居りて自由自在に取り計らひ定策國老門生天子の號あるに至れり（解上にあり）是に及で大に誅殺せらる

全忠由東平王。進爵梁王。還汴。○全忠威震天下。有篡奪之志。胤懼爲之備。全忠表請除胤。密使其黨殺之。遂請上遷都東京。促百官東行。驅徙士民。上謂侍臣曰。鄙語云。紇于山頭凍殺雀。何不飛去生處樂。朕今漂泊不知竟落何所。泣下沾巾。上至洛陽。李茂貞等移檄。以興復爲辭。全忠將西討。以上有英氣恐生變。遣人入洛弑之。講義

朱全忠が東平王より爵を梁王に進めて汴に還る○全忠の威名天下に震へり而して全忠簒奪の志あり崔胤之を知り懼れて私かに全忠に謂て曰く內衛の六軍名ありて實なし請ふ猛士を募てこれを實たし朝廷の非常に備へ且つ公が西顧の患を防がんと全忠其意を察し志を曲げて胤が議に從ふ此に於て胤京兆の尹鄭元規と計り日に壯士を募り集め兵仗を修め繕ふ急にして以て備ふ會全忠が甥朱友倫なるもの左軍衛にありて人の爲めに殺さる全忠疑ふて胤が手に出ると爲す然れども證據なきを以て胤が專制の罪八ヶ條を舉して帝に上り胤及び鄭規を除かんとこふ帝已むを得ず胤及び鄭規を貶すその夜全忠密かに人をして之れを殺さしむ初め崔胤朱全忠の兵力を假り宦官を誅す全忠

下官に在るもの黃布衣をきて堂階の上に列し庶官の侍丁に方たる

綮搔首 官其の過分なるに因て自から恥ることあり故に首をかくなり

歇後詩 歇は息ふなり沍なり乃ち詩の題の中に文字を删殺し題意の深かきを准息し說かず譬へば君我と又は吾れ君に等の語をつくるにと書して我れを省き吾れにと書して君の字を說かずいはゆる隱詞（なぞ）

旣に李茂貞を破り威天下に震ふ胤懼れて全忠と外親厚しと雖ども私心漸く異なれり是に至りて全忠天子を遷して洛陽に都せんと欲す全忠牙將を遣はし上表して曰く邠の李繼徽、岐の李茂貞等の兵幾何に已に逼れりと稱し帝に請ふて都を洛陽に徙す時に帝延喜樓に御す樓を下て奏表を閲せんとす早くも全忠の黨同平章事の裴樞旅裝を具して帝に奉り百官を驅迫し東行の御駕を結束せしむ百官皆な夢中に鬼に責めらるゝが如し長安の士民その廟役の急なるに驚動し叫号罵詈して道路に塡溢し互に号び呼んで曰く賊臣崔胤朱溫を召し來て社稷を亡ぼし我れ等をして流離此に至らしむと帝遂に長安を發す長安の宮室百司及び民間の廬舍を毀つ長安遂に墟となれり帝華州に至る民路を夾んで万歲を呼稱す帝泣て曰く万歲を呼ぶなかれ朕は復た汝が主とならずと興德宮に館す侍臣に謂て曰く鄙語即いやしき諺に曰く紇于山頭雀を凍殺す何んぞ生處に飛び去りて樂まざると紇于は即ち紇眞山なり大同府の城東北五十里にあり紇眞は胡は漢に千里と言ふが如し此山盛夏に至るも積雪消ゆるなく西北の爽常に險寒に苦み雀を凍死するの語を傳ふ其山頭の積雪多くして雀を凍死す而かるに雀飛び去りて安處に赴く能はず故に曰ふ朕れ今雀の如し治所を去りて安に就くの術なし漂泊流離死所何れの所たるを知らずと因て涙下り襟を霑はす左右の者能く仰ぎ視る者なし二月の末に幾陝東に着す全忠來朝す帝延て寢室に入る何后を視せしむ后泣て曰く今よりわが夫婦正に身を全忠に委せんと帝洛陽に至るこれより先き密に間使を馳せて詔を血書して諸國勤王の士を徵す王建李克用等各々兵を擧げて恢復を圖かる又李茂貞檄を移し恢復を辭となす全忠將さに西の方李茂貞等を討たんとす而かるに帝の英氣ありて后に變の生ぜんを恐れて人を遣はし洛に入て之を弑せしむ

○上自即位。非不夢想賢豪。卒不用之。嘗有朝士鄭綮。好恢諧。多爲歇後詩。嘲時事。上意其有所蘊。手注班簿。以爲相。堂吏走告。不信。已而賀客至。綮搔首曰。歇後鄭五作宰相。時事可知矣。講義

帝位に即きしより賢豪の士を得んことを希はる故に夢中幻想の間に入て其人を得たり（これ殷の高宗の故事にして史の假托の語なり）卒に之を用ひず嘗て朝士鄭綮（ていけい）と云ふもの恢諧即ち俳諧を好み多く歇後詩（かつごのし、解上にあり）を作りて時事を嘲けり笑ふ帝その奧深き才智のあるを意ふ手づから班簿即ち朝廷の百官を質し爵位官銓を記するの班簿を取りて之れに姓名を書す堂吏走りて之れを告ぐれども綮信ぜず已にして賀客至る綮首を搔きて曰く歇後の詩を作る鄭股叔が宰相となる故に時事知るべしと

○上在位十七年。改元者七。曰龍紀。大順。景福。乾寧。光化。天復。天祐。子立。是爲哀皇帝。講義 帝在位十七年改元するもの七つ龍紀、大順、景福、乾寧、光化、天復天祐と曰ふ昭宗の五子が立つてこれを哀皇帝となすなり

なり

歇後鄭五　綮ハ鄭畋叔が第五子なり故に鄭五と云ふ

龍紀　即位二年にして元を改たむなり

〔哀皇帝〕初名祚。昭宗有廢太子裕已壯。全忠惡之。祚以幼得立。更名柷。全忠殺裕等九人。皆昭宗子。全忠爲相國。加九錫。帝在位仍稱天祐。不四年禪于梁。尋被弑。唐自高祖至是二十世。凡二百九十年。**講義**哀皇帝初の名は祚と曰ふ昭宗廢太子裕あり已に壯なり全忠之れを惡む祚幼なるを以て立つを得たり名を柷と改む全忠裕等九人をころす皆な昭宗の子なり全忠相國となり九錫を加ふ帝の位に在る仍ほ年号を天祐と号稱せり四年ならずして位を梁に禪れり尋で弑せらる唐高宗より是に至て二十世凡て二百九十年なり

十八史略講義卷之五終

十八史略講義卷之六

元　曾先之　編次
日本　的場麗水　講義

鼇頭解釋

五代　唐亡び宋起るの間五十四年中正統の天子なく英雄四方に割據し兵亂相つぐ代を易ふる者五國之れを五代の世と云ふ又た五季とも云ふ

梁　朱温は宣武節度使と爲り汴に治す汴は古の大梁なり後ち梁王に封ぜらる尋で天子の位を踐む依て号して梁と曰ふ

朱五經　ハ名

五代

梁　**講義**世に後梁と號せり後の唐、晉、漢、周皆之にならへ

〔梁太祖皇帝〕初名温。姓朱氏。碭山人。朱五經之子也。少無賴。從黃巢爲盜。降唐賜名全忠。初鎭汴。攻併徐州兗州鄆州。攻河北河東諸郡。屢與李克用交兵。尋取河中晉絳。用兵華岐。東降青州。南取荊襄。橫行諸鎭間。劫遷唐都於洛。遂簒唐。更名晃。封其兄全昱爲王。嘗罵之曰。朱三汝作天子邪。汝從黃巢作賊。天子用汝爲四鎭節度使。何負於汝。奈何滅唐家三百年社稷。自爲帝王。行當族滅矣**講義**梁の太祖皇帝は初の名を温と曰ふ姓は朱氏にて宋州の碭山(たうざん)邑の人にして朱五經(名は誠)の子なり少年の時より無賴の性質にして黃巣に從て盜賊を爲す後ち唐に降參して名を全忠と賜ふ初め汴を鎭撫して徐州兗(えん)州鄆州を攻め併せ河北や河東の諸軍を攻めて屢ば李克用と兵を交へ尋で河中晉、絳(こう)の二州を取る兵を華、岐に用ひ東の方は青州を降參せしめ南の方は荊襄を取り諸藩鎭の間に橫行して自由にあるき廻(まわ)りたり威力を以て刼(おびやか)して唐の都を洛陽に遷し遂に唐の天下を簒(うばふ)ひ名を晃と更め其の兄の全昱(いく)なるものを封じて王と爲せり嘗て太祖の事を罵り惡口して曰ふ朱三よ汝は天子と爲りしが汝は本と黃巢なるものに從て盜賊を爲したるものにあらずや然るに天子ハ汝を用ゐて四鎭の節度使と爲したりそれ等の恩義あるに何が汝に負き氣に入らざりしぞ奈何

誦五經を以て教授す故に云ふなり

無賴（ブライ）放蕩にして廉恥の心なき者なり

鎭汴（チンスベン）宣武の節使たるを云ふ

朱三（シユサン）全忠は朱氏の三男三は猶ほ我が國の三郎と云ふが如きなり

四鎭節度使（シチンノセツドシ）先に唐全忠を以て宣武、太平、護國の節度使と爲す

李茂貞（リモテイ）本姓は宋名は文通博野軍の戍卒爲り昭宗の時封じて岐王と

（で唐宋の三百年もつゞきたる社稷を滅ぼして自分に帝王と爲るや此の如き恩知らずのものは行く行くは當然汝の一族まで滅ばるべしと）

是時李克用王晉。李茂貞王岐。楊行密爲呉王。王淮南。行密已卒。子渥代之。王建王蜀。錢鏐王兩浙。王潮據閩。已卒。弟審知代之。馬殷據湖南。劉隱據廣。皆自唐末以來。割據諸州。

通解 是の時に當りて李克用は晉に王たり李茂貞は岐に王たり楊行密は呉王と爲りて淮南に王たり行密は已に卒して子の渥（あく）が之れに代り王建は蜀に王たり錢鏐（りう）は兩州即ち浙東浙西に王たり王潮は閩（びん）に據り已に卒して弟の審知が之れに代り馬殷は湖南に據り劉隱は廣に據り皆な唐の末年より以來諸州に土地を割てこれに據りたり

○梁主以馬殷爲楚王。○蜀王王建稱帝。○晉王李克用卒。初克用有養子。曰存孝。最驍勇有功。養子存信疾而譖之。存孝懼禍而叛。克用討獲。因歸。惜其才。意臨刑必有爲之請者。諸將疾其能。竟無一人言。遂死。又有薛阿檀。亦勇。密與存孝通。恐事泄自殺。自是克用兵勢寖弱。唐末數爲汴人所攻。失數州。汴兵直抵晉陽城下。克用登城備禦。不遑寢食。後汴兵再圍晉陽。以疫還。克用幾欲走。會汴兵去而止。克用不能與汴人爭者累年。悒悒以至于卒。子存勗立。時梁兵侵晉圍潞州。晉李嗣昭閉城固守踰年。梁築夾寨守之。存勗與諸將謀曰。朱溫所憚者先王耳。聞吾新立。以爲童子。必有驕怠之心。若簡精兵。倍道趨之。

爲す

楊行密（ヤウコウミツ）唐の僖宗の景福元年を以て淮南の節度使と爲り流散を招撫し徭を輕くし賦を薄くす公私富庶遂に淮南の地に據有せり

王建（オウケン）許州舞陽の人昭宗授くるに西州の節度使を以てす遂に其の地に據有せり

王審知（オウシンチ）光州固始の人黃巢の乱に閩嶺五州の地を有つ昭宗就て閩王に封ず

出其不意。取威定霸。在此一擧。不可失也。帥兵發晉陽。伏三垂岡下。旦乘大霧。直抵夾寨。塡塹鼓譟而入。梁兵大潰。遂解潞圍。

通解 梁主は馬殷を以て楚王と爲す○蜀主の王建は帝と稱せり○晉王の李克用が卒せり初め克用に養子あり存孝と曰ふ最も勇氣にして戰功あり養子の存信が之を心に疾みて譖し讒言せしにより存孝は禍難を懼れて叛けり克用は之を討ち獲て囚（めしうど）にして歸りしが其の才氣を惜み殺すに忍びず意（おもふ）ふのにいよ／＼刑罰せんとする時に臨みなば必らず存孝の爲めに救免を請ふものあらんと其の時を期とし死を赦さん然るに諸將は其の才能を疾み居れば誰に一人も存孝の爲めに救命のことを言ふものなかりしかば遂に殺されて死せり又た薛阿檀（せつあつだん）といふものありてこれも亦た勇氣ありしが密かに存孝と内通して居りし故に事の泄れんことを恐れて自殺したり是より李克用が兵の勢は寖（やうやく）だん／＼に弱くなれり唐の末年に數ば汴人の爲めに攻められて四五州を失ひたり汴の兵が直ちに晉陽の城下まで抵りし故に克用は城に登り備へ禦ぐ其の間寢たり食事したりするにも遑（いとま）なきほどなり後に汴の兵が再たび晉陽を圍みしに時疫即ち流行病の爲めを以り還り退けり克用は殆んど走らんと欲せしに汴兵の去るに會ふて止めたり克用は汴の人と戰ふ毎に敗れて爭ふことを能はざるもの幾年となく年を累（かさぬ）ねたりしかば悒々と心に之れを憂ひ以て卒するに至れり子の存勗（きよく）立つ時に梁の兵が晉を侵して潞州を圍みしに晉の李嗣昭は城を閉ぢて堅固に守ること一年を踰へたり梁は城を夾みたる寨（とりで）を築きて之れを守る存勗は諸將と謀り相談して曰ふに朱溫が憚り懼るゝ所のものは獨り先王の克用ばかりなり吾が此の度新に立つを聞きて以て童子の如きもの未だ戰爭にならはずとなして必らず驕り怠る心あらん若しすぐれたる精兵を簡（えらぶ）み出し道の里程を倍して之れに趨き其の不意に出でたならば威光を取り霸業を定めんこと此の一擧に在らん此の機會てぞとりはづすべからざるなりと兵を帥ゐて晉陽を發し三垂岡と云ふ所の下にかくれ旦（あした）に大霧につけ込みて直ちに夾寨に抵り塹（ざん）を塡（うづ）め鼓を擊ち譟（さわ）ぎて入るに梁の兵は大に潰ねて遂に潞州の圍を解きたり時に梁主が之を聞き驚き歎じて曰く子を生まば當さに李亞子の如くなるべし克用も亡せずとなす吾が兒に至ては豚犬のみと

○淮南將張顥徐溫。弑楊渥。溫復殺顥。將吏推立楊隆演。徐溫自領昇州。而以養子徐知誥往治之。

通解 淮南の大將の張顥、徐溫の二人が楊渥を弑せり溫は復た顥を殺したりもろ／＼の將吏どもが推し尊んで楊隆演（えん）を立つ徐溫は自ら昇州を領す而して養子の徐知誥（こう）なるものを以て往て之れを治めしめたり

○梁以王審知爲閩王。○梁以劉守光爲燕王。守光者盧龍節度使仁恭

馬殷　許州鄢陵の人唐の乾寧中に潭州を領す遂に湖南の地に據有す

劉隱　隱が祖ハ上蔡の人なり南海に商買す因て家す梁封じて南海王と爲す卒す其の後位を襲ふ廣州に潜號す

悒々　憂苦之貌

夾寨　潞州城下に於て長城を築きて城內を防ぐ之を夾寨と云ふ

以疫還　陣中疫病流行し士卒多く病む故に囲を撤す

之子也。先是因其父而自領軍府。○梁夏州亂。殺節度李彝昌。以其族父仁福代之。夏州李氏。本姓拓跋。上世自唐賜姓。領鎭久矣。**講義** 梁ハ王審知を以て閩(びん)王と爲したり○梁ハ劉守光を以て燕王と爲せり守光とは盧龍の節度使の仁恭の子なり是より先きに其の父を囚(とら)へて自ら軍府を管領したり○梁の夏州が乱れて節度使の李彝昌(りいしよう)を殺し其の族父の仁福なるものを以て之れに代へたり夏州の李氏ハ本姓は拓跋(たくばつ)と曰ふ其上世即ち先代は唐より姓を賜ひたるものにして鎭を領して居ることが年久しきなり

○廣州劉隱卒。弟巖代之。○劉守光稱燕帝。○鎭州王鎔定州王處直推晉王爲盟主。梁攻鎭州。襲取諸郡。晉王伐其兵於柏鄉。大破之。晉帥二鎭。伐燕。梁主救之。大敗走歸。**講義** 廣州の劉隱が卒し弟の巖(がん)が之れに代りたり○劉守光が燕帝と稱したり○鎭州の王鎔(よう)定州の王處直が晉王を推し尊んで盟約の主と爲す梁は鎭にを攻め諸郡を襲ひ取る晉王ハ其の兵を柏(はく)鄕に伐ち大に之れを破る晉は二鎭即ち鎭州定州の兵を帥ゐて燕を伐つ梁主は之れを救ひ大に敗れて走り歸りたり

先是梁主已有疾。至是慟憤曰。我經營天下三十年。不意大原遺孽。更昌熾如此。吾觀其志不小。我死諸兒非彼敵也。吾無葬地矣。疾愈劇。且加躁怒。愛假子友文之妻。將立友文爲嗣。遂爲其子友珪所弒。在位六年。改元者二。曰開平。乾化。初以汴州爲東都開封府。洛陽爲西都。遷都洛陽者凡四年。友珪自立。尋伏誅。均王立。**講義** 是より先きに梁主は已に病氣ありしが是に至りて慟(はつ)ち憤りて曰ふに我れ天下を經營し治むること三十年の間なり意はざりき大原の遺りたる子孫が更に昌熾乃ちさかんなること此の如くならんとは吾れが彼等の志を觀るに中々小ならず我れが死したならば諸兒とも彼れが敵手に非ず是によりて見れば吾れは死したりとも骨を葬むるべき土地も無からんと疾は愈々劇(はげ)しく且つ躁ぎ怒ることを加ふ養子の友文が妻を愛し將さに友文を立て世嗣と爲さんとす遂に其の子の友珪が爲めに弑せられたり位に在ること六年にて年号を改めしこと二つ開平、乾化と曰ふ初め汴州を以て東都開封府と爲し洛陽を西都と爲したりじが遷りて洛陽に都する者は凡そ四年にして友珪が自立し尋で誅に伏せり均(きん)王是に於て繼ぎて立つ

族父　父の再從兄弟(またいとこ)なり

大原遺孽　大原は晉王の都する所なり遺はのこる子にして孽は庶腹の子を云ふ

昌熾　二字共にさかんなりと訓す

假子　養子

無葬地　土地が皆な晉の有となり身を葬むる地なきを謂ふなり

東胡種　五代史に匈奴種と作る

八子　八部大人と稱

〔均王〕名友貞。初爲東都指揮使。友珪簒弑。起兵誅之。而即位於汴。更名瑱。**講義** 均王は名ハ友貞と曰ふ初め東都の指揮使となる友珪が先帝を簒弑したるが故に兵を起して之れを誅戮す而して位に汴州に即きたまひ名をば瑱(てん)と更(あらた)めたり

○晉王入幽州。執燕劉仁恭及守光。歸斬之。**講義** 晉王が幽州に入り燕の劉仁恭及び守光を執らへて歸り之れを斬りたり燕は劉守光が梁の大祖の乾元元年に僭号してより是に至るまで三年にして亡ぶ

○梁賜荊南節度使高季昌爵。爲王。○契丹阿保機稱帝。古東胡種也。其國先在横山南。本鮮卑舊地。元魏時自號契丹。初太賀氏有八子。號八部太人。推一人爲主。三歲一代。唐開元中。有邵固者統衆。詔許襲王。至是諸部以耶律斡里少子阿保機爲主。并奚渤海諸國。始建元不復受代。國人謂之天皇王。**講義** 梁は荊南の節度使の高季昌に爵位を賜ふて王となしたり○契丹の阿保機が帝と稱せりこの契丹と云ふは古の東胡の種類なり其國先きに横山と云ふ所の南にありて本とは鮮卑(せんぴ)の舊地なりしを元魏の時代に自分から契丹と号せり初め其君太賀氏が八人の子ありて八部の太人と號す其内一人を推し尊んで主人となす三年目に一たび代はるの約束なりしが唐の開元年中に邵固(しようこ)と云ふものあり衆人を統べ治さむ詔して襲(つ)ぎて王と爲ることを許す是に至りて諸部が耶律斡里(やりつあつり)が少子の阿保機を以て主とす奚(けい)渤海(ぼつかい)の諸國を并はせて百官を置き始めて年号を建て神冊と云ふ復た代を受けず國人之れを天皇王と謂へり

○廣州劉巖稱越王。已而稱帝。改國號曰漢。后又更名龑。**講義** 廣州の劉巖(劉隱が弟なり)なるもの廣州に於て越王と稱し已にして帝と稱す國の号を改めて漢と曰ふその後に又た更めて龑(きやう)と名づ

す一は但利皆（たんりかい）二ハ乙室（いつしつ）活、三は實活（じつくわつ）四は納尾（のうび）五は頻沒（びんぼつ）六は內會雞（ないくわいけい）七は集解（しうかい）八は奚嗢（けいうん）なり

不復受代 三識に一代の例をやめてこれより子孫相傳へ行くとす

傳國寶 初め僧傳眞之れを得以て常の玉と爲し將さに之を鬻（ひさ）がんとす或ひと之を識りて曰く

（けたり）〇呉徐温徙治昇州。以徐知誥入輔呉政。**譯義**（呉の徐温は徙りて昇州を治め徐知誥（ちようてく）を以て入りて呉の政事を輔けしむ）〇蜀主王建殂。子宗衍立。〇呉王楊隆演卒。弟溥普立。〇梁以錢鏐爲呉越國王。〇晉與梁連歲交兵。梁魏州降于晉。晉王入魏。拔德州澶州。梁劉鄩襲晉陽。不克而還。攻鎭定營。晉師敗之。鄩攻魏州。晉王又敗之。梁又遣兵襲晉陽。晉人擊郤之。晉克衛磁洺相邢滄貝州。掠濮鄆。梁人決河以限晉。晉王攻拔其四寨。已而大擧伐梁。戰于胡柳。晉周德威敗死。晉王收兵復戰。大破梁軍。晉築德勝南北兩城。梁攻之。不克。梁招討王瓚爲晉所敗。梁河中降晉。鎭州將弑趙王王鎔。晉王討平之。先是呉蜀屢書勸晉王稱帝。晉王自謂先王有遺言。當務復唐社稷。既而得傳國寶於魏州。將佐皆賀。勸進不已。遂即帝位於魏。國號唐。遣李嗣源襲取梁鄆州。梁以王彥章爲招討。唐主戒德勝守者曰。王鐵槍勇決。謹之。彥章果拔南城。進拔諸寨。至楊劉力攻。不克而退。梁遣彥章攻鄆。唐主救之。梁敗。彥章死。唐以嗣源爲前鋒。五日入大梁。梁主猶慮諸兄弟乘危謀亂。盡殺之。尋

傳國の寶なりとてゝに至て乃ち行臺に詣て而して之れを献ず

王鐵槍 時に彥章を號して鐵槍と云ふこれ蓋し彥章多力にして戰場に臨むごとに二つの大なる鐵の槍を以て之れに臨む故に云ふならん

王彥章 綱目に王彥章を擒ふ唐主之れを降さんと欲す彥章曰く余本と匹夫梁の恩を蒙り位上將に至る皇帝と交戰すること十五年にして今兵敗れ力窮

命其下殺已。在位十一年。改元者二。曰貞明龍德。梁自大祖稱帝至是二世。一十七年而亡。**譯義**（蜀主の王建殂し子の宗衍（そうえん）が嗣て立てり〇呉王の楊隆演が卒し弟の溥普（ふふ）が立てり〇梁は錢鏐を以て呉越國の王と爲したり〇晉は梁と每年兵を交ゆ梁の魏州は晉に降れり晉王は魏に入りて德州、澶州を拔く梁の劉鄩（りうじゆん）が晉陽を襲ひ克たずして還へる鎭定の營所を攻む晉の師が之れを敗る鄩は魏州を攻む晉王が又た之れを敗る梁は亦た兵を遣はして晉陽を襲ふ晉人が擊ちて之れを卻（しりぞ）く晉は衛、磁（じ）洺（めい）相、邢、滄、貝の諸州に克ちて濮（ぼく）州鄆州を掠（かす）む梁人が河を決し橋をたちきりて以て晉に限り境をなせり晉王は攻めて其四寨を拔く已にして大に兵を擧げて梁を伐ちて胡柳の地に戰ひしが時に晉の周德威は敗れて死せり晉王は兵士を收めて復た戰ひ大に梁の軍勢を破る晉ハ德勝南北の兩城を築く梁ハ之れを攻めしかとも克たず梁の招討使の王瓚（さん）が晉の爲めに敗らる梁の河中の地ハ遂に晉に降參せり鎭州の將は趙王の王鎔を弑す晉王が討じて之れを平げりこれより先きに呉蜀の主が度々書を以て晉王に勸めて帝と稱せしむ然かるに晉王は自から謂ふに先王李克用が死に臨んで遺言あり故に務めて唐の社稷を本の如くに返し復すべきなりと既にして國を傳ふるの寶を魏州の僧の手より得たり初め魏州の僧傳眞が傳國の寶を得て常の玉なりとなし將さに之れを賣らんとす或る人が之れを識て曰ふにはこれは傳國の寶なりと傳眞乃ち行臺に至り之れを晉王に獻せり將佐の者は皆な觴（さかづき）をあげて祝ひ賀して勸（すゝ）めて已まず遂に帝の位に魏に卽く國を唐と號せり李嗣源を遣はし梁の鄆州を襲ひ取らしむ梁は王彥章を以て招討の役となす唐主が德勝を守り居るものを戒めて曰ふに王鐵槍は勇氣にして決斷あり之れを謹み氣を付けよと彥章は果して南城を攻め拔き取り進んで諸の寨（さい）卽ち陣所を拔く楊劉に至り力（つと）め攻むも克たずして退く梁は彥章をして鄆を攻めしむ唐主が之れを救ひしかば梁は敗れて彥章は死したり唐ハ嗣源を以て前鋒となし五日目にして大梁に入る梁主は猶は諸兄弟が危きに乘じて亂を謀ることを慮り尽く之れを殺し尋で其の下の皇甫麟なるものに命じて已れを殺さしむ位に在ること十一年にして年號を改めしこと二つ貞明、龍德と曰ふ梁は太祖が帝と稱してよりこゝに至るまで二代十七年間にして亡びたり）

唐 **譯義**（李存勗は父克用の位を嗣ぎて晉王となる位に卽くに及んで自から唐につぎて天下を有つを以て因て唐と號し洛陽に都せり）

〔唐莊宗皇帝〕名存勗。沙陀人也。本姓朱邪。先世立功。賜姓李。父克用有勇略。一目微眇。號獨眼龍。爲唐平黃巢。立大功。王于晉。與朱氏爲仇。暮年頗爲所蹙。憂形於色。存勗幼進言曰。朱氏窮

して擒へらる死は自ら其の分なり縱ひ急帝憐みを以て我を生かすとも我れ何の面目ありて天下の人を見んや昔朝に梁の將となり暮に唐の臣と爲らんや此れ我れの欲せざる所なりと遂に之れを斬る

李存勗（ソンキヨク）　五代

史に勗年十一克用に從ひ王行瑜を破る捷を京師に獻ずるに遣はす昭宗其の狀貌を異みその背を撫して曰く兒奇表あり後ち當さに富貴たるべし予が家を忘する勿れと長ずるに及んで騎射を善くす膽勇人にすぐ春秋に習ひ大義に通ず尤も音律歌舞俳優の戯をよくせり

獨眼龍（ドクガンリウ）　目一つの龍と云ふてと能は勇武を以て稱す卽ち存勗の一目眇せるを以てかく云ふなり

頗爲所蹙（スコブルタメニチヾメラル）　朱全忠の爲めに攻め立てたれて土地のちゞまり狹まくなりしこと

其下（ソノシモ）　王の弟克寧監軍の張承業大將の李存璋吳琪等

凶極暴。人怨神怒。極將斃矣。吾家世襲忠貞。大人當遵養時晦。以待其衰。奈何輕爲沮喪。使群下失望乎。克用說。臨終立爲嗣。謂其下曰。此子志氣遠大。必能成吾事。年十七。嗣晉王位。卽擧兵破梁。解潞圍。至是連勝梁。梁祖歎曰。生子當如李亞子。吾兒豚犬耳。

講義　唐の莊宗皇帝は名を存勗（そんきよく）と曰ふ晉王克用の長子にして沙汰の人なり本姓は朱邪（しゆや）と曰ふ其先代が功を立てたるを以て姓を李と賜ふ父の克用は勇氣にして且つ武略あり一方の目は微眇とてかすかにして見へぬ故に人が獨眼龍と號せり唐の爲めに黄巣を平らげて大なる功業を立てゝ晉に王たり朱氏と仇敵を爲す群年卽ち死に近づくの年に頗る朱氏の爲めに追ひ窘（ちゞ）められ憂が顏色に形（あら）はる時に存勗は幼少なりしが進み言て曰く朱氏は凶惡を極はめ叛逆を極む故に人も怨み神も怒れり極めて屹度斃るならん吾が家は代々忠義に且つ貞實なることを纂（かさね）ねたる故に大人には當然時に遵（したが）ひ兵力を蓄ひ時を見て己れの才氣あるを晦（くら）まして以て其の衰微するを待つべし奈何ぞ輕がしく氣を沮（はゞ）み志を喪（うしな）ひ群下のものをして望を失はしめんやと克用聞て大に悦こぶ其將さに死するに臨みて立てゝ嗣となすその下の者に謂ふて曰く此の子は志量や氣象が遠く且つ大にして必らず能く晉が本業を成就させんと年十七にして晉王の位を嗣ぐ卽ち兵を擧げて梁を破り潞の圍を解く是より戰ひ連りに勝つ梁の太祖が歎息して曰ふに子を生むならば當さに李亞子の如き良き子を生むべしわが兒子の如きハ豚（ぶた）や犬と同樣なりと

存勗東併幽州。北卻契丹。南與梁夾河百戰。先是晉陽監軍故唐宦者張承業。爲晉王捃拾財賦。召補兵馬。攻戰連年。接應不乏。皆承業力。承業意在復唐宗社。聞王將稱帝力諫。知不可止。慟哭曰。諸侯血戰。本爲唐家。今王自取之。誤老奴矣。悒悒成疾而卒。王卽位。改晉爲唐。奉唐祀。入汴滅梁。都大梁。已而還雒陽。侍中郭崇韜有謀略。佐唐主成業。至是權兼內外。謀猷規益。竭忠無隱。薦引人物。他相受成而已。

講義　存勗は東の方幽州を併せ北の方契丹を（しりぞ）け南の方梁と河を夾んで百たびも戰爭する是より先き晉陽の監軍にて故との唐の宦官の張承業なるもの晉王の爲めに財貨や賦稅を捃拾しひろひあつめ兵士や軍馬を召し補ふ故に攻め戰ふてと連年にして接應の兵卽ち援兵を出だすこと乏しからざるは皆なこれ承業がはたらきなり承業の本意とする所は唐の社稷を恢復するに在り然かるに晉王の帝と稱せんとすることを聞て力（つと）め諫めて曰く晉が王世々唐室に忠なり老奴の三十餘年間王の爲めに賦財を捃拾し兵馬を補召する所以は誓て逆賊を亡し本朝の社室を復くせんとするのみ今河北甫めて定る朱氏尚ほ存して王遽かに大位に卽く殊に從來征伐するの意にあらず天何ぞ先づ朱氏を亡し列聖の深仇を復し然かる後唐の後を求めて之れを立て南は吳を取り西は蜀を併せ宇內を汎掃し合して一家となさゞる是の時に當り高祖太宗をして生せしむるも亦誰れか敢て王の上に居るものぞ之を讓る愈々久しければ之れを得る愈々堅し老奴の志は他なしたゞ先王の大恩を受くるを以て王の爲めに万年の基を立てんと欲するのみと王曰く此れ予れの願ふ所にあらざらん然れども群下の意を如何んと承業その止む可かざるを知り慟哭して曰く諸侯の血戰するハもと唐家の爲めにするなり今や王は自からこれを取れり老奴卽ち晉を誤るとて悒々として安んせず終に疾を爲して卒せり王は位に卽き晉を改めて唐となし唐の祀を奉じ汴に入りて梁を亡ぼす大梁の地に都したりしが已にして雒（らく）陽に遷れり侍中の郭崇韜（くわくそうとう）は謀略あり唐主を佐けて業をなす是に至りて權威が內外を兼ね謀猷や規益することとありて忠義を竭くし隱すことなし人物をすゝめ引く他の宰相は只だ崇韜の成るを受くるばかりなりしなり

○荊南高季興入朝。季興者季昌之改名也。唐以爲南平王。○蜀主王衍。盤遊淫酒。國亂盜起。唐遣皇子繼岌與郭崇韜伐之。遂滅蜀。衍降。唐赤其族。繼岌信讒。殺崇韜而還。

講義　荊南の高季興が入朝す季興は季昌の改めたるの名なり唐は以て南平王と爲せり○蜀主の王衍は盤遊し四方にあそびまはり度なく女色や飲食に溺れ酒（すさ）む故に國は乱れ盜賊は四方に起れり唐は皇子の繼岌（けいきう）と郭崇韜とを遣はして之を伐たしむ遂に蜀を亡し衍は降服したり唐が其一族を尽く殺したりしが繼岌は讒言を信用し崇韜を殺して還れり

○唐以孟知祥爲西川節度使。○唐帝自克梁後寢驕。首以伶人爲刺史。帝幼習音律。或時自傅粉墨。與優人共戲。優名謂之李天下。嘗自呼曰。

李亞子（リアシ）亞子は存勗の幼名

張承業（チヤウシヨウゲフ）莊宗紀に晉王は連年軍を出して征伐す凡そ軍府政事一に張承業に委任せり承業は農桑をすゝめ課す金穀を畜積す軍民肅淸頒餉乏しからず王或ハ錢を須て伶人に給賜す承業之れを靳（おしむ）めり

接應（セツオウ）兵馬を出して軍食を給し其のもとめに應ずと

宗社（ソウシヤ）宗廟社稷の四字を節したるなり去れば國家と云ふことなり

自取之（ミツカラトルコレヲ）われ自から天子と稱し唐の土地を取る

誤老奴（アヤマレラウドヲ）老奴は承業自ら稱す常に唐家を復するを圖り李氏の爲めに力を尽せり今ま存勗天子となれば承業の志立たず故に誤ると云ふなり

受成（ウクセイヲ）崇韜の畫成（くわくせい）せる事を承け行ひ敢て異議を發せざること

淫湎（インメン）女色に淫し飲酒に荒（すさ）むことなり

李天下李天下。優人敬新磨遽前批其頰。帝失色。新磨徐曰。理天下只一人。尚誰呼耶。帝悅。諸伶出入宮掖。侮弄搢紳。群臣憤疾。莫敢出氣。亦有反相附託。納貨展轉。以于恩澤。蠹政害人。恣爲讒慝。帝踈忌宿將。不恤軍士。數出遊獵。蹂踏民田。上下咨怨。魏博將戍瓦橋。代歸復遣留屯貝州。遂作亂。奉趙在禮入據鄴都。唐遣將李嗣源討之。至城下。軍士大譟曰。將士從主上十年。百戰以得天下。今貝州戍卒思歸。主上不赦。從馬直數卒喧競。遽欲盡誅其族。我輩初無叛心。但畏死。今欲與城中合勢。拔白刃擁嗣源入城。城中不受外兵。逆擊之。皆潰。嗣源詭辭得出。將召兵攻亂者。安重誨曰。公爲元帥。不幸爲凶人所劫。不若星行詣闕見天子。庶可自明。嗣源乃南趨相州。譖者奏。嗣源已叛。嗣源上章自理。遏不得通。始疑懼。石敬塘曰。安有上將與叛卒入城。而他日得保無恙者乎。大梁天下都會。願先往取之。始可自全。康義誠曰。主上無道。軍民怨望。公從衆則生。守節必死。嗣源乃以敬塘爲前鋒。李從珂爲殿。引兵入大梁。唐主如關東。聞嗣源已據大梁。諸軍離叛。神色沮喪。歎曰。吾不濟矣。卽命旋師。從馬直郭從謙帥兵攻帝於汜水。唐主中流矢而殂。稱帝僅三歲而遇弑。改元者一。曰同光。伶人斂樂器覆屍而焚之。嗣源聞之痛哭。乃入洛陽。百官上牋勸進。不許。又三請嗣源監國。乃許之。繼岌自蜀歸。途聞內難。至長安自殺。監國立。是爲明宗皇帝。

講義 唐は孟知祥を以て西川の節度使と爲せり○唐帝は梁に克ちてより後ち驕々（やゝ）だん／＼驕れり伶人即ち樂工を以て刺史の役となせり帝は幼年より五音六律の學を習ふ或ハ時に因りて粉（おしろい）墨（まゆずみ）を傅けて俳優即ち今の役者のものと共に戯れ遊ぶことあり雜優の名之れを李天下と謂ふ嘗て優を爲すに因りて自から呼んで李天下李天下と云ひしかば俳優人の敬新磨なるもの遽（にはか）に前（すゝ）んで帝の頰（ほう）を批（う）てり帝は顏色を失して驚きしに新磨徐々（しづ／＼）として曰く天下を理さむるものは只だ一人なり尚は誰を李天下と呼ぶやと帝大に悅ぶ諸の伶人が宮中に出入して搢紳（しん／＼）即ち官位の高き公卿大臣を侮り弄（もてあそ）びしかば皆な憤かり疾（にく）めり然かれども只だ一人として敢て氣を出だすものなく皆な懼れたり亦た反て想ひ附き從ひ委託して財貨の賄賂を納れ展轉とさま／＼につてを求め以て恩澤を求むるものあり政事を蠹し人民を害し恣まゝに譖言し惡しき事をなす帝は宿將即ち代々の老將を疎んじて忌み又軍士を恤（あわ）れまず度々出でゝ遊び獵し民の田地を蹂躪（じうせん）ふみあらせり上下のものは咨（なげ）き怨む時に中牟令が馬前に於て諫めて曰く陛下ハ民の父母なり奈何ぞ其食む所を毀て溝壑に轉死せしむるやと唐主怒り叱して去らしむ將さに之れを殺さんとす新磨追ひ捕へて馬前に於て之れを責めて曰く汝縣令と爲り獨り吾が天子の獵を好むを知らず奈何ぞ民に縱して耕種せしめ以て吾が天下の馳騁を妨ぐるや汝が罪當さに死に當せりと因て刑に處せんと請ふ唐主笑ふて之れを釋せり魏博の大將の瓦橋を戍るものが代はりて歸るに復た留て貝州に屯せしむ遂に亂をなす趙在禮を奉じて入りて鄴都に據らしむ唐は大將の李嗣源をして之れを討たしむ嗣源は城の西南に至り軍中に令す詰旦城を攻んと是夜從馬直の軍士張破敗亂をなして衆を帥ひて大に譟（さわ）ぎ營を焚く嗣源叱して之を問ふ對へて曰く將士等主上に從ふこと十年の間百たびも戰ひ以て天下を得たり然かるに今や貝州の戍卒が歸るを思ふに主上は之れを赦さず從馬直の四五卒が喧（かま）びすしく競ひしに遽かに此の一族を誅せんと欲す蓋し莊宗諸軍の驍勇なるものを選で新軍となす分て四[illegible]指揮使を置て從馬直と號す族は部屬從馬直の軍を謂ふなり從馬直の指揮使郭從謙嘗て陰かに從馬直の諸校に告げて曰く主上王溫の故を以て鄴都の平定をまちて尽く若ちが曹を坑（おとしあな）

赤族　尽く其家を滅すを云ふ漢書の注に以て流血其族を丹にすと爲す徐氏繫傳に曰く赤族とは尽く殺して遺類なきを云ふ也古人空にして物なきを謂て赤と云ふ赤地千里其家赤貧の如き是れなり

伶人　俗樂をなすものなり

莫敢出氣　内心に慎り疾(にく)めども帝の親近なるを以ておそれて怒氣を發せざるなり

蠹政　政をやぶ

（せんと我が望は初めより叛く心なし但だ死を畏るゝなり今ま城中のものと勢を合せ主上に請ふて河南に帝と稱し令公は河北に帝と稱し軍民の王たらしめんとすと嗣源は泣き且つ諭せども從はず白刃を拔き嗣源を擁して城に入る城中は外よりの兵を受けずして之れを迎へ撃つ皆な右往左往に潰れ乱れたり嗣源は詭りの辭を以て出づることを得たり將さに兵を召して亂者を攻めんとするに安重誨の曰く公は元帥となり不幸にして凶人等の爲めに劫かさる若かず夜急き行き宮闕に至り請ふて天子に見えんには然らば庶幾くば自から叛心を明らかにすべしと嗣源はそこで南の方相州に趨る將官するもの即ち紹榮が奏するに嗣源は已に叛せりと嗣源は書を上り自から罪なきことを辨理すれども過(とゞめ)て通ずるを得ず始めて懼れ疑ふ石敬瑭の曰く夫れ事は果決に成て猶豫に敗る安んぞ上將たるものが叛卒と城中に入て他の日に恙(つゝが)なきを保つことを得るものあらんや大梁は天下の都會なり願くば三百騎を假り先づ往て之れを取らへ始めて自分に全ふすることを得べしと康義誠の曰く主上は無道にして軍民が怨めり公には衆人に從はゞ則ち生き節を守りて從はぬときは必らず死せんと嗣源は乃ち敬瑭を以て前鋒となし李從珂を以て殿軍即ち後備となし兵を引て大梁に入る唐主は關東に如くに嗣源ハ已に大梁に據て諸軍ハ唐に離れ叛くと聞き精神顔色を沮み喪ふて歎息して曰く吾が事終成就せぬと即ち命して師を旋へす從馬直の郭從謙は兵を引て帝を汜水(はんすい)に攻む唐主ハ流れ矢に中りて崩御す帝と稱せしこと僅かに三歳にして弑に遇ふ年號を改めしこと一つ同光と曰ふ伶人は音樂の器具を斂め屍骸を覆(おほ)ふて之を焚く嗣源はこれを聞き痛み哭す乃ち洛陽に入る百官の者等は牋即ち書き附けを上りて帝位に即くことを勸むれども許さず又た三たび嗣源に請ふて國を監國せしむ乃ち之れを許るす繼岌が蜀より歸へる途中に内乱あるを聞き長安に至りて自殺す監國(嗣源)が繼ぎて立つ是を明宗皇帝となす）

〔明宗皇帝〕本胡人。邈佶烈也。爲晉王克用養子。名嗣源。莊宗滅梁。嗣源功最高。爲中書令。蕃漢馬步總管。受命討鄴。爲叛卒所推。自鄴趨汴入洛。遂即位。更名亶。**補註**（明宗皇帝は本と胡人の邈佶烈(ばつきつれつ)なり晉王李克用其材武を愛し養子となし嗣源と名づく莊宗が梁を滅ぼすの時に當り功績が最も高し中書令蕃漢(はんかん)の馬步の總管と爲りて命令を受け鄴を討ず叛卒の爲めに推し尊ばれて鄴より汴に趨(おもむ)き洛に入り遂に位に即けり爰で名を亶(せん)とあらたむ）

○契丹阿保機卒。子德光立。○閩王王審知卒。子延翰立。驕淫殘暴。其下弑之。而立其弟延鈞。後稱帝。更名璘。**補註**（契丹の阿保機已に帝と稱す此に至り卒す其子の德光が繼ぎて立てり○閩王の王審知が卒し子の延翰が立つ延翰驕奢暴悪淫乱殘忍暴逆を極め父の喪を修めず柩前に童女を奸す又葬未だ終らざるに自稱して大閩國皇帝と曰ふ而るに王審知の假子延稟民の忍びざるに依り弑を行ひ延翰が弟の延鈞が立つ後又帝と稱し名を璘と更む）

るにと虫の木を食ひそこなふが如きなり

讒慝　人をあしく云ひ妨害をなす

魏博　指揮使楊仁晸

吾不濟　思わく立たぬことと即ち溺の如くならざるなり

蕃漢馬步　蕃兵、漢兵、馬兵、步兵

驕狠　氣持ち高尚にかまへ意地のあることなり

與物無競　人と爭論をなさぬこと

○吳王楊溥稱帝。○南平王高季興卒。子從誨立。○楚王馬殷卒。子希聲立。後希聲卒。希範立。○吳越王錢鏐卒。子元瓘立。○夏州李仁福卒。子彝超嗣。○西川孟知祥併東川。以知祥爲蜀王。**補註**（吳王の楊溥(ようふ)が帝と僭稱せり○南平王の高季興ハ前きに莊宗にすゝめて蜀を伐たしめ自ら禍を免る是に至り卒す其の子の從誨が立てり○楚王の馬殷卒す殷卒するの時諸子を呼びて戒めて曰く兄弟相繼ぎて次を爭ふこと勿れと已にして子希聲が繼で立ち後ち卒し弟希範が繼で立てり○吳越王の錢鏐が卒し子の元瓘(げんくわん)が繼ぎて立てり○夏州定難の節度使李仁福が卒し子の彝超(いてう)が繼ぎて立つ○西川の孟知祥は東川を併攻す知祥を蜀王となす）

○唐秦王從榮。驕狠。自知時論不與。常懼不得爲嗣。唐主寢疾。遽率牙兵千人。至端門下將入。禁衞討之。從榮兵潰。走歸府。皇城使斬之。唐主悲駭疾劇。遂殂。唐主性不猜忌。與物無競。登極之年。已踰六十。每夕於宮中焚香祝天曰。某胡人。因亂爲衆所推。願天早生聖人。爲生民主。在位八年。改元者二。曰天成。長興。內無聲色。外無遊畋。不任宦官。廢內藏庫。賞廉吏。治贓蠹。雖不知書。所行暗合於道。年穀屢豐。兵革罕用。校於五代。粗爲小康。子宋王立。是爲閔帝。**補註**（唐の秦王の從榮ハ驕り誇りて人にもとるの餘わり自から已れの時論が與(くみ)せぬと云ふことを知り常に世嗣ぎと爲ることを得ざらんを恐れ氣遣(きづか)ふへり會々唐主病めり從榮遽かに本陣の兵士千人を率ゐて入り帝の病に侍するなり）

内藏庫（ナイゾウコ）天子の御手元のくら

贓蠹（ソウト）贓は貨をむさぼること蠹は政を害（そこなふ）ものなり

校於五代（カウヲゴダイニ）五代中にひきくらべみるにと云ふこと

小康（セウカウ）すこし世のおだやかなることとて詩經の語なり

寬柔少斷（クワンジウスクナシダン）年尙は少かく加ふるに多病庶政寬柔にして斷制なく權臣僭抗にして制す

と曰ひて正門の下に至り將に入らんとするに禁衛の兵士之れを擊ち從榮が兵潰ゆ走りて秦王府に還へる而し皇城使の安重益の爲めに斬らる帝主は疾少しく癒えしが此の變を聞き悲しみ駭き疾再び劇げしくなり遂に崩御せり唐主ハ人を疑がひ忌まず物と爭ふことなく登極即ち天子の位に即きし時は已に年六十の上を踰（こ）へたり每夜每夜宮中に於て香を燒き天にいのりて曰く某は本と胡人なり而かるに亂に因りて衆人の爲めに推し尊ばれて天子と爲れり願くば天より早く聖賢の人を下し生民の主となせよと位に在ること八年にして年號を改めしてと二つ天長、長興と曰ふ內は音樂女色などを好むなく外ハ遊び畋（かり）するなどなく宦官に政事を委せ任せず內の藏庫即ち天子の手元のくらなどを廢し廉官を賞し貪吏を誅し賄賂を取り政を害するものなどを治む帝書物即ち學問は知ざれどもその行ふこと暗に聖賢の道に合ひかなへり年穀が豐かにみのり且つ兵革を用ゆること罕（まれ）なるを以て大に泰平なりこれを五代の內に校（くらべ）比較するに粗々（ほゞ）少しく太平と爲すに足る子の宋王が繼て立つ是を閔帝となす

〔閔帝〕名從厚。明宗次子也。即位有志爲治。然不知其要。寬柔少斷。**講義** 閔帝名ハ從厚と曰ふ明宗帝の第二子なり位に即き治平を爲す志あり然れども其要領を知らず寬大柔順にして決斷力の少なき人なり

○蜀孟知祥稱帝。

○唐潞王反於鳳翔。擧兵長驅至洛陽。閔帝出奔。在位改元應順。數月而已。潞王立。**講義** 蜀の孟知祥ハ帝と稱す○唐の潞（ろ）王鳳翔に叛し兵を擧げて長驅して洛陽に至る閔帝は驚きて出奔し如く所を知らず位に在りて應順と改元す數月の間のみ潞王繼て位に即きたり

〔潞王〕名從珂。本姓王氏。明宗之養子也。少從明宗征伐。有功名。得衆心。用事者忌之。從珂鎭鳳翔。閔帝命移鎭河東。將佐以爲離鎭必無全理。乃移檄鄰道。起兵入清帝側。從珂至陝。諸軍皆迎降。至洛。宰相馮道等。百官班迎。遂即位。遣人鴆殺閔帝於衛州。**講義** 潞王は名を從珂と曰ひ本の姓は王氏にして明宗皇帝の養子なり幼少の時より明宗に從がひ諸方を征伐し大に功名の譽れあり且つ衆人の望を攬けり故に事を用ゆるの者即ち朱弘昭、馮贇、位素より其の下に在るを以て甚だ之を忌み恐くめり時に從珂鳳翔の鎭據使たり閔帝も亦從珂の威勢あるを惡み每に其威權を殺（そぐ）がんと欲す故に鳳翔の節度使を罷めて河東の節鎭に從さんとす從珂爲す所を知らず之れを將佐に相談するに皆な口を揃へて曰く主上は春秋に富み政事は朱弘昭馮道の上に出づ大王（從珂）功名主に震ふも鳳翔の鎭を離るれば必らず全き理なし受く可からずと從珂乃ち檄文を鄰道に移して曰く朱弘昭等先帝の大病なるにつけ込み長君を弑し孺子を立て奸臣權を弄し骨肉を離間し藩鎭を動搖し社稷日々に危し不肖速かに入朝し君側の禍を芟（かる）り除かんとす而かるに力弱ふして任重し希くは列藩の與力を乞ふと聞者皆な之れに應ず已にして諸鎭の兵敗れ潞王陝（せん）に至る諸軍皆な迎へ降參せり尋で洛陽に入るに宰相馮道等を初め百官郊外に班列して之れを迎ふ遂に從珂位に即けり又人を遣はして閔帝を衛州に於て鴆毒を以て之を殺さしむ

る能はず

有志爲治（アリコヽロザシナスヲヂ）天下を治平にする念慮のあるを云ふなり

不知其要（シラズソノエウヲ）天下を治むる所の要領即ち治術を知らぬなど

用事者（コトヲモチユルモノ）朱弘昭馮贇なり

班迎（ハンゲイ）班列して迎へ降るなり

素不相悅（モトヨリアヒヨロコバズ）二人が其一の鎭に據り互に強を爭ふて相ひ猜忌して中の睦しからざることと

骨立（コツリツ）病後のてとに

○蜀主孟知祥殂。子昶立。**講義** 蜀主孟知祥卒す卒するに臨みて大臣を集めて後事を囑し且つ軍國の事を托せり其の子の昶（ちやう）が繼て立てり

○夏州李彝超卒。兄彝殷代之。○閩人弑其主璘。而立其子繼鵬。更名昶。**講義** 夏州の節度使の李彝超（りいてう）が卒し子なし兄の彝殷（いいん）がこれに代りて立つ○閩人が其主の璘を弑す初璘父の妾陳氏を娶し後后とす陳氏性陋にして淫亂なり會璘病む陳氏白萱に近侍と奸す聞く者之れを醜となす是より內政大に亂れ讒奸相競ふ皇城使李倣讒に逢ふて身免るゝ所なし遂に逆意を生じ兵を引て殿下に迫り其主璘を弑し又陳氏を殺して福王繼鵬（けいばう）を立つ名を昶と更む

○唐主初與河東節度使石敬瑭。素不相悅。唐主立。敬瑭不得已入朝。尋歸鎭。陰爲自全之計。唐主移之。遂反。求援於契丹。契丹敗唐兵。立敬瑭爲晉帝。引兵向洛陽。唐主自焚死。在位不三年。改元者一。曰清泰。唐自莊宗至是四主。凡十四年。**講義** 唐主は初め河東の節度使の石敬瑭と互に其強を爭ひ相猜克しやまず更に相忌憚す而かるに唐主が立ちて帝となりしかバしかたなしに敬瑭は入朝せり尋で鎭に歸り陰かに自分の身を全ふするの計を爲せり唐主は之を覺り知り敬瑭を天平軍の節度に移す茲に至り敬瑭遂に兵を擧げて叛し力足らず援助を契丹に乞ふ契丹請ひに應じ兵を引て來り唐の將張敬達、楊光遠等と大に晉陽に戰かひ之を敗り敬瑭を冊立して晉皇帝と爲し南朝と稱せしむ唐主敗報を聞大に契丹をおそれ四方勤王の軍を徵し親征の駕を出し車駕を具し河陽に至る時に敬瑭契丹等洛陽に向ふ唐主が窮し勢ひ屈し親から皇后等と共に傳國の璽を提げ玄武樓に登りて自焚して死す是に至り敬瑭等洛陽に入る唐主位に在ること三年にして年号を改ためしてと一つ

て身体がやせ疲れて肉少く骨ばかりが立つて居る様なことにて病後の狀を云ふなり

不以爲虞 虞は妨なりとんじやくせぬことなり

公主 敬塘の妻なり魏國公主と稱す明宗帝の女（むすめ）なり

石郎 敬塘を指さすなり

拒命 鎭を移すの命を拒むことなり

草表 上表書の

清泰と曰ふ帝は莊宗より是に至るまで四主凡て十四年にして亡びたり

晉

【講義】石敬塘は河東の節度使となりて晉陽に治す大號を稱するに及んで國を晉と稱し汴に都せり

（晉高祖皇帝）姓石氏。名敬塘。沙陀人。唐明宗之壻也。初與從珂皆勇力善鬬。事明宗。皆有功。內相忌。從珂稱帝。敬塘自河東來朝。將佐皆勸留之。時久病骨立。唐主不以爲虞。遂得歸鎭。公主在帝陽辭歸。唐主醉曰。何不且留。遽歸。欲與石郎反邪。敬塘聞之益懼。尋命移鎭鄆州。敬塘拒命。唐主發兵討之。桑維翰爲敬塘草表。稱臣於契丹。事以父禮。約事捷割地。劉知遠以爲太過。厚賂金帛。足致其兵。不必許以土田。恐異日大爲中國之患。敬塘不聽。表至。契丹主大喜。將騎五萬而來。與唐兵戰於晉陽。大敗之。契丹主立敬塘爲帝。國號晉。割幽薊瀛莫涿檀順新嬀儒武雲應寰朔蔚十六州與之。契丹以晉主南下。又破唐兵至潞州。契丹北還。晉主引而南。唐將校皆飛狀以迎。唐主殂。晉主入都洛。已而遷汴。

【講義】晉の高祖皇帝は姓を石氏名を敬塘と曰ふ沙陀の人にして唐の明宗帝の女壻なり始め從珂なるものと皆な勇氣にして力量ありて善く闘ふ明宗帝に事へて皆な功勞あり心の内にて相互に忌み嫌ふて仲睦まじからざりしが從珂は帝と稱せり故に敬塘が河東より來朝せしに將佐等は皆な敬塘に勸めて之れに留まらしめたり時に久しく病氣にして瘦（や）せ衰へ骨が立ちてありしかばとても何事も爲し出だすべき様子もあらざれば唐主は一向に之れを以て虞（うれひ）となし心配せざりしにより無難にして遂に鎭に歸へることを得たり唐主が千春節（我が國の天長節と云ふが如し）に酒宴をなせしに晉國の長公主は洛陽にありて封を上り辭して晉陽に歸へる時に唐主が酒に醉ふて曰ふに何が故に且つ暫らくは留まらずして遽かに歸るや石郎と反せんと欲するやと敬塘は之を聞て益々懼るそこで表を進めて自から羸疾の次第を陳べ兵柄を解きて他の鎭に移られと乞ひしかば帝は朝政の人々と議して其請に從がいんとす薛文遇の曰く河東は移すも亦反し移さゞるも亦反することは旦暮にあるのみ如かず事を先きにして之れを圖らんにはと帝乃ち詔で命じて鄆州を鎭せしむ敬塘が將佐に謀りて曰く主上は而のわたりの我れに許すに終身他の州に代らしめじと今忽ち此の命あり吾亂を興さゞるも朝廷之れを發せん安んぞ能く手を束ねて道路に死せんやと劉知遠が曰く明公久しく兵に將として士卒の心を得たり今形勝の地により士馬精鋭なり若し兵をあげ檄を傳へば帝業なるべしと桑維翰も亦之れを贊す是に於て敬塘意を決し表を上り位を許王（明宗の子）に傳へんと請ふ帝手から其表を裂き張敬達を遣はし兵を發して之れを討せり桑維翰敬塘の爲めに書を裁し契丹主に臣と稱しその事ふるに父の禮を以てせんと請ひ約束するに事成ならば地面を割き與へんと劉知遠が曰く臣と稱するは可なり父を以て事ふるは甚だ過ぎたり厚く金や帛を賂はゞ契丹の兵を招き致たすに足れり何ぞ必ずしも土地や田畑を以てせずとも可なり恐らくば後日に大に中國の患を爲さん其時に悔ゆることあるも及ぶなからんと敬塘は聽かず其表文が至れば契丹は大によろこび騎兵五万を將ゐて來り唐の兵と晉陽に戰ひ大に之れを敗る契丹主敬塘に謂て曰く吾れ汝の器貌識量を觀るに眞に中原の主なり吾れ汝を立てゝ天子と爲さんと欲すと乃ち冊書を作り敬塘を立てゝ帝と爲し國を晉と號す幽薊（ゆうけい）、瀛（えい）、莫（ばく）、涿（たく）、檀（だん）、順（じゆん）、新（しん）、嬀（ぎ）、儒（じゆ）武（ぶ）雲（うん）應（おう）寰（くわん）朔（さく）蔚（うつ）の十六州を割き之れに與ふ契丹が晉主を以て南に下り又唐の兵を破りて潞州に至る契丹は北に還へる晉主は引て南す唐の將士等はみな書を飛ばして以て迎ふ唐主は殂す晉主が入りて洛に都す已にして汴に遷れり

下たがきすることなり

事捷 軍に勝利があらばと云ふ意

飛狀 洛陽のありさまを急飛脚をもつて報知することと

金陵城 即ち昇州楚威王その地に王氣あるを以て金を埋めて之れを鎭壓す故に之れを金陵と云ふなり

告哀 高祖の喪（も）を告ぐることなり

回圖使 即ち回圖稱使なり今の貿易事務使な

○吳徐知誥稱帝。奉吳主溥爲讓皇。初徐溫命知誥治昇州。致繁富。城市府舍甚盛。溫自徙居之。知誥入廣陵。輔吳政。溫卒。知誥以中書令鎭昇。而留其子輔吳政。廣金陵城。吳加知誥大元帥。封齊王。備殊禮。至是遂受吳禪。知誥本徐州李氏子也。自謂唐後。國號唐。尋復姓李。更名昇。是爲南唐。

【講義】吳の徐知誥（じよちこう）が帝と稱せり吳主の溥（ふ）を奉じて讓皇と爲す初め徐溫は知誥に命じて昇州を治めしむ此州繁富を致す城市や府舍が甚だ盛大な

りこれ北方の物産を以て中國の物貨と交換して其の利を圖かることを主どるもの初め河陽軍の牙將衛榮なるもの遼に入る遼王納れて回圖務使と爲す後に中國に往來して物貨を貿易すその貿易邸を大梁に置き商民を以て有無を交へ易ふるを云ふなり

翁　石敬塘は契丹に約するに父子と稱することを以てしてゐる故に出帝は契丹王より見れば孫なり故に孫に對して云ふ即ち契丹を

（り温は自ら徙りて之れに居る知誥ハ廣陵に入りて吳の政事を輔く温が卒し知誥は中書令を以て昇州を鎭し而して其の子を留め吳の政事を輔けしむ金陵城を廣くす吳は知誥に大元帥の役を加へ齊王に封じ特殊なる禮を備ふ是に至りて遂に吳の禪を受く知誥は本と徐州の李氏が子なり自から唐の後なりと謂ひて國を唐と號す尋で姓を李氏と復し名を昪（べん）と更たむ是を南唐となす）○契丹改國號大遼。○閩王曦。弑其主昶而自立。講義（契丹が國を改めて大遼と號せり○閩王の王曦（わうき）が其の主の昶（ちやう）を弑して自から立てり曦は昶の叔なり）○吳越王錢元瓘卒。子弘佐嗣。○南漢主劉龔。又更名龑。尋殂。子玢立。講義（吳越王の錢元瓘（くわん）が卒して子の弘佐が嗣て立てり○南漢の主劉龔（りうきよう）が又た名を龑（げん）と改たむ間（ま）もなくして殂したり子の玢（ひん）が繼で立ちたり）○晉主在位不七歲殂。改元者一。曰天福。齊王立。是爲出帝。講義（晉主が位に在ること七年にもならずして殂せり改元するもの一つ天福と曰ふ高祖の兄の子齊王が繼で立つ是れを出帝（すいてい）となすなり）

〔出帝〕名重貴。高祖兄子也。高祖臨終。命幼子重睿。拜宰相馮道。欲其輔立。景延廣議。以國家多難。宜立長君。遂立重貴。延廣用事。講義（出帝名は重貴と曰ふ高祖の兄敬儒の子なり高宗が死に臨んで幼子の重睿（てうえい）に言ひ付けて宰相の馮道を拜し輔せしめ且宦官に命じ重睿を抱きて道が懷中に入れ納む道見て泣く以て輔け立てんことを希へり已にして唐主殂す馮道以爲らく遺孤の任重しと雖とも社稷にかへ離しと侍衛馬歩都虞侯景延廣（けいえんくわう）と評議し曰く國家は外難多く内難繁げし此際に及んでは年の長けたる君を立つるに如かずと遂に年長の重貴を立て延廣が万政を司れり）○南唐主李昪殂。子璟立。○閩主之弟王延政。據建州稱殷帝。○南漢主劉玢之弟弘熈。弑玢而自立。更名晟。講義（南唐王の李昪（べん）が卒して子の璟が繼で立てり○閩王の弟王延政建州に據り殷帝と稱す初め延政建州に節度使たり兄の閩王淫虐甚しく延政數々書を貽りて之を諫むれども聽かず却て怒り兵を擧げて之れを討ず延政已むを得ず兵を擧げて之と戰ひ大に敗ぶり國を建て殷となし帝位に卽けり○南漢の主の劉玢（りうひん）の弟弘熈（き）玢を殺し自立し晟と改名す）○閩朱文進。弑其主王曦。

稱す

十萬橫磨劍相待　十万の軍兵がとぎすましたる劍を腰におびて待ち居ること

遜辭　ていねいにあいさつすること

打草穀　人民を劫かし金帛をかすめ取ること稻を芟（か）り草をなぐが如し打は取るなり又曰ふ遼人必らず先づ園林を斫（き）り伐て然して后ち老幼を羈り掠すむるの兵を謂ふて打草穀と云ふと曰ふなり

而自立。殷主延政遣兵討之。閩人殺文進。傳首於殷。殷改國號曰閩。唐人攻拔建州。延政出降。閩亡。唐攻福州不克。後吳越遣兵取之。講義（閩の指揮使の朱文進が其主の王曦を弑して自立せり殷主の延政が兵を發して之れを征伐す而かるに福州南廊承旨林仁翰等文進を刺殺し首を殷に送り且つ閩の故臣等延政を迎へて福州に歸らんと請ふ國號を改めて閩と云ふ延政方さに唐兵あるを以て未だ都を徙すに暇あらず從子繼昌を以て福州を鎭せしむ唐兵は延政を攻めて建州を圍み城を屠る延政力盡きて出で丶降る因て閩は亡ひたり唐は福州を攻めしかども克つ能はず後吳越王兵を遣はして之を取らしむ）○初晉高祖事契丹甚謹。至少主卽位。景延廣主議。告哀不復稱臣。契丹大怒。延廣又囚其回圖使。已而遣歸。大言曰。歸語而主。先帝爲北朝所立。故稱臣奉表。今上乃中國所立。爲鄰稱孫足矣。翁怒則來戰。孫有十萬橫磨劍相待。桑維翰屢請遜辭以謝契丹。每爲延廣所沮。於是契丹入寇渡河。晉主自將。及遣李守貞等分道擊之。契丹敗走。契丹再至相州引還。晉主又自將追之。契丹旋兵南下。晉人擊之。契丹又敗走。晉主既再勝。意契丹不足長。契丹主大擧入寇。晉將杜威降。契丹遣兵入汴。執晉主以歸其國。在位五年。改元者一。曰開運。晉自高祖至是再世。一十二年而亡。契丹主入大梁。胡騎四出剽掠。謂之打草穀。丁壯斃鋒刃。老弱委溝壑。自東西兩畿。及鄭滑曹

鋒刃　丁壯者は軍に從ひしを以て槍に貫かれ刃にて斫り殺さるゝと云ふ

委溝壑　老弱は運送に遣はれて疲（つか）れはてゝ溝に陷り谷に入りてころひて死するなり

判三司　鹽鐵度支戶部の三司を併せ司どるの官なり

不聊生　人々おそれさわぎて生活を安んせぬこと

無頒給　括尽せる金帛を群下に分配

濮。數百里間財帛殆盡。契丹主謂判三司劉昫曰。契丹兵應有優賜。遂括都城士民錢帛。遣使者數千人。括於諸州。皆迫以嚴誅。人不聊生。括至。初無頒給。皆欲葦歸。中外怨憤。皆思逐之。所在盜起。契丹主曰。我不知中國難治如此。居汴三月而還。晉劉知遠。先一月即位於晉陽。**評說**初め晉の高祖帝石敬塘は契丹より兵を借りて天下を定めたるの故を以て契丹に事へることが甚だ諂み畏る而かるに少主の出帝が位に卽くに及んで景延廣が議を主として納れ高祖が喪を告ぐるに復た臣と稱せず又延廣は契丹の回圖使卽ち貿易人を罪なきに捕へ已にして之れを放ち歸らしめ大言して曰く歸り汝が主に曰へ先帝は北朝の爲めに立てらる故に其恩を報ずるの爲め臣と稱して表を奉ぜり然れども今上皇帝は中國の立つる所中國の天子なり豈に隣國の爲めの故に臣と稱す可けんや孫と稱して足れり老翁（契丹主）が若し氣にくわず立腹するならばいざ來り戰へ孫（出帝）は十万の兵士が磨（とぐ）ぎすましたる長劔を橫たへて老翁の出で來るを遲しと待ち居れりと桑維翰（そういかん）曰く倘し斯の如くせば新立の陛下に兵禍の災を買はしむるなり他日必らず臍を噬むとも及ばざらんと云ふ又度々諫爭の辭を以て契丹に罪を謝せんと請へども每々延廣が爲めに沮まれたり是に於て契丹は大に怒り入寇して河を渡れり晉主は自から元帥となりて之れを一方に拒ぎ又將の李茂貞をして道を分て之れを拒ぎ擊たしむ契丹の兵大に敗れて走り尋で再び兵を擧げて相州に至り引て還る晉主亦た自ら大將として之を擊ち大に勝居に於て晉二度の戰爭に皆な勝を得たるを以て心誇り契丹又畏るゝに足らずと思へり然かるに契丹は復た大兵を擧げて入寇せり晉將の杜威を遣はし之れを拒ぎ擊たしむ杜威兵服し契丹に降參せり是を以て契丹の兵長驅して汴に入り晉王をとらへ以て國に歸へり晉主位に在ること五年にして年號を改むること一つ開運と曰ふ晉は高祖帝より是に至るまで二世十二年にして亡びたり已にして契丹主は大梁に入る胡の騎兵が四方へ出でゝ財貨を剽め掠む之れを打草穀（だそうこく、欄上にあり）と謂へり年の壯なるものは槍鋒や刀刃に貫き殺され年寄りや小見なとは溝（みぞ）や壑（たに）に委（たお）れて死し其慘怛の狀言ふ可からず東西兩方の畿內より鄭滑（ていこつ）、曹（そう）、濮（ぼく）、等の諸州に及ぶ迄の間數百里は財貨や布帛い皆剽め取られ一もなく赤地となる且つ契丹主い判三司の役の劉昫（りうこう）に謂て曰く契丹の兵三十万を以て晉の國を攻め平ぎたり故に特別優れたる賞賜あるべきなり速に宜しく之れが賞物をこしらへ出だすべしと迫り又都城即ち大梁の都の士民の財貨布帛を剽めしぼりとり尽せり時に朝廷の庫ハ皆な竭きて一物だも無ければ劉煦は賞賜を出だす所を知らず遂に都城の士民を括借す將相より以下皆な免るゝ能はず日々使者二三千人を遣はし諸州を調べて財貨布帛を掠め取り若しも拒みて出ださゞれば嚴苛酷賞なる誅罰を以て迫り取る故に士民生を樂まず取らへ來りたるものは初めより下もくの者に頒ち與たへることなく皆な車に載せて歸り內庫に入るそこで內外の者の慎り怒りは甚しく皆な之を逐はんと思ふ至る所に群る盜起り復た支ふ可からず已にして契丹主が曰く我は中國を治め難きことハ初めより之れを知れども此の如くにまで治めがたき國なるとは未だ思ひも寄らざるなりとて汴に居ること三ケ月にして還れり晉の劉知遠なるもの其の一ケ月前に位に晉陽に卽けり

を給せぬこと

中外　中は京師のことと外は州縣のことなり

兵間　軍中と云ふに同じ

一紙制書　河東より鄆州に移る詔書を指さす

自投虎口　危殆なる鄆州におもむく喩言なり乃ち虎の口の如き鄆州を行くこと

入營　本營に還へる

寺　天宮寺にして洛陽にあり

漢

評說高祖沙陀より入りて太原に居る中國を得るに及び自から姓劉なるを以て後漢の顯宗の子淮陽王昞（へい）の後と稱し國を漢と號して汴京に都を定む

〔漢高祖皇帝〕姓劉氏。初名知遠。沙陀人也。事晉祖敬塘於兵間。功最多。晉祖在河東。唐潞王移之鎭鄆。知遠曰。明公久將兵。得士卒心。今據形勝之地。士馬精强。若稱兵傳檄。帝業可成。奈何以一紙制書。自投虎口。遂拒命。唐遣將攻之。不克。晉祖擧兵。滅唐入洛陽。知遠時爲侍衛馬軍都指揮使。分漢兵入營。館契丹兵於寺。城中肅然。後晉祖以知遠鎭河東。晉祖殂。遺命以知遠入輔政。晉人匿之。知遠由是怨朝廷。契丹連入寇。晉雖以知遠爲行營都統。知遠不行。契丹滅晉入大梁。知遠稱帝於晉陽。契丹去。乃發太原入洛。遂入汴。國號漢。後更名暠。**評說**漢の高祖皇帝は姓は劉氏初めの名は知遠と曰ふ沙陀の人なり晉の祖敬塘に兵戰の間に仕へて威名高く功業最も多し是より先き晉祖の河東にありし時に唐の潞（ろ）王が之れを鄆州の鎭撫に移す時に知遠諫て曰く明公は兵に將たる久しくして士卒の人望を得たり今要害の地に據り且つ士精銳に馬强し若し兵を稱（あ）け檄文を四方に傳へなは帝業の成就期すべし奈何んぞ一片の紙の詔書を以て自分から虎口の如き危き所に投じ身を傷損せんやと晉祖是に於て命を拒む唐は將を遣はして之れを攻

帝羓 干肉(かんにく)を羓と云ふ

其下 南牙統軍使の胡進思

招納亡命 かけおちものをかゝへてむことを云ふ

罷上供財賦 朝廷に貢獻すべき租税の調を奉ぜず

多不稟承 稟は受くるなり上の政令を奉受し承はり行はぬこと

繕甲兵 甲冑(かつちう)兵器のつ

むれども克たず晉祖は兵を舉げて唐を滅し洛陽に入る知遠は時に侍衞馬軍都指揮使と爲る漢の兵を分ちて營中に入る契丹の兵は寺に宿し城中は肅然として整ひ居たり後ち晉祖は知遠を以て河東を鎭撫せしむ晉祖が殂す時に遺言して知遠を以て宰相となし入て政事を輔けしむ然るに晉人此の事を匿くして知遠に知らせざりしかば知遠ハ是に由りて朝廷を怨む契丹頻りに入寇す晉は知遠を以て行營都統の役となし之を拒がしめんとすれども行かず既にして契丹は晉を滅し大梁に入り剽掠を擅にし後三月にして還れり時に知遠が帝と晉陽の地に於て稱せり契丹が去るに及んで大原の地を發して洛に入り遂に汴に都し國を漢と號す後ち名を暠(こう)と更む

○契丹主耶律德光歸。至殺胡林而死。剖腹實鹽載去。人謂之帝羓。子兀欲立。【評註】（契丹の主耶律(やりつ)德光は歸りて殺胡林(さつこりん)にまで至りて死せり國人乃ち腹を割き鹽數斗をみてゝ之を載せ北に去る人が之れを帝羓(ていは)、羓は乾ける肉を云ふ) 即ち天子の乾物(ひもの)と謂ふ子の兀欲(こつよく)が繼で立つ）○楚王馬希範卒。子希廣立。○吳越王錢弘佐卒。弘倧立。其下廢之。而立弘俶。【評註】（楚王の馬希範(ばきはん)が卒し子の希廣が繼で立てり○吳越王の錢弘佐が卒し弘倧(そう)が繼ぎ立ちしが其の下のものが之れを廢して弘俶(しゆく)を立てたり）○漢主殂。在位一年。改元乾祐。子周王立。是爲隱帝。【評註】（漢主が殂せり位に在ること一年にして年號を乾祐(けんゆう)と改たむ子の周王が繼ぎて立てり是を隱帝と爲す）

〔隱帝〕名承祐。年十八即位。○先是漢祖以弟崇尹太原。爲留守河東節度使。崇與郭威有隙。至是威爲樞密使侍中執政。崇爲自全之計。選募勇士。招納亡命。繕甲兵。實府庫。罷上供財賦。朝廷詔令。多不稟承。【評註】（隱帝は名ハ承祐と曰ふ高祖の第二子なり年十八にして位に即けり○是より先きに漢祖は弟の崇を以て太原に尹即ち奉行役と爲らしめ留守河東の節度使と爲す崇と郭威とハ隙(ひま)がありて其の仲が惡しかりしが是に至りて威が樞密使侍中の役と爲りて政事を執れり崇は之を恐ひて自分の命を全ふするの計即ちみがまへを爲し勇壯の士を選び募(つの)りて亡命(かけおちもの)の人々を招き納れ甲冑や兵器を繕ひ府庫に貨財を實ちて財や賦税を上供するをやめ皆な契丹に備ふるを以て名と爲し朝廷の詔命布令を稟(うく)け從はず）○荊南高從誨

くろひをするなど

掊拾遺利 たちてぼれ即ちわづかばかりの利益でもあつめ[illegible]

供饋不乏 兵糧及び軍需を送ること[illegible]少しも[illegible]なきを云ふなり

毛錐子 毛穎(もうえい)とも云ふ筆の名也

握算不知縱橫 握算は算子をとりて數を乘除することと算法に縱(たて)

卒。子寶融知軍府。【評註】（荊南の高從誨(くわい)が卒して子の寶融(ほうゆう)が軍府の知事となりたり）○河中李守貞反。郭威督諸軍討克之。守貞自殺。○漢以郭威爲鄴都留守。○楚王馬希廣之兄希蕚。殺希廣而自立。○漢主自即位以來。同平章事楊邠。總機政。樞密使郭威。主征伐。侍衞指揮使史弘肇典宿衞。三司使王章。掌財賦。邠頗公忠。弘肇察京師。道不拾遺。章掊拾遺利。供饋不乏。國家相安。弘肇嘗謂。天下須用長槍大劍。安用毛錐子。章曰。若無毛錐。財賦何由取辦。章輕文人。嘗曰。此輩握算不知縱橫。何益於用。漢主左右嬖倖寖用事。親戚干政。邠等每裁抑之。漢主益壯。厭爲大臣所制。弘肇嘗議事於前。曰。陛下但禁聲。有臣等在。漢主積不能平。左右因譖之。乾祐三年。殺邠弘肇章。遣密詔。欲殺郭威於鄴。將佐勸威入朝自訴。威引大軍至。漢主遣兵拒之。或降或不戰而還。漢主爲亂兵所弒。威白太后。迎武寧節度贇。未至。聞契丹入寇。遣威將兵擊之。威至澶州。將士大譟。裂黃旗以被威躰。共扶抱之。呼萬歲震地。擁威南行。遂代漢。漢二世。四年而亡。【評註】（河中の李守貞が反せり郭威が諸軍を總督して討ちて之れに克たり守貞は自殺したり○

を一として横(よこ)を五とす數位とりも知らざると云ふことなり

干政　政事に口を出して扞渉することなり

但禁聲　默(もく)して居りて何にも言ふ勿れと云ふなと

積不能平　いきとは心腹が立ちてそれがつみかさなりおだやかならぬこと

三司使　租調庸の三つを司どる

裂黄旗　隋唐

漢が郭威を以て鄴都の留守官と爲したり○楚王馬希廣の兄の希萼(きがく)が希廣を殺して自殺せり○漢主が位に即きしより以來同平章事の楊邠が万機の政事を總べ司れり樞密使の郭威は征伐のことを主(つかさど)れり侍衛指揮使の史弘肇(しこうちよう)は宿衛のことを典(つかさど)れり三司役の王章は財賦を掌(つかさど)れり其の中にも邠は頗る公平にして且つ忠義なり弘肇は京師の地を監察するに政事が能く行きとゞきて道に遺(おと)ちたるものも拾(ひろ)はず章は遺(すた)りたる利益になることは僅かにても捃(ひろ)ひ拾ふて軍旅に供給するから未だ嘗て乏しきことあらずして國家は相平安なりしが一日朝廷に會飲せしに弘肇が觴を擧げて郭威に屬して聲を厲(はげま)す)して曰く朝廷を安んじ禍亂を定むるは須らく長き槍や大なる劍を用ゆ可し何ぞ毛錐子の如きものを用ゆるを得んや章の曰く若し毛錐(ふで)なき時は貨財賦税は何に由りてか取り辨せんやと章は文人を輕んじて嘗て曰く此の輩は算子(そろばん)を握りては縱横轉倒を知らず何ぞ世の用に益わらんやと漢主の左右の嬖倖即ち氣に入りの人が稍(や)々事を用ふ親類が政事にあづかる邠等毎に之れを裁し抑(おさ)ゆ漢主は益々血氣壯にして大臣等の爲めに制御せらるゝを厭へり弘肇は嘗て事を天子の前に議して陛下曰ふに陛下はたゞ〳〵聲を禁じて何事をも言ふこと勿れ言ふべきことは臣等がそれ〳〵の官にあるあり決して陛下の言を煩はさずと漢主は積んで心中が平かなる能はず左右はよりて邠等が專恣にして當さに亂を作すべきと譖言す乾祐三年に至て邠と弘肇と章の三人を殺し密詔を遣はして郭威を鄴に殺さんと欲す將佐は威に勸めて入朝し自分に訴へしむ威は大軍を引て至る漢主が兵を遣はして之れを拒ぐ或は降り或は戰はずして還る漢主が乱兵の爲めに弑せられたり威は太后に白して武寧の節度使の贇(ひん)を迎ふ未だ至らざるに契丹が入りて寇だすと聞き威を遣はして兵に將として之れを擊たしむ威は澶(だん)州に至る時に將士數千人忽ち大に譟(さわ)ぎて曰く天子は須らく侍中自ら之を爲すべしと黄色なる旗を切(きる)り裂(さ)き黄袍となし以て威が体に被らしめ共に之れを扶け抱きて万歲と呼ぶこと天地に震ふ威を擁して南に行き遂に漢に代はる漢は二代にて四年目に亡びたり

周

講義　太祖郭威は周の虢叔(くわくしゆく)の裔と稱し以て之を國號となす汴に都せり

〔周太祖皇帝〕姓郭氏、名威、太原人也。唐莊宗有宮人柴氏。歸其家擇姻。一日窺于門。見有疾走而過者。柴氏大驚。問何人。告者曰。從馬軍使郭雀兒也。柴氏欲嫁之。父母不肯曰。汝帝左右人。當嫁節度使。奈何嫁此人。柴氏堅不嫁他人。竟歸威。漢祖鎮河東。威爲孔目官。契丹在汴。威勸漢祖擧兵。遂成帝業。漢隱帝時。威專主征伐。隱帝欲殺之。不克。威擁兵入汴。已而出禦契丹。軍士擁還汴•時已迎贇於徐州。乃以漢太后令。廢贇爲湘陰公。威爲監國。尋即位。自謂周虢叔之後。國號周。贇崇子也。崇初聞隱帝遇害。欲起兵南向。及聞迎立贇。則曰。吾兒爲帝。吾復何求。贇廢死。崇乃稱帝於晉陽。所有幷汾忻代嵐憲隆蔚沁遼麟石十二州之地。謂其臣曰。顧我是何天子。汝等是何節度使邪。是爲北漢。遣子承鈞伐周。不克。遣使乞師於契丹。契丹策命北漢主。更名旻。

の天子常に黄袍(わうはう)を着服せり時士卒郭威を天子に立てんとして黄袍なき故にまにあはせの爲めに黄旗を切り裂きて之れを威の身体にまとひ黄袍の代りと爲せしなり

擇姻　婿をゑらぶなり姻とは婿家を云ふ

大驚　郭威の狀貌がすぐれしを見て貴相(きそう)と思ひし故におどろきたるなり

郭雀兒　威が微賤の時にその項を刺して

講義　周の太祖皇帝は姓は郭と曰ふ太原の人なり唐の莊宗即ち李存勗の宮女に柴氏と云ふものありしが其家に歸りて姻即ち婿を擇(ゑら)べり或日柴氏が門內より門外を窺ひ見るに早疾(へわしばや)に通り過ぐるものあるを見大に驚きて何人なりと問ふに告ぐる者曰く從馬直軍使の郭雀兒(解上にあり)なりと柴氏は之れに嫁入せんとするに其父母は之を承諾せずして曰ふに汝は帝の左右にある人なり當さに節度使位の人に嫁入すべしどうしてか郭威の如き官位の卑(ひ)くき者に嫁入せんやとて之れを止めたれども柴氏は之を聞かず他人より姻を申し込めども堅く辭して嫁入せずして竟に威に嫁入したり漢祖石敬瑭が河東を鎭撫する時に威は孔目官(解上に出づ)の役と爲る會々契丹が汴にわり威は漢祖に說き勸めて兵を擧げしめ遂に帝業を成就したり漢の隱帝の世に至りては威は專ら征伐のことを司どれり然かるに隱帝は之れを惡みて之を殺さんと謀りしかども克たずそこで威は兵隊を引きつれて汴に入る已にして契丹兵を擧げて入寇せしかば出でゝ之れを禦せぐ然かるに軍士は威を擁載して汴に還へれり時に已に朝廷には贇を徐州に迎へ立てりそこで漢の太后の命令を以て贇を廢して湘陰公(しよういんこう)と爲し威を監國の役と爲す尋で位に即き自から周の虢叔の後なりと謂ふて國を周と號稱せり贇は崇の子なり崇初め隱帝が弑害に遇ひしことを聞き兵を起して南方に向はんと欲す贇を迎へ立つると聞くに及び則ち曰ふに吾が兒が帝とならば吾れ復た何をか求め望まんやと後贇が廢せられて死したるを聞きそこで帝を晉陽に稱す有つ所は幷(へい)、汾(ふん)、忻(きん)、代(だい)、嵐(らん)、憲(けん)隆(りう)、蔚(うつ)、沁

雀兒（すゞめ）の形をなす故に名づけたるなり

孔目官（コウモククワン）内禁の六曹の安牘を掌どるの微職なる官なり

我是何天子（ワレハコレナンノテンシゾヤ）われは僅に十二州を保ちて天子と稱すれども其の名のみにて實なきを耻じて問へる也

幸大喪（コウトシタイソウ）太祖が崩御し人心の一致せざるをよき時機即ちそれを幸にしてと云ふこと

山壓卵（ヤマノアツスランチ）

（しん）、遼（れう）、麟（りん）石（せき）、の十二州なり或時崇は其臣下に謂て曰く我れは高祖の建てし大業が一朝地に墜つるを以て今日の位号は已むを得ざる故に之れを稱するなり願ふに我れは是れ何の爲めの天子ぞや汝等は是れ何の爲めの節度使なるや僅かに十二州の地を保つと雖ども其の名のみありて其の實なし何の役にも立たぬと耻ぢ問へり是を北漢となす承鈞（しようきん）を遣はし周を伐たしむれども克たずそこで禮を厚し辭を卑ふし救師を契丹に求め乞ふ契丹大に喜び救兵を遣はし且つ北漢主を策命し名を旻と改む○契丹述軋弑兀欲而自立。述律討殺述軋而代之。**講義**北漢の兵を伐つ契丹の主兵を以て南し漢を援んとす而るに將士南征を樂まず而かるに兀欲許るさず强ひて南侵す新州に至る燕王述軋乱をなし兀欲を弑し其署部を統べ自立す已にして述律が述軋を殺して之に代はる○楚自希廣希蕚以來。相攻奪無寧歲。其下又廢希蕚而立希崇。南唐遣邊鎬擊楚。希崇降。南唐遷馬氏之族于金陵。楚亡。**講義**楚は希廣希蕚より以來相攻め戰ひ奪ひ掠め寧（やす）き歲とては無かりける又希蕚は悉く軍國の事を以て希崇に託して省せせ希崇遂に徐威陸孟俊等と謀りて亂をなし希蕚が寢するに方て威等兵を以て府に入り蕚を縛して之を幽し希崇を立つ南唐邊鎬を遣はして楚の乱を討つ崇支へず遂に南唐に降服し楚遂に亡びたり○故楚將劉言。自朗州攻潭。邊鎬走。言取湖南。請命于周。周以言鎭朗。王逵鎭潭。逵襲殺言於朗。以周行逢守朗。逵還潭。後又以行逢鎭潭。逵自居朗。**講義**故の楚の將即ち武平の留守劉言が朗州より潭（たん）を攻む邊鎬戰ひ敗れて走れり言は湖南を取り使を周に遣はし冊命を乞ひて曰く希くは府治を朗に移し田租賦税を貢すること總べて馬氏の故事の如くせんと周主大に喜び言を朗を鎭せしむ王逵には潭を鎭せしむ逵は言を朗州に襲ひて之を殺し周行逢を以て朗を守らしむ逵は潭に還る後ち又行逢を以て潭を鎭せしめ逵は自ら朗州に居れり○周主在位三年殂。改元者一。曰廣順。晉王立。是爲世宗皇帝。**講義**周主が位に在ること三年にして崩御せり年号を改めしこと一つ廣順と曰ふ晉王ハ繼ぎて立つ是を世宗皇帝となすなり

〔世宗皇帝〕名榮。本姓柴氏。周祖妻兄柴守禮之子也。周祖無子。

兵力がつよき故に彼が敵は少勢且つ弱虫なるを以て恰かもわがつよき兵と戰ひ爭せば大山を以て卵をおしつぶすが如くやすきと云ことなり

賊氣驕（ゾクキオゴル）北漢の兵士が戰ひに勝を得たりしがそれを鼻にかけて氣をゆるめおごりいだんするてとを云ふ

國家安危（コクカノアンキ）國や家のながらへると又亡びると云ふてとの二つ

在此一擧（アリコノイッキョニ）國家が亡びるか亡びざるか

故養之。周初領節鎭。已而尹開封。封晉王。周主臨終。命晉王聽政。尋卽位。北漢主聞周主殂。大喜。請兵於契丹。契丹遣將楊袞將萬騎。北漢主自將三萬人來。周主欲自將禦之。群臣皆諫。主曰。崇幸大喪。輕朕年少新立。此必自來。朕不可不往。以吾兵力之强。破崇如山壓卵耳。馮道力爭。惟王溥勸行。北漢主軍于高平。周前鋒擊之。北漢兵郤。主慮其遁去。趣諸軍亟進。後軍未至。衆心危懼。而主志氣益銳。合戰未幾。周右軍將樊愛能何徽先遁。右軍潰。步軍千餘解甲降。主見軍勢危。自引親兵。犯矢石督戰。宿衛將趙匡胤曰。主危如此。吾屬何得不致死。又謂禁兵將張永德曰。賊氣驕。可破也。公引兵乘高。西出爲左翼。我爲右翼。以擊之。國家安危。在此一擧。永德從之。各將二千人進戰。匡胤身先士卒。馳犯其鋒。士卒死戰。無不一當百。北漢兵大敗。楊袞不敢救。北漢主晝夜北走。僅得入晉陽。周主收樊愛能何徽。及所部軍使以上七十餘人。責之曰。汝輩非不能戰。正欲以朕爲奇貨。賣與劉崇耳。悉斬之。自是驕將惰卒。始知所懼。不行姑息

は此の一戰爭にあると云ふことにて此の戰ひが敗れたなれば共に國を亡び戰ひ勝ちしならば共に國家が盛んになると云ふことなり

死戰　必死になりて戰爭することと即ち生命をすて丶戰爭するなり

奇貨　よき代物と云ふことで周主を劉崇にうりつけ殺さんとなり

兵務精不務多　戰爭するには多くの兵ハなに丶もならぬ少勢でもよく錬りたる兵が

之政矣。張永德盛稱趙匡胤智勇。權殿前都虞侯。周主謂侍臣曰。兵務精不務多。農夫百。未能養戰士一。奈何浚民之膏血。養此無用之物乎。乃命大簡諸軍。又詔諸道。募天下壯士。咸遣詣闕。命匡胤選其尤者。爲殿前諸班。其騎步諸軍。各命將帥選之。由是士卒精強。所向克捷。

講義　世宗皇帝名は榮と曰ふ本姓は柴氏にて周祖の妻の兄の柴守禮と云ふ人の子なり周祖は子無し故に之を養ふて子となせり周の初めに節鎮を領せしが已にして開封に尹官たり晉王に封せらる周主ハ將に世を終り死せんとするの時に臨み晉王の榮に命して政事を總かしむ尋で位に即けり北漢主が周主の殂するを聞き大に喜び兵を契丹に請ふて曰く今梁主大喪あり此の虛に乘じ之を撃たば事成る可し急に大衆を賜へ臣は之を戰て彼の孺子を擒にせんと契丹も亦喪に乘じ數度の恥をす丶がんと欲す乃ち大將の楊袞(ようてん)なるものを遣いし一万騎に將たらしめ北漢主は自から三万人に大將となりて來れり周主は之を聞き自から大將として之れを禦がんと欲せしが群臣皆なその不可なるを諫めて曰く陛下新たに立ち山陵の務め未だ半ばならず威望殊に下に行はれず車駕一たび動かば百官內に兢はん宜しく晉陽の事ハ將帥に任ずべしと主の曰く北漢主劉崇ハ父君の死して吾が忌中にあるを幸なりとして朕が年少ふして新たに立ちしを輕んしてわれば此れ必らず自から來て伐つならん朕往かずんばわらず今吾が兵力の強きを以て之を迎へ擊ちしならば崇を破らん已は大山を以て卵を壓(おさ)すが如くして其の勝つ可きことは容易なるのみと馮道がつとめて諫め爭ひしが唯だ王溥だけが勸めて行かしむ北漢主ハ高平と云ふ所まで至り陣取するに周の前鋒のものが之れを擊ちしかば北漢の兵は卻(しりぞ)きたり周主はその遁れ去らんことを慮かりて諸軍を趣(うながす)し催促して亟かに進みしが後の軍勢が未だ至らざりければ衆人の心は危ぶみ懼る而して周主は志氣益々銳とし合戰することと未だ幾ばくならずして周の右軍の大將なる樊愛(ばんあい)と何徽(かき)の二人は先づ遁れ去りたれば右軍の方が潰れて步軍即ちかちだちの兵千餘は甲(よろひ)を解きて降服せり主は軍勢の危きを見て自から親兵即ち近衞の守勢を引て矢や石の中をも物ともせず犯し戰を督責せり時に宿衞の大將たる趙匡胤(ちやうきようゐん)の曰ふに今や吾が主の危きことは此の如し吾が儕(ともがら)は何ぞどうしてか死を致して討死するまで戰はざるを得んやと又禁軍即ち親兵の大將張永德に謂ふて曰く今や賊の氣象が驕りたかぶれり此の時に乘ぜば破ぶることと必せり公は兵を引きて高に出で西に出で左翼と爲れよ我れは右翼と爲りて以て之れを擊たん國家の安きと危きは實に此の一戰に在りと云ひしに永德ハ之に從ひたりそこで各々二千人に將として進み戰ふ匡胤は已れが身ハ士卒に先だちて馳せて敵軍の鋒先きを犯し丶かば士卒は大將既に此の如し如何ぞ死を惜みて戰はざるも

戰爭には勝ちうると云ふことなり

浚民之膏血　人民のあぶらや血をさらへとると云ふことにて人民より多くの租税を取り立てむごきめにわはせることを云ふ

簡諸軍　各隊の強壯をえりすぐり疲弱のものは散じやめることと

殿前諸班　諸班は諸役員と云ふことにて散指揮使(さんしきし)內殿直(ないでんちよく)

のあらん味方の一人が敵の百人にも適當せざるなし爲めに北漢の兵大に敗れしに楊袞は敢て之を救はず北漢主は晝夜を厭はず北に走り僅かにやうやくのことで晉陽に入ることを得たり周主は樊愛能何徽及び新部即ちその組み下たの軍使以上のもの七十餘人を收め召し捕り之れを責めて曰ふに汝が輩は戰爭する能ハざるにはあらず正に朕を以て奇貨とし好きしろ物と爲して劉崇に賣り與へんと欲するのみとて悉く之れを斬り殺したり是より驕る大將や惰る兵卒も始めて懼るゝ所を知り姑息として一時遁れの政事を行はぬ樣になりたり張永德は盛んに趙匡胤の智惠ありて勇氣なることを褒め稱したれば擢りに殿前都虞侯と爲れり周主は侍坐の臣に謂ふて曰く凡そ兵は精はしきすことを務めて多きことを務めずたとひ農夫百人ありとも戰士一人を養ふ能はずそれを奈何ぞ民の膏(あぶら)や血を浚(さら)へしぼりて此の無用の兵士を養はんやとそこで命じて大に諸軍を簡(えら)ばしめたり又た諸道に詔して天下の勇壯なる士を募り咸く闕下に至らしめ趙匡胤に命じて其尤も精しきものを選ばしめ殿前の諸班即ち步騎射等の兵隊の役人と爲し其騎兵步兵の諸軍は各々その大將に命じて之れを選ばしめたり是れに由りて士卒は精しく強くして向ふ所は必らず能く克(か)ちたり○周攻北漢。汾遼憲嵐石沁忻州皆入于周。周主攻晉陽。不克。引軍還。○北漢主劉旻殂。子鈞立。○周伐蜀。取秦階成鳳州。

講義　周が北漢を攻む汾(ふん)遼(れう)憲(けん)嵐(らん)石(せき)、沁(しん)、忻(きん)の諸州は皆な周に入れり周主は晉陽を攻めしかども克たず軍を引て歸れり○北漢の劉旻が殂して子の鈞(きん)が繼で立てり○周が蜀を伐ち秦、階、成、（三州は鞏昌府下の地なり）鳳、(陝西に屬す)等を取れり

○周伐南唐。唐遣兵拒於壽州而敗。周主自將。大敗唐兵於正陽。唐將皇甫暉姚鳳。保清流關。主命趙匡胤。倍道襲之。擒暉鳳。克滁州。周師取楊泰光舒蘄州。唐兵拒周師。復取泰州。攻楊州。周主命匡胤屯六合。唐兵來攻。奮擊大破之。將士有不致力者。匡胤陽爲督戰。以劍斫其皮笠。明日遍閱其笠。有劍跡者數十人。皆斬之。由是部兵莫敢不盡死。周主還大梁。留兵圍壽州。唐兵復江北諸州。周守將皆弃

散都頭（さんとうだう）鐵騎（てつき）控鶴（こうくわく）等を云ふ

精强 進退精練にして强壯なること

陽督戰 下知するやうの風に見せかけて其實は兵士の情意を察するなり

斫其皮笠 皮つくりのかさに劍を以て指揮するまねして刀きづをつけ後のめじるしとするなり

周守將

去。弁兵攻壽州。周主復自將如壽。唐人以城降。周主還大梁。已而復自將攻濠泗。皆降。進攻楚州。遣兵取揚泰。周主克楚州。還至揚州。唐主遣使盡獻江北地。周主乃還。唐主更名景。去帝號。奉周正朔。講義 周が李穀なるものを以て總大將となし兵七万を將ゐて南唐を伐つ唐が兵二万を遣はし壽州に於て拒ぎて敗れたり周主は自から將として大に唐の兵を正陽に破ぶる唐の將皇甫暉姚鳳が正陽の敗れたるを聞き兵をおさめて淸流關を保ち守れり周主は趙匡胤に命して十里ある所は二十里も行く樣にし路を倍して之れが不意を擊たしむ皇甫暉等之れを聞き驚き怖れて滁州に走り橋を斷ちきりて堅く守れり趙匡胤は兵を麾き騎して水をわたり遂に戰ふて暉、鳳を擒にして滁州に克ちしかば匡胤の威名天下に振へり周の師が揚、泰、光、舒、蘄の諸州を取る唐の兵は周の師を拒で復た泰州を取り揚州を攻めしかば周主は匡胤に命して六合縣に屯せしむ唐兵來り攻む六合の將士出で伐たんと請ふ匡胤止めて曰く彼れ和の成らざるを怒り此に迫まる殊に我が兵二千に滿たず輕しく動く可からず城下に迫るを見て戰はゞ必らず勝つと居る數日敵軍果して城下に迫る匡胤よき鬪を見て新ひ戰ひ大に唐の軍を破る六合津の水之れが爲めに流れず此戰に將士の內にて力を致さゞるのあれば匡胤は陽（いつはり）て戰を督責するまねして劍を以て皮の笠を斫りて明日遍（あま）ねく其笠を閱し見て劍の跡ある者は四五十人あり皆な之れを斬る是に由りて所部の兵は敢て死を盡さゞるものなかりし周主は大梁に還る兵を留め壽州を囲む唐の兵は先きに周に奪はる所の江北の諸州を復し取り返す周の守將は皆な棄てゝ去り兵を合併して壽州を攻む周主は復た自から大將として壽州に如き南唐を畧せんとせり唐は城を棄てゝ降服せり周主は大梁に還る已にして復た自から大將として濠泗の二州を攻む皆な降服すそれより進んで楚州を攻む兵を遣はして揚泰を取る周主は楚州に克ち還りて揚州に至る唐主は使者を遣はし悉く江北の地を獻上せしむ周主は乃ち還る唐主が名を景と改む帝號を去り周の定朔下知に遵ひ奉ぜり

○朗州王逵。爲潘叔嗣所殺。將吏迎潭州周行逢。入朗。行逢併潭朗有之。講義 朗州の王逵（わうき）が潘叔嗣の爲めに殺されたり故に將吏は潭州の周行逢と云ふ者を迎へ朗州に入らしむ行逢は潭州朗州の二州を併せて之を有もてり

○南漢主劉晟殂。子鋹立。講義 南漢主の劉晟（りうせい）が殂し子の鋹（とう）が繼で立てり

○周主自將伐契丹。取瀛莫易州。離京四十二日。而關南悉平。議趨幽州。會不豫。而止。以瓦橋關

楊滁（ようじよ）の二州を守るの將を云ふ

殿前都點檢 文獻通考に都點檢は都指揮使の上に位す入れば則ち殿陛に侍坐す出ずれば卽ち乘輿に扈從するの官なり

韜晦 韜はかくし晦はくらますとにて共にオ力を人にあらはし見せぬこと

略不動容 自若として少しも身貌を變じうごかさず矢石をさけざるなり

爲雄州。益津關爲霸州。置戍而還。往還六十日。講義 周は未だ北方契丹が定まらずして數々中國の要患をなすを以て自ら將として契丹を伐つ瀛莫易（ゑいばくえき）の州を畧取せり京を出發して四十二日の間に關南の地は悉く平定に歸せり因して幽州に趨かんとし病に會ふて止む瓦橋關を以て雄州と改め益津關を霸州と改め守りの兵隊を置きて還へる此行京師を發して凱旋するまでの間恰かも六十日間を費せりと云ふ

○趙匡胤。先是爲殿前都指揮使。從攻淮南。又從征契丹。至是爲殿前都點檢。講義 趙匡胤は是より先きに殿前の都指揮使の役と爲り周主に從ひ淮南を攻め又た從ふて契丹を征伐せしが是に至り其功を以て殿前の都點檢の役と爲りたり

○周主在位六年殂。改元者一。曰顯德。周主在藩韜晦。及卽位。首破高平之寇。人始服其英武。號令嚴明。人莫敢犯。攻城對敵。矢石落左右。略不動容。應機決策。出人意表。又勤於政事。發姦擿伏。聰察如神。間暇則召儒者讀史。商確大義。性不好絲竹珍玩之物。常言。朕必不因喜賞人因怒刑人。文武參用。各盡其能。人畏其明。而懷其惠。故能破敵廣地。所向無前。登遐之日。遠近哀慕。子梁王立。是爲恭帝。講義 周主は位に在ること六年にして崩御せり年号を改めしことと一つ顯德と曰ふ周主が藩に在りし時に自分の氣量を韜（つゝみ）晦（くら）ます而して能く人々に其才氣を見せず位に卽くに及んで第一番目に高平の寇を破る人々初めて其の英邁武勇なることを感服せり号令が嚴明に濟且つ明らかにして人敢て犯すことなく城を攻め敵に對しては矢や石が其の左右卽傍らを掠むともいさゝかも容貌を動し變ぜず機會に應じ策略を決斷して人の慮も及ばざる所に出で又た政事に勤め勤み姦邪を發（あば）き隱伏を摘みだすことと鬼神の如くにして閑暇なる時は則ち儒者を召して歷史を讀ましめ大なる義理を商（はか）り確（はか）る性質は琴や笛や色々の珍つらしき奇麗なる玩弄物なといゝ少しも嗜み好まず常に言く朕は必らず喜ひに因りて人を賞し怒りに因りて人を刑せず文武の二つの道を交じへ用ひて各々其の才能を盡さしむ人々其明らかなるに畏れて其の智惠あるに懷服す故に能く敵を破り地を廣め向ふ所に

出人意表　智恵がすぐれて決斷がよく爲すことが人々の思ひもよらぬ策略をめぐらすを云ふ

摘伏　はり出すなり即ち隱れ伏したる事物をあばきはり出し見付けるを云ふなり

商確　（商ハ群議）してその宜しきに從ふなり確は其實を實にするなり共に事物を計り定むることなり

鎭定言　鎭州と定州の二州が早馬を立てて奏して曰く契丹が入り寇し

敵なし崩御の日に遠き所のものも近き所の者も皆な哀しみ慕ひたり子の梁王が繼ぎて立つ是を恭帝となす

〔恭帝〕名宗訓。七歲卽位。○以趙匡胤爲歸德節度使。明年春鎭定言。契丹入寇。遣匡胤將兵禦之。至陳橋驛。軍士擁還策立。周主在位半年。遂禪于宋。周自太祖至是三世。實二姓。十年而亡。

講義 恭帝は名は宗訓(そうくん)と曰ふ七歲にして位に卽けり○趙匡胤を以て歸德の節度使と爲す明年の春に鎭州定州二州の者が急を告げて曰く北漢の劉鈞契丹と力を合せ大衆を帥ひ入て寇すと詔して趙匡胤を北討大總督となし出で、寇を拒がしむ匡胤衆を督して陳橋驛に至て宿す其夜軍士等騷き譟(さわ)ぎて寢せず相集り議して曰く今主上は幼冲にして且朝廷私し多し我が罷死を盡して寇に殁するとも誰れか其後を知る者ぞ如かず趙點檢を推戴して天子と爲し然かる後に北行して寇に死せば死して餘榮ありと遂に幕中に迫り匡胤を擁戴し還り策を以て立てたり周主は位に在ること半年にして迫まられて遂に位を宋に禪る周は太祖より是に至りて三代實は二姓にして十年目に滅亡したり

宋

講義 趙匡胤初め周に任へ歸德軍節度使となり軍政を掌どる天下を定むるに及び其宋州に起るを以て國號を宋と云ふ汴に都せり

〔宋太祖皇帝〕姓趙氏。名匡胤。其先涿人也。相傳爲漢京兆尹廣漢之後。父弘殷。爲洛陽禁衞將校。生匡胤於甲馬營。赤光滿室。營中異香。一月。人謂之香孩兒營。少從辛文悅學。文悅嘗夢。邀駕。乃匡胤也。周世宗時。掌軍政。凡六年。士卒服其恩威。數從征伐。立大功。世宗一日於文書篋中。得一木。書曰。點檢作天子。時張永德爲點檢。世宗乃遷之。而易以匡胤。世宗殂。恭帝卽位之

て民其の苦に堪へざるを以て早く鎭定の師を發せんことを請ひしなり

策立　麾下即ち手下の諸將士が策を定め天子となすを云ふ

趙匡胤　（宋紀）の註に曰く帝の四世の祖朓なるもの唐の幽部の令となり珽を生めり唐の御史中丞の珽が又敬を生めり涿州の刺史敬が又弘殷を生む周檢校司徒岳州防禦使の殷の杜氏が匡胤を洛陽の夾馬營に生むと云ふ

明年。命領宿衞禦契丹。時主少國危。中外始有推戴之議。大軍既出。軍校苗訓。見日下復有一日。黑光相盪。指曰。此天命也。夕次陳橋驛。軍士聚議。先立點檢爲天子。然後北征。環列待旦。點檢醉臥不知也。黎明軍士擐甲執兵。直叩寢門曰。諸將無主。願策大尉爲天子。點檢驚起披衣。則相與扶出。被以黃袍。羅拜呼萬歲。擁上馬南行。拒之不可。乃攬轡誓諸將。整軍自仁和門入。秋毫無所犯。恭帝遂禪位。以所領節鎭爲宋州歸德軍。故國號曰宋。

講義 宋の太祖皇帝姓ハ趙氏名は匡胤と云ふ其先祖は涿郡の人なり世に相傳ふ漢の京兆の尹廣漢と云ふものゝ後世の子孫なりと太祖の父の弘殷が洛陽の禁衞の將校となりし時に匡胤を甲馬營と云ふ陣屋にて生む時に赤き光ありて其部屋の一面に滿ちふさがり營中に異りしよき香のあること一ケ月なりしそれにより世の人はこの營のことを云ふて香孩兒の營と謂へり匡胤は年少ふして辛文悅なるものに從ひて學びしが文悅がある時夢に天子の車駕を邀(むか)ひたりしが乃ち是れ匡胤なりしかば甚だ之れを異とせり周の世祖の時に軍政を掌どること凡そ六年の間なりしが士卒のものどもが其の恩愛や威光に歸服せり數々世祖に從ひて征伐して大功を立つ世祖がある日のことに文書の入れある篋中(きやうちう)即ちはこの中に於て一つの木ふだに書きしものを得たりその文言に曰く點檢が天子とならんと此の時に張永德が點檢の官たり世宗がそこで之を忌み永德を外の官に遷し易(か)ふるに趙匡胤を以てせり世宗が殂して子の恭帝が卽位の明年に匡胤に命じて禁門の宿衞を領せしめしが契丹の入寇を防ぎたりての時に主は年が未だ少かく國も危くして朝廷の中外にあるの人々も始めて匡胤を推し戴きて天子と爲さんとするの評議ありたり契丹を禦ぐの大軍が既に出發する時軍校の官たる苗訓(べうくん)が日輪の下に復た一つの日輪ありて黑き光りが相ひ盪(うご)くが如きを見て指(ゆび)さして曰くこれ匡胤が天子になるは天命なりとその夕方に至り陳橋驛に次しやどりし時に軍士衆まり議し點檢の匡胤を推戴して天子と作し而して後に北の方契丹を征伐せんも亦未だおそからざるなりと環(めぐ)り列なりて夜の旦くるを待て久而して匡胤は醉ひ臥し何事も更に知らず黎明即ち夜の明け頃に諸軍士甲を擐(つらぬ)き着て兵具を執り直ちに匡胤の臥して居る寢門を打ち叩たきて曰ふに諸將は主とすべきものなし願くば大尉たる貴公を策立して天子と爲さんと匡

甲馬營　一統志に夾馬營は河南府の城外にありてもとの後唐の夾馬營は宋の太祖初めて生るゝの地なりと云ふ夾と甲とは相ひ通也

香孩兒　によきにほひのあるわかごと云ふことなり

中外讋服　讋は勇氣を失ないてふるひ恐るゝ貌なり服は從ひ伏するなり中外は朝廷內外を云ふなり

黑光相盪

胤驚き立ち衣を披（き）れば則ち將士等が相ひ共に扶けて出で被（かぶ）らすに黄袍と云へる天子の裝束を以て羅（めぐり）押して万歲と呼び譟し擁しだきかゝへて馬に上（のぼ）らせ南行して都に歸れり匡胤は之れを拒めども可（あ）かずそこで轡（くつわ）を攬（と）り諸將に誓ひ約束して曰ふ太后主上は我が北面して之に事ふる者驚犯するを得ず公卿は皆な我が比肩して事に從へしもの侵陵するを得ず朝廷府庫士庶の家は侵掠するを得ず命を用ひば重賞あらん違へば則ち孥戮せんとてそれより軍を整へ勢揃ひして仁和門と云ふ城門より入る秋毫即ち聊も犯し掠むることなしぞれより崇元殿に詣りて禪代の禮を行へりその禪詔は翰林の承旨たる陶穀がこれを袖中より出しゝかば匡胤は拜し受けて皇帝の位に即けり華山の隱士陳摶なるものが宋主が周に代ると聞きて曰く天下ハ此より定まらんと元（もと）領する所の節鎭は宋州の歸德軍なるを以ての故に國の號を宋と曰へり

即位之初。欲陰察群情。頗爲微行。或諫毋輕出。上曰。帝王之興。自有天命。周世宗見諸將方面大耳者。皆殺之。我終日侍側。不能害也。微行愈數。曰。有天命者。任自爲之。不汝禁也。中外讋服。講義（位に即きし初め陰かに內外の群臣の心情を察せんと欲して頗る微行とてしのびあるきをなせり或人が諫めて曰く陛下新たに天下を得て人心未だ安からず今しば〳〵輕るしく出づれば万一不虞あるもそれ悔ゆべけんやと上笑て曰く帝王の興るは自から天命ありこれを求むれども亦得可からずこれを拒げども而かも亦止むる能はず周の世宗は諸將の方面にして大耳なるものを見れば天子になる人相と云ふを以て皆なこれを殺ろす我れも方面大耳なれども終日側に侍り居るに害しきづつくること能はざるなりと微行いよ〳〵數ばして曰く天命あるものは自から天子となるに任（ま）かす亦た汝を禁止せざるなりと中外の人は讋（をそれ）服せり）

○昭義節度使李筠。故周宿將。反於澤州。上命石守信討之。尋親征。筠自焚死。澤潞平。講義（昭義の節度使の李筠（いん）なるものは故（もと）の周のふるき臣なり澤州に於て兵を擧げて反乱せり太祖は石守信に命じて之れを討（う）たしむ尋で自から將として之を討つ筠は力屈して自分に焚け死す澤潞の鎭平げり）

○淮南節度使李重進。周祖之甥也。亦反。上命石守信討之。尋親征。重進自焚死。淮南平。○荊南高寶融卒。弟寶勗代之。○南唐泉州留從效稱藩。講義（淮南の節度使の李重信は周祖郭威の甥なり宋周を奪ひし故に兵を擧けて反し宋を擊つ上は石守信に命じて之れを討たしむ尋で自から征伐す重信力及ばず終に自から焚け死す是に於て淮南平定に歸せり○荊南の高寶融が卒せり弟の寶勗てれに代はれり○南唐の泉州留（姓）從效（名）と云ふものが宋の藩臣と稱す）

盪は動くなり兩日より黑き光かりが發出して相ひ動くが如きこと

環列待旦　夜中軍士が太祖の營をとりまき夜の明くるを待つなり

策大尉　大尉は匡胤の官なり策ハ冊なりかしつくてと恭帝匡胤を以て歸德軍の節度使と爲し檢校大尉と曰ふ故に匡胤を校尉となす

秋毫無所犯　軍中を戒めたる故にすこしも乱暴狼

○建隆二年。南唐主李景。遷都于南昌。以其子從嘉守建康。景殂。從嘉立。更名煜。講義（建隆二年南唐の主李景は都を南昌の地に移せり又その子の從嘉を以て建康府を守らしむ景が殂せり從嘉繼て立てり名を煜と更たむ）

○上既誅筠重進。召樞密直學士趙普問曰。吾欲息天下兵。爲國家長久計。其道何如。普言。唐季以來。帝王數易。由節鎭太重。君弱臣強而已。今莫若稍奪其權。制其錢穀。收其精兵。則天下自安。又言。殿前帥石守信等。皆非統御才。宜授他職。上悟。召守信等宴酣。屛左右謂曰。我非爾曹之力不至此。然終夕未嘗安枕。守信等頓首曰。陛下何爲出此言。天命已定。誰敢有異心。上曰。汝曹雖無異心。如麾下之人欲富貴何。一旦以黃袍加汝之身。雖不欲爲。其可得乎。皆頓首泣曰。臣等愚不及此。惟陛下哀矜指示可生之途。上曰。人生如白駒過隙。所爲好富貴者。不過欲多積金錢。厚自娛樂。使子孫無貧乏耳。汝曹何不釋去兵權。出守大藩。擇便好田宅。爲子孫計。多置歌童舞女。日飮酒相安。不亦善乎。皆拜謝曰。陛下念臣等至此。

稱をなさず

方面大耳　ひらたき面にて耳の大きなるは貴相なり

任自爲之　天命にて帝王となる者は我れを殺して而して代るべし乃ちその者のしわざにまかせ任んずると云ふことなり

不汝禁　汝は卽ち廣く世人を指さしたる言にしてそなた等の欲し爲すまゝにして決してわれよりさしづし又はかれこれ云ひてとめはせぬと云ふことなり

所謂生死而肉骨也。明日皆稱疾請罷。**講義**上すでに李筠と李重進とを誅し樞密直學士の趙普(てふふ)と云ふものを召し問ふて曰く吾れ天下中の兵を息すめて國家長久する所以の計を爲さんと欲せり其の計は如何なすぞやと趙普對へて曰く唐の季即ち末年より帝や王が易はるものは藩鎭節度使の威權が甚だ重くして且つ君は弱く臣は強きによるの故なり今の計をなすものは稍々だん〱とその威權を奪ひ取るに若くことなしその諸將の錢穀を制しきりもりしてその精しき所のよき兵を收さめ取りたれば則ち天下中は自然と安すく治まらん趙普が又言ふには殿前の帥石守信だちは皆な臣下を統べ御して治める才力あるものにあらず宜しく他の職を授くべしと石守信等の數人は皆な帝の創業の功臣にして且つその故人なりその故に帝深く信じて禁衛の兵府を司どらしむ是に於て趙普は數しば〱以て上言す帝の曰く卿誤れり石氏は皆な朕が故人なり背畔するものにあらずと普從容として奏して曰く臣も亦未だ其の叛するを憂ひず然れども皆統御治安の器にあらざるをいかんせんと倘ほ數言を陳す其言に因りて太祖始めて悟り石守信だちを召し呼び酒宴を催し酣(たけなは)なるころに左右の者を屛(しりぞけ)て謂て曰く我れは汝曹の力にあらずんば此の樣に天子とはなれぬ然れども終夜(よもすがら)未だ嘗て枕を安んじて睡ねたることはない此の天子の位に居る者は誰れかこれをなすことを欲せざらん必らず皆な天子になりたいと思ふなりと石守信等は頓首して曰ふには陛下何んすれぞ此の樣な言を爲し出さるゝぞ帝王になられる天命が最早や定れり誰れか敢て異なる所の心を懷きしものがありましやうや決してありませんと太祖の曰ふには汝皆が二心がないと云ふても麾下にある所の人々が富貴を欲することを何んとするぞや一旦黃袍を以て汝が身に加へ被せたれば天子に汝がなることを思はずともそれ得られようやと石守信等が皆な頓首して泣て曰く臣私共は愚昧にしてかくまでには心付かず惟だ陛下私共を哀(あは)れみ下されて生活すべきの途を敎へ下されよ太祖の曰く人生は白駒即ち日影の戶の隙(ひま)を過ぐるやうなものなり故に富貴を好んで樂をなさうと思ふものゝ多く金錢をつみかさね厚く自から樂みて子や孫をして貧乏のなからしめんと欲する外はなし汝が曹何ぞ兵權を釋(と)き去りて出でゝ大なる藩を守り便利の好き田宅を取りて擇び子や孫の對計即ち用意をなさぬぞ多く歌ふ童やら舞ふ女を置き毎日〱酒を飲んで互に安せんことと亦た善からずやと皆な拜謝して曰ふに陛下は臣等を思ひくださること此樣にまでに至れり古より謂ふ所の死せし者を生かして枯(かれ)たる骨に肉をつけるやうなものであると云ひてその明日皆な病氣と稱して典兵を罷めんと請ひたり○趙普薊人。遇上於滁州。用爲節度掌書記。上卽位後。專與謀議。倚信之。**講義**趙普は薊(けい)の人にして太祖に滁州に於て遇ひたりそれより太祖は之れを擧げ用ひて節度使の掌書記の役となせり太祖が位に卽きて後は何事に限らず專ら共に謀り相ひ談じて何事も趙普に依賴し且つ信任せり○女眞貢馬。**講義**女眞(東夷)の國より馬を貢ぎ獻上せり○回鶻于闐來貢。○建隆三年。泉州留從効卒。

稱藩　王號を去りて宋の藩臣と稱し歸服することを云ふ

統御才　衆を統(す)べきりもりしひきまはしてゆく才智のなきこと

爾曹之力　太祖が天子となるには石守信等が其首謀となりたりし故に云ふなり

哀矜　あはれむこと

如白駒過隙　白駒は日なり隙は日影なり人生の早くすぐる日脚のしばしの間

衙將陳洪進。推張漢思領軍務。**講義**回鶻于闐(くわいたつうてん)の國より來り貢ぎせり○建隆三年に泉州の留從効が卒せり衙將即ち禁軍を掌どる所の大將陳洪進が張漢思と云ふものを推して軍務の事を掌とらしむ○定難節度使周西平王李彝興貢馬。**講義**定難の節度使の役周の西平王李彝興(りいてう)と云ふ者が馬を貢ぎ獻せり○武平武安鎭帥周行逢卒。子保權領軍府。衡州太守張文表作亂。起兵據潭州。保權表請救于宋。**講義**武平武安の鎭帥(ちんすい)の周行逢と云ふ者が卒せりその子の周保權(しうほけん)が軍務を統べ掌どれり時に衡州の太守の張文表と云ふ者が周保權に叛きて兵を起し潭州に據れり保權は表を上りて救ひの兵を宋に乞ひたり○荊南高寶勗卒。兄子繼冲代之。○高麗來貢。○乾德元年。命慕容延釗等。會周保權討張文表。師出江陵。高繼冲出降。荊南平。**講義**荊南の高寶勗(てうはうきよく)が卒せりその兄の子の繼冲と云ふ者がこれに代はり立つ○高麗の國より使が來り貢ぎをせり○乾德元年に太祖が慕容延釗等に詔を下して兵を帥ひて周保權と共に力を合はせ張文表を討伐せしむ延釗等の師江陵より出づ江陵の主高繼冲降參し荊南全く平らぐ延釗至湖南。文表先已敗死。保權聞宋師下荊南。懼而拒守。師進討之。獲保權。湖南平。○二年。宰相范質王溥魏仁浦乞罷。質等周朝舊相也。自唐以來。宰相惟面奏大政事。餘號令刑賞除拜。但入熟狀。質等自以前朝大臣。稍存形跡。每事具劄子進呈。退批所得聖旨。同列皆書字以志之。奏御之多始此。質等既罷。以趙普同平章事。**講義**延釗等の軍已に湖南に至り張文表を討んとす時に張文表先に周保權が爲めに攻め殺さる延釗等の進んで已まざるを見て周保權以爲らく文表は已に死したるに宋の師荊南を下り漸く進んで已まざるは蓋し我を襲ひ討たんが爲めなりと乃ち懼

もとゞまらぬ如きなり之れ莊子の語なり

便好田宅 自分にべんりのよきこのみ通りの勝手のよろしき美田や高宅

生死肉骨 死者をして復た再たび生きかへり又しやりこつに復た再び肉を生ぜしむると云ふことにて再生の恩にたとへて云ひしなり

女眞 國東夷にあり古への肅愼の遺種なり

衙將 官禁軍を掌どる唐の制に南北の衙有り

れて境に臨み拒ぎ守る延釗の師進んで之を討ず保權克つ能はず朗州に於て執へらる是に於て湖南悉く平定せり○乾德二年宰相の范質(はんしつ)及び王溥(わうふ)魏仁浦(ぎじんほ)が朝廷に請ふて官職を辭す范質等は故の周の世宗の朝の宰相なり唐の世よりこのかた宰相たるものは惟だ大なる政事ばかりハ天子に對面して奏聞し面のあたり奏上すれども其の餘の號令や刑罰や恩賞や官位等の沙汰などは但だ具狀して進遂して御案を經る即ち閣齊の函可を受けて後執行するなり范質等は自から前朝即ち周の大臣なるを以て前後身の用心をして稍々君臣の形迹を存して嫌疑を避く且つ帝の英邁なるを憚かり天子へ奏聞する毎に奏進文の如き大事にかゝはらざる雜事の類等と雖とも其の法式通りにして奏上し面のあたり御案を經て退きて各々天子より受け得る所の旨を批評即ち自分の見込の善惡を陳べ同列の者皆な一々に自分名前を何某と書き記るし同意の旨を書き記るせり奏聞の多きことは此の時分より始まれり質等の請をやめ趙普を以て同平章事の役となす

○命王全斌伐蜀。乾德三年。蜀相李昊勸蜀主孟昶出降。蜀亡。前蜀王氏之亡也。降表亦昊所草。蜀人夜書其門曰。世修降表李家。

講義 武忠軍の節度使の王全斌(びん)に命じ蜀を伐たしむ初め全斌の蜀を伐つや大雪に風す宋主講武殿に於て紫貂裘帽を衣て以て事を視る忽ち左右に謂げて曰く我れ被服此の如し而して体尙ほ寒さを覺ゆ念ふに西征將士此の大雪を冒かす何を以て堪へんやと即ち裘帽を解きて中使を遣はし馳せて全斌に賜ひ仍て諸將に諭して曰く能く徧及せざるなりと全斌賜を拜し感泣し向ふ所功を立て以て恩に報へり乾德三年に蜀の宰相の李昊は蜀の國主孟昶(もうちやう)に勸すめ說き出でゝ宋に降參せしむ是に於て蜀亡びたり是より先き前蜀主王衍が唐の莊宗の爲めに攻められ王衍降參せり其の時に李昊(りこう)が王衍の爲めに降參の書付を書きしなり今又後蜀主の孟昶の爲めにも降參の書付を認め書けり故に蜀の人がある夜に李昊の門に書して曰く世々降表を修するの李家と即ち代々の天子の降參書を修め書く所の李昊の家とて嘲(あざ)けり笑ひしなり蜀の孟知祥が唐の明宗の長興二年に命を受け王となりしより是に至るまで三十三年にて亡びたり

○初上命宰相。擇前代未有年號。以改今元。及是得蜀鑑。乃有乾德四年鑄字。怪之。召問學士竇儀。曰。昔僞蜀王衍有此號。上歎曰。宰相須用讀書人。

講義 初め宋主は宰相に命じて是れまで未だ嘗てあらざる所の年號を擇ばしめしに現今用ゆる所の乾德と曰ふ年號を用ひたり然かるに蜀の國を亡ぼすに及んで蜀の宮人の鏡を持てるものあり上其の鏡を觀るに乾德四年に鑄(い)ると云ふ字が書きしるしてありたり太祖視て之れを怪しみ學士を召して之れを問ふ時に學士の竇儀(とうぎ)と云ふものが曰く蜀と僞號したる蜀主の王衍が此の乾德と云ふ年號を用ひたりと太祖は之れを

王 南史には少帝と稱す徐羨之(じよせんし)等帝を廢して營陽王となす營陽は一に滎陽に作くれり

義隆 武帝の第三子なり

令望 令はよきと訓す人望のよきことなり

晉徴士 晉の徴士と稱する者は節を宋に屈せざるを以てなり徴士とは處士と云ふ如し

陶潛 陶潛字は元亮大司馬侃が曾孫なり祖茂は武昌の太守潛少して高尚の

を生みたりしが紹は性質凶狠(きようこん、兇狠にして人にもとるもの)にして無賴ものにてありければ父の珪を弑せり齊王の嗣ハ紹を殺して立ち珪を道武皇帝と謚し廟を烈祖と號せり

○晉劉裕拔廣固。執慕容超。送建康斬之。南燕亡。

講義 晉の劉裕が廣固の地を拔き取り慕容超を執らへて建康に送りて之れを斬り南燕は亡ぶ南燕は慕容德が安帝の隆安二年に僭號してより是に至るまで二世合せて十三年なり

○盧循乘劉裕北伐。出自番禺。直下。襲建康。劉裕被徴急還。諸軍力戰。循乃退。裕追破之。循走交州。爲刺史所敗。斬首送建康。

講義 盧循は劉裕が北方を征伐するひまに付け込みて番禺(はんぐ即ち今の廣東)より出でゝ直ちに下りて建康の不意を襲ひ討つ劉裕は徴されて急に還る諸軍士が力を盡くして戰爭せし故に循は乃ち退く劉は追ひつめて之れを打ち破りしかば循は交州を指して走れり然るに交州の刺史杜慧度と云ふものに敗られ首を斬りて建康に送られたり

○西秦乞伏乾歸。爲其下所弑。子熾盤立。○西秦襲滅南涼。先是。南涼主禿髮烏孤卒。弟利鹿孤立。卒。弟傉檀立。至是爲乞伏熾盤所襲。以傉檀歸殺之。南涼亡。

講義 西秦の乞伏乾歸が其の下のものゝ爲めに弑せられ子の熾盤(しはん)が繼ぎて立ちたり○西秦が不意に南涼を伐ちて滅ぼしたり是より先き南涼の主の禿髮烏孤が卒して弟の利鹿孤が立ちたりしがこれも卒して弟の傉檀(ぢよくだん)が立ちしが是に至りて乞伏熾盤の爲めに襲はれ傉檀を以て連れ歸り之れを殺せり南涼は禿髮烏孤が安帝の隆安元年に僭號してより是に至るまで三世合せて十八年にして亡びたり

○後秦主姚興卒。子泓立。晉大尉劉裕伐之。發彭城。由洛陽。道武關潼關。入長安。泓敗出降。送建康斬之。後秦亡。

講義 後秦の主姚興が卒して子の泓(をう)が立ちしが晉の大尉の劉裕が之れを伐つ彭城を出で洛陽より武關潼(たう)關を通りて長安に攻め入りしに泓は敗北して出でゝ降服しければ建康に送りて之れを斬りたり後秦は姚萇が孝武帝の太元九年に僭號してより是に至るまで三世合せて二十四年にして亡びたり

○夏主勃勃聞裕伐秦。曰。裕必取關中。然不能久留。若以子弟諸將守之。吾取之。

、志を懷き博學善く文を屬す穎脫不羈眞に任じ自得す鄕鄰の貴ぶ所と爲る彭澤の令と爲り此に至て印を解き綬を去り又た官に仕へずして終へたり

五斗米 郎瑩に云く月俸と益し縣令の月俸は米十五斛日に五斗にして今の五升一合五勺にあたれりと云ふ

歸去來辭 淵明が歸り去るの意を述べしもの人口に膾炙せり故に之を畜署す

如拾芥耳。至是三秦父老。聞裕將還。詣門流涕曰。殘民不霑王化。於今百年。始覩衣冠。人人相賀。公捨此欲何之乎。裕還彭城。勃勃陷長安稱帝。歸統萬。【譯義】夏主の勃々が劉裕が秦を伐つと云ふことを聞て曰く劉裕は必ず關中の土地を取るならん然れども久しく留まることは能ふまじ若し子弟や諸將等を以て之を守らしめたならば吾が之れを取らんことは落ち散りし芥(あくた)を拾ふが如く容易きのみと是に至りて三秦の父老たちは裕が將さに還らんとするを聞き裕の門に詣りて涕を流して曰く殘民即ちうちもらされし人民は王者の敎化に霑はざること今に於て百年ほどの間なり然るに何の幸ぞ世が太平になりて始めて衣冠を着けたる人を觀るを得たれば人々相賀して喜び居たりしに早くも公は此の地を捨てゝ何處(いづく)へ之(ゆ)かんと欲するやとて之を止めしも裕は見込が無きを以て彭城に還る勃々が長安の地を陷れて帝と稱し統萬の城へ還る○晉以裕爲相國宋公。加九錫。裕以讖云昌明之後尚有二帝。乃使人縊晉帝弑之。帝在位二十三年。改元者二。曰隆安義熙。義熙元年至十四年。則劉裕爲政之日也。弟瑯琊王立。是爲恭皇帝。【譯義】晉ハ劉裕を以て相國宋公となし九錫を加ふ裕は未來記に昌明帝の後に尚ほ二帝があるといふを以て乃ち人をして晉帝を縊(くび)らしめて之を弑せり帝ハ位に在すこと廿三年にて年號を改めしこと二つなり曰く隆安、義熙と其の義熙元年より同く十四年に至るまでの間は則ち劉裕が政事を爲せし日なり弟の瑯琊王が繼ぎて立つ是れを恭皇帝となす

〔恭皇帝〕名德文。即位之明年。劉裕進爵爲宋王。自彭城移鎭壽陽。又明年裕還建康。帝在位改元者一。曰元熙。禪位于裕。已而被弑。東晉自元皇帝至是凡十一世。一百四年。西晉東晉。通一百五十六年而亡。【譯義】恭皇帝は名を德文といふ位に即くの明年に劉裕が爵を進め宋王と爲す彭城より移りて壽陽を鎭撫す又た明年に裕が建康に還れり帝は位に在す間に年號を改めしこと一つ元熙といふ位を裕に禪る已にして弑せられたり東晉は元皇帝より是に至りて凡て十一世にして一百四年なり西晉東晉通じ合せて一百五十六年にして亡びたり

り

二拾遺 諫官の名 二拾遺ハ歐之と多遜とを指さすなり

皆異姓 初め世祖の女薛氏に適く繼恩を生む再たび何氏に適く繼元を生む漢のともに幼孤なり世祖は鈞が子なきを以て使ハち之れを養はしむ皆な劉姓を冒かせり

大理寺 天子に九寺あり此れ其の一なり折獄詳刑を掌どれり

堂吏 相府つきの吏

我が國の毘沙門を爾さね椅子によらずして地に坐し炭を熾んにして肉を燒く趙普の妻が酒を行へ酌(しやく)を取れり太祖は趙普が妻を呼ぶに嫂(あによめ)を以てす趙普は徐かに問ふて曰く夜久しくして深(ふけ)渡り且つ寒きこと甚だし陛下ハ何の故ありて出でられ玉ふやと太祖の曰く吾れは睡(ねむる)りに就くこと能はず吾が睡る一の牀(ゆか)の外は皆な他の人の家にて天下の人吾が號令に從はず故に來りて卿を見るなりと趙普が曰ふに陛下は天下を少さいものとなさるゝか南を征し北を伐つは只今が其好き時機(じき)なり故に願くば南征北伐に付ての成算(御考と云ふが如し)を承はらんと太祖の曰く吾れ太原の地を取らんと思ふと趙普默(もく)して物言はざ良(やゝ)久ふして曰く其の太原を取らんと思召すは臣が知る所にあらずして堅處の存する所一切はかゝり兼ぬるなり何となれは彼の太原の國は西と北との二方の邊鄙に當れり一たび兵を擧げて下らしめば邊寇の患は吾が宋朝のみ之れに當らんそれよりは何ぞ姑(しばらく)之を留存して以て西北の邊患に當て以て諸國を削り平くをまたざるか彼の彈砲の玉やほくろの如き小なる地は將た如何んぞ逃るゝ所あらんと太祖笑て曰く吾が意中は正(まさ)に然かりしが姑く餘所ごとを言ふて以て卿の心を試むるのみと是に於てか師を荊南湖北の方へ用ひ繼で西川の地を取れり嘗因北漢諜者。語北漢主鈞曰。君家與周氏世仇。宜不屈。今我與爾無所間。何爲困此一方之人。鈞遣諜者復命曰。河東土地兵甲。不足當中國之什一。區區守此。蓋懼漢氏之不血食也。上哀其言。終鈞之世。不以大軍北伐。及繼元立。始用兵。【譯義】太祖は嘗て北漢の間諜の者に因りて北漢主劉鈞に語りて曰く君が家は周氏と代々仇敵(きうてき)なり故に君が正さに屈從せざるは宜なり今我れと爾とは間(へだて)あるところなく何も中の惡しきことといないそれを何の爲めにか何時までも戰守して此の一方の北漢の人民を困しむるぞと劉鈞そこで間諜の者を遣はし返答せしめて曰く河東の土地や兵甲即ち士卒は中國即ち宋の國の十分の一にも當るに足らずそれに區々として聊かの地を守り居るは蓋し北漢の漢氏の血食(解上にあり)と先祖祭りが絕へるを懼れてなりと太祖はそのことばを哀はれみて劉鈞の死するまでハ大軍を以て之れを伐たず子の繼元が立つに及び始めて兵を用ひて北漢を征伐したり○是歲契丹弑其主述律。號穆宗。迎立其伯父兀欲之子明記。更名賢。○三年。命潘美伐南漢。四年。克廣州。劉鋹降。南漢亡。【譯義】この歲に契丹が其の主の述律を弑す是れを穆宗と号す契丹が其の伯父の兀欲(こつよく)の子明記(めいき)を迎かへ立てゝ名を賢とあらたむ○開

を云ふ

附會（フクワイ） 傍附して會合するなり

增減刑名（ゾウゲンスケイメイ） 杖罪二十を增して百とするが如きは增なり死罪を減じて遠逸に謫（たく）する如きは減なり

鼎鐺（テイトウ） 三足つきの鍋の如き者や鼎の如きものでもと云ふことなり

柱斧（チウフ） 天子の御座の側にあるもの銅鐵金文の製にして飾を施せり通鑑の註に曰く大斧なりと云へり

行レ酒（サケヲヤル） 酌とりす

寶三年に潘美（はんび）に命じて南漢を伐たしむ契丹は部の雄なり阿保機に至て其の黨を開らき而して自から尊とす耶律普に迨（およ）んで而して其の勢ひ盛んなり契丹の號梁貞明の初めに立つ大遼の號復た漢の天福の日に改らたむ阿保機より天祚に至り凡そ七主二百十有五年を歷る夫れ遼は固とより唐の邊夷なり唐の衰ふるに乘じて草竊して而して起り石晉氏之れに縱す且つ幽燕を割きて以て之れに與ふ遂に釁（きん、ひま）を中夏に襲ふ四年に劉州に克ち劉鋹（りうちやう）降り南漢は劉隱が梁の太祖の開平元年に僭して王と號せしより是に至るまで凡そ五十三年にして亡ろびたり）○六年。交趾丁璉。上レ表求二内降一。詔以爲二靜海節度使安南都護一。

講義 開寶六年に交趾（こうち）の丁璉（ていれん）と云ふ者が表文を上りて宋國に附屬せんことを求む太祖が詔して以て靜海節度使安南の都護となせり

○趙普罷レ相。領二河陽三城節度一。普沈毅果斷。以二天下一爲二己任一。嘗欲下除二某人一爲中某官上。上不レ用。明日又奏レ之。上怒。裂二其奏一。普徐拾以歸。補綴以進。上悟。乃可レ之。又有下立レ功當レ遷レ官者上。上素嫌二其人一。不レ與。普力請。上曰。朕固不レ與。奈何。普曰。刑賞天下之刑賞。安得下以二私喜怒一專上レ之。上不レ聽起。普隨レ之。上入レ宮。普立二宮門一不レ去。上卒可レ之。普常設二大甕於閤後一。表疏意不レ可者。投二其中一焚レ之。其多得レ謗以レ此。雷德驤之子又訐レ之。上始疑レ普。先レ是雖下置二參知政事一以副上レ普。不レ宣レ制。不レ押レ班。不レ知レ印。不レ升二政事堂一。至レ是始詔二參政一。升二政事堂一同議レ政。更知レ印押レ班與レ普齊。未レ幾普遂罷。薛居正呂餘慶等。其後繼爲レ相。

講義 趙普が宰相を罷めて河陽即ち河北三城の節度使を領せり趙普は沈毅（音ちんき）とてよくおちつきてつよく又果斷にして物事を決斷するにはやくしてぐづつかぬ性質なり天下中を以て己れが責任役目となして勉強せり嘗て某の人を除して某の役と爲さんと請ひしことありしが太祖は其の言を用

ることなり

以レ嫂呼レ之（モツテソウヲヨブコレヲ） 趙普の妻をばわによめよとよぶ親任のあつきを示すなり

一榻之外（イツタウノホカ）皆他人家（ミナタニンノイヘ）也 狹（せ）まくして長き牀（ゆか）を榻と云ふ今の腰臺の如とし言ふ心は當時自立國が四方にありて未だ平服せず宋の地甚だひろからず故れ土地のせまく小なるに例を他人の家とは四方自立の國々を指さすなり

ひざりし明日趙普が又ぞろ之れを奏聞せしに太祖は大に怒かり立腹して直ちに其の奏文の書面を引き裂（さ）き地上に擲（なげうつ）ちたり趙普はしづ〳〵と其の座を起ち跪（ひざまづく）きてそのきれ〳〵に裂け居る紙を拾ひあつめて以て歸りたり今度はその破れたる紙を補ひ綴（つゞる）り又々太祖に進めたり太祖は始めて氣が付き悟り乃ち之れを可し許せり又群臣の功を立てゝ官に遷つる可き者あり太祖は初めより其の人を嫌ふて官を與へず趙普が力めて許可を下さんことを請ふ太祖の曰く汝その樣に言ふなれども朕れ堅く與へざればその時は如何するやと趙普が曰く凡そ人を刑罰したり人に恩賞を與ふるは天下の人と共にすべき所の刑賞なり安んぞどうしてか私しの喜びや私の怒りを以てこの大切なる刑賞を專らにし勝手にすることが得られやうやと然れども太祖はどうありてもその請ひを可かずして怒り座を起ちたり趙普も座を起ちて太祖の跡（あと）に隨ひつゞきて行きたり太祖はどう〳〵御殿に入りて戸をとざしたり趙普はいつまでも御殿の門に立つて去らざりしかば太祖は已むことを得ずして遂に之れを許可したり趙普は常平生に大なる甕（かめ）を晋が閣（かふ）とて居間の後ろに設け置きて人が太祖に上表し上疏する其中に晋が意によしとせざる者は殘らず其の甕の中に投（な）げ込みて之れを焚き捨てたり趙普が多く官民の謗りを得ることは此の故なり雷德驤が子又た之れを訐（あばく）き出だして太祖に奏聞せしかば太祖も初めて趙普を疑ひたり是より先きに參知政事と云ふ職を置きて趙普に副（そ）へたりと雖とも其制とて詔命を中外に宣下しふれしめさず趙普と座をつらねず文書にも自分の押字せず蓋し押は按なり署指なり班は位次なり朱子の曰く國初主上毎日正殿に御せず然れども升朝官より以上凡そ京に在る皆班を排す宰相事を奏して罷て都て來て班を押す再拜して而して出づ日々此の如し時に歸班官甚だ之れを苦るしみ其後遂に廢し知印せず又知は主なり唐宋の宰相皆な印あり其文に曰く中書門下の印と故に日を分ち印を知るの法あり政事堂にも昇らず是に至り始めて二人の參政に詔して政事堂に昇りて同く政事を評議しかはる〳〵知印押班趙普と齊（ひとし）く同じ樣にせしむ未だ幾ばくも立てぬ内に趙普はとう〳〵役をやめられ遂に出でゝ河陽三城の節度使となる薛居正（せつきよせい）、呂餘慶だちが其の後ひきつゞきて宰相となりたり

○七年。命二曹彬一伐二江南一。初上屢遣レ使。諭二江南國主李煜一入朝。不レ至。乃以二彬及潘美等一討レ之。戒以レ切勿二暴略生民一。務廣二威信一。使二自歸一レ順。不レ須二急擊一。取二匣劍一授レ彬曰。副將而下。不レ用レ命者斬レ之。美以下皆失レ色。自二王全斌平一レ蜀多殺レ人。上毎恨レ之。彬性仁厚。故專任焉。先レ是江南樊若水。擧二進士一不レ第。上書言レ事。不レ報。乃釣二魚采石江上一。以レ繩度二江廣

河東　北漢の國を指さすなり

血食　祖先を祭つるに牛羊豕をすゝむ故に祭饗を血食と云ふなり

成算　籌畫と云ふことにて即ちはかりごとを云ふ

太原　北漢の都する所なり

西北二邊　西は西夏を云ひ北は遼を云ふ

彈丸黒子　その地の小なるを喩へて云

狹。詣闕陳策。上用其言。令荊南造大艦。爲浮梁以濟師。至是用之。不差尺寸。講義（開寶七年に曹彬に命じて江南を伐たしめたり初め太祖がしば〳〵使を遣はして江南の國主李煜（りいく）に諭として宋に入朝せしめしかども李煜は至らずそこで曹彬及び潘（ばん）美等をして之れを討伐せしむ太祖戒しむるに切りに民生人民を暴虐し抄掠することを勿れ務めて威嚴と信義とを旋めて人民をして自から歸順せしめ急に手きびしく撃つことを須（もちゆ）ゐざるともよいと云ふことを以てし匣（はこ）に入りたる所の劍を取りて曹彬に授けて曰ふに副將軍より以下命令を用ひざるものあらばこれを斬れと副將軍の潘美以下皆な顏色を失ひて懼れたり王全斌が蜀を平げて多く人を殺ろせしより太祖毎にいつも〳〵之れを恨み殘念がりたり曹彬が性質は仁にして能く物をあはれみ而して物事に手厚かりしが故に此の擧を以て專ら此れに打ち任かしたり是より先き江南即ち南唐の池州の人樊若水（はんじやくすい）なるものが進士に擧げられて及第せず又上書して事を言ひ報わらざるを以て因て宋に歸するを謀る乃ち魚を釆石江上に釣り小舟に乘りて糸繩を載て南岸につなぎて疾く榜し北岸にいたつて以て江の廣さと狹さとをはかり是に於て闕に至て上書して江南は取るべきのことを言ひ請ふ浮梁（うきはし）をつくりて以て師をわたさんと太祖はその言を用ひ荊南に命令して大なる艦（ふね）を造くり浮（う）き梁（はし）として以て師を濟（わたす）すに平地を行くが如くなり是に至りて樊若水の言を用ふるに一尺一寸のすこしたりとも違がはざりしと云ふ）○八年。曹彬圍金陵急。李煜遣徐鉉入貢。求緩兵。鉉言煜以小事大。如子事父。其說累數百。上曰。爾謂父子爲兩家可乎。鉉不能對還。尋復至奏言。江南無罪。辭氣益厲。上怒。按劍曰。不須多言。江南亦有何罪。但天下一家。臥榻之側。豈容他人鼾睡乎。鉉惶恐而退。金陵受圍。自春徂冬。勢愈窮蹙。彬終欲降之。累遣人告煜曰。某日城必破。宜早爲之所。一日彬忽稱疾。諸將來問。彬曰。彬之疾非藥能愈。諸公若共爲信誓。破城不妄殺一人。則彬病愈矣。諸將皆許諾。焚香約誓。翌日城陷。

ふなり彈丸とは鉄砲の丸なり黒子はほくろのことなり

荊湖　荊南湖北を云ふなり

安南　國は交趾の北にあり唐の懿宗が靜海節度使を安南に設き此に置りしを以て靜海節度使と爲す而して安南を統ぶ

可之　その奏請を許可するなり

力請

下　下は官を還す制書の宣下なり

副皆　は同平章事にて宰相なり參知政事い相

煜出降。南唐亡。捷書至。上泣曰。宇縣分割。民受其禍。攻城之際。必有橫罹鋒鏑者。可哀也。彬還。舟中惟圖籍衣衾。閤門通其榜子曰。奉勅江南幹事回。其不伐如此。講義（開寶八年曹彬が金陵城を圍むこと急なり城主の李煜が徐鉉（じよげん）なるものを遣いし宋に入貢せしめ兵の圍みを緩（ゆるく）くせんことを求む徐鉉が曰へらく李煜が小國を以て大國に事ふることと子が父に事ふるが如しと其の說を數百遍もかさね言ふ太祖の曰く爾は子が父に事ふる如しと云ふが宋の國と金陵と兩家に分かれても可ならんかと徐鉉は對へ返答する能はずして金陵に還へる尋で徐鉉復た來り奏して言へらく江南の地は何にも罪なき故に江南の人命を全ふし且つ兵を緩（ゆるく）くせんことを請ふ其の辭（ことば）なり氣色なりが益々厲（はげ）しかりしかば太祖い怒りて劍のつかに手をかけて曰く彼れ是れと物數を多く言ふことは須ゐず又いらぬことなり江南は亦た何の罪が有らふぞ但だ天下と云ふものは一軒の家も同樣なり故に吾が臥する榻（こしかけ）のかたはらに豈にとうして他人の鼾睡といびきをかきて睡むることを容れ承知せんやと徐鉉は終に惶れ退く金陵城が圍みを受けてより春から冬に及び勢ひ愈々究（きわ）まりちゞまる曹彬は終に之れを降さしめんと思ふこと累（しきり）にして人をして李煜に告げしめて曰ふには某の日は城が必らず破れん故に宜しく早く之れが所置方を考へ其の用意を爲せよとさてある一日曹彬は忽ち病氣と稱せり諸將來りて見舞ひしかば曹彬の曰ふに吾が病氣はとても藥で能く平癒するにあらず諸公若し共々に信實の誓ひを爲して城を破ぶる時に一人もみだりに殺ろさゞれば則ち吾が病氣いすぐに平癒せんと諸將皆な承知して香を焚きて約し誓へりその翌日に城陷り李煜が出でゝ降る南唐は李煜が晉の高祖の天福元年に僭号せしより是に至るまで三世凡べて三十一年にして亡びぬさて此の度の捷書（かちでがみ）が宋に至る太祖泣て曰く宇縣即ち天下が分裂して民はその禍を受けたり城を攻むるの際必らず横に鋒先（はさき）鏑先（かぶらやさき）に罹る者が有らん哀れむ可き事なりと曹彬還る舟の中は惟だ圖籍（とせき）書籍と衣衾ばかり閤門よりその榜子即ち手札を通じて曰ふに勅命を江南の方に承はり事をとゝのへ（立ちかへる）とその自分一人の手柄に伐（ほこる）らざることを此の如し閤門とは禁中の小門なり榜子は即ち奏劄（さつ）なり表にあらず狀にあらざるものを劄子と云ふ宋人用て以て事を奏す榜子の制にして而して其名をあらたむ故に亦た之を榜子とも云ふ）○九年。吳越王錢俶來朝。辭歸。上賜以黃袱。封緘甚固。曰。途中宜密觀。及啓之。皆群臣乞留俶章疏。俶感懼。講義（開寶九年に吳越の王錢俶（せんしゆく）なるもの宋に來り朝せり太祖に辭し暇乞ひして歸るとき太祖が賜ふに黄色の袱（音ふく、ふくさを云ふ）を以てすその封じたること甚だ固たし太祖の曰く吳越へ還へる途中に於て宜しく密かに觀るべし

の副職なり故に云ふ

不押班　と普坐所をつらねざることと斑は位次なり

不知印　文書に自分の押字せぬことなり

與普齊　知印押班なとは趙普と倶にせしむ即ち普の威權をそぐなり

暴畧　暴は手あらきことをすることと畧は掠と通じてかすめとることを云ふ

威信　威嚴を以て逆（ぎやく）とてちし信義を施

（と錢俶之れを啓(ひらく)き見るに及びて豈に圖らんや其に内あるものは宋のあまたの群臣が皆な錢俶を留め置かんと乞ひたる章疏請付なりしかば錢俶は太祖の恩德に感じおそれたり）○上如西京。謁宣祖安陵。講義（太祖が西京に往き父弘殷(こういん)の安陵にある墓に參詣せられたり）○夏四月郊。都民垂白者相謂曰。我輩少經離亂。不圖今日復覩太平天子儀衛。有泣下者。講義（九年の夏四月に太祖が野外で天を祭る所の郊の禮を爲せり都民の垂白とて老人どもが相謂り合ふて曰く吾れ等は若かき時よりしばしば兵亂を經て種々の憂き目を見たり思ひよらず今日復た太平の世の天子の儀仗護衞の禮式を觀んことはと泣(なみだ)を下だしてよろこびたるものありし）○上欲留都洛陽。群臣咸諫。上曰。吾且都長安。晉王叩頭曰。在德不在險。上曰。吾將西遷者。欲據山河之勝。而去冗兵。晉王之言固善。今姑從之。不出百年。天下民力殫矣。乃還大梁。講義（太祖が留りて洛陽の方へ都せんと思はる而かるに群臣が咸(ことごとく)之れを諫めたり太祖の曰く吾れ洛陽より又且(まさ)に長安に都せんとす晉王の趙匡乂(ちやうきやうぎ)が頭を叩(たゝき)て曰く天下は治むる者は德にありて險にはあらず如何ほど都の地が險要でありとも君の德がなければ天下は速かに亡ぶべしと太祖の曰く吾れが將さに西の方長安に據らんとするものは山や河の要害に據りて形勝の地に據て而して冗兵とて無用の兵をはぶき去ちんと思ふてなり太祖汴京を以て四面敵を受くるの地となす故に形勝の地に據て而して冗兵の事なきものを去らんと欲す晉王の云ふことはもとよりよし故に今まず姑らく此の言に從はん然れども此の土地に居りては百年と立たぬ中に天下の人民の力がつきる事であらふとそれより東京の大梁に還りたり）○上崩。在位十七年。改元者三。曰建隆。乾德。開寶。壽五十。上仁孝豁達。有大度。陳橋之變。迫於衆心。洎入京師。市不易肆。嘗一日罷朝。坐便殿。不樂者久之。左右請其故。上曰。爾謂爲天子容易邪。適乘快指揮一事而誤。故不樂耳。嘗宴近臣紫雲樓下。因論及民事。謂宰相曰。

こして衆を救ふ

不辨　分辨せざるを云ふ

不報　可否のさたなきこと

浮梁　舟を以てうきはしとす橋に柱なきを以て浮き梁と曰ふ

不差尺寸　樊若水の言ひし如く一尺一寸の少しくもちがひたがはざるを云ふ

父子爲兩家　父は宋なり子は江南なり徐鉉の言をとり太祖

愚下之民。雖不分菽麥。藩侯不爲撫養。務行苛虐。朕斷不容之。講義（太祖が崩御せり位に在ること十有七年にして年號を改むること三つ建隆、乾德、開寶、と云ふ壽(みとし)五十なり太祖の性質はなさけぶかく能く親に事かへて孝に氣もちがさつぱりとして胸廣ろく大なる度量ありて小事にこせこせとせず陳橋驛に於て衆人の心に推し迫まられ已むを得ずして帝位に登れりその都に入るに及びて市は肆(いちぐら)を易へずしてもとの如くにし決して人民を驚き擾かす樣なことは一もせず人民安堵して業に就けり嘗て帝は一日朝廷へ出づることを罷め便殿即ち居間に坐(すわ)られて何にか心配して樂まざることがやゝ久しかりしかば近侍の臣どもは其の故を尋ね請ひしに太祖の曰く爾だちは天子と爲りて居ることはたやすきものと思ふやわれまた〱愉快のはづみに乘じて一つのある事を決斷し指圖して大に誤れり故にわれ樂まざるなりと又嘗て近侍の臣どもを紫雲樓の下に集め宴會を開けり時に論談が民百姓の事に及べりし時帝は宰相に謂ふて曰く下も〱の民百姓が豆と麥とを辨じ分けぬ樣な愚昧なる人民と雖ども藩鎭の諸侯だちがその民を撫で安んじて養はずして務めて苛虐とてむごき政事を行ひする時は吾れ斷然之を容ゆし赦さずと）開寶初。修京城及大內。營繕畢。上坐寢殿。令洞開諸門。皆端直軒豁。無有壅蔽。因謂左右曰。此如我心。少有邪曲。人皆見之矣。講義（開寶の年の初め京城及び御所を營み修復し治め畢(おは)れり時に太祖が寢殿(解上に出づ)に坐して數多ある門を一々とあけはなち皆な正しく曲がれる所なり端直軒豁として正しくその構へが高くあきらかなり因りて上は左右の者に謂ふて曰く此れ我が心の如きなり何んとなれば若し少しでもゆがみ曲がれることがあれば人々が皆な之れに目を付け見る故にと）平蜀之後。嘗擇其兵百餘。爲川班殿直。郊禮行賞。以御馬直扈從。特增給。川班擊登聞鼓。援例陳乞。上怒曰。朕之所與。卽爲恩澤。豈有例邪。斬其妄訴者四十餘人。餘悉配隸諸軍。遂廢其直。講義（蜀の孟昶を平げ定めて後ち嘗てその孟昶の兵百餘人最も猛勇にして精英なるものを擇びて川班殿直の衞兵となすたま〱天を南郊に祭るの禮式が畢はりて後賞與を行ひ與へるに御馬直等ハ車駕に扈(こ)し從ひたるの慰勞として別段に給料を增し與へたり而かるに川班の衞兵等は賞なきを以て登聞鼓(音どうぶん之、解上に出づ)を擊ちて以前に給料を增せし例(ためし)を援(ひく)きとりて陳べ乞へり太祖が怒りて曰く朕が汝等に與へたる所の給料は皆な恩澤を以て與ふるなり夫れに猶ほ恩澤にそむき前例を援きて以て增給を乞ふ豈に

かゞ曰く父子たるものが家をわけ各々ひとり立ちしてよろしと思ふやとなじることとなり

不須多言　むだ言(ごと)をはくなと云ふことなり

容他人之鼾睡乎

天下　天下は一家なればわが臥榻のわきに他人のほしひまゝに臥(ふ)すをゆるさず鼾はいびきのこと睡はねむることなり

宇縣分割　宇は方なり上下四方を云ふ

（前例なるものあらんやと其のみだりに訴ふる者四十餘人を罰し斬りその餘は悉ごとく諸軍にくばり付けて終に川班殿直をやめたり）內臣有逮事後唐者。上問。莊宗英武定天下。享國不久何也。其人言其故。上撫髀嘆曰。二十年夾河戰爭。取得天下。不能用軍法約束。誠爲兒戲。朕今撫養士卒。不吝爵賞。苟犯吾法。惟有劍耳。五代以來。藩鎭强盛。上以漸削之。罷諸節鎭。專用儒臣。分理郡國。以革節鎭之橫。又置諸州通判。以分刺史之權。自是諸侯勢輕。禍難不作。專務愛養民力。罷郤貢獻。禁進羨餘。常衣澣濯之衣。寢殿靑布緣葦簾。晩節好讀書。嘗歎曰。堯舜之世。四凶之罪。止於投竄。何近代法網之密耶。

補義　宦官の李承進なる者は後唐の莊宗に事へ居りたるなり太祖が之れに問ふて曰く唐の莊宗は英邁武勇にして天下を平らげ定む然かるに國を享けつゞき守ることが久しからざりしはそも如何なるわけがあるてゞあるかと承進が對へて莊宗は天下を平らげて後驕りを極め日々に俳優(はいゆう)ゞれと遊び戯はむれ政事を顧みずなどの天下を亡ぼし失ふ委しき所以を奏聞せしかば太祖はいつたと手を以て自分の髀(ひ)即ちもゝをなで拊つて歎息して曰く二十年の間だも河をさしはさみて梁の國と戰爭し天下を取り得て平法を用ひ約束すること能はず誠に小兒の戯れ事も同じことなりわれ今士卒を撫て養ふて功勞ある者には爵位を賜ひ又褒賞を與たへことを少しも吝まざるなり又苟しくも少しでも吾が法律を犯かす者があるならばたゞ劍を以て之れを罪し殺すことあるのみ五代よりこのかた藩鎭の諸侯が勢ひ强く盛んなり故に太祖は次第〳〵にだん〳〵と其の勢を削づり弱はめ諸の節度使や鎭撫使をやめて專ら儒臣即ち學者を用ひ郡や國を分かち理(おさ)め以て藩鎭のほしひまゝに橫しまなる政事を改め更へ又た諸州に通判と云ふ役を置き以て刺史(太守)の威勢權力を分かちそがしむ是より諸侯の勢ひはだん〳〵と弱く且つ輕ろくして禍や難儀か起てらず專ら人民の力を愛し養ふことを務め勵げみ又た貢つぎ獻上する物をやめしりぞけ又羨餘(音せんよ、)とて年貢外の雜進雜稅を進め獻ずることを禁じやめたり帝は平常は洗ら(ふ)濯ぎたる衣服を衣(き)て寢殿には靑色の布を以て蘆簾(ろす)とておしすだれの緣(ふち)を取れる者を用ひたり晩年に至り書を讀むことをすき好めり嘗てなげき歎息して曰く昔しの唐堯や虞

なり縣は赤縣にて天下と云ふか如し分割は諸國各立すること

閤門　大鴻臚寺を閤門と曰ふなり

錢俶感懼　俶既にかへる事を謝る毎に命して坐を東偏にし從て坐す左右につげて曰く西北には神京ありと天威顏を違へざること咫尺假豈に敢て寧居せんや貢を修むることに必らず廷に列して香を焚き而して後之れを遣る

郊　天を南郊に祭つる

（舜の世の四凶の罪罰はたゞ遠地に追ひ放たるゝのみなりしか而かるに近代に至りては何ぞ枝に枝を生じ葉に葉を生じたる如く法律かしげくこまかにしてきびしきやと）削平諸國。必招之。不至。而後用兵。及其既降。皆不加戮。禮而存之。終其世。嘗幸武成王廟。觀從祀。有白起。指曰。起殺已降。不武。命去之。周恭帝封鄭王。後遷于房州。上以辛文悅長者。俾爲房州守。恭帝先上二年始卒。上發哀輟朝十日。還葬如禮。上初入京時。周韓通死節。追贈優厚。王彥昇棄命專殺。終身不授節鉞。受禪之際。倉卒未有恭帝禪制。學士陶穀出諸懷中。上薄之。穀久在翰林。頗怨望。上曰。吾聞學士草制。依樣畫葫蘆耳。何勞之有。卒不登之政府。內外官。有時望者。籍記姓名。以待不次選用。稱職者。多久任不遷。定銓選法。嚴舉主連坐法。嚴贓吏法。有寘極刑者。懲五代藩鎭苛征重斂之弊。寬商征。寬麴鹽酒禁。倉吏多入民租者。或棄市。五代多以武人爲牧守。率意用刑。上懲之。故入者必抵罪。定大辟詳覆法。定折杖法。頒新刑統。定差役法。作版籍戶帖戶鈔。長吏有度民田不實者。或杖流之。諸州旱蝗。賑饑蠲租。惟恐不及。舉德行孝悌。親策制科。舉人放進士榜。嚴覆試法。御殿親

の大禮あり委しくは周の條下に解せり

垂白（スイハク）白髮をたれたる老人のこと

西京（サイキヨウ）宋洛陽を以て西京となす汴梁を東京となす

安陵（アンリヨウ）太祖の父弘殷廟を宣祖と号す安陵に葬る

豁達（クワツタツ）氣もちのさらりとさつぱりとして細些のことに拘かわらず

端直軒豁（タンチヨクケンクワツ）正しくして其の構へが高くあきらかなること

試進士。試書判拔萃。數幸國子監。詔天下求遺書。初用和峴所定雅樂。初行劉温叟所上開寶通禮二百卷。命宰執日記時政。送史館。撰日曆。制度典章。彬彬有條理。太弟晉王立。是爲太宗皇帝。

講義 太祖は諸國を削(けづる)り平げんと思ふ時は必らず先づ豫かじめその國主を召し招きて來り朝せしむそれに若し至らず來朝せざれば其の後で初めて兵を用ひ征伐せり又その力に盡きて既に降參するに及んでは妄りに誅したり戮する儀なことをなさずして禮義を備へ存して之れを憐れみ存して其身一生を安んじ終らしむ嘗て武成王即ち太公望の廟に行幸せられし時從祀として太公望と共にあはせ祭祀せる者を觀るに白起と云へる古の大將も其の中にあり太祖か之れを指して曰く白起は已に降れる即ち趙の降卒四十万人を坑殺せり是れ白起の降卒を殺ろすは他日の叛亂をおそれてであり威武を以て之れを敬服せしむる力なし故に武にあらずとして命じて之れを除ごき去らしむ周の恭帝は鄭王に封せられ後ち房州に遷れり太祖は辛文悅(しんぶんえつ)か寬大にして長者即ち篤實なるを知る故に房州の太守と爲さしむ恭帝は太祖に先だつこと二年にして卒去せり太祖は哀しみを發し喪(も)をつとめ朝に出でゝ政事を聞くことを輟(や)むること十日なり房州より京に遷り葬るに天子の禮式の如く行へり太祖か初じめ陳橋驛から京師に回へり入るの時に周の將韓通なるもの衆を帥ひて恭帝を衛り禦ぐ都指揮使王彦昇か之れを斬れり即ち節に死せるなり故に追贈せらるゝこと極はめて手厚かりし又王彦昇なるものは諸將と誓ひし所の約を破ぶり命令をすてゝ妄りに殺斬を專らにせり終に太祖之れを惡み身を終るまで節鉞(解上に出づ)を授づけて節度使と爲さず太祖か周の禪を受けらるゝの時に倉卒即ちにはかのことにて未だ周の恭帝より天子の位を禪るの詔命書あらず而かるに學士の陶穀(とうこく)と云ふ者か之れを懷(ふところ)の中より取り出だせり故に太祖は其恭帝に不忠なるを惡みて之れを疎(うと)んじ陶穀久しく翰林院にありて疎んぜられ官位の進み昇らざるを恨み怨めり太祖の曰く吾れ嘗て聞く翰林學士の草制即ち書付するのは樣により手本に習らひ葫蘆(ころ、へうたんの如きもの)を畫くか如きのみにて何んの難儀苦勞か之れ有らんやと終に之れを政府に擧げ用ひ登さず內官外官の時の人望ある者は姓名を抑かへ記るして以て役人の欠けたる時に不次の選用を待てり官員の中には其職分にたへ稱(かなふ)ものは長く久しく其の職務を打ち任かせて他の職に遷らざること多し銓選の法(解上に出づ)を定めて擧主即ち人才をすゝめ擧ぐる人か若しも不適人の人をすゝめあぐるときはその身も罪に坐し連らねられて官祿を奪はるゝの法を嚴重にし賄賂(まいない)や不法の財をしぼり取る役人の法を嚴密にし若しも之れを犯かし反すものあるときは重酷なる刑罰に寘(おく)き處する者あり五代の世藩鎭か商賈の税をきびしく取り上げ年貢を重おもく歛さめ納れさせなどしたる惡弊に懲り商賈の税を輕ろく且つ寬るめ麴糱酒の製作を禁せられおりたるを寬るめ製作せしむ倉廩の吏か民の租税を多く取り入るゝ者は或は市中に於て之れを斬り棄つ五代の世多く武人を以て牧守となせり故に吾か意のまゝに刑罰を用ひたり太祖はこれに懲り若しもわざと人を罪に陷し入れる者は必らず罪に抵(いた)る又大辟とて死罪を再三吟味し調らべ不法寃獄のなき所の法を定め折杖の法を定め罪の輕ろきは之れに處す又新刑統とて新たに作りたる法律書を發行し頒ち差役とて人を差發して役を賦するの法を定め人民の田戸田産を調らべたる帳面又は戸券の類を作れり長吏即ちけんしらべの役人が人民の田畝を度りて間尺をのびちゞめして上下を欺ざむき眞ならざることをする者は或は之れを罪の輕きものは杖(むちうつ)ち重きものは流刑に處す又諸國に旱(ひでり)や蝗(いなむし)等の災害饑饉があるときは庫を發して饑(うゆ)るものを賑はし租税を蠲(のぞく)けり太祖は斯くの如くしてひたすら人民を安んじ太平を保たんことをこれ務とめて惟だその行き屆かざることのみ恐憂へり又德行があり父母に孝行に兄弟に友悌なるものをわけて制科即ち賢良の科を親から策す擧人即ち考官が進士の及第等級等を書き付けたる高札を放(置くこと)す覆試(音ふくし、)即ち再吟味の法を嚴重にし殿に出御せられ進士を親から試み書判の拔萃(解上にあり)を試みてしば〳〵國子監即ち大學校に幸きして天下に詔して遺書とてうづもれて世上に出でざる隱君子の著作せられし書物を求め探らしむ初め和峴(わけん)と云ふ人が定むるところの雅樂を用ひ初めて劉温叟(りうをんそう)が上つる所の開寶通禮(解上にあり)二百卷を行ふ宰相執政に命じて時の政治を記し歷史館に送り日曆として日次日記を撰ばしむ制度(おきて)典章、儀式)が彬々(音ひん〳〵、盛なる貌)として盛に條理即ちすぢみちが正しくある太弟の晉王が繼ぎて位に即く是れが太宗皇帝となす

川班殿直（センパンデンチヨク）蜀の士卒の精者を以て殿に直す故に川班殿直と曰ふ給は御馬直等と等とし

登聞鼓（トウブンコ）隋の制凡て奏聞訴訟する者は鼓撾ちて其事を通す有司狀を錄して之を奏す

配隸（ハイレイ）川班を以て分て諸軍に隸す

夾河戰（ハサミカハヲセン）晉河をへだてゝ梁と戰ふ

四凶（シキヤウ）共工、驩兜（くわんとう）、三苗、鯀の四を云ふ

投竄（トウザン）流罪なり

（太宗皇帝）初名匡乂。太祖長弟也。太祖入京城。匡乂首請號令諸將戢士卒。仍自於馬前戒摽掠。太祖受禪。乃改名光義。尹開封。同平章事。封晉王。建隆二年。昭憲杜太后。臨崩謂太祖曰。汝知所以得天下者乎。太祖曰。皆祖考與太后之餘慶。太后笑曰。不然。正由柴氏使幼兒主天下耳。汝萬歲後。當傳位晉王。晉王傳秦王。秦王以傳德昭。國有長君。社稷之福也。太祖曰。謹受教。太后呼趙普曰。趙書記共記吾言。不可違。因命普於榻前爲誓

武成王 唐の肅宗太公望を追附して武成王と爲す

死節 周初の在京巡檢韓通衆を帥て衛禦す部指揮使王彥昇之を殺せり

節鉞 節旄斧鉞凡そ節度使となる者には必ず之れを授く

銓選法 銓ハ衡なり又量なり次也度也階級か上る所に從ふ初め京官七品以下猶銓に屬す自後京官以上選なし中書門下特に除して使府辟の召を許さず

書。普署紙尾曰。臣普記。藏之金匱。太祖友愛篤至。晉王嘗寢疾。灼艾。太祖亦自灸以分其痛。嘗曰。晉王龍行虎步。且生時有異。他日必作太平天子。福德非吾所能及也。太祖幸蜀。有布衣張齊賢。獻十策。召問賜食。且啗。且對。太祖善其某策。齊賢固稱餘策皆善。太祖怒斥便出。既還語晉王曰。吾幸西都。得一張齊賢。吾不欲用之。他日留與汝作宰相。蓋傳位之定久矣。太祖不豫。后遣王繼恩召皇子德芳。繼恩徑召晉王。王至宮中。散遣左右。所言皆不可得聞。但遙見燭影下。王有離席之狀。既而上引柱斧戳地。大聲曰。好爲之。遂崩。后見晉王。愕然曰。吾母子之命。皆託官家。王曰。共保富貴。無憂也。王即位。更名炅。秦王廷美尹開封。改封齊王。德昭封武功郡王。**講義**太宗皇帝は初めの名を匡乂(きようがい)と曰ふ太祖の長弟なり太祖が京城に入るの時匡乂は首として第一番に諸將を號令し士卒を戢(おさむ)めとりまとめんと請へり仍(よ)りて太祖ハ自から馬の前に於て亂暴をし威權を擅ひまゝにして民の物をかすめとることを戒しめ約せり太祖は周の恭帝の禪を受けたりそこで太宗の名を光義と改ため開封に尹として同平章事たり晉王に封せらる建隆二年昭憲杜太后崩せらるゝに臨んで太祖に謂て曰く汝ハ天下を得たる所以を知れりやと太祖の曰く皆な此れは先祖と太后との餘慶即ちおかげに因りて得たるなりと太后笑ふて曰く然かるにあらずこれは正さに周の世宗が幼けなき兒をして天下に主たらしむるに由るばかりなり故に汝ち万歳も生き後は位は當さに弟の晉王即ち光義に傳へ光義は之れを秦王の廷美に禪り廷美は之れを德昭に傳ふべし國に長年の君あるは社稷即ち國家の大なる福ひ仕合なりと太祖の曰く謹んで御差圖通り受け守らんと太后が又た宰相の趙普を呼びて曰く趙普記よ吾が言ひ遺こしの事を心に記し覺ねて決して違ふ可からずと因りて普に命して榻前に於て誓ひの書を作らせ書かせたり普は紙の終りに臣の普が記すと書き置きて之れを金作りの匱(はこ)に入れ藏む太祖ハ弟を愛すること篤く至る晉王が或る時病氣に罹ねて艾(よもぎ)を灼(やく)きて炙治(きうぢ)せり太祖は亦た自分に炙し以て晉王の痛みを分かち共に苦む太祖が嘗て曰く晉王は行けば龍の如とく步めば虎の如くして且又生るゝの時に赤光天にあがり火の如くありて異なることあり他日のちの日には必らず太平の世の天子とならん晉王の福德は吾が中々及ぶ所ではないと太祖が蜀の地に行幸せり時に張齊賢と云ふ人が十ケ條の策を以て献上せりそこで太祖はこれを召し問ふて食を賜へり賢且つ啗(くらふ)ひ且つ對ふ太祖がその中の或る策を善とせり齊賢が固たく外かの策も皆な善なりと稱せり太祖は其の無禮を怒りて之れを追ひしりぞけたり已にして京城に還へり晉王に語りて曰く吾れ西都に幸行して一つの張齊賢なる者を得たりけれとも吾れ之れに爵位を加へ與ふることを好まず他日留めて汝に與へて宰相となし輔けしめんと蓋し太祖は晉王に位を傳ふること定まれること已に久し太祖が病氣大漸なりしかは宋皇后は宦官の王繼恩を遣はしめ皇子の德芳を召さしむ繼恩はわざとすぐさま晉王を召し招ねく晉王が宮中に至る太祖左右を散し遣はし屛りぞけて後事を託せり然かれとも皆な聞くことを得ず但た遙かに燭(ともしび)の下を見るに晉王が席を離れ遜り避くるの樣子あり既にして太祖は側にありし柱斧即大なる斧を引きて地を戳(うつ)ち大聲を發して曰く天下を治むることを好く爲せよと言終りて遂に崩御せられたり時に皇后は德芳を召したる故に宮中に居るのは德芳なりと思ひしに宮中より出で來れるを見れば德芳にあらずして晉王なり故に晉王を見て愕然として驚きて曰く吾が親子の生命は皆な官家に委かせゆだぬなりと晉王の曰く共に富貴を保たん憂ふることなかれと晉王が位に即き名を炅(こう)と改む秦王の廷美は開封に奉行たりしが改めて齊王に封せらる

德昭は武功郡王に封せらる

落脳悉く銓に由りて授づく

商征 商賈の征税

寛麴鹽

酒禁 漢の法に私麴を犯す者は棄市せらる周祖始令す五斤に至る者は死す是に至て詔して私麴十五斤を犯し私酒を以て城に入る三斗に至る者は始めて極刑に處す其の餘は罪を論ずる差あり又前朝鹽法太だ峻を以て定て官鹽を以て禁地に闌入し貿易すること十五斤に至る私に煮ること三斤に至る者は死す鈔總を以て

○遣使分行州縣。廉察官吏。第其優劣。罷軟不勝任。惰慢不親事。免官。**講義**使を遣はし州縣を分ち行(めぐ)りてその土地の官吏役人を廉察即ちたゞししらべて其の優れたると劣れるとに因りて次第せしむ又身体のよわくして其の職任に勝(た)へこらゆる能はざるもの又は品行のみだらにして惰まけ怠こたりてその事務や役向を自分にせざるものなどハ皆な役を罷め免せり○贓吏配者。遇赦不敘。**講義**贓吏の配流せられし者は赦に遇ふと雖とも官位に敘し用ひず蓋し賄(まいない)を受くるの罪ハ至つて重ければ罪を赦されて歸ると雖とも亦官に登け用ひず○大理評事陳舜封。奏事口捷。擧止類倡優。問誰氏子。對以父爲伶官。上曰。汝眞雜類。豈得任清望官。改授殿直。**講義**大理評事即ち折杖詳刑を掌どる役の陳舜封が奏聞するに物を言ふこと口捷(くちばや)なり而し優ぐれたる威容なく何んとなくその擧動(ふるまひ)が倡優とて俗に云ふ能狂言の役者に似たり故に帝は問ふ汝は誰の子なるぞやと舜封對ふるに我が父は伶官即ち樂工なるを以てす

城に入ること三十斤以上は奏裁す乾德四年詔して之を究ふす罪死に至る者は奏裁す

大辟詳覆法 大辟は死罪なり詳覆は不法冤獄のなき樣に幾度もしらべたゞすこと

折杖 杖は罪人をたゝくしもと折は代なり小なきを以て多きに代ゆるの義

差役 令佐に詔して差役を撿案せしむ不平あれば民に許して自ら糺糾す京の百司を擧げ吏を補す疑役せず乃ら聽す

帝の曰く汝は賊に雜の類とて小者（こもの）なり豈に大理評事と云ふ樣な清要にして聲望のある官に任んず可んやと改めて殿直を授たり

○陳洪進來朝。獻漳泉二州。

講義 陳洪進と云ふものか來り朝す陳洪進は初め泉州の衛將となり後ちに其地に據る故に漳州泉州の二州を宋に獻じ上れり

○吳越王錢俶來朝。遂獻其地。

講義 吳越王の錢俶が來り朝し其の土地を宋に獻上せり帝は乃ち俶を封じて淮南王となせり右吳越錢鏐が梁の太祖の開平元年に兩浙を據有してより是に至りて七世凡て七十四年

○命潘美伐北漢。尋親征圍太原。劉繼元出降。北漢亡。

講義 太宗潘美に命じて北漢を伐たしむ潘美等屢々漢兵を敗り進んで長連城を築き以て太原を圍む矢石交々下ること雨の如し漢の外援至らず餉道絕つ大宗帝至り督戰すること益々急なり帝手詔して降を諭とす漢主劉繼元遂に降れり之れを特進撿校太師右衛上將軍と爲し彭城郡公に封ず右北漢の劉崇周の廣順元年に僭號してより是に至りて四世凡べて二十九年にして亡びたり

○詔征契丹。易州涿州來降。上攻幽州。踰旬不下。遂班師。郡王德昭從征幽州。軍中嘗夜驚。不知上所在。有謀立德昭者。上聞不悅。及歸以北征不利。不行平北漢之賞。德昭言之。上大怒曰。待汝自爲之賞未晚也。德昭退而自刎。後二年。岐王德芳卒。自太祖二子相繼死。齊王廷美不自安。他日上嘗以傳國意訪趙普。普曰。太祖已誤。陛下豈容再誤邪。於是普復入相。廷美遂得罪。降涪陵縣公。普復使知開封府李符。告其怨望。南還房州。尋殺之。普恐李符漏言。因弭德超譖曹彬敗。以符薦德超。貶符春州卒。

講義 詔して契丹を征伐す易州涿州の二州が來り降參せり上幽州を攻むる一旬を踰ねたれども下り降參せず遂に師を引き班へす此の役に郡王の德昭が帝に從ふて幽を征し伐てり軍中嘗て驚ろく帝の在る所を知らず故に衆德昭を立てゝ帝と爲さんことを謀るものあり後ち帝其の謀を聞て悅（よろ）こば

版籍 人民の戸口田產帳なり官に納さむ

戸帖 戸口田產の高を記し家に納さむ

戸鈔 戸券（こけん）の類なり

制科 周賢良經學吏理三科を設く是に至て上親ら賢良の科を策せり

覆試 再び試んみ

放進士

榜 榜は考官なり進士の等級を書付て上るなり放は榜をあらはすの義なり

拔萃 唐の士を取る

ず帝の京師に還へるに及んで北の方契丹を征するの利あらざるを以て久しく北漢を平ぐるの賞與を行はず德昭言ふて之れを行はんと請ふ帝大に怒りて曰く汝が帝と爲たる時之れを行ひ與ふるも賞罰未だ晩からざるなりと德昭退ひて而して自から刎（くびはぬ）て死せり帝之れを聞き大に驚き悔ひて往て其屍を抱きて哭して曰く癡兒何ぞ此に至る耶と魏王と追封せり後ち二年に又岐王の德芳が卒せり太祖の二子が間もなく相繼ぎて卒去せしかば齊王の廷美も亦自から安んずる能はず他日太宗嘗て國を傳ふるの意を以て趙普に問へり普對て曰く太祖已に誤れり何んとなればその子に傳へずして弟に傳ふ故に陛下豈に復た誤る可けんや宜しくその子に傳ふ可しと是に於て普復た入りて宰相となれり廷美遂に罪を得て涪陵縣公に降貶せらる普復た知開封府李符をして廷美の怨望を造げしめ以て遷都に從し他日の變を防がんと請へり終に南の方房州に遷し尋て人をして廷美を殺さしむ而かるに普は李符をして秘密を行はしめたるを以て其の事を漏さんを恐る故に彌德超が曹彬を譖言したるの罪に坐せしめよりて以て李符を貶して春州に徙せり德超なるものは嘗て李符の爲めに薦（すゝ）められたる人なり故に符が不適任の者をすゝめたる罪を責ひ付けて貶せしなり

○种放隱于終南山。結草爲廬。以講習爲務。後進多從之學。上聞召之。辭以母老。上高其節。厚賜錢帛旌之。

講義 种放と云ふ人は武功縣の終南山に隱くれ居り草を結んで廬（いほり）と爲し書を講じ習はしむるを以て務めとして樂めり又後進即ち弟子が多く故に從ふて學び習らへり帝之を聞き召し招けども辭するに母の老ひたるを以てして至らず帝その節操を高く淸きとして厚く金錢や絹布を賜ふて其姓名をば旌（あらはす）せり

○呂蒙正爲參政。有朝士。指之曰。此子亦參政邪。蒙正佯不聞。同列欲詰其姓名。蒙正止之曰。若一知名姓。即終身不忘。不如無知也。○召華山陳摶。賜號希夷先生。

講義 呂蒙正が參政の役となる初めて朝堂に入る朝士あり之を見て指さし嘲（あざ）けりて曰く此の子も亦た參政かと才識の足らざるを嘲けり侮どれりそれに蒙正は佯（いつは）りて聞かざるまねして居る而かるに蒙正が同列の者等は之れを無禮とし平かなる能はずして其姓名を詰何せんとす蒙正之を止めて曰く若し一たび彼れの姓名を詰じり知るときは則ち身を終るまで一生之れを忘れずして仇と思ふなり故に知ることなきに如かざるなりと時人其雅量あるを稱せり○華山の陳摶（ちんたん）を招き召す而して號を希夷先生と賜へり陳摶字は圖南亳州眞源の人なり華山に隱れて道を修さむ周の世宗召し見る飛昇黃白の術を問ふ對へて曰く陛下天子となり當さに天下を治むるを以て務めと爲すべし安んぞ此れを用ひ爲さんと乃ち還りて山に還らしむ嘗て白騾に乘りて汴に入らんと欲す中途にして太祖の登極を聞き大に笑ふて騾より墜ちて曰く天下此より定らんと太宗の時に入朝せり帝入

に必す身言書判拔萃を驗す其後異なるものを拔て之を取る孟子に云く其萃を拔く

雅樂　文德武功の二舞を登歌す

開寶通禮　唐開元の禮を改め開寶通禮となす

布衣　未だ爵祿を蒙らざる者を布衣と云ふ

十策　幷汾を下す民を富す封建孝を崇ぶ賢を擧ぐ大學籍田良吏を選ぶ姦を懲らし刑を恤ふ

王離席之

を選ばし玄默修養の道を問ふ摶が曰く摶は山野の人時に於て用なし亦神仙黄白の事吐納養生の理を知らず方術の傳ふ可きあるにあらず假令白日天に冲するとも亦た何ぞ世に益あらん世に君臣心を同ふし化を興こし治を致たすの秋（とき）勤行修煉此に出づるなし華山に還る尋て卒す

○開寶寺塔成。前後八年。所費億萬。田錫奏曰。衆以爲金碧熒煌。臣以爲塗膏釁血。上不怒。**講義**開寶寺の塔成る高さ三百六十尺歳月を閲する前後八ヶ年にして成る費用が億万もかゝれり知制誥の田錫奏して曰く衆人は黄金の壁や玉石の光澤ある色々の文彩が熒々としてひか鮮ざやかなると雖ども臣は以爲らく民の膏（あぶら）を絞（しぼる）り之れを塗り附け百姓の血を濺（そゝぐ）ぎて之れを釁（ちぬる）れりと帝之を聞きて怒からざりし

○先是西夏李光叡卒。子繼筠嗣。又卒。弟繼捧嗣。繼捧來朝。獻四州地。其弟繼遷叛去。數入寇邊。**講義**是より先きに西夏の李光叡卒すその子繼筠が嗣きて立つ又た卒す李光叡が弟の繼捧が繼ぎて立つ繼捧來り朝す四州卽ち夏（か）銀（ぎん）綏（すい）宥（ゆう）の地を獻せり繼捧が弟の繼遷が叛き去り數々邊に寇す

○契丹主明記殂。號景宗。子隆緒立。年十二。母蕭氏專其國政。○上命曹彬等。分道伐契丹。彬兵大敗於岐溝關。詔班師。契丹自是連年入寇。後女眞以契丹隔其朝貢之路。請擊之。不許。女眞遂臣於契丹。**講義**契丹の主明記殂す景宗と號せり子の隆緒が立てり年十二母の蕭氏が其國政を專らにせり○帝曹彬等に命じて道を分かちて契丹を征伐せしむ而かるに彬が兵大に岐溝關に於て敗績せり太宗はその報を聞くや頓足して惑ひ急に詔して師を班さしむ契丹は是より連年入寇せり後ち女眞が契丹が女眞の宋へ朝貢するの路を隔だて邪魔（じやま）するを以て契丹を擊たんことを宋に請ひ求めけれども宋許るさず故に女眞が遂に契丹に降り臣となりたり

○上賜李繼捧姓名趙保忠。授節度使。命管夏銀綏宥靜五州。使圖繼遷。繼遷降。賜姓名趙保吉。保吉復寇邊。命李繼隆討之。保忠言。已與保吉解仇。乞罷兵。上怒。命繼隆先移

狀　太祖が位を禪り與れるの恩を謝し之れを辭退し避けのがるゝの狀を云ふ

官家　晉王を稱す三王は天下を家にし五帝は天下を官にすと云ふより天子の稱となれるなり

涪陵　涪陵縣は涪州に屬せり

釁血　民の財を聚斂するは民のあぶらや血を以て塗りつくるが如しと云ふことなり

賦外之科　租賦の外別に科徵あり

兵討之。繼隆入夏州。檻送保忠於闕下。保吉尋亦請降。而復叛。命繼隆討之。**講義**帝李繼捧に姓名を趙保忠と賜ひ定難節度使を授けたり命じて夏州銀州綏州宥州靜州の五州を管保せしむ而して繼遷を討たしむ繼遷も亦降參す姓名を趙保吉と賜ふ保吉亦た邊鄙に寇せり李繼隆に命じて之れを討たしむ保忠言はく己に保吉と仇を解けり乞ふ兵を罷めんと帝怒りて先づ繼隆をして兵を移して保忠を討たしむ繼隆夏州に入り保忠をとらへ闕下に檻送せり保吉も亦尋で降參せんと請ふ而して復た再び叛き去る故に繼隆に命じて保吉を討たしむ

○蜀自既平之後。府庫之物。悉載歸內府。土狹民稠。有司不無賦外之科。王小波起爲盜。小波死。李順繼之。攻陷成都。僭號蜀王。上命王繼恩討擒之。蜀平。**講義**蜀が既に平ぎしより後ち府庫の物悉く載せて內府に歸す土地狹まく人民稠（しげ）く有司が賦外の科なきにあらず故に是より先きに蜀人の王小波亂を爲し靑州を攻む彭山を掠め縣令齊元振の腹をさき之に錢を以てし其の錢を貪ぼりて厭くなきを惡むなり未だ幾ばくならずして小波死せり其の黨の李順なるもの之れに繼ぎ成都を陷れて僭して大蜀王と號せり帝繼恩に命じて討て李順を擒にす蜀の亂平定に歸す

○交趾丁連卒。大校黎桓。因其宗族而專其國。上初命討之。無功。已而桓奉貢。竟以桓爲交趾郡王。**講義**交趾の丁連が死せり大校の黎桓が其の宗を因（とらふ）へて而してその國を專らにせり帝初め命じて之を討たしむ功なし已にして桓奉貢せり竟に桓を以て交趾の郡王となす

○時霖潦過度。上曰。朕於刑獄。盡心。安得積陰之譴。寇準越班對言。某州局吏。侵官錢若干。於法爲小過。陛下殺之。王淮參政王沔之弟。盜錢數百萬。於法爲大憝。陛下以沔故。務相容蔽。如此而曰刑獄盡心。如之何無積陰之譴。上卽日誅淮。罷沔。俄而雨止。**講義**時に霖雨とて長が雨が降りつゞきて度を過ぎたり（凡そ三日以往を霖と爲す度を過ぐとは三日以上降るを云ふ潦とて水を溜するを云ふ）帝の曰く朕刑

黎桓　大將校黎は姓桓は名なり

霖潦　久雨を霖と云ふ原水なきを潦と云ふ

大憝　大惡を云ふ又は元惡も同じ

太平興國　四字の年號

再罷　案ずるに普太祖の乾德二年を以て入りて相たり開寶六年に至りて罷めらる太宗の太平興國六年に復た入りて相たり八年に至りて又た罷む端拱元年に再び入る淳化元年に至る

獄に於ける最も心を尽せり安んぞ積陰（音せきいん、陛上に出づ）の責めを得たると寇準（こうじゆん）なる者班（はん）即ち列坐を越へて對へて曰く栄州の局吏官錢を侵かすこと若干（そくばく）法に於て其罪小なるものなり然かるに陛下は之れを殺せり又王淮は參政の役の王沔の弟なり錢數百万を盜めり法に於て大憝（だいたい）即ち大惡なり然かるに陛下沔が故を以て務めて相れ容れ敵ひかくせり此の如くにして刑獄に力を尽すと曰ふ之れを如何んぞ積陰の責なからんやと帝即日に淮を誅して沔を罷む俄かにして雨止みたり

上崩。在位二十二年。改元者五。曰太平興國。曰雍熙。端拱。淳化。至道。壽五十九。薛居正。沈倫。趙普。宋琪。李昉。呂蒙正。張齊賢。呂端等。相繼爲相。普凡再入再罷。普薨。普初以吏道聞。寡學術。太祖嘗勸以讀書。普遂手不釋卷。每朝有大議。輒闔戸自啓一篋。取一書閲之。及卒家人視其篋。則論語也。嘗謂上曰。臣有論語一部。以半部佐太祖定天下。以半部佐陛下致太平。蒙正晩出。嘗與普並相。普甚推之。蒙正嘗置册子夾袋中。疏四方人才姓名。以待選用。初太祖嘗以張齊賢屬上。至齊賢擧進士。上欲置之上第。而有司第其名在下。乃詔一榜特與通判。卒至大用。呂端爲相。人謂呂相作事糊塗。上知之曰。端小事糊塗。大事不糊塗。自上即位以來。以小人爲相者。盧多遜一人而已。太子立。是爲眞宗皇帝。

講義　帝崩御せり在位二十二年改元するもの五つ太平興國、雍熙、端拱、淳化、至道と曰ふ壽五十九歲なり薛居正、沈倫、趙普、宋琪、李昉、呂蒙正、張齊賢、呂端等相ひ繼ぎて宰相となれり趙普は凡べて再たび入りて再たび罷めらる普で薨せり帝之れを聞きて愕悼し近臣に謂て曰く普能く大事を斷んじ心を國家に尽

前後に朝に歷事し凡て三十餘年

糊塗　俗に云ふねばづよきことにて物事に明らかにはつきりせぬこと

積陰之譴　刑罰は陰を主とするなり譴は天罰を云ふなり積陰雨を生ずと乃ち天譴なり

廝　音は斯薪を折るを廝と云ふ則ち奴僕なり

都部署　兵事を掌る官名なり

擧人　科擧とは乃ち試驗なり此の試驗を受くる

す眞に社稷の臣なりと曾少ふして吏道を以て聞ゆ學術は寡なし相たるに及んで太祖勸むるに書を讀むを以てす普遂に手に卷を釋かず朝廷に大なる議論がある毎に輙ち戸を闔（とづ）ぢて一室に籠もり自から一篋（はこ）を啓きその中より一の書物を取り出して之を閲みせり普が卒するに及んで家人其の篋を開き視れば則論語なり嘗て帝に謂て曰く臣に論語一部ありその半部は以て太祖を佐けて天下を定めたりその半部を以て陛下を佐けて太平を致せりと呂蒙正は晩（おそ）く出づ嘗て普と並び相たり普は甚だ蒙正を推し重んせり蒙正嘗て一の册子を夾袋（けふたい）と云て皮にて製したる袋の中に入れ置きて四方の人才の聞ゆる者の姓名を疏と云て委はしく記るせり而して以て選び用るを待つ初め太祖嘗て張齊賢を以て帝に屬す齊賢が進士に擧げらるゝに至りて帝齊賢を上第に置かんと欲す而して有司等其名を次第に書して齊賢の名下にあり帝よろこびず乃ち詔して一榜即ち木册なり[illegible]を書きたるものにして其の木册に姓名を記るしたるものには特に悉く通判を及第を與へたり（齊賢下第にあるを以て特に一榜の進士に及第を與へたるなり）齊賢は大理評事を以て衡州に通判たり卒に大に用ひらるゝに至れり呂端が宰相と爲る人々謂ふに呂宰相い事を作すに糊塗（こと）とてのりの如くねばつくを云ふ帝之れを知りて曰く端は小事にはねばつけども大なる事に至りてはねばつかずと太宗紀に曰く呂端位に居り重を持し大体を識る清簡を以て務めとす時に同列の奏對多く異議あり惟だ端謹明する所罕なり一日帝手札戒諭す今より中書の事は必らず呂端が審酌を經て乃ち奏を得んと端愈々謙遜して敢て當らずと太宗位に即て以來小人を以て相となせしは盧多遜一人のみ太子立つ是れ眞宗皇帝となす

〔眞宗皇帝〕初名元侃。封襄王。有擧人楊礪。嘗夢至一大殿。有坐殿上者。語之曰。我非汝主。來和天尊汝主也。指示令謁之。礪後進士第一。入爲襄王府記室。旣謁。如夢中所見。太宗嘗遣相者詣襄王。及門而返曰。王門廝役皆將相也。王可知矣。立爲太子。至是卽位。更名恆。

講義　眞宗皇帝は初めの名を元侃（いん）と曰ふ太宗の第三子にして襄王に封ぜらる擧人（解上に見ゆ）の楊礪（やうてい）と云ふものあり嘗て夢の内に一の大なる宮殿に至りたるに殿上に坐するの人あり楊礪に向ひ語て曰ふに吾は汝の主君にあらず來和天尊は汝が主君なりと指し示して之れに謁せしめたり其の後楊礪試驗及第生の第一番たり入りて襄王府の記室即ち奏答其他文書を掌るの役人となる旣にして襄王に謁すれば夢の中に見ゑたる來和天尊の如し太宗嘗て人相を見る者をして襄王の處に至らしめたるに門にまで行き室内に入らずして而して返り來りて太宗に謂て曰ふに王の門下に出入し仕ふ

人を鄕人と云ふ

力贊　河を渡りて進むの策を熱心に贊成するを云ふなり

百姓如喪考妣　周禮に父の死を考と曰ひ母の死したるを妣と云ふ乃ち河北の百姓が帝が渡らずに還るならば父母を喪ふたる如く遺憾に思ふなるべしと云ふ

故地　初め晉王石敬瑭契丹に請ふて共に唐を滅す幽薊十六州を割て之を與ふ後周の世宗契丹を伐ち瓦

る者は新を折る者の如きつまらぬ者まで皆な大將となり宰相となる人相わり王の貴くなるは知れてゐると尋で立て太子と爲る是に至て位に卽き名を恒（こう）と更めたり

○咸平二年。契丹入寇。上親征。至大名府而還。**講義**咸平二年契丹（えびすの名）入りて寇せり帝親ら大將として征伐し大名府に至りしに翌年契丹引き退きたれば帝も遂に兵を率ゐて還りたり ○三年。益州卒王均反。僭號大蜀。以雷有終知州。討擒之。益州平。○范廷召擊契丹。求援於高陽關都部署康保裔。亟趣之。廷召潛遁。保裔爲所圍。力戰死之。**講義**三年益州の戍卒王均等反して大蜀と僭号せり戸部使の雷有終を以て益州の知事と爲す乃ち王均を討せしめたるに攻め破て王均を擒にす益州平穩になれり始め益州の戍卒乱を作す都虞侯王均を推して首領となせるなり○范廷召契丹を擊つ其の力足らざるを以て援（たすけ）を高陽關の都部署乃ち兵事を掌る役人康保裔に求む保裔亟（すみやか）に赴き救ふ廷召勝つべからざるを思ひ潛かに遁れ去る爲めに康保裔獨り契丹の兵の囲む所と爲り力め戰ひて遂に討死を爲せり ○李繼遷。先朝奪所賜姓名。寇邊不已。攻陷靈州。西涼六合酋長潘羅支。乞會王師討之。繼遷攻陷西涼府。潘羅支要而擊之。繼遷中流矢。死於靈州之境。其子德明請降。復賜姓趙。後封爲西平王。**講義**李繼遷先帝太宗のとき賜りし處の姓名を奪はれたり初め賜ひたる名を趙保吉と云ふ眞宗のとき入朝すと雖ども西邊の抄掠日々益甚しく歸順の意に背く者と爲し詔を發し使を遣はし保吉の罪を糺（たゞ）す遂に其の姓を奪ひたるなり因て保吉の李繼遷は大に怒り頻りに國境に寇して已まず靈州を攻め陷る西涼六合の酋長潘羅支なる者乞ひ願ふて部下の諸蕃を集め王の師に合し從ふて繼遷を討ちしに繼遷乃ち西涼府を攻め陷る潘羅支要擊（むかへうつ）して之を敗る繼遷流れ矢に中て靈州の境にて死せり其の子の德明が出で降るを請ひければ之を許す其の後ち復た姓を趙と賜ふ而して後封して西平王と爲せり ○楊嗣楊延朗。知勇善戰。加團練使。虜憚之。目曰楊六郎。○景德元年。契丹主與其母蕭氏。大舉入寇。中外震駭。參政陳堯叟蜀人。請幸蜀。

橋關益津關の南瀛莫易州の地を取る之を故地と云ふ

百萬　絹百万匹銀百万を云ふ

天雄軍　河北魏博節度唐の代宗其の軍を寵して天雄と云ふ

城下之盟　左傳に楚絞を伐つ大に之を敗り城下の盟を爲して還ると註に城下の盟は諸侯の耻づる所なりとあり他國來り伐て我が城下に逼り我れ已むを得ずして之と盟ふを云ふなり

王欽若江南人。請幸江南。上以問宰相寇準。準問誰畫此策。上曰。卿姑斷其可否。勿問也。準曰。臣欲得獻策之臣。斬以釁鼓。然後北伐耳。遂定親征之議。上駐蹕韋城。尋至衞南。契丹擁兵抵澶州。圍合三面。李繼隆等出禦之。契丹撻覽中弩死。大挫退却。不敢動。寇準力勸上渡河。殿前帥高瓊亦力贊。猶豫間。瓊麾衞士進輦曰。陛下若不過河。百姓如喪考妣。梁適呵之。瓊怒曰。君輩。此時尚責人失禮。何不賦一詩退虜耶。遂擁上以渡。既至澶州。登北城。張黃旗幟。諸軍皆呼萬歲。聲聞數十里。契丹氣奪。**講義**楊嗣楊延朗なる者智勇共に兼ね備りて善く戰へり因て團練使の役を加へ任ぜらる虜人其の戰を善くし勇悍なるを憚り指目して楊六郎と呼べり此の楊嗣楊延朗の名に對しては或は二人の名なり然るに目する楊六郎と曰ふ如く一人を擧くるは不審なり楊嗣の名は今ま一人の名にて此に擧ぐるは誤りなりと種々疑議ありと雖ども正史之を明にせず要する所邊境の一部將の傳說史略に大干係無し茲に強て講究せず○景德元年契丹の主隆緒が其の母の蕭氏と大に兵を起して入りて邊境に寇す既にして契丹瀛州を囲み直ちに貝魏を犯し深く入り來る朝廷の官人も野に在る民人も共に驚ひ駭（おどろ）くてと一方ならず帝乃ち親ら征伐せんてとを欲して群臣に問ひしに參政の陳堯叟と云ふものは蜀の人なり故に答て曰く蜀に幸せられんことを請ふと又た王欽若は江南の人にして帝に答へ請ふに江南に幸するを以てす上此の說を以て宰相の寇準に尋ね問へり初め邊境より寇の來りて急危なるを述ぶるの書五たびも準少しも披露せず酒を飲み談笑して平氣なり此に於て準が帝に問ひ返して曰ふに誰人か此の二つの策（はかりごと）を申し上げしかと上の曰く卿姑く其の說のよしあしを判斷せよ亦た其の人間を尋ね問ふことを止めよと準が曰く彼の二說の如き帝をして避け逃れしむる者なり若し其の様の事を爲せば天下の民亂れ騷ぎて始末の付け方に困るべし實に不屆け千萬の申分にして其の罪斬り捨つべきなり因て臣彼の策を献言したる二人等を得て斬て以て軍陣に用ゆる大鼓に血を塗り所謂ゆる血祭を爲して以て北の方契丹を征伐せんと欲し願ふのみと以て士氣を振ひ勵さんとするの意なり帝の意乃ち決定し遂に親ら征伐するの評議を極めたり因て上蹕（ひつ、

河圖　說は大昊に見ゑたり

洛書　禹の水を治むるの時神龜文を負て數あり九に至りて而して洛に出つ禹遂に文を別て以て洪範九疇となす

天書降　僞て書を作りて云く天より降ると奏ずるに太中祥符元年正月に天書が左承天門の南に降れり四月に大內に降る六月に王欽若奏す天書泰山に降ると天禧三年に天祐山に降れり

天子の御車）を草城に駐（とゞむ）めらる尋で衛南に至る契丹大兵を擁し率ゐて澶州に三方面より合せ圍む李繼隆等出で戰ひ之を禦（ふせ）ぐ契丹の大將撻覽石弓に中りて死せり契丹の兵大に人氣が挫（くぢく）けて退く然れども契丹の軍勢甚だ盛なるを望み宋の衆人蹕を止めんことを請ふて敢て進み動かず寇準は力めて熱心に上に勸め請ふて河を渡りて進ましむ殿前帥の高瓊（けい）も力めて寇準の說を賛（たすく）け勸む帝未だ決せず猶豫乃ち思慮未だ決せざる間に瓊は衛（まもる）りの士を麾まねぎ輦（れん、天子の車）を進め推して曰ふのに陛下若し河を渡り過ぎらずば百姓老姚乃ち父母を喪ふたる如に失望せん故に一たび渡りて民心を定め賜へと梁適瓊の擧動の劇しきを見て之れを叱り付けたるに瓊大に怒て曰く君がともがらは此の間髮を容れざる如き時機に尚ほ彼れ是れと人の禮儀作方を責め咎む何ぞ一首の詩を作り以て虜人を退けざると此の如き場合に些細の禮儀呼はりして若し時機を失ふたならば致方がなくなる學者などの知た事でないと嘲（わざける）り怒るなり然して遂て帝を擁し抱て以て渡れり遠近の民之を望み見て踴り跳て喜び合へり既にして帝の軍澶州に至り北城に登つて黃旗幟（黃色のはた）を張りて諸軍皆な萬歲と呼ぶ其の聲五六十里の間に響く程なりしかば契丹の兵互に顔を見合せて氣を奪ひ取られ亦た軍陣を整列する能はざりし

先是王繼忠者陷虜。嘗言和好之利。故雖大擧。亦遣使以繼忠書來。上命曹利用報之。至是利用與契丹使者韓杞偕來。請世宗所取關南故地。上曰。地必不可得。寧與金帛以和。準意亦不欲與。且畫策以進曰。如此則可保百年無事。不然。數十歲後。戎復生心。準蓋欲擊之使隻輪不返。上曰。數十歲後。當有能禦之者。吾不忍生靈重困。姑聽其和。遂再遣利用往。利用請歲賂金帛之數。上曰。必不得已。雖百萬亦可。準召語之曰。雖有勅旨。不得過三十萬。如過此數。勿來見準。準斬汝矣。利用卒以絹二十萬銀十萬。定和議。南朝爲兄。北朝爲弟。交誓約。各解兵歸。準初發京師。命朝士出知諸州。皆於殿廊受勅戒之曰。百姓皆兵。府庫皆財。不責汝浪戰。但失一城一壁。當以軍法從事。恐欽若沮親征之議。以其有智且有福。出欽若知天雄軍。契丹至城下。欽若閉門束手無策。修齋誦經而已。上還自澶淵。待準極厚。欽若歸深恨準。嘗退朝。上目送準。欽若進曰。陛下敬準。爲其有社稷功邪。城下之盟。春秋小國所恥也。上憮然。欽若每曰。澶淵之役。準以陛下爲孤注。上待準遂寖薄。尋罷相。【譯】是より先き王繼忠と云ふ者虜に陷りたり嘗て和好の利を言ふ故に契丹大兵を擧ぐるゝと雖ども亦た使を遣り繼忠が書面を以て來らしむ帝曹利用に命じて之に報じたり是に至て利用契丹使者の韓杞（かんき）と偕に來る世宗の取る處の關南の故地を復さんことを請ふ帝の曰く地は必ず得可からず寧ろ金帛を與（あた）へて以て和せんと準が意亦た與ふることを欲せず且つ策を進して以て進で曰く此の如くならば則ち以て百年の無事を保つべし然らずんば數十歲の後に至らば戎復た叛心を生せん準は蓋し契丹を擊て其の戎車の隻輪（せきりん、即ち輪の片方）もかへらざらしめ悉く皆殺にせんとすと帝の曰く數十歲の後に至らば其の時は亦た當さに能く契丹を禦ぐものあらん吾れは生靈即ち万民の重て困むを見るに忍びず姑（しばらく）く其の和睦を聞き許さんと遂に再び利用をして往かしむ利用歲々賂ふ處の金帛の數を定めんことを請ふ帝の曰く必ず已むを得ざれば百萬と雖ども亦た可なりと準は利用を召して之に語て曰く勅旨ありと雖ども三十萬に過るを得ず如し此の數を過ぎて多くとならば來て準を見ること勿れ準は汝を斬らんと利用は卒に絹二十萬匹銀十萬兩を以て和議を定む南朝を兄と爲し北朝を弟と爲し双方交々（こもごも）誓約して各々兵を解て歸れり準初め京師を發する時朝臣に分ち命じて諸州の軍事に知たらしむ皆殿廊に於て勅を受けしむ朝臣を戒めて曰く百姓は皆兵にして府庫は皆財なり汝に妄りに戰ふことを責めず但だ一城一壁たりとも之を失はゞ當然軍法を以て事に從ふ可し欽若が親征の議を沮まんを恐る其の智惠ありて且つ福德あるを以て欽若を出して天雄軍に知せしむ契丹城下にいたる欽若門を閉ぢ空しく手を束て策略の施すべきなし齋を修繕し經史を誦するのみ帝澶淵より還る準を待遇すること極めて厚し欽若は歸て己れの功なきを以て深く寇準を恨む嘗て朝より退くに帝準を目送す欽若進んで曰く陛下準を敬す其の社稷の功あるを以てか城下の盟は春秋に小國すらも猶ほ耻づる所なり澶淵の變に万乘の貴きを以て城下の盟をなすは何の耻か之に如かんと上之が爲めに憮然として變ふる色ありたり

汾陰　水南を陰と曰ふなり

天尊降　宋塗に太中祥符五年に聖祖降て曰く吾は人皇中の九人の一是れ趙の始祖再び降れり乃ち軒轅黃帝也後唐の時七月一日復た降りて趙氏の族を生む上に謂げて曰く善く蒼生を撫で養ひ前志を忘るゝこと勿れと詔で聖祖を尊号して九天司命保生天尊と曰ひ聖祖の母を元天大聖后と曰へり

馮道　後唐の宰相に

して發明するなり可否する所なし

方面之寄（ホウメンノキ）一方に鎭し自から一方に當たる

遠貶（エンペン）初め雷州の司戸に貶らる道州の司馬に移つれり

中宮（チウキウ）劉后を云ふ

太子（タイシ）眞宗帝の第六子なり

歛（レン）歛は尸を收むるの殮にして死後三日にして小歛するなり

榜中（バウチウ）榜は木簡のこ

欽若毎に曰く陛下博を聞くか博は錢を輸して盡きんと欲す乃ち有る所をつくして之を出す之を孤注と曰ふ澶淵の役に寇準は陛下を以て孤注となす所れ亦危しとこれ敗ぶるれば則ち復た之に繼ぐ者なきを謂ふなり是に因りて帝準を待つ遂に疎々漸く寡で相を罷め陝州に知たり以王旦同平章事。旦王祜之子也。太祖嘗遣祜按事。謂祜還與王溥官職。祜不徇太祖意。竟不大用。祜曰。祜不做。兒子二郎必做。植三槐于庭曰。吾後世必有爲三公者。至是旦果爲相。深沈有德望。能斷大事。上心深屬之。趙德明嘗以民饑。上表乞糧。群臣皆請責之。旦曰。臣欲詔德明云。塞上儲糧不可輿。已於京師積百萬。可自遣衆來取。德明再拜受詔曰。朝廷有人。【譯義】王旦を以て同平章事の役と爲せり旦は王祜が子なり太祖嘗て祜を遣りて地方の事を按し調べしめたり其のとき太祖の謂ふのには祜が還り來らば王溥と云ふ職任を與へんと祜太祖の意に從はず故に竟に大に用ひられず祜が曰くわれの祜はならず兒子二郎が必らずならんと手づから庭に三槐即ち三本の槐（ゑんじゆ）を植ゆ周禮に三槐を面して三位位するとあり故に祜之れに傚ふて曰く吾が後世に至りて必らず三公即ち宰相となるものあらんと是に至りて旦果して祜が言の如く宰相と爲れり旦は深沈即ちおちつきて志慮深かく人望德行がありて能く大事を斷じ決せり帝の心に深く之を重じ頼み屬せり趙德明なるもの嘗て民の饑ゑ飢ゑたるを以て表を上りて糧を乞ひ求めければ朝廷の群臣等は皆な其無禮を責め罪せんと請ふ旦が曰く臣德明に詔せんと欲すと乃ち曰く塞上の儲米は與ふ可からず已に京師に於て百万を積む汝自から衆をして來り取らしむ可しと德明詔を受けて曰く朝廷には賢人ありと上既入欽若之言。數問欽若。何以刷恥。欽若知上厭兵。謬曰。取幽薊乃可。上令思其次。乃請封禪以鎭服四海。誇示夷狄。又言。封禪當得天瑞。前代有以人力爲之。河圖洛書果有此耶。聖人以神道設教耳。於是自大中祥符以來。數有天書

とにて同榜にすゝめられたる輩と云ふことにて俗に榜輩と云ふ所謂は榜は進士の等級を書きつけたるものにして同じ榜に名を記るされて第したるわが友達と云ふに同じ

山陵（サンリョウ）眞宗の葬所なり

擅移（ホシヒマヽニウツス）皇堂ハ壙穴なり時に丁謂山陵使と爲れり山陵都尉雷允恭に因て邢中和が言に從ふて山陵を移して上に向ふ既にして上穴水石あり故に王

降。東封泰山。西祀后土於汾陰。又有趙氏祖九天司命天尊降。天下立天慶觀。置聖祖殿。諱聖祖名玄朗。京師作玉清昭應宮。旦不能止其事。【譯義】帝既に欽若の言即ち準を譖するの言を納れて之を信じ數々欽若に問ふ何を以てか澶州城下に於て契丹と盟ひたる耻を刷（音せつ、ぬぐふ）はんやと欽若ハ帝が兵を用ひ戰爭することを厭ふを知りて謬りて曰く陛下兵を以て幽薊の二州を取らば即ち此の耻を滌（そゝぐ）ぐを得んと帝欽若が愚昧の謬辭を實と信じ色を更へて曰く朕幽薊を取らんと欲せば乍ちに河朔百万の生靈塗炭に苦しむを見るに忍びず安んぞ此れを爲すに忍びんやその外に於て國耻を雪ぎ刷ふことを計り考へて奏せしむ欽若能く帝を謬むき再び帝の問を待ちて又愚計をすゝめて曰く陛下幽州を取るに兵革を厭ひ玉はゞ他の奇道なし封禪（解前に委しく見ゆ）の大事を擧げ道義を盛にして四海の民を鎭服せしめ中國の盛大宏道の德を以て夷狄に觀せしめ玉へ乃ち道德の君に敵國なきの妙術なり又言く封禪は當さに天瑞（てんずゐ）とてめでたきしるしを得て然して可なるべきのみ天瑞安んぞ必らず得べ可けんや前代人力を以て之を爲る者あり惟人主信じて而して之れを崇び尊じて以て明に天下に示せば則ち天瑞と異なるなきなり河圖や洛書（共に委しく前にあり亦上にも出づ）果して此れあらんや聖人は神道を以て敎を設くるのみ天道は至神なり故に神道と曰ふ是に於て大中祥符より以來數々天書ありて降る即ち大中祥符元年に天書承天門の南に降る同四月に內殿の廡上に降る六月晉の泰山に降る又天僖三年に乾雄山に降る等の怪誕皆な欽若が欺き作れるにて帝之れが爲めに正氣を失ひ狂人の如く日々眩迷の幻夢に迷ひ神怪を語り百官の賀を受けて大に國政を失ひ府庫を費消し民力を傾くるに至る東の方泰山を封ず西の方后土を汾陰に祀る又趙氏祖九天司命天尊ありて降る眞宗紀に汴州黠卒王捷自から言ふ南康に於て道人に遇ふ姓は趙氏なり授くるに小環神劍を以てせり蓋し司命眞君なり宦官の劉承珪その事を以て聞す捷に名を中正と賜ふ而して祥瑞の事起る天下に亦詔して州郡に天慶觀を建てしむ司命天尊の神像を安置せしむ聖祖殿を置て聖祖の名玄朗を諱む蓋し天下に詔して聖祖の諱玄を避けて元と爲し朗を明となす京師玉淸昭應宮を作る是れ天書を奉ずるの宮なり宰相の旦は此れ等の怪しく無益の事を諫め止る能はず○上在位二十六年。自元年呂端罷後。張齊賢。李沆。呂蒙正。向敏中。畢士安。寇準。王旦。相繼爲相。惟旦居位十一年。當李沆爲相時。旦甫參政。沆喜讀論語。嘗曰。爲宰相。如論語中。節用而愛人。使民以時兩句。尚不能行。聖人之言。終身誦

晉之れを奏す

無將 春秋傳に曰く大臣將なし將は必ず誅せらる公子牙今將將とは君を弑せんとするを言ふなり

不道 大逆不道上を誣ゆる不道の類の如とし

用其語 章詞に曰く無將の戒め皆典甚だ明なり不道の罪常刑赦るすことなし

青州發解 州郡の新撰を得るを發解と云ふなり

禮部 京師の進士課の及第の初しめ禮部の課に

之可也。沆日取四方水旱盜賊奏之。旦謂細事不足煩上聽。沆曰、人主少年。當使知人間疾苦。不然、血氣方剛。不留意聲色犬馬、則土木甲兵禱祠之事作矣。吾老不及見。此參政他日之憂也。及太中祥符封禪祠祀土木並興。旦乃歎曰、李文靖眞聖人也。每有大禮、旦輒以首相奉天書以行。常悒悒不樂。欲去則上遇之厚。及薨于位、遺令削髮披緇以歛。議者謂旦得君而不能以正自終。或比之馮道云。**講義** 帝在位二十六年なり元年に宰相の呂端が罷てより後ち張齊賢、李沆、呂蒙正、向敏中、畢士安、寇準、王旦等が相繼きて宰相となれり其内王旦は位に居ること十有一年なり李沆が相となる時に當りて旦而じめて參政なりし李沆は論語を讀むを喜べり嘗て曰く宰相と爲る者論語中の用を節して人を愛し民を使ふに時を以てすと云ふ二句の如きは何はどうしても行ふことが出來ん實に聖人の言は終身之れを誦して可なりと沆日々に四方の水旱盜賊を取りて之を奏上せり王旦が謂く之れは細事なり帝王の御德を煩はすには足らずと沆が曰く人主少ふして常さに四方人民の艱難疾苦を知り覺らしむべし然らずんば血氣方さに剛し意を聲色犬馬に留めずんば即ち土木甲兵禱祠の事起らん吾老ひたれは之れを見るに及ばざれども參政（王旦）が他日の憂ひであろうと太中祥符の頃に及んで封禪祠祀土木の事續々として並び興れり旦乃ち歎じて曰く李文靖（李沆）は眞の聖人なりと大禮ある每に旦が即ち首相なるを以て天書を奉じて以て行ふ常に帝が欽若に欺かれ無益の工事を興し國政の費消するを看て諫め止むる能はざるを以て之を恥ぢ悒々（憂ふる貌）として樂まず位を去り歸らんとすれば帝之れを遇する甚た厚く爲めに其の恩に背き難くして去る能はず終に位に薨ずるに至る薨ずるに及んで遺命して謂へらく髮を削りて緇（音し、即ち黑染布にして乃ち僧服なり）を披て以て歛め葬れよと議論する者謂く旦は聖君を得たり而かるに正を以て自らその身を終る能はず或は之を馮道に比すと云ふ 張詠嘗言。吾榜中得人最多。謹重有德望。無如李文靖。深沈才德。鎭服天下。無如王公。面折廷爭。素有風采。無如寇公。當方面之寄。則詠不敢辭。當

試みらる

廷試 帝自から三官を率ゐて進德殿に御して進士の能否を試み皆らべるなり是れを廷試と曰ふなり

嬪御 周禮に九嬪九御あり李子眞宗嬪御の中に居るなり

革 急なり

郭后之言 宋鑒に上夷簡と謀りて張耆等皆な太后の任ずる所なるを以て悉く之れを罷め退て郭后に告ぐ后の曰く夷簡獨

旦之世、王欽若已相。欽若罷。寇準再入相。參政丁謂。事準甚謹。嘗會食。羹汚準鬚。謂起拂之。準笑曰、參政國大臣。乃爲官長拂鬚邪。謂甚愧恨。準罷。李廸丁謂爲相。準遠貶。廸罷。謂獨相。時上已有疾昏眩。如準罷貶、皆謂自中宮行之。上不知矣。尋崩。年五十五。在位改元者五。曰咸平景德。曰大中祥符。曰天禧乾興。太子立。是爲仁宗皇帝。**講義** 張詠なる者嘗て曰く吾が榜中即ち同榜の進士最も多くあり然れどもその中にて謹み重んじて德行人望ある者は李文靖に及ぶものなし深沈にして人才ありて天下を鎭め服することは王旦に及ぶものはなし面折廷爭即ち面のあたり折き諫め廷に於て議し爭ひて來より人望風采のある者は寇準に及ぶものはなし方面とて一方に鎭し自ら一方に當りては吾が此の詠は辭し避せずと旦の世に當りて王欽若已に相となり欽若罷む寇準再たび入りて相となれり參政の丁謂は準に事へて甚だ恭ひ謹しむ本と謂は準の門下にして準の爲めに擧げすゝめられたるを以てなり嘗て中書に於て群臣會食せりその時に準は羹（あつもの）を食ひて汁が鬚を汚がしたり然かるに謂直ちに立ちて準が鬚を拂ひ汚物を取れりすると準が笑ふて曰く參政は國の大臣なり然かるに何んぞ官長の爲めに鬚を拂ふかと謂乃ち愧ぢ恨らむ準罷む李廸、丁謂尋で相と爲る準遠く貶せらる初め雷州の司戶に貶し後ちに道州の司馬に移る廸罷む謂獨り相たり時に帝已に病ありて昏眩なり準が罷め遠く貶せらるゝが如きは皆な謂のはからひにて中宮の劉后にこびへつらひ白してこれを行ひ貶するなり而して帝は一も此の事を知らざるなり尋で崩御す年五十五位に在るの時改元するもの五つ咸平景德と曰ひ大中祥符と曰ひ天禧乾興と曰ひ太子立つてこれを仁宗皇帝となすなり

〔仁宗皇帝〕名禎。母李氏。章獻明肅劉皇后子之。眞宗得皇子已晩。始生晝夜啼不止。有道人言。能止兒啼。召入。則曰。莫叫莫叫。何似當初莫笑。啼即止。蓋謂眞宗。嘗籲上帝祈嗣。聞群仙誰當往者。皆不應。獨赤脚大仙一笑。遂命降爲眞宗子。在宮中好赤

り太后に附かざるか是に由りて夷簡をも并せやむ

尚美人は尚始なり九嬪の下に美人あり

出（道輔出でゝ秦州に）知たり仲淹出でゝ睦州に知たり

知開封府 景祐元年に仲淹を召して刑部員外郎天章閣待制となる執政之れを恐る開封府に知爲らしめしたり

館閣（余靖尹洙）

館閣之職にあり

環慶（二州にし）

脚其驗也。自昇王爲太子。年十三卽位。劉太后垂簾同聽政。

講義 仁宗皇帝名ハ禎（てい）母は李氏なり章献明肅劉皇后之れを養ふて子とせり眞宗帝は皇子を得ること已に晩し而かるに此子始め生れたるとき晝（ひる）も夜も啼き通しして止まず道人（仙人）ありて曰くよく兒の啼くを止めんと召して入れ止めしむ道人則ち入りて曰く叫びなく勿れ叫けびなく勿れ何ぞ初めの笑ふことなきに似（しく）かんと即直に兒は啼を止めたりと云ふ蓋し眞宗は嘗て天子に嗣（よつぎ）を得んことを祈る而かるに天帝は群仙を召し評議して曰く誰れが下り行くべき者かと皆な之れに答へて我れが其任に當りて往かんと謂ふものなし惟だ獨り赤脚の大仙が一たび笑へり故に遂に命じて下して眞宗の子と爲せり宮中にありて赤脚を好むハ此の故なりと赤脚とは徒跣と同じ義にしてはだしのことを曰ふなり仁宗帝は昇王より太子と爲れり年十三にして位に即く劉皇后が簾を垂れて同じく政事を聞けり丁謂用事。寇準爲雷州司戸。參政王曾密奏。謂包藏禍心。眞宗山陵。擅移皇堂於絶地。遂罷謂。貶至崖州司戸。謂初命學士草準責詞。令用春秋無將。漢法不道。爲證事。及謂竄。學士乃用其語。人快之。

宰相の丁謂が事を用ひ譖を搆へて寇準を貶し雷州の司戸と爲す參政の王曾が密かに奏して曰く宰相の丁謂は禍亂の心を胸中に包藏せり又擅まゝに先帝即ち眞宗の山陵（葬所）の皇堂即ち陵殿を絶地に移すと絶地ハ懸絶の土地を云ふ遂に謂い罷められ貶して崖州の司戸に移さるる謂は初め學士等に命じて寇準を責め詰るの詞を草し書かしむ春秋に將なしとて是は春秋公羊傳に君親將なし將すれば必らず誅せらる將は將さに逆亂を爲さんとするを謂ふなり人臣將さに逆亂を爲さんとするの意あれば輙ち發覺を待たずして之れを誅するなり漢法不道とハ大逆無上を誣ゆる不道の類なり今謂は此の語を用ひしめて冠準を貶するの證事即ち證據とせり謂貶竄せらるゝに及んでは學士等亦た其の寇準を貶する責詞を用ひて之れを貶せり而かるに時の人は之れを愉快と思へり已れより出づるものハ復た已に返へると曰ひて甚ハだ之れを愉快と思へり方逐準時。京師語曰。欲得天下寧。當拔眼中丁。欲得天下好。莫如召寇老。然準竟不及北還而卒。王曾爲相。王欽若再相。欽若卒。張知白相。知白卒。張士遜相。士遜罷。呂夷簡相。惟王曾自天聖初居相位。至是七

したる故に自ら面目もなく耻ぢに絶へず上表して任職を解かんと乞ひたるなり

作慶曆聖德詩 帝がやゝ因循姑息の惡習舊弊を改め治せし故に此の詩を作りて大に頌賛したるなり

茀拔 易に曰く茀を拔く連茹、茹は彙類相ひ引くと云ふなり

距脫の鷄 勇ハ距（けづめ）を以てなり一朝此れを脫すれば他鷄を害する能はざるものなり

而上母李氏。默默處先朝嬪御中。未嘗自異。人亦畏后。不敢言。疾革乃進位宸妃。而薨。宰相呂夷簡。奏太后。宜備禮以葬。曰。他日莫道夷簡不曾說來。宸妃卒踰一年。太后崩。稱制十一年

講義 契丹の主隆緒が殂せり聖宗と號す子の宗眞が繼きて立つ○西夏の趙德明卒すその子の元昊が立てり○劉太后帝を以て己れが子となせり而かるに上の眞母は李なり而かれども李氏は皇子を生みながら劉氏の妬悍におそれ其の子は劉后に奪はれ何の功をもなく志を失ひ庶嬪の中に默々として居りて未だ嘗て自から嬪御に異にせず人も亦劉太后をおそれて敢て言はず故に李氏ハ大に用ひられざりしなり李が疾ひ革卽急なり乃ち之れに宸妃とて后に亞ぐの位を進む已にして薨せり故に劉后は之れを宮人の禮を以て喪を宮中に治んとす宰相の夷簡が入りて宜しく禮を備へて以て葬むるべしと奏す太后許るさずして曰く宰相も亦宮中の事を預るや卿それ何んぞ我が母子を離間するの甚しきやと夷簡曰く他日に曾て夷簡が說かずと道ふこと勿れと后乃ち悟る哀を發し服をして之れを葬る時に詔して宮城の垣を鑿して以て喪を出ださんと欲す夷簡奏す垣を鑿つは禮にあらず宜しく西華門より出づべし且つ曰く宸妃聖躬を誕育す而して喪禮を成さずんば後に必らず後に至りて罪を受くるものあらんと乃ち之れを許るす李妃が卒して一年を踰へて太后崩せり后朝に臨み政を聽き制を稱すること十一年なり初め劉太后は帝を愛する己より出でし子の如くせり帝も亦孝を尽す后制を稱する十一年にも及べども始終毫髮の間隙もなく又た政ごとが宮闈より出づと雖とも號令嚴明恩威恰く天下に及べり上始親政。先是呂夷簡張士遜並相。夷簡罷。李廸相。而士遜爲首相。無所發明而罷。夷簡復相。廸罷。王曾復相。而權在夷簡。夷簡之初罷也。以郭皇后之言。及復入。而后有尚美人爭寵之隙。遂廢郭后。夷簡有力焉。臺諫孔道輔范仲淹爭。不得而出。仲淹還朝爲待制。知開封府。言事愈急。數議時政。夷簡訴其越職。罷知饒州。館閣余靖尹洙爭之。皆坐貶。歐陽脩責諫官高若訥不諫。謂不知人

て蠶昌に屬せり

接伴　泛使に陪奉するなり

報使　報答書を以て契丹に奉使す

呂夷簡求罷　陝西の轉運使孫沔なるもの上書して曰く夷簡相の位に居りながら忠臣節士を惡くみ聖上の耳目を誣ひ國事を誤まり私利を貪りその上契丹の所分に富弼を陷殺するの巧みなりしが弼の正議によりて契丹の難も遂には無事に落着

年而罷。曾初擧進士。靑州發解。禮部。廷試。皆第一。人曰。狀元三場。喫著不盡。曾曰。曾平生之志。不在溫飽。眞宗末。正色立朝。朝廷賴以爲重。作相日。所進退士。莫有知者。或問其故。曾曰。恩欲歸己。怨使誰當。**講義**丁謂初め寇準を猜ふ時に當て京師の人々相ひ議し語りて曰く天下の寧すく太平なるを得んと欲せば當さに眼中丁を拔くべしと卽ち丁は釘と通ぜり謂を惡むの隱迷にして當さに釘をぬき去れと謂ふ意なり又天下の好きを得んと欲し思へば寇老（準を云ふなり）を召し還へすに如くはなしと然かれども準終に北の方京師に還るに及ばずして卒せり王曾が宰相となれり王欽若が復た入りて相たり欽若卒す張知白が相たり知白卒す張士遜相たり士遜やむ呂夷簡相たり惟だ王曾は天聖の初めより相位に居ること是に至りて七年にしてやむ王曾は初じめ進士に擧けられ靑州の發解（鄕擧）禮部（會試）廷試（殿試）が皆な第一番を占めたり故に世人語して曰く狀元三場とて鄕擧の第一課を解元課と云ひ禮部の第一課を省元課と曰ひ廷試の第一課を狀元課と云ふを難なく喫著し盡きずと言ふ心は王曾富才餘りありて此の三試驗場を何んの苦もなく喫ひ盡してその才力が盡き老ひたる貌なく底の知り盡かり難き大才なりとて大に賞讃したる語なり曾が曰くわが曾の常平生の志しとする所は衣服の溫や喫飯に飽く如きにあらずして志は當に天下を太平にし安んずるにありと眞宗の末年に色を正ふして朝廷に立てり是に由りて朝廷は賴みて以て重しとなす相となるの日進退する所の士人知る者あるなし或ひと其の故を問ふ曾が曰く恩を己れに歸せんと欲せば怨は誰をして當らしめんや矢張り己れの身に歸するなりと○交阯黎桓。景德中卒。子龍廷。殺其兄龍鉞而自立。來貢。賜名全忠。太中祥符間。全忠卒。子幼。弟爭立。大校李公蘊。遂殺之而自立。至是公蘊卒。子德政立。來告喪。封交阯郡王。**講義**交阯の黎桓が景德年中に卒去せり子の龍廷がその兄の龍鉞を殺して自立せり乃ち宋に來り貢せり帝之れに名を全忠と賜へり太中祥符の間に全忠卒せり而かるに子幼なるを以て弟の明提（めいてい）明昶（めいてふ）が互に相ひ爭ひ立つ大校の李公蘊が遂に之れを殺して自立せり是に至て公蘊卒せり子の德政が立ち宋に來りて喪を告ぐ之れを交阯郡王に封じたり　○契丹主隆緒殂。號聖宗。子宗眞立。○西夏趙德明卒。子元昊立。○劉太后以上爲己子。

范仲淹は字希文蘇州吳縣の人なり生じて二歲にして孤となれり母夫人貧ふして依るなし再びて常山の朱氏に適く少して志操既に長じ其世家乃ち感泣して母を辭す去りて應天府府に之く學舍に入る晝夜講誦す冬月憊る甚し水を以て面に沃し食給らず糜粥を以てて之に繼ぐ人堪ゆる能はず仲淹ますます自ら刻苦す晏殊應天府その名を聞き召して府學に置き上書して意見を言ふこと万餘言又晏殊の

間有羞耻事。若訥奏其書。亦貶。蔡襄作四賢一不肖詩。四賢指仲淹洙靖脩。不肖指若訥也。王曾因對斥夷簡納賂示恩。夷簡曾並罷。王隨陳堯佐代之。以無所建明而罷。張士遜章得象代之。**講義**劉太后崩ぜしより上始めて政を親らにせり是より先き呂夷簡張士遜が並び相たり夷簡やむ李廸相たり而して士遜首相たり而かるに發明する所なきを以て罷めらる夷簡復た入て相となれり廸罷む王曾復た入りて相たり而して威權ハ夷簡一人にあり夷簡の初め宰相をやめらるゝは郭皇后の言を以ての故なり（郭皇后のことと上に出づ）夷簡が復たび入り相たるに及んで郭皇后は尙美人と寵を爭ふて隙あり遂に郭后を廢して尙氏を后とす故に夷簡力らあり一日尙美人帝の前に於て郭后を侵かすの語あり后怒りて其頰を批つ帝自ら起ちて之れを救ふ后誤りて帝の頰を批ちしかば帝大に怒かり內侍閻文應等と謀り郭后を廢んとす且つ帝にすゝめて爪痕を執政に示す帝以て呂夷簡に示す簡后に憾あるを以て廢するを贊せり帝猶は之れを疑ふ夷簡曰く光武は漢の明主なり郭后止める怨懟を以て坐し廢す況んや陛下の頰に傷つくをやと帝意終に決し之を廢す時に臺諫卽ち諫官の孔道輔范仲淹等十數人垂拱殿に詣り伏奏して曰く皇后は天下の母なり當さに輕しく廢黜を議す可からず席夷簡をして喩すに后は當さに廢すべきの狀を以てせしむ道輔等夷簡に語りて曰く大臣の帝后に於けるは猶は子の父母に事ふるが如きなり父母和せざれば以て諫め止むべし奈何んぞ父に順ひて母を出さん乎夷簡が曰く廢后の事は漢唐の故事に有りと道輔等曰く人臣當さに君に道ふに堯舜を以てすべし豈に漢唐の失德を引て法と爲す可けんやと夷簡語塞がり答ふる能はず而かれども其意を得ずして出づ夷簡奏して道輔等を貶して道輔ハ泰州に仲淹は睦州に移さる仲淹は尋で朝に還て待制と爲り開封府に知たり事を言ひ奏する愈々急なり數々時政を譏せり夷簡は仲淹が職を越ゆるの罪を訴ふ貶められて饒州に知たり館閣の職の余靖尹洙等は仲淹の善を稱し仲淹を出すの惡なるを爭ふ而かるに二人共仲淹を救ふの罪を以て貶せらる時に歐陽修諫官の高若訥が諫むる役に居りながら諫めざるを以て之を責めて曰く人間羞耻の事あるを知らずと乃ち仲淹は罪なきに貶せらる若訥は諫官の役に居りながら其不實を知りつゝ之れを諫め止むる能はず此れ羞耻の事となす若訥の僞に曰く歐陽脩を若訥に遣りて責むるに仲淹は剛正にして古今に貫通す班行の中に與に比をなすなし今君諫官となりて日に無辜を見て辨ずる能はず猶ほ靦面して以て士大夫を見て朝廷に出入す復た人間に恥辱の事あるを知らさらんや今より後は知る足下は君子に非らずと若訥書を以て奏す亦た脩を夷陵の令に貶す蔡襄なる者あり四賢一不肖の詩を作れり四賢とは仲淹、尹洙、余靖、歐陽修を指さすなり不肖とは若訥を指さすなり王曾對に因て夷簡が賂を納れ恩を示すを斥く夷簡と曾と並びに罷めらる王隨陳堯佐之に代はる建明する所なきを以て罷めらる張士遜章得象之れに代はれり　○趙元昊據有夏銀綏宥靈塩會勝甘